

尾張旭市

障がい福祉に関する計画策定の
ための市民意識調査結果報告書

令和8年3月

尾張旭市

目次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の種類と実施方法	1
3 回収結果	2
4 報告書の見方	3
II 調査の結果（障がい者）	4
1 調査の回答者について	4
(1) 調査票の記入者	4
2 あなた（宛名の方）の年齢、ご家族などについて	5
(1) 対象者の年齢	5
(2) 対象者の性別	6
(3) 同居の家族	7
3 あなたの障がいの種類、等級（程度）などについて	9
(1) 障害者手帳の所持状況	9
(2) 身体障がいの状況	11
(3) 発達障がいの診断状況	13
(4) 重症患者認定	15
(5) 障害支援区分認定	16
(6) 要介護認定と介護保険サービスの利用状況	17
4 支援（援助、介助、看護）してくれる人のことについて	19
(1) 生活するうえで必要な支援	19
(2) 主な支援者	21
(3) 主な支援者の年齢	23
(4) 主な支援者が一時的に援助できない場合の対処	25
5 収入の状況について	27
(1) 経済的にみた暮らしの状況	27
6 医療について	28
(1) 病気等の治療状況	28
(2) 医療に関して困っていること	29
(3) 医療的支援の状況	31

7	日中の活動について	33
	(1) 日中の過ごし方.....	33
	(2) 仕事の状況	35
	(3) 日中を自宅で過ごす理由	40
	(4) 就労促進に必要な配慮	42
	(5) 日中の過ごし方に関する今後の意向.....	44
8	これからの生活について.....	46
	(1) 暮らし方に関する今後の意向	46
	(2) グループホームへの入居希望時期.....	48
9	外出について	49
	(1) 外出の頻度	49
	(2) 外出時の交通手段.....	50
	(3) 外出の目的	52
	(4) 外出時に困ること.....	54
	(5) 公共施設の利用に関して	56
	(6) ヘルプマーク・ヘルプカードの所持状況	60
	(7) 障害者手帳アプリの認知度	61
10	社会参加（仕事を除く）について.....	62
	(1) 社会参加の状況と今後の意向	62
	(2) 社会参加するうえでの問題	64
	(3) 積極的な社会参加に大切なこと.....	66
11	地域活動について.....	68
	(1) 近所づきあいの程度	68
	(2) 地域活動や行事への参加	69
	(3) 居住地域の住みやすさ	70
12	災害時に困ることについて	73
	(1) 災害時の避難の可否	73
	(2) 災害時に困ることや不安なこと.....	74
	(3) 災害時に避難所で困ること	76
13	相談などについて.....	78
	(1) 障がいに関する情報の取得方法.....	78
	(2) 悩みや相談したいこと	79
	(3) 悩みの相談先	81

14	権利擁護について.....	83
	(1) 障がいのある人に対する社会の理解.....	83
	(2) 市民理解を深めるために必要なこと.....	85
	(3) 日常生活自立支援事業の認知度.....	87
	(4) 日常生活自立支援事業の利用意向.....	88
	(5) 成年後見制度の認知度.....	89
	(6) 成年後見制度の利用意向.....	90
	(7) 尾張東部権利擁護支援センターの認知度.....	92
15	障がいなどのある人に対する差別や配慮について.....	93
	(1) 差別をうけたりいやな思いをしたことの有無.....	93
	(2) 市役所の配慮.....	95
	(3) 虐待に関する相談窓口の認知度.....	97
16	障害福祉サービスなどについて.....	98
	(1) 障害福祉サービスの利用の有無.....	98
	(2) 障害福祉サービスの利用意向.....	103
17	障がい者施策等について.....	105
	(1) 障がい者施策の満足度と今後の優先度.....	105
	(2) 障がいのある人にとっての尾張旭市の暮らしやすさ.....	122
Ⅲ	調査の結果（障がい児）.....	126
1	調査の回答者について.....	126
	(1) 調査票の記入者.....	126
2	あなた（宛名の方）の年齢、ご家族などについて.....	126
	(1) 対象者の年齢.....	126
	(2) 対象者の性別.....	127
	(3) 同居の家族.....	127
3	あなたの障がいの種類、等級（程度）などについて.....	128
	(1) 障害者手帳の所持状況.....	128
	(2) 障がいの診断を受けた時期.....	129
	(3) 障がいの主な原因.....	129
	(4) 点字の利用.....	130
	(5) コミュニケーション手段.....	130
	(6) 発達障がいの診断状況.....	131

4	支援（援助、介助、看護）してくれる人のことについて.....	132
	（1）生活するうえで必要な支援	132
	（2）主な支援者	133
	（3）主な支援者の年齢.....	134
	（4）主な支援者が一時的に援助できない場合の対処	135
5	医療について	136
	（1）病気等の治療状況.....	136
	（2）医療に関して困っていること	137
	（4）医療的支援の状況.....	138
6	日中の活動について	139
	（1）日中の過ごし方.....	139
	（2）通っている園や学校で困っていること	141
	（3）学びの環境の希望.....	142
	（4）放課後等デイサービス	143
	（5）学校卒業後における日中の過ごし方の意向	144
7	これからの生活について.....	145
	（1）学校卒業後における暮らし方の意向.....	145
	（2）グループホームへの入居希望時期.....	146
	（3）グループホームなどを活用した一人暮らし体験	146
	（4）就労促進に必要な配慮	147
8	外出について	148
	（1）外出の頻度	148
	（2）外出時の交通手段.....	149
	（3）外出の目的	150
	（4）外出時に困ること.....	151
	（5）公共施設の利用に関して	152
	（6）ヘルプマーク・ヘルプカードの所持状況	154
	（7）障害者手帳アプリの認知度	154
9	社会参加について	155
	（1）社会参加の状況と今後の意向	155
	（2）社会参加するうえでの問題	156
	（3）積極的な社会参加に大切なこと.....	157
10	地域活動について.....	158
	（1）近所づきあいの程度	158
	（2）地域活動や行事への参加	158
	（3）居住地の住みやすさ	159

11	災害時に困ることについて	161
	(1) 災害時の避難の可否	161
	(2) 災害時に困ることや不安なこと	162
	(3) 災害時に避難所で困ること	163
12	相談などについて	164
	(1) 障がいに関する情報の取得方法	164
	(2) 悩みや相談したいこと	165
	(3) 悩みの相談先	166
13	権利擁護について	167
	(1) 障がいのある人に対する社会の理解	167
	(2) 市民理解を深めるために必要なこと	168
	(3) 日常生活自立支援事業の認知度	169
	(4) 日常生活自立支援事業の利用意向	169
	(5) 成年後見制度の認知度	170
	(6) 成年後見制度の利用意向	171
	(7) 尾張東部権利擁護支援センターの認知度	172
14	障がいなどのある人に対する差別や配慮について	173
	(1) 差別をうけたり嫌な思いをしたことの有無	173
	(2) 市役所の配慮	175
	(3) 虐待に関する相談窓口の認知度	177
15	障がい児などに対するサービスについて	178
	(1) 障がい児などに対するサービスの利用の有無	178
16	障がい者施策等について	180
	(1) 障がい者施策の満足度と今後の優先度	180
	(2) 障がいのある人にとっての尾張旭市の暮らしやすさ	183
IV	調査の結果（一般）	187
1	あなたご自身のことについて	187
	(1) 性別	187
	(2) 年齢	187
	(3) 障がいのある家族・親族の状況	188
	(4) 職業	188
2	障がいのある人への関心などについて	189
	(1) 障がいのある人への関心	189
	(2) 障がいのある人との関わりの状況	189
	(3) 障がいのある人に対する社会の理解	190
	(4) 市民理解を深めるために必要なこと	193

3	障がいのある人への地域でのボランティア等について	194
	(1) 障がいのある人との地域活動への参加	194
	(2) 障がいのある人やその家族に対する日常的な支援.....	196
	(3) 障がいのある人に対してできる支援.....	197
4	尾張旭市の暮らしやすさや地域への参加について	198
	(1) 障がいのある人にとっての尾張旭市の暮らしやすさ.....	198
	(2) 積極的な社会参加に大切なこと.....	201
5	障がい福祉に関わる言葉や制度、法律等について	202
	(1) 障がい福祉に関わる言葉、制度、法律等の認知度.....	202
6	就労について	203
	(1) 障がいのある人と一緒に働くことへの考え	203
	(2) 障がいのある人の就労促進に必要な配慮	204
7	災害時の障がいのある人への支援について.....	205
	(1) 災害時の障がいのある人への支援.....	205
8	権利擁護について	206
	(1) 障がいのある人への配慮	206
	(2) 障がいのある人への差別や偏見の有無	208
9	広報・啓発について	210
	(1) ヘルプマークの認知度	210
	(2) 障がいや障がい者に関する情報発信.....	210
10	障がいのある人への施策について.....	211
	(1) 障がいのある人への充実すべき施策.....	211
V	調査の結果（事業所）	212
1	事業所の状況について.....	212
	(1) 主たる事業内容.....	212
	(2) 常用の従業員数.....	213
	(3) 障がい者の雇用状況	214

2	障がい者の雇用について	215
	(1) 障がい者の雇用人数等	215
	(2) 雇用する上での配慮	218
	(3) 障がい者雇用における工夫	219
	(4) 協力等を求めた関係機関	221
	(5) 障がい者雇用への考え（現在障がい者を雇用している事業所）	222
	(6) 雇っていた方が辞めた理由	223
	(7) 障がい者雇用への考え（以前雇用していた事業所）	224
	(8) 障がい者を雇用していない理由.....	225
	(9) 障がい者雇用への考え（雇用していない事業所）	226
	(10) 障がいのある方の企業就労を促進するために必要な配慮	227
3	雇用上の課題及び配慮について	228
	(1) 障がい者雇用の課題	228
	(2) 障がい者雇用の促進に必要な施策.....	229
4	関係機関との連携について	230
	(1) 関係機関の取組・施策に期待すること	230
VI	自由回答の整理	232
1	障がい者調査の自由回答	232
	(1) 充実していくと良いと思う活動や支援・サービス.....	232
2	障がい児調査の自由回答	233
	(1) 充実していくと良いと思う活動や支援・サービス.....	233
3	一般市民調査の自由回答	234
	(1) 障がいのある人への施策に関する意見や要望	234
4	事業所調査の自由回答.....	236
	(1) 障がい者雇用に関する意見	236

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、令和9年度を初年度とする「尾張旭市第8期障がい者計画・第8期障がい福祉計画・第4期障がい児福祉計画」の策定にあたり、障害者手帳所持者及び障がい福祉サービス利用者、18歳以上の一般市民、市内企業を対象に障害福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向など把握することを目的に実施しました。

2 調査の種類と実施方法

① 障がい福祉に関する計画策定のための市民意識調査（障がい者）

調査対象者	尾張旭市在住の18歳以上の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及び難病患者の方
調査票配布数	3,881件
抽出方法	全数抽出
調査方法	郵送配布、回収については、郵送及びWebアンケートを併用して実施
調査時期	令和8年1月16日～令和8年1月31日

② 障がい福祉に関する計画策定のための市民意識調査（障がい児）

調査対象者	尾張旭市在住の18歳未満の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及び障害児通所支援等のサービスを利用している方
調査票配布数	507件
抽出方法	全数抽出
調査方法	郵送配布、回収については、郵送及びWebアンケートを併用して実施
調査時期	令和8年1月16日～令和8年1月31日

③ 障がい福祉に関する計画策定のための市民意識調査（一般市民）

調査対象者	尾張旭市在住の18歳以上の障害者手帳所持者等を除く一般市民の方
調査票配布数	500件
抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送配布、回収については、郵送及びWebアンケートを併用して実施
調査時期	令和8年1月16日～令和8年1月31日

④ 尾張旭市民間事業所アンケート（事業所）

調査対象者	尾張旭市内の民間事業所
調査票配布数	272件
抽出方法	事業所リストから従業員10名以上の事業所を抽出
調査方法	郵送配布、回収については、郵送及びWebアンケートを併用して実施
調査時期	令和8年1月16日 ~ 令和8年1月31日

3 回収結果

単位：上段/件、下段/%

	配布数	回収数	有効	無効
①障がい者調査	3,881	2,049	2049	0
	-	52.8	52.8	0.0
②障がい児調査	507	206	206	0
	-	40.6	40.6	0.0
③一般市民調査	500	214	214	0
	-	42.8	42.8	0.0
④事業所調査	272	119	119	0
	-	43.8	43.8	0.0

4 報告書の見方

- 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのためパーセントの合計が100%にならないこともあります。
- 図表中の「n（回答者数）」は、各設問に該当する回答者の総数であり、回答率（%）の母数をあらわしています。
- 回答者が2つ以上回答することができる設問（複数回答）の場合、その回答率の合計は100%を超えることがあります。
- 本報告書の表の見出し及び文章中での回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載している場合があります。
- 身体障害者手帳所持者は「身体障がい」、療育手帳所持者は「知的障がい」、精神障害者保健福祉手帳所持者は「精神障がい」、複数の障害者手帳所持者は「重複所持」と記載しています。
- 基数（件数・n）が30以下のものについては、少数意見でも比率が拡大され有意差が生じやすいため、分析結果では基本的にふれないものとししました。

II 調査の結果（障がい者）

1 調査の回答者について

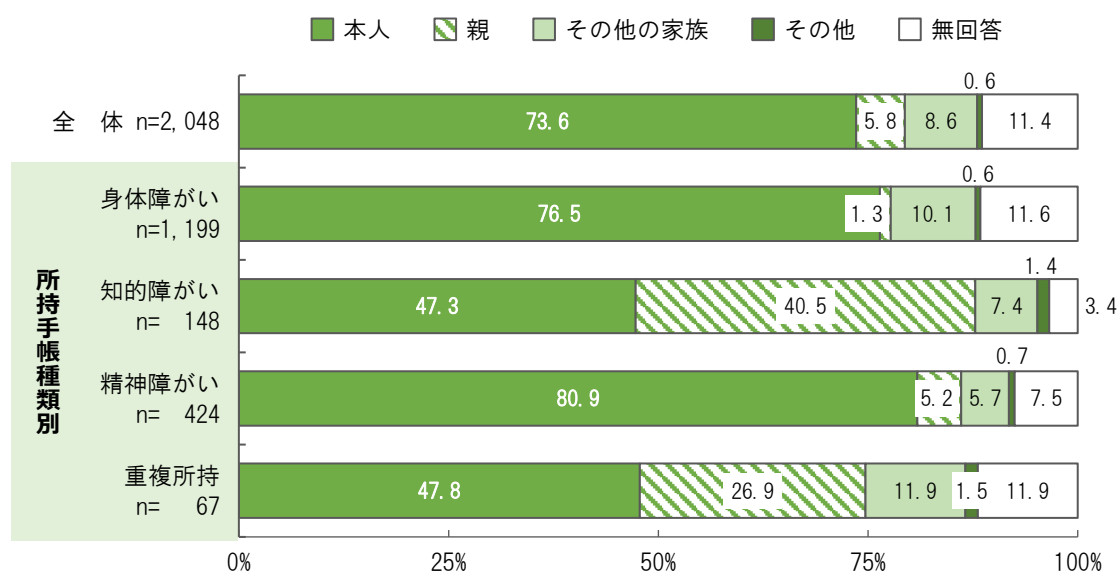
(1) 調査票の記入者

■ このアンケートをご記入いただくのはどなたですか。（○は1つ）

○調査票の記入者は、「本人」が73.6%、「その他の家族」が8.6%、「親」が5.8%となっています。

○持っている障害者手帳別（以下、所持手帳種類別）にみると、身体障害者手帳（以下、身体障がい）では「本人」（76.5%）、療育手帳（以下、知的障がい）では「本人」（47.3%）、精神障害者保健福祉手帳（以下、精神障がい）では「本人」（80.9%）、複数の障害者手帳所持（以下、重複所持）では「本人」（47.8%）が最も高くなっています。

■ 回答者【所持手帳種類別】



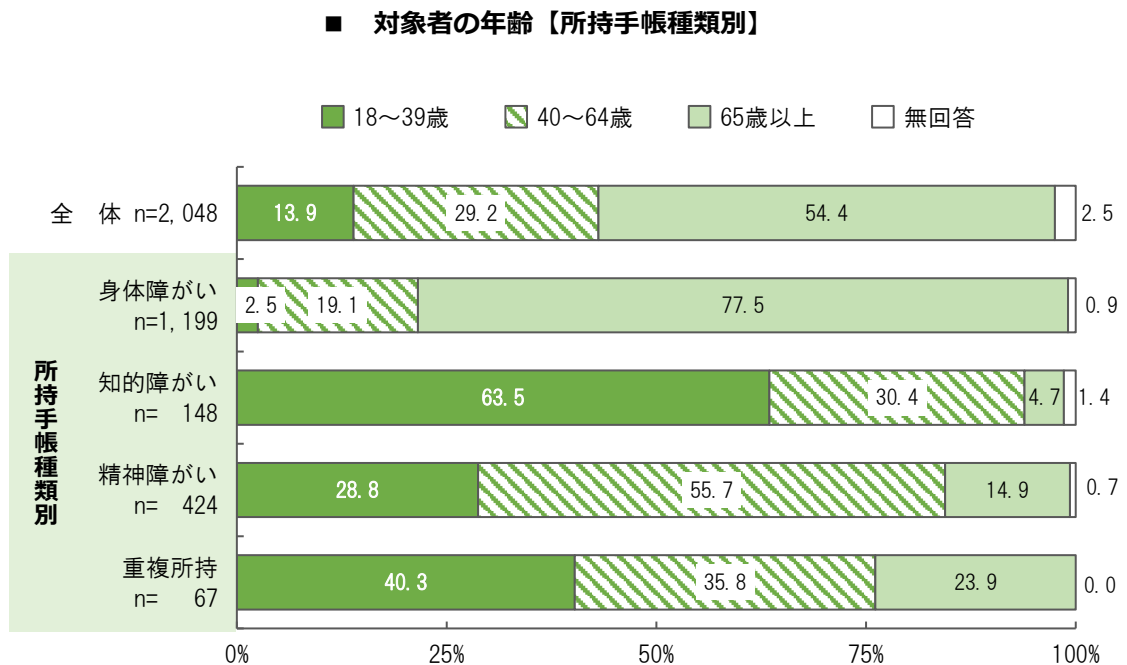
2 あなた（宛名の方）の年齢、ご家族などについて

（1）対象者の年齢

問1 あなた（封筒の宛名のご本人）の年齢は満何歳ですか（令和8年1月1日現在）。

○対象者の年齢は、「65歳以上」が54.4%と最も高く、次いで「40～64歳」が29.2%となっています。

○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「65歳以上」（77.5%）、知的障がいでは「18～39歳」（63.5%）、精神障がいでは「40～64歳」（55.7%）、重複所持では「18～39歳」（40.3%）が最も高くなっています。



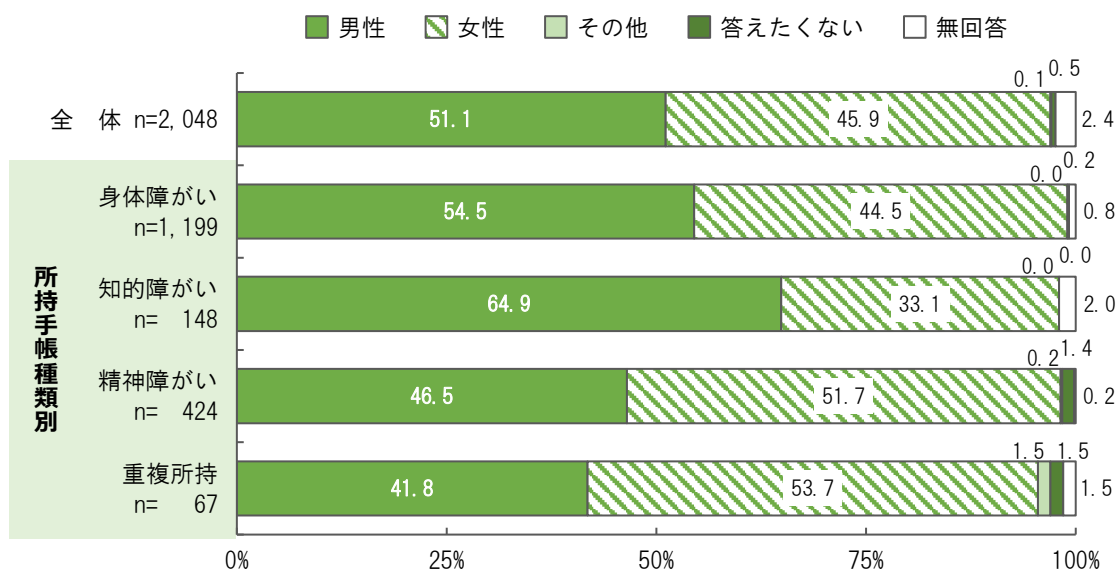
（２）対象者の性別

問２ あなたの性別をお答えください。（○は１つ）

○対象者の性別は、「男性」が51.1%、「女性」が45.9%となっています。

○所持手帳種類別にみると、身体障がい・知的障がいでは「男性」（54.5%・64.9%）の割合が高く、精神障がい・重複所持では「女性」（51.7%・53.7%）の割合が高くなっています。

■ 対象者の性別【所持手帳種類別】



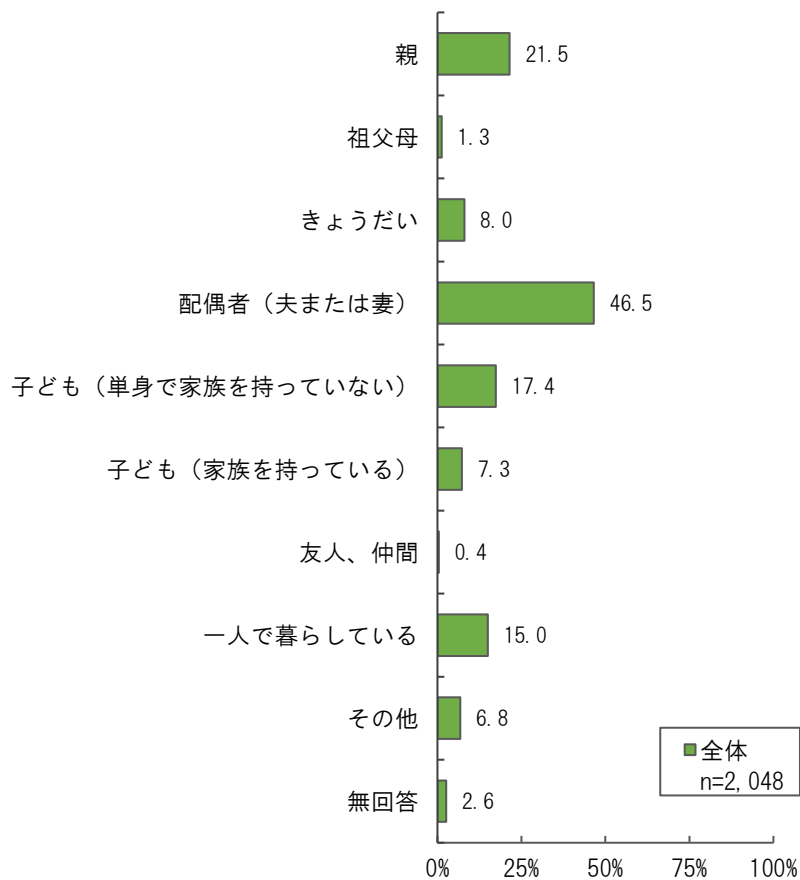
（3）同居の家族

問3 現在、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。（○はいくつでも）

○同居の家族の状況を見ると、「配偶者（夫または妻）」が46.5%と最も高く、次いで「親」が21.5%となっています。

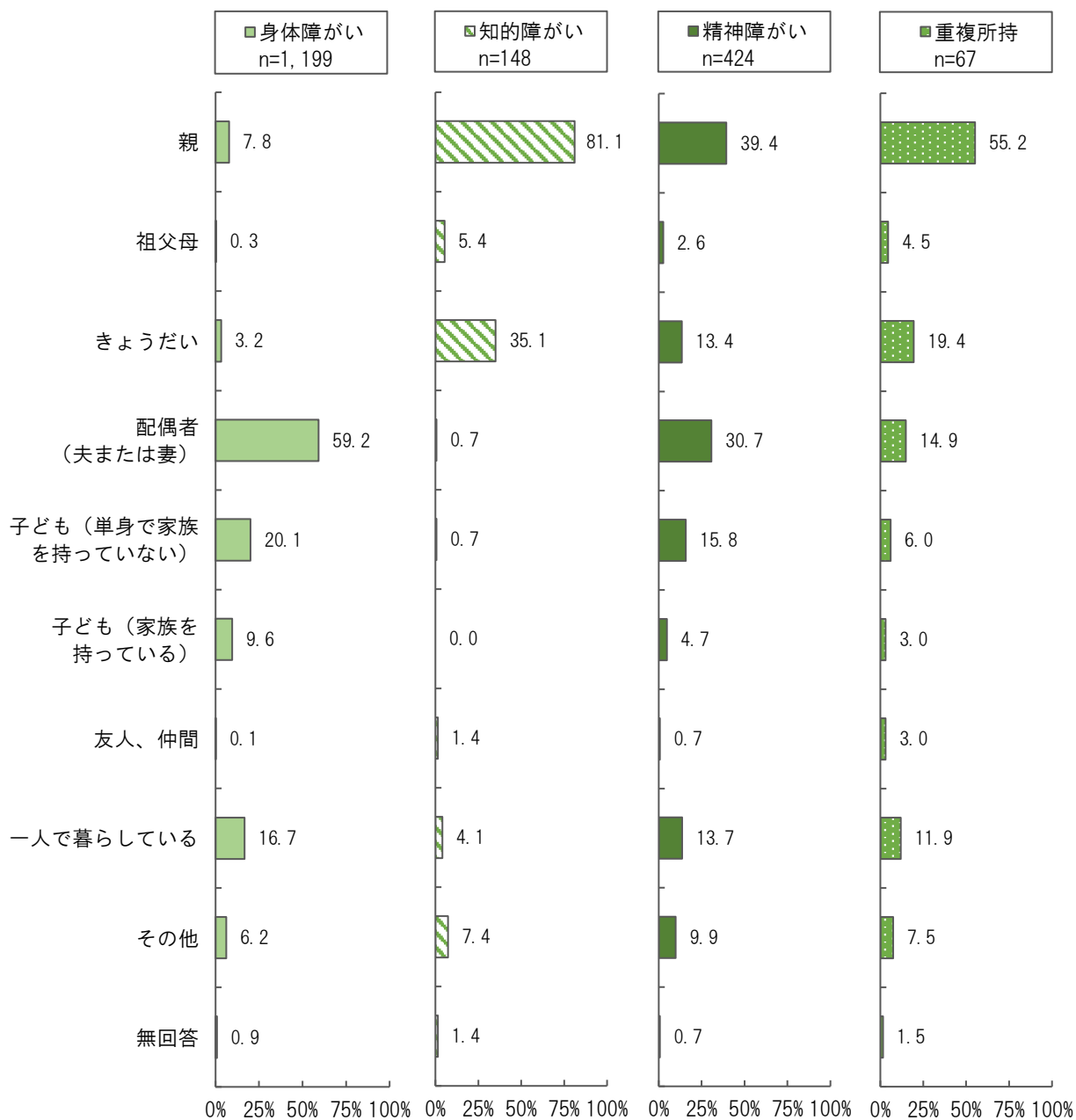
また、「一人で暮らしている」は15.0%となっています。

■ 同居の家族



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「配偶者（夫または妻）」（59.2%）、知的障がい・精神障がい・重複所持では「親」（81.1%・39.4%・55.2%）が最も高くなっています。

■ 同居の家族【所持手帳種類別】



3 あなたの障がいの種類、等級（程度）などについて

(1) 障害者手帳の所持状況

問4 あなたが、お持ちの障害者手帳は次のどれですか。（○はいくつでも）
また、お持ちの手帳については、あてはまる等級（程度）に○をつけてください。

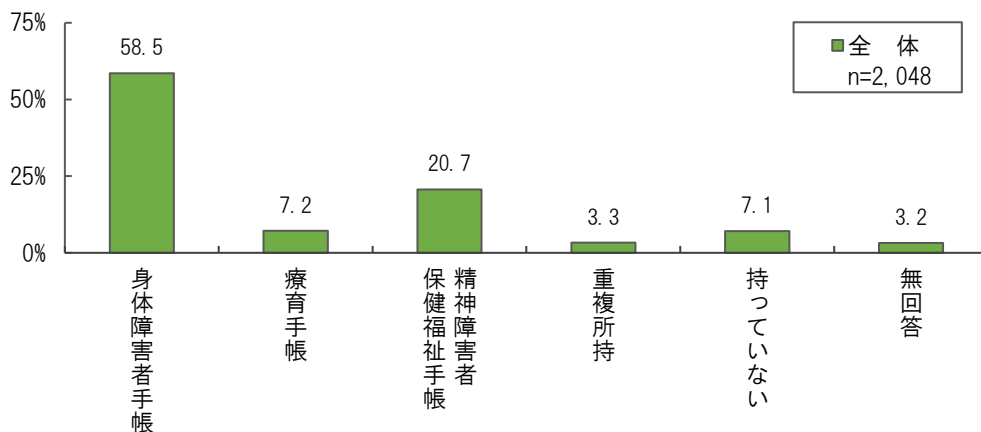
○対象者が持っている障害者手帳の種類は、「身体障害者手帳」が58.5%と最も高く、「療育手帳」が7.2%、「精神障害者保健福祉手帳」が20.7%、「重複所持」が3.3%となっています。

○各手帳の等級は、『身体障害者手帳』では「1級」が31.3%と最も高く、次いで「4級」が21.2%、「3級」が20.3%となっています。

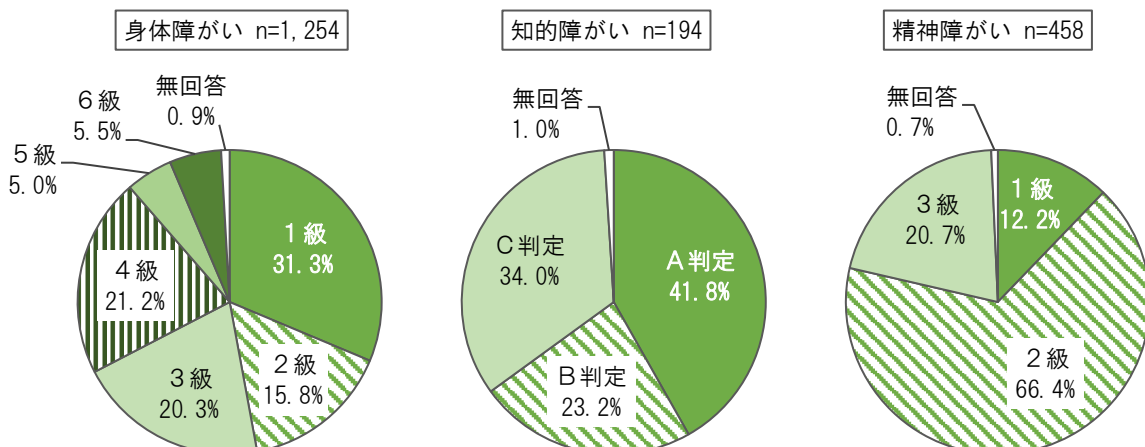
『療育手帳』では「A判定」が41.8%と最も高く、次いで「C判定」が34.0%、「B判定」が23.2%となっています。

『精神障害者保健福祉手帳』では「2級」が66.4%と最も高く、次いで「3級」が20.7%、「1級」が12.2%となっています。

■ 障害者手帳の所持状況



■ 手帳の等級



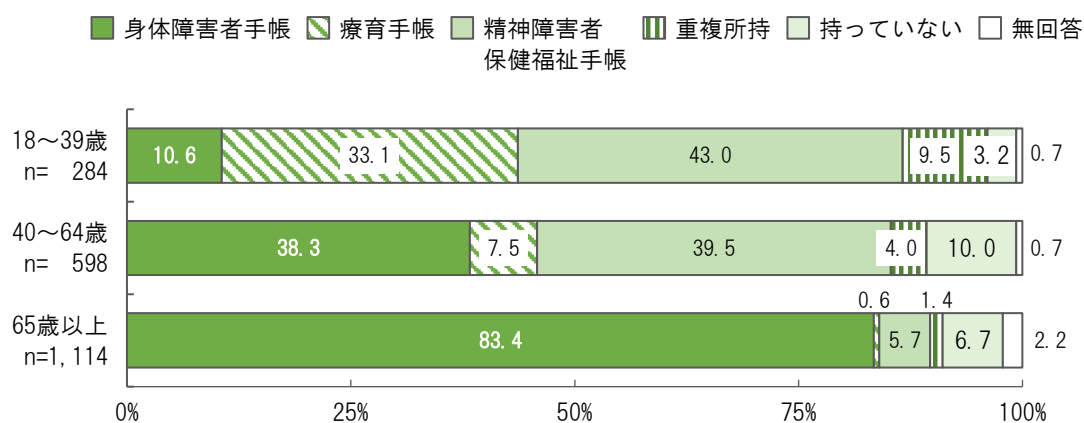
○年齢区分別に障害者手帳の所持状況をみると、『18～39歳』では「精神障害者保健福祉手帳」が43.0%と最も高く、次いで「療育手帳」(33.1%)、「身体障害者手帳」(10.6%)となっています。

『40～64歳』では「精神障害者保健福祉手帳」が39.5%と最も高く、次いで「身体障害者手帳」(38.3%)、「持っていない」(10.0%)となっています。

『65歳以上』では「身体障害者手帳」が83.4%を占め、次いで「持っていない」(6.7%)、「精神障害者保健福祉手帳」(5.7%)となっています。

また、「重複所持」は『18～39歳』が9.5%と他の年齢区分に比べ高くなっています。

■ 障害者手帳の所持状況【年齢区分別】



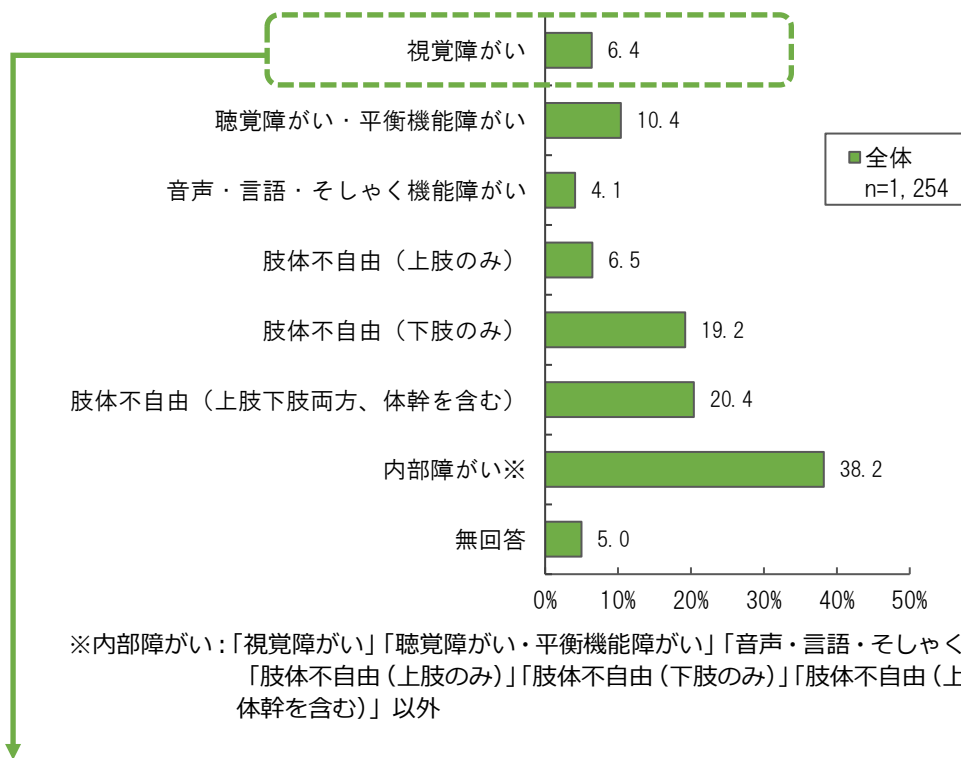
（２）身体障がいの状況

問４で「身体障害者手帳」と答えた方のみ

問５ あなたの障がいは、どのような障がいですか。（○はいくつでも）

○身体障害者手帳所持者の障がいの種類は、「内部障がい」が38.2%と最も高く、次いで「肢体不自由（上肢下肢両方、体幹を含む）」が20.4%、「肢体不自由（下肢のみ）」が19.2%となっています。

■ 身体障がいの内容

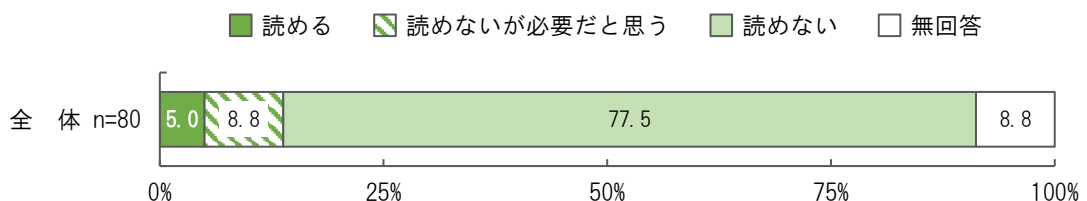


問５で「視覚障がい」と答えた方のみ

問６ あなたは、点字が読めますか。（○は1つ）

○視覚障がいがある方のうち、点字が「読める」のは5.0%となっています。

■ 点字が読めるか

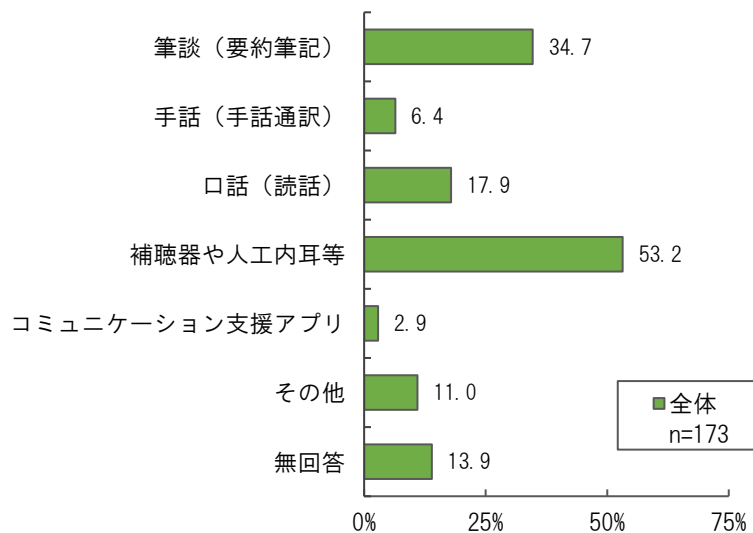


問5で「聴覚障がい・平衡機能障がい」または「音声・言語・そしゃく機能障がい」と答えた方のみ

問7 あなたは、日常的にどのようなコミュニケーション手段を利用していますか。
(○はいくつでも)

○聴覚等に障がいのある方のコミュニケーション手段をみると、「補聴器や人工内耳等」が53.2%と最も高く、次いで「筆談（要約筆記）」が34.7%、「口話（読話）」が17.9%となっています。

■ コミュニケーション手段

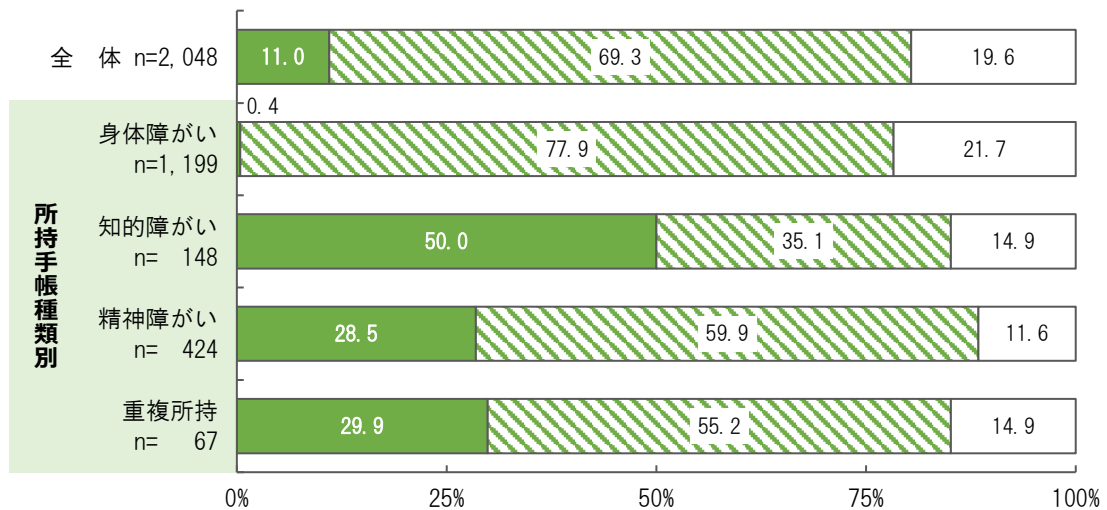


（3）発達障がいの診断状況

問8 あなたは発達障がいとして診断されたことはありますか。（○は1つ）

- 発達障がいの診断状況をみると、「ある」は11.0%、「ない」が69.3%となっています。
- 所持手帳種類別にみると、「ある」は身体障がいでは0.4%、知的障がいでは50.0%、精神障がいでは28.5%、重複所持では29.9%となっています。

■ 発達障がいの診断の有無【所持手帳種類別】



■ ある
■ ない
□ 無回答

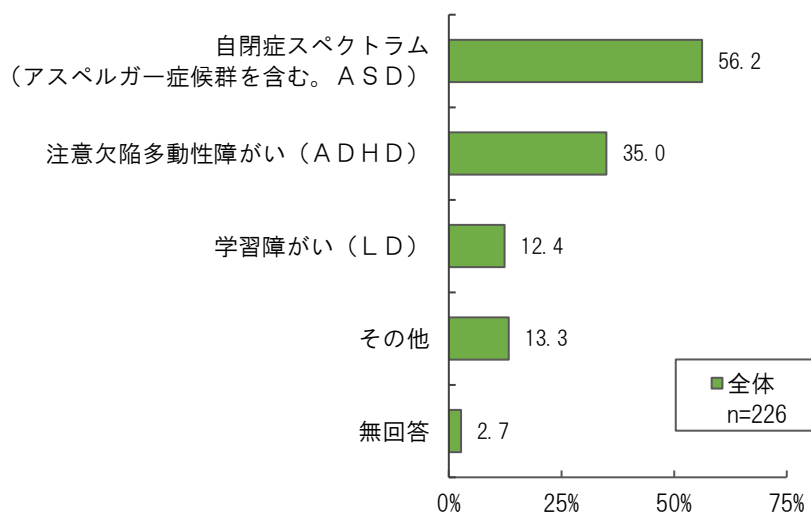
問9へ

問8で「ある」と答えた方のみ

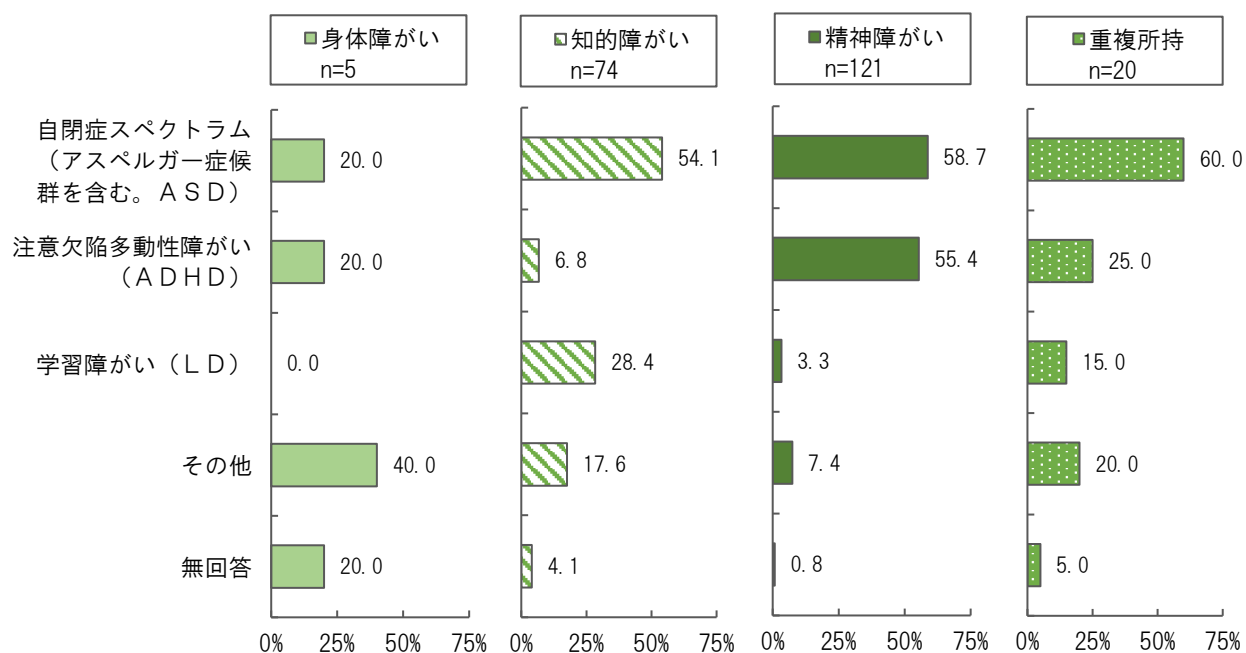
問9 診断名は何ですか。（○はいくつでも）

- 診断された発達障がいは、「自閉症スペクトラム（アスペルガー症候群を含む。ASD）」が56.2%と最も高く、次いで「注意欠陥多動性障がい（ADHD）」が35.0%となっています。
- 所持手帳種類別にみると、知的障がい・精神障がいでは「自閉症スペクトラム（アスペルガー症候群を含む。ASD）」（54.1%・58.7%）が最も高くなっています。

■ 発達障がいの診断名



■ 発達障がいの診断名【所持手帳種類別】

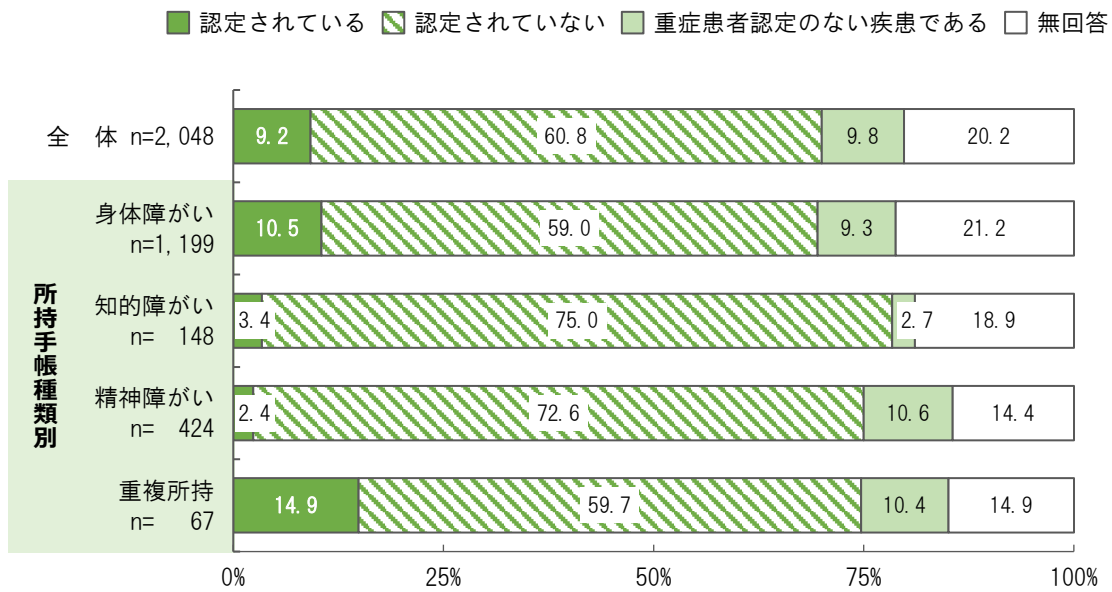


（４）重症患者認定

問10 あなたは難病の特定疾患の重症患者認定を受けていますか。（○は1つ）

- 難病の特定疾患の重症患者認定の状況は、「認定されている」が9.2%となっています。
- 所持手帳種類別にみると、「認定されている」は身体障がいでは10.5%、知的障がいでは3.4%、精神障がいでは2.4%、重複所持では14.9%となっています。

■ 重症患者認定【所持手帳種類別】

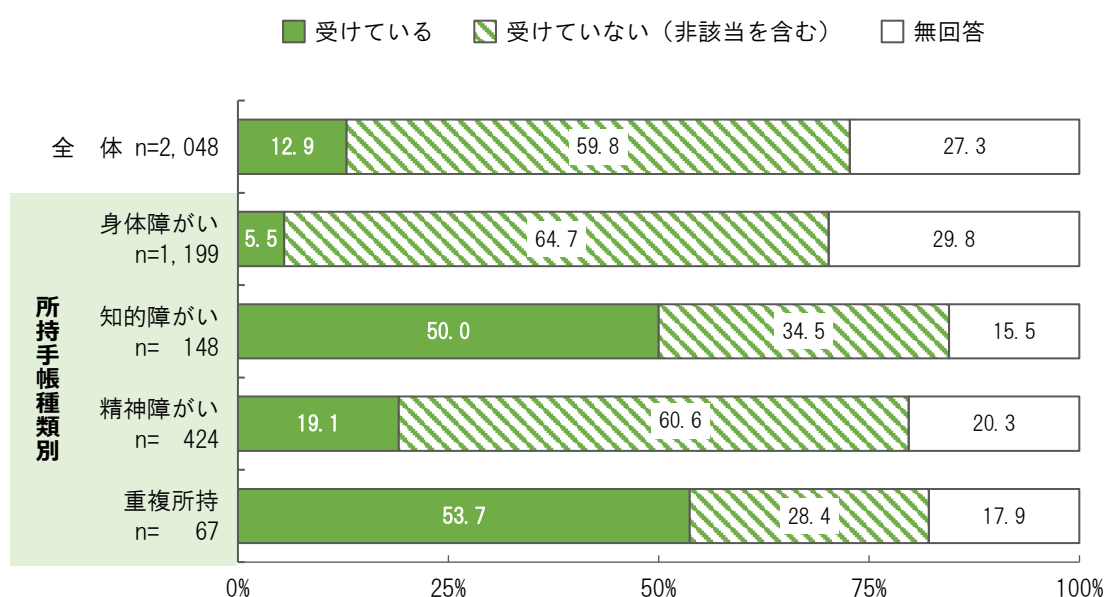


（5）障害支援区分認定

問11 障害支援区分認定を受けていますか。（○は1つ）

- 障害支援区分認定を「受けている」は13.0%となり、その区分をみると、「区分3」が3.5%と最も高くなっています。
- 所持手帳種類別にみると、「受けている」は身体障がいでは5.5%、知的障がいでは50.1%、精神障がいでは19.1%、重複所持では53.9%となっています。

■ 障害支援区分認定の有無【所持手帳種類別】



■ 受けている障害支援区分認定【所持手帳種類別】

単位：%

	受けている	区分					
		区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
全体	12.9	1.5	3.3	3.5	2.1	0.8	1.8
身体障がい	5.5	1.4	0.8	1.2	1.0	0.2	0.9
知的障がい	50.0	-	20.3	6.1	12.2	6.1	5.4
精神障がい	19.1	1.7	5.2	9.9	2.1	-	0.2
重複所持	53.7	6.0	4.5	6.0	4.5	7.5	25.4

（6）要介護認定と介護保険サービスの利用状況

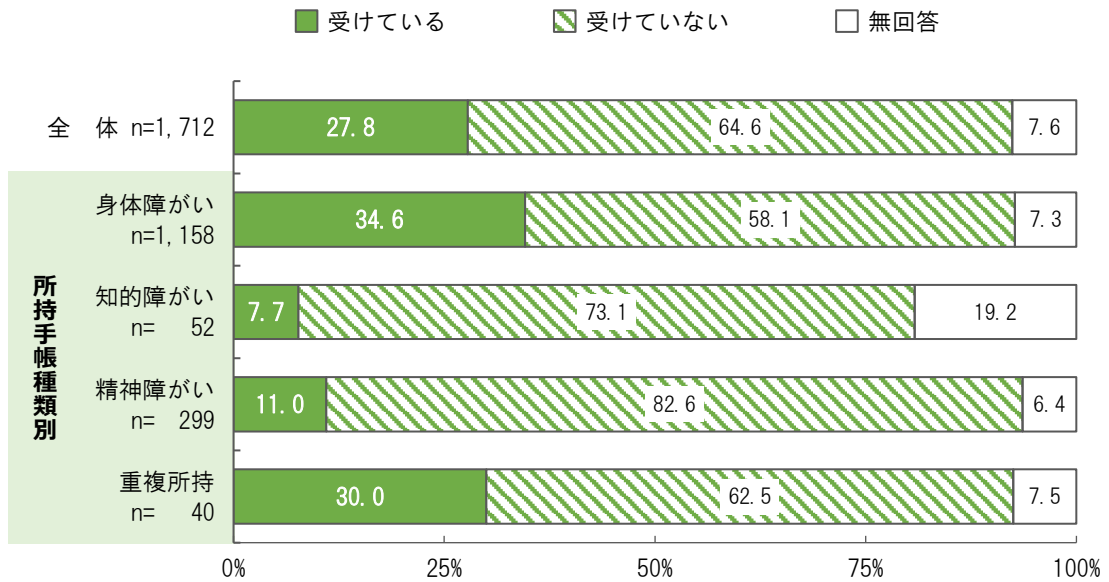
40歳以上の方のみ

問12 あなたは介護保険の要介護認定を受けていますか。受けている方はあてはまる番号に○をつけてください。（○は1つ）

○要介護認定を「受けている」は27.8%となり、その区分をみると、「要支援2」が7.0%と最も高くなっています。

○所持手帳種類別にみると、「受けている」は身体障がいでは34.6%、知的障がいでは7.6%、精神障がいでは10.9%、重複所持では30.0%となっています。

■ 要介護認定【所持手帳種類別】



■ 受けている要介護認定【所持手帳種類別】

単位：%

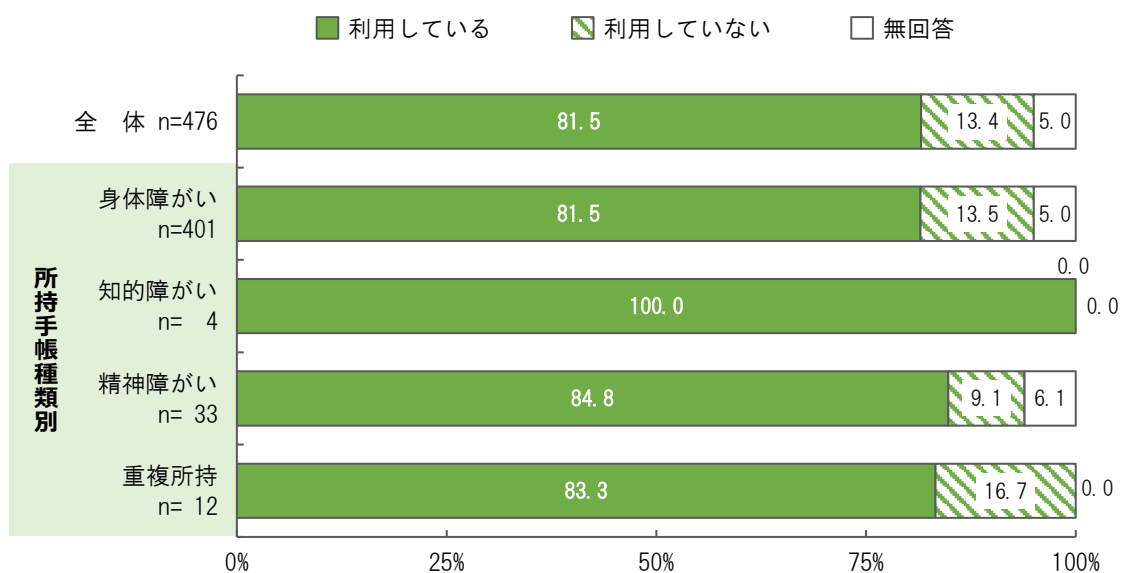
	受けている	要介護認定						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	27.8	4.3	7.0	2.0	4.3	3.3	3.6	3.3
身体障がい	34.6	5.1	9.2	2.5	5.5	4.2	4.1	4.0
知的障がい	7.7	-	1.9	1.9	-	-	1.9	1.9
精神障がい	11.0	2.3	1.0	0.7	1.3	1.3	2.3	2.0
重複所持	30.0	5.0	2.5	-	10.0	2.5	5.0	5.0

問12で「要支援1」～「要介護5」と答えた方のみ

問13 介護保険のサービスを利用していますか。（○は1つ）

- 介護保険サービスを「利用している」は81.5%、「利用していない」は13.4%となっています。
- 所持手帳種類別にみると、「利用している」は身体障がいでは81.5%、精神障がいでは84.8%となっています。

■ 介護保険サービスの利用状況【所持手帳種類別】



4 支援（援助、介助、看護）してくれる人のことについて

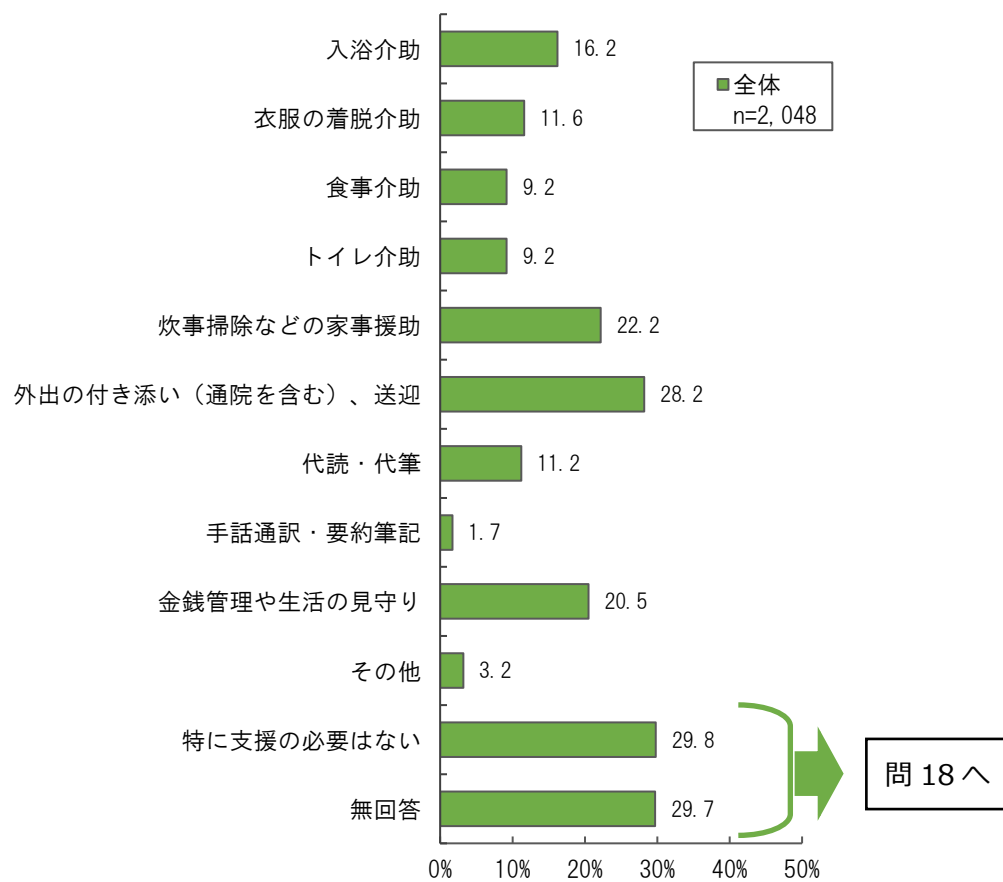
（1）生活するうえで必要な支援

問14 ふだんの生活で、どのような支援が必要ですか。（○はいくつでも）

○生活するうえで必要な支援は、「外出の付き添い（通院を含む）、送迎」（28.2%）、「炊事掃除などの家事援助」（22.2%）、「金銭管理や生活の見守り」（20.5%）が2割以上と高くなっています。

一方、「特に支援の必要はない」が29.8%と最も高くなっています。

■ 生活するうえで必要な支援



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「特に支援の必要はない」（30.3%）が最も高くなっています。

必要な支援の上位は、身体障がいでは「外出の付き添い（通院を含む）、送迎」（28.4%）、「入浴介助」（19.8%）「炊事掃除などの家事援助」（19.5%）、となっています。

知的障がいでは「金銭管理や生活の見守り」（55.4%）、「外出の付き添い（通院を含む）、送迎」（44.6%）、「炊事掃除などの家事援助」（35.1%）となっています。

精神障がいでは「金銭管理や生活の見守り」（27.4%）、「炊事掃除などの家事援助」（26.7%）、「外出の付き添い（通院を含む）、送迎」（23.3%）となっています。

重複所持では「外出の付き添い（通院を含む）、送迎」（52.2%）、「金銭管理や生活の見守り」（49.3%）、「炊事掃除などの家事援助」（40.3%）となっています。

■ 生活するうえで必要な支援【所持手帳種類別】

単位：%

	身体障がい n=1,199	知的障がい n=148	精神障がい n=424	重複所持 n=67
入浴介助	② 19.8	14.9	6.4	34.3
衣服の着脱介助	13.9	8.8	5.0	34.3
食事介助	9.8	10.1	5.9	34.3
トイレ介助	11.0	10.1	2.6	34.3
炊事掃除などの家事援助	③ 19.5	③ 35.1	② 26.7	③ 40.3
外出の付き添い（通院を含む）、送迎	① 28.4	② 44.6	③ 23.3	① 52.2
代読・代筆	10.3	28.4	6.8	31.3
手話通訳・要約筆記	2.0	1.4	0.2	9.0
金銭管理や生活の見守り	14.3	① 55.4	① 27.4	② 49.3
その他	2.6	4.1	5.7	3.0
特に支援の必要はない	30.0	23.6	25.9	17.9
無回答	32.2	15.5	28.5	20.9

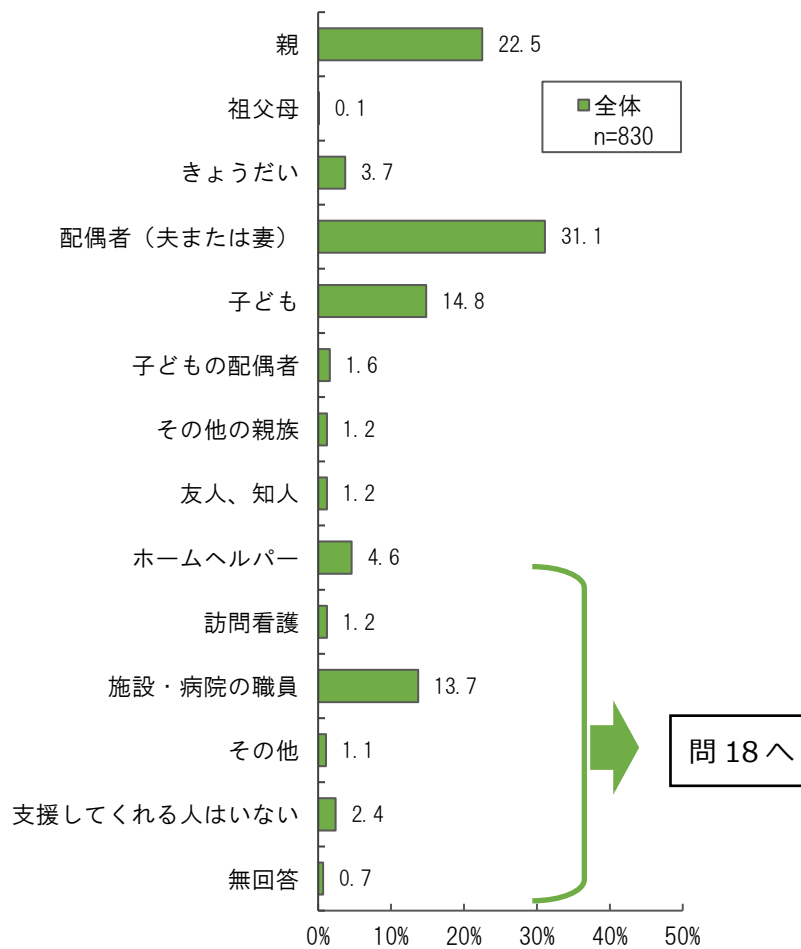
※最も高い割合に網掛けをしています。

（2）主な支援者

問15 主に支援してくれる人はどなたですか。（○は1つ）

○主に支援をしてくれる人は、「配偶者（夫または妻）」が31.1%と最も高く、次いで「親」が22.5%、「子ども」が14.8%となっています。

■ 主に支援してくれる人



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「配偶者（夫または妻）」（40.2%）、知的障がい・精神障がい・重複所持では「親」（75.6%・35.8%・58.5%）が最も高くなっています。

■ 主に支援してくれる人【所持手帳種類別】

単位：%

	身体障がい n=453	知的障がい n=90	精神障がい n=193	重複所持 n=41
親	4.6	75.6	35.8	58.5
祖父母	0.0	0.0	0.5	0.0
きょうだい	2.4	6.7	3.6	4.9
配偶者（夫または妻）	40.2	1.1	27.5	14.6
子ども	22.3	0.0	5.2	0.0
子どもの配偶者	2.6	0.0	0.0	0.0
その他の親族	1.3	0.0	0.5	2.4
友人、知人	1.5	0.0	1.0	0.0
ホームヘルパー	5.1	1.1	5.7	2.4
訪問看護	1.3	0.0	2.1	0.0
施設・病院の職員	15.9	12.2	9.3	17.1
その他	0.9	0.0	2.6	0.0
支援してくれる人はいない	1.3	1.1	5.7	0.0
無回答	0.4	2.2	0.5	0.0

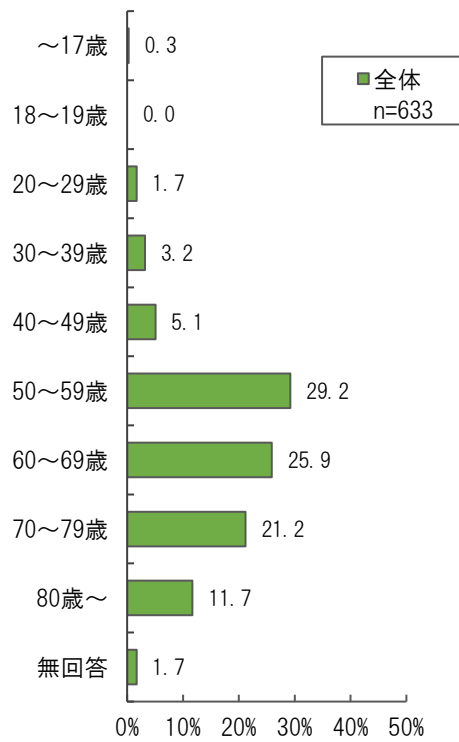
※最も高い割合に網掛けをしています。

（3）主な支援者の年齢

問16 主に支援してくれる人は何歳ですか。（○は1つ）

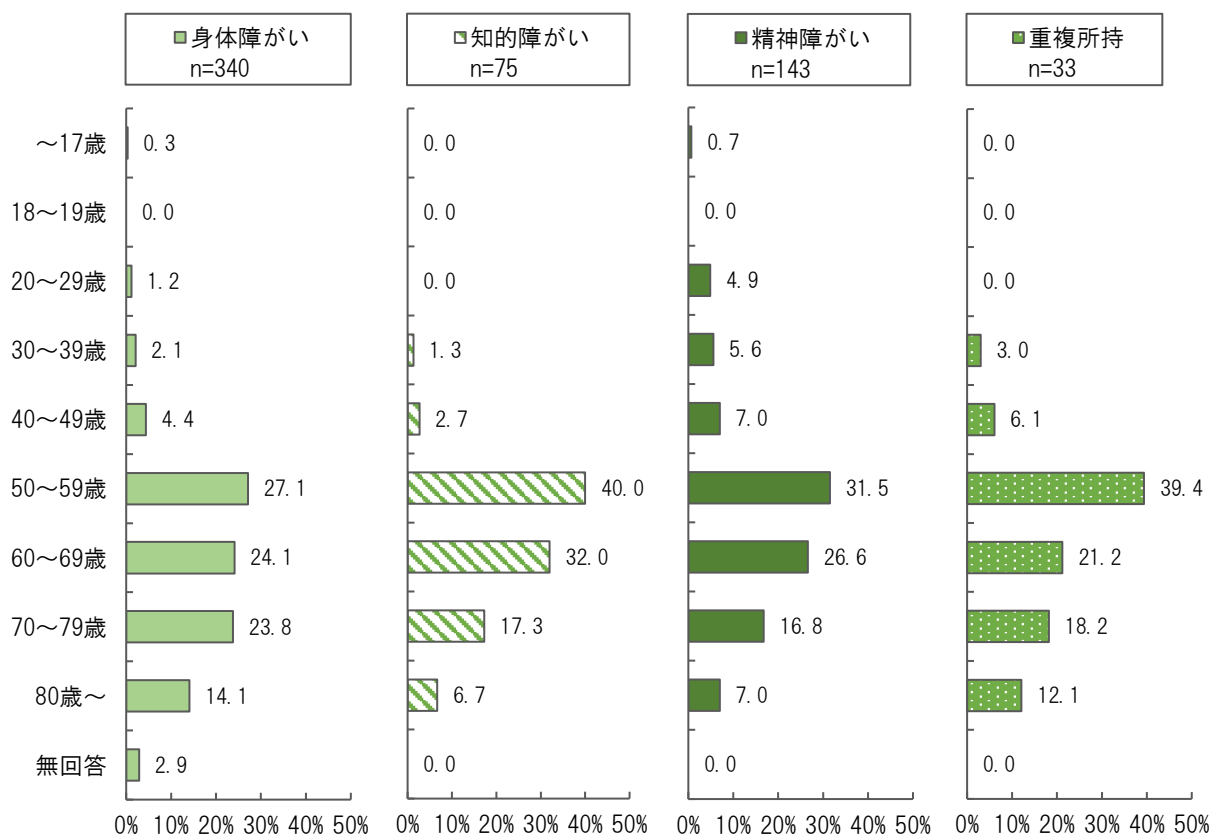
○主な支援者の年齢は、「50～59歳」が29.2%と最も高く、次いで「60～69歳」が25.9%、「70～79歳」が21.2%となり、約9割が50歳以上となっています。

■ 主な支援者の年齢



○所持手帳種類別にみると、いずれも「50～59歳」が最も高く、8～9割以上が50歳以上となっています。

■ 主な支援者の年齢【所持手帳種類別】

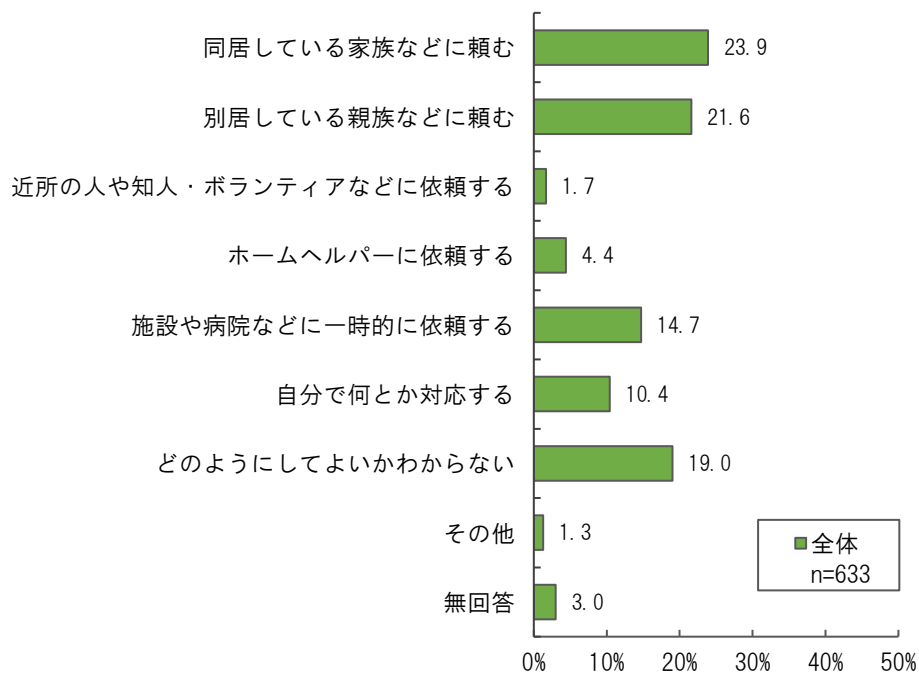


（４）主な支援者が一時的に援助できない場合の対処

問17 主に支援してくれる人が、万一急病や事故、用事などのために一時的に援助ができなくなった場合、どのようにすることになっていますか。（○は1つ）

○主な支援者が一時的に援助できない場合の対処は、「同居している家族などに頼む」が23.9%と最も高く、次いで「別居している親族などに頼む」が21.6%、「どのようにしてよいかわからない」が19.0%となっています。

■ 主な支援者が一時的に援助できない場合の対処



○所持手帳種類別にみると、身体障がい・知的障がい・重複所持では「同居している家族などに頼む」（23.5%・30.7%・30.3%）、精神障がいでは「どのようにしてよいかわからない」（27.3%）が最も高くなっています。

■ 主な支援者が一時的に援助できない場合の対処【所持手帳種類別】

単位：%

	身体障がい n=340	知的障がい n=75	精神障がい n=143	重複所持 n=33
同居している家族などに頼む	23.5	30.7	20.3	30.3
別居している親族などに頼む	22.4	17.3	22.4	15.2
近所の人や知人・ボランティアなどに依頼する	2.1	2.7	0.0	3.0
ホームヘルパーに依頼する	5.0	2.7	2.1	3.0
施設や病院などに一時的に依頼する	16.5	16.0	7.0	27.3
自分で何とか対応する	10.0	4.0	17.5	6.1
どのようにしてよいかわからない	16.2	22.7	27.3	9.1
その他	0.6	2.7	2.1	3.0
無回答	3.8	1.3	1.4	3.0

※最も高い割合に網掛けをしています。

5 収入の状況について

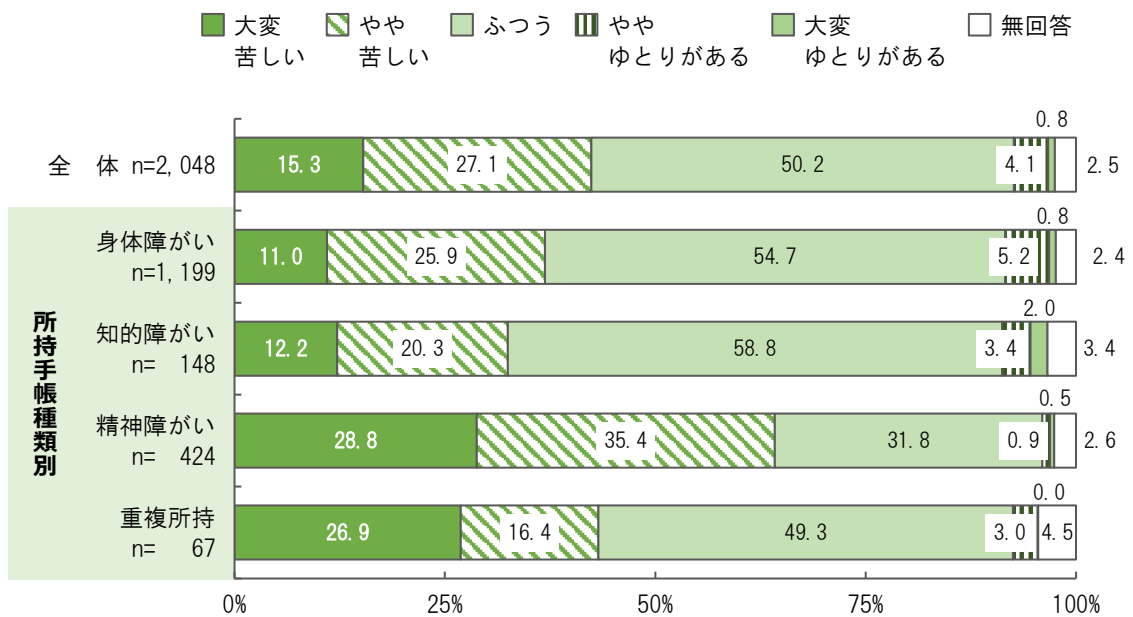
（1）経済的にみた暮らしの状況

問18 あなたは現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。（○は1つ）

○暮らしの状況は、「ふつう」が50.2%と最も高く、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』は42.4%、「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある』は4.9%となっています。

○所持手帳種類別にみると、『苦しい』は身体障がいでは36.9%、知的障がいでは32.5%、精神障がいでは64.2%、重複障がいでは43.3%となり、精神障がいの割合が最も高くなっています。

■ 経済的にみた暮らしの状況【所持手帳種類別】



6 医療について

(1) 病気等の治療状況

問19 あなたは現在、病院などでなんらかの治療を受けていますか。（○は1つ）

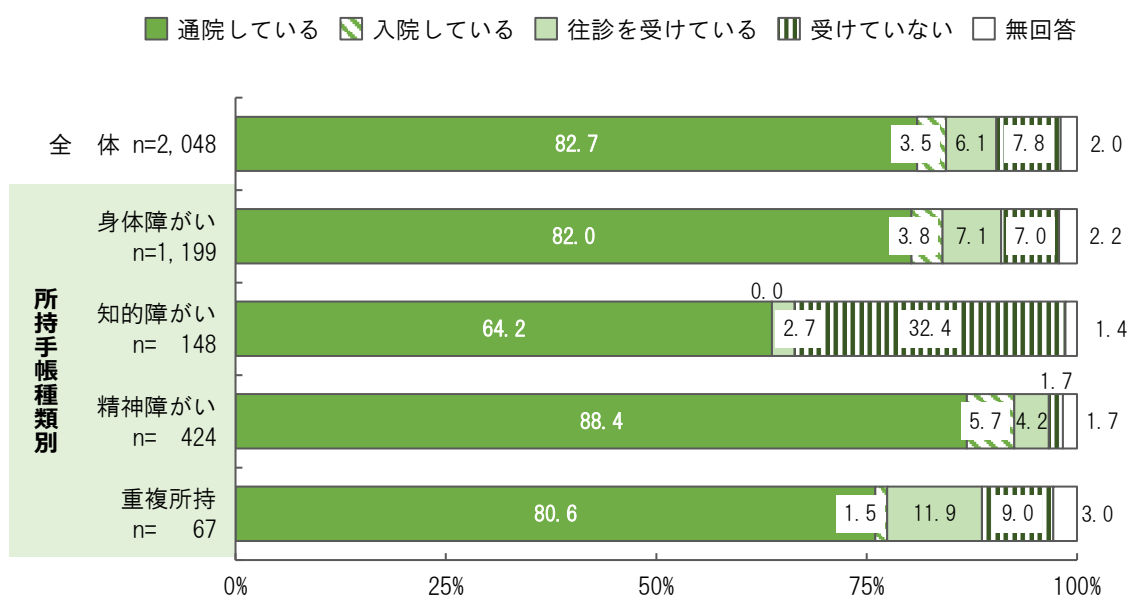
○病院などでの治療状況をみると、「通院している」が82.7%と最も高く、「入院している」は3.5%、「往診を受けている」は6.1%となっています。

一方、「受けていない」は7.8%となっています。

○所持手帳種類別にみると、いずれも「通院している」が最も高く、特に精神障がいは88.4%と高くなっています。

一方、「受けていない」は知的障がいで32.4%と最も高くなっています。

■ 病気等の治療状況【所持手帳種類別】

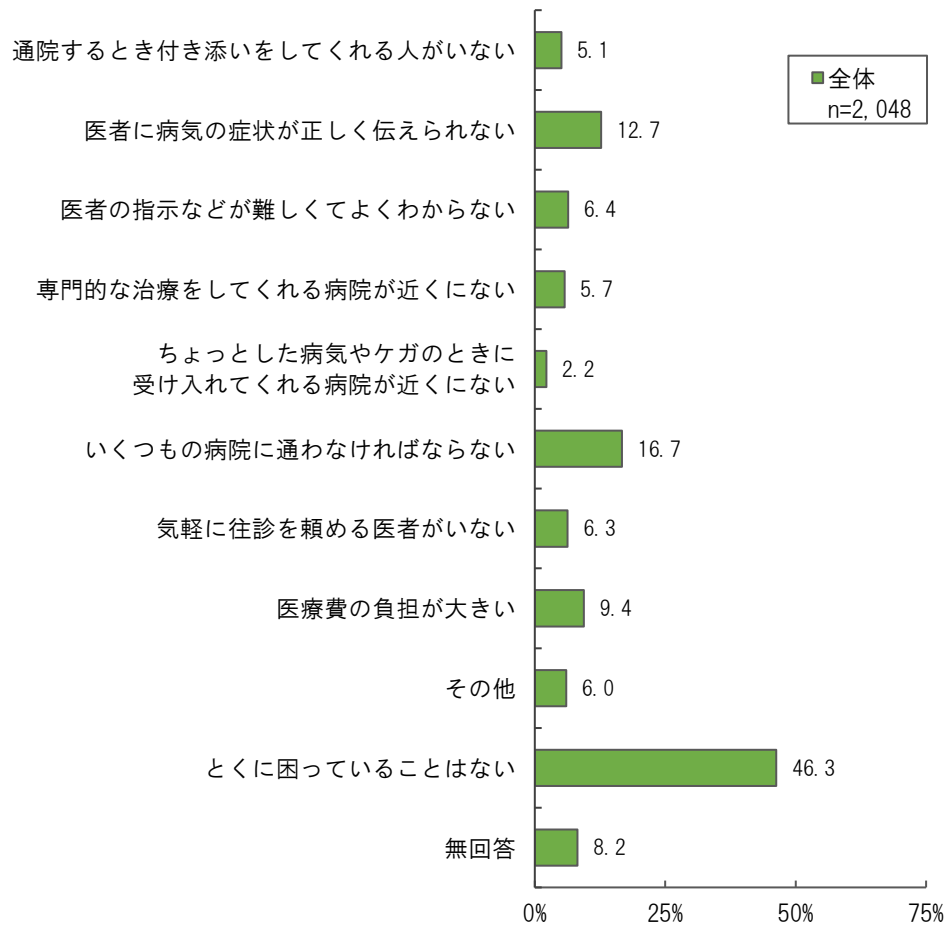


（2）医療に関して困っていること

問20 医療のことで、なにか困っていることがありますか。（○はいくつでも）

○医療のことで困っていることをみると、「とくに困っていることはない」が46.3%と最も高いものの、「いくつかの病院に通わなければならない」（16.7%）、「医者に病気の症状が正しく伝えられない」（12.7%）は1割以上が困っていることとしてあげています。

■ 医療に関して困っていること



○所持手帳種類別にみると、いずれも「とくに困っていることはない」が最も高くなっています。

また、身体障がいでは「いくつもの病院に通わなければならない」（15.9%）、知的障がいでは「医者に病気の症状が正しく伝えられない」（37.2%）、「医者の指示などが難しくよくわからない」（23.6%）、精神障がいでは「いくつもの病院に通わなければならない」（23.8%）、「医者に病気の症状が正しく伝えられない」（23.1%）、重複所持では「医者に病気の症状が正しく伝えられない」（22.4%）を困っていることの上位としてあげています。

■ 医療に関して困っていること【所持手帳種類別】

単位：%

	身体障がい n=1,199	知的障がい n=148	精神障がい n=424	重複所持 n=67
通院するとき付き添いをしてくれる人がいない	4.9	7.4	5.0	10.4
医者に病気の症状が正しく伝えられない	7.1	37.2	23.1	22.4
医者の指示などが難しくよくわからない	4.3	23.6	8.0	13.4
専門的な治療をしてくれる病院が近くにない	4.6	4.1	8.7	16.4
ちょっとした病気やケガのときに受け入れてくれる病院が近くにない	1.9	4.7	1.7	10.4
いくつもの病院に通わなければならない	15.9	7.4	23.8	19.4
気軽に往診を頼める医者がいない	6.3	6.1	5.9	14.9
医療費の負担が大きい	8.8	6.8	5.4	6.0
その他	5.3	5.4	9.7	1.5
とくに困っていることはない	50.9	43.9	36.1	31.3
無回答	9.3	5.4	6.1	9.0

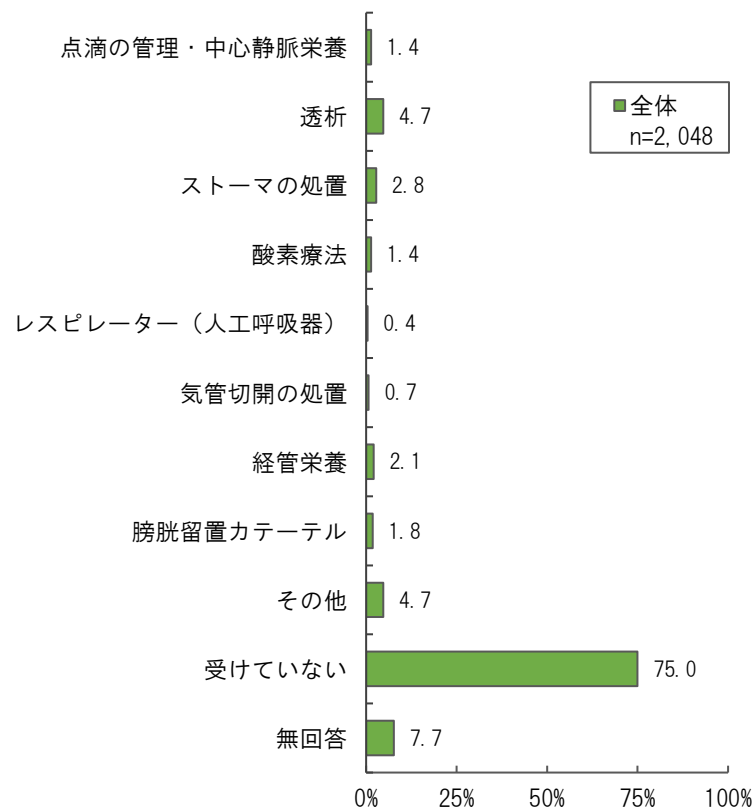
※最も高い割合に網掛けをしています。

（3）医療的支援の状況

問21 あなたは、ふだん次のような、医療的支援を受けていますか。（○はいくつでも）

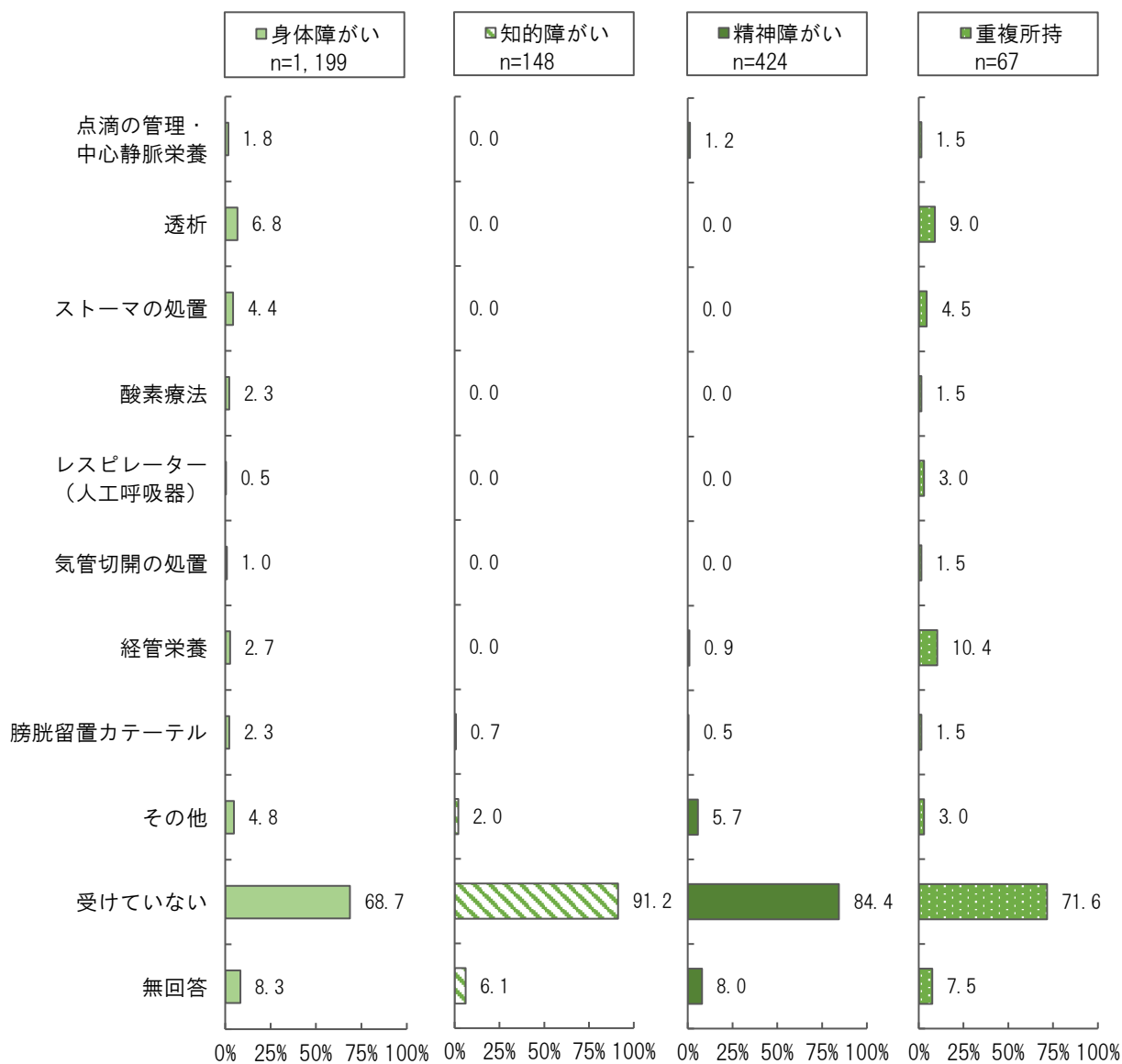
○医療的支援は、「受けていない」が75.0%と最も高くなっています。また、受けている支援をみると、「透析」が4.7%、「ストーマの処置」が2.8%となっています。

■ ふだん受けている医療的支援



○所持手帳種類別にみると、いずれも「受けていない」が最も高くなっています。
 また、受けている支援は、身体障がいでは「透析」が6.8%、重複所持では「経管栄養」が10.4%となっています。

■ ふだん受けている医療的支援【所持手帳種類別】



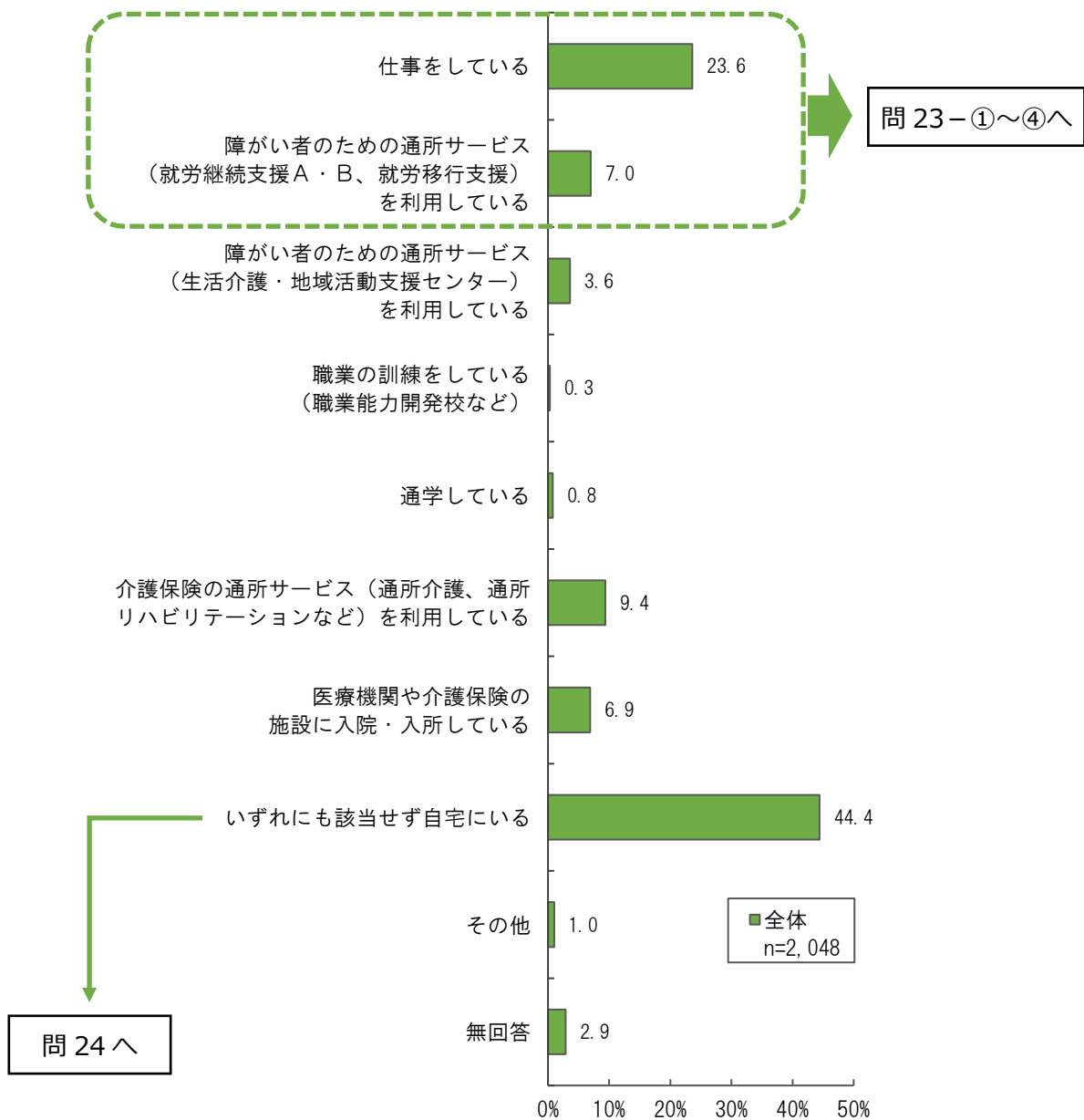
7 日中の活動について

(1) 日中の過ごし方

問22 現在、日中は主にどのように過ごしていますか。（○は1つ）

○日中の主な過ごし方をみると、「いずれにも該当せず自宅にいる」が44.4%と最も高く、次いで「仕事をしている」が23.6%、「介護保険の通所サービス（通所介護、通所リハビリテーションなど）を利用している」が9.4%となっています。

■ 日中の過ごし方



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「いずれにも該当せず自宅にいる」が53.3%と最も高く、次いで「仕事をしている」が17.9%、「介護保険の通所サービス（通所介護、通所リハビリテーションなど）を利用している」が13.4%となっています。

知的障がいでは「仕事をしている」が35.8%と最も高く、次いで「障がい者のための通所サービス（就労継続支援A・B、就労移行支援）を利用している」が30.4%、「障がい者のための通所サービス（生活介護・地域活動支援センター）を利用している」が18.9%となっています。

精神障がいでは「いずれにも該当せず自宅にいる」が37.5%と最も高く、次いで「仕事をしている」が29.7%、「障がい者のための通所サービス（就労継続支援A・B、就労移行支援）を利用している」が16.3%となっています。

重複所持では「障がい者のための通所サービス（生活介護・地域活動支援センター）を利用している」が31.3%と最も高く、次いで「いずれにも該当せず自宅にいる」が25.4%、「障がい者のための通所サービス（就労継続支援A・B、就労移行支援）を利用している」が11.9%となっています。

■ 日中の過ごし方【所持手帳種類別】

単位：%

	身体障がい n=1,199	知的障がい n=148	精神障がい n=424	重複所持 n=67
仕事をしている	17.9	35.8	29.7	10.4
障がい者のための通所サービス（就労継続支援A・B、就労移行支援）を利用している	1.3	30.4	16.3	11.9
障がい者のための通所サービス（生活介護・地域活動支援センター）を利用している	1.3	18.9	1.4	31.3
職業の訓練をしている（職業能力開発校など）	0.0	2.0	0.5	0.0
通学している	0.5	1.4	1.2	4.5
介護保険の通所サービス（通所介護、通所リハビリテーションなど）を利用している	13.4	0.7	3.3	6.0
医療機関や介護保険の施設に入院・入所している	8.2	2.7	6.8	3.0
いずれにも該当せず自宅にいる	53.3	6.1	37.5	25.4
その他	0.6	0.0	2.1	1.5
無回答	3.5	2.0	1.2	6.0

※最も高い割合に網掛けをしています。

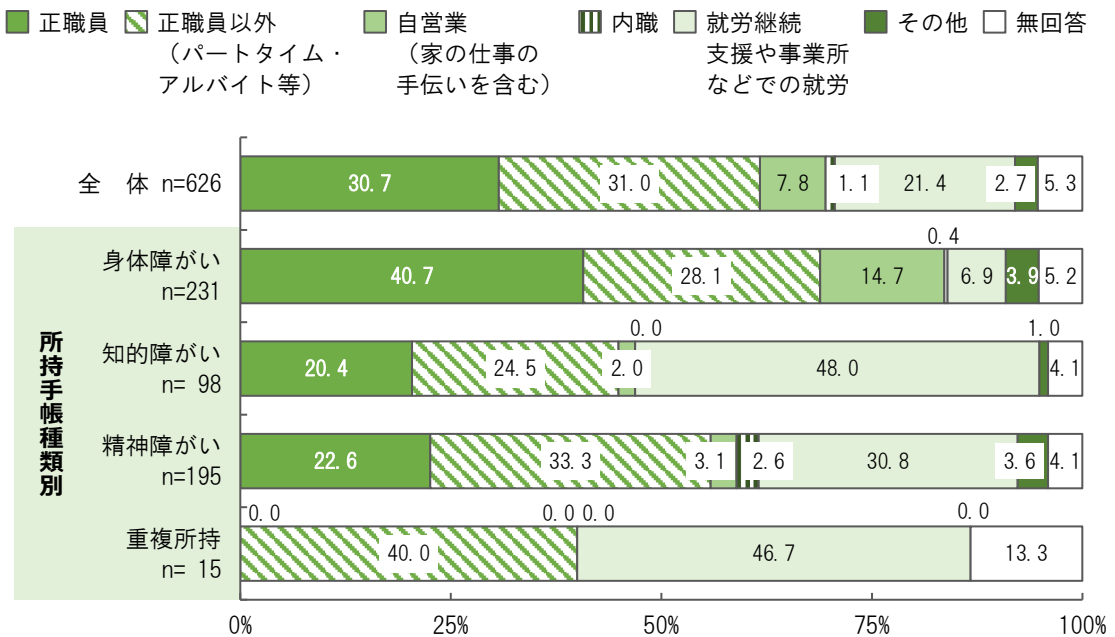
（2）仕事の状況

問22で「仕事をしている」または「障がい者のための通所サービスを利用している」と答えた方のみ

問23-① 仕事は何をされていますか。（○は1つ）

- 雇用形態等仕事の状況は、「正職員以外（パートタイム・アルバイト等）」が31.0%と最も高く、次いで「正職員」が30.7%、「就労継続支援や事業所などでの就労」が21.4%となっています。
- 所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「正職員」（40.7%）、知的障がい・重複所持では「就労継続支援や事業所などでの就労」（48.0%・46.7%）、精神障がいでは「正職員以外（パートタイム・アルバイト等）」（33.3%）が最も高くなっています。

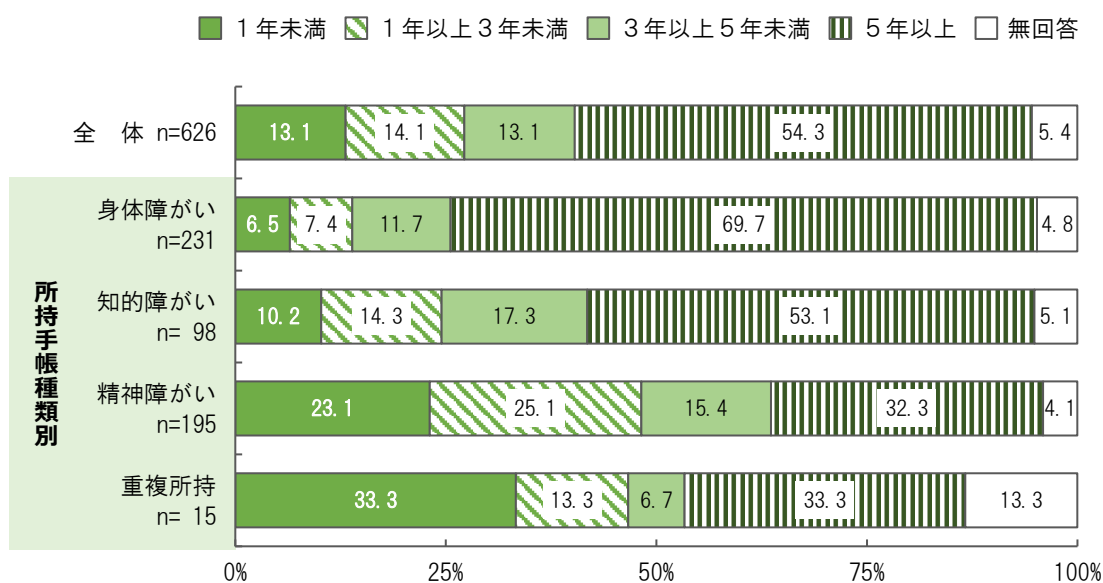
■ 雇用形態等仕事の状況【所持手帳種類別】



問23-② 現在の仕事に従事している期間はどれくらいですか。（○は1つ）

- 現在の仕事に従事している期間は、「5年以上」が54.3%と最も高く、次いで「1年以上3年未満」が14.1%、「1年未満」「3年以上5年未満」が各13.1%となっています。
- 所持手帳種類別にみると、身体障がい・知的障がい・精神障がいでは「5年以上」（69.7%・53.1%・32.3%）、重複所持では「1年未満」「5年以上」（各33.3%）が最も高くなっています。

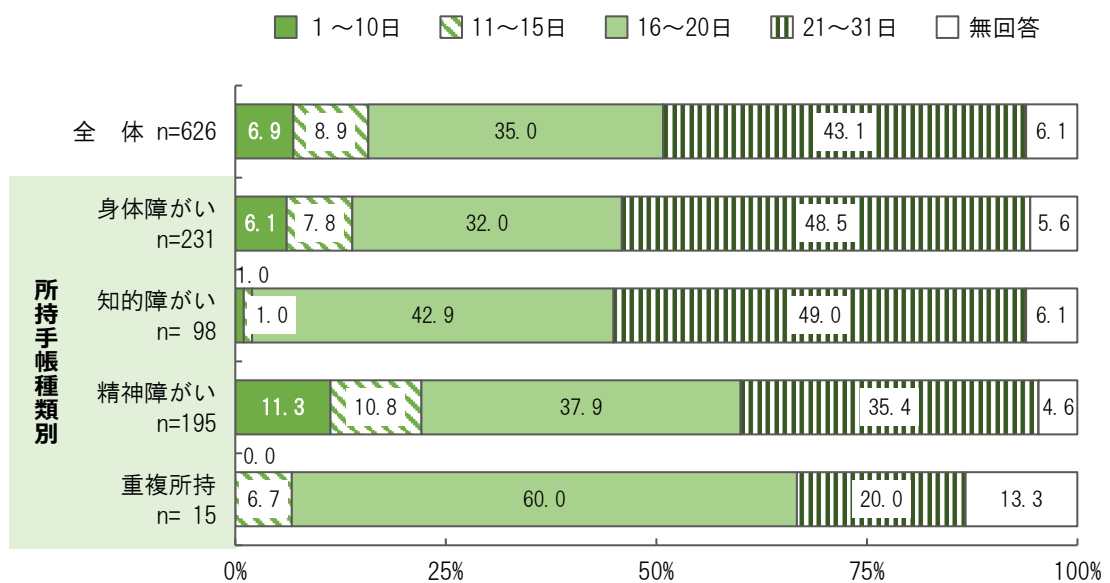
■ 仕事に従事している期間【所持手帳種類別】



問23-③ 1か月に働く日数はどの程度ですか。（○は1つ）

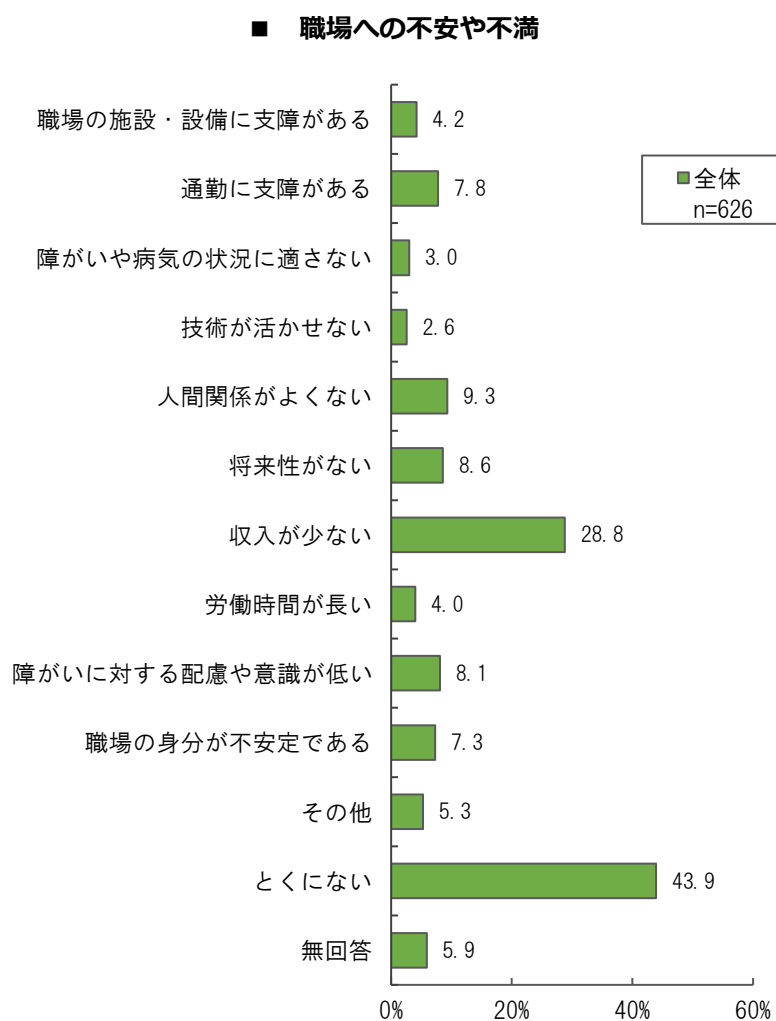
- 1か月あたりの働く日数は、「21～31日」が43.1%と最も高く、次いで「16～20日」が35.0%、「11～15日」が8.9%となっています。
- 所持手帳種類別にみると、身体障がい・知的障がいでは「21～31日」（48.5%・49.0%）、精神障がい・重複所持では「16～20日」（37.9%・60.0%）が最も高くなっています。

■ 1か月あたりの働く日数【所持手帳種類別】



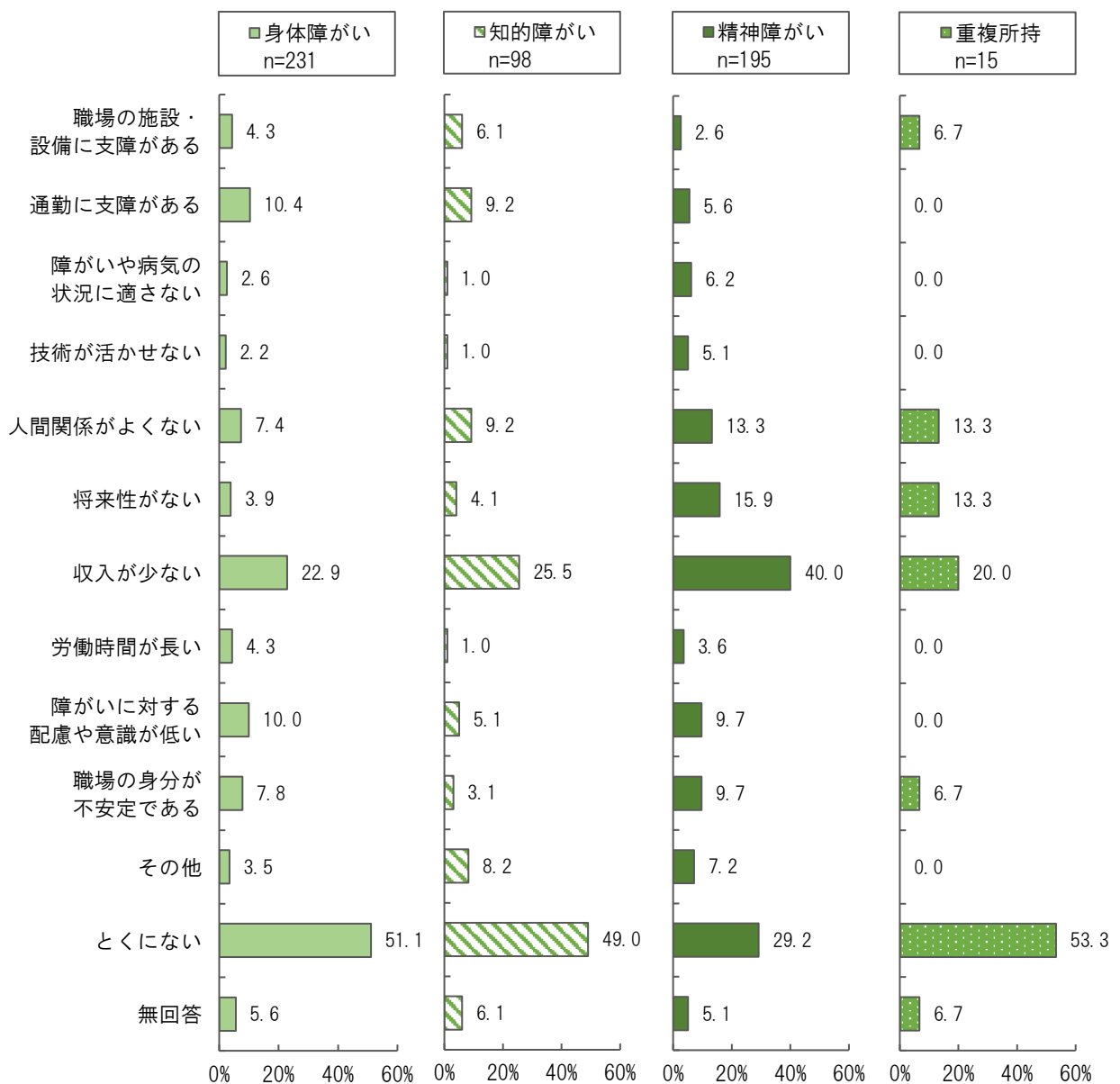
問23-④ 現在の職場について不安や不満はありますか。（○は3つまで）

○職場への不安や不満をみると、「とくにない」が43.9%と最も高いものの、「収入が少ない」も28.8%と高くなっています。



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「とくにない」が51.1%と最も高く、次いで「収入が少ない」が22.9%、「通勤に支障がある」が10.4%となっています。
 知的障がいでは「とくにない」が49.0%と最も高く、次いで「収入が少ない」が25.5%、「通勤に支障がある」「人間関係がよくない」が各9.2%となっています。
 精神障がいでは「収入が少ない」が40.0%と最も高く、次いで「とくにない」が29.2%、「将来性がない」が15.9%となっています。
 重複所持では「とくにない」が53.3%と最も高く、次いで「収入が少ない」が20.0%、「人間関係がよくない」「将来性がない」が各13.3%となっています。

■ 職場への不安や不満【所持手帳種類別】



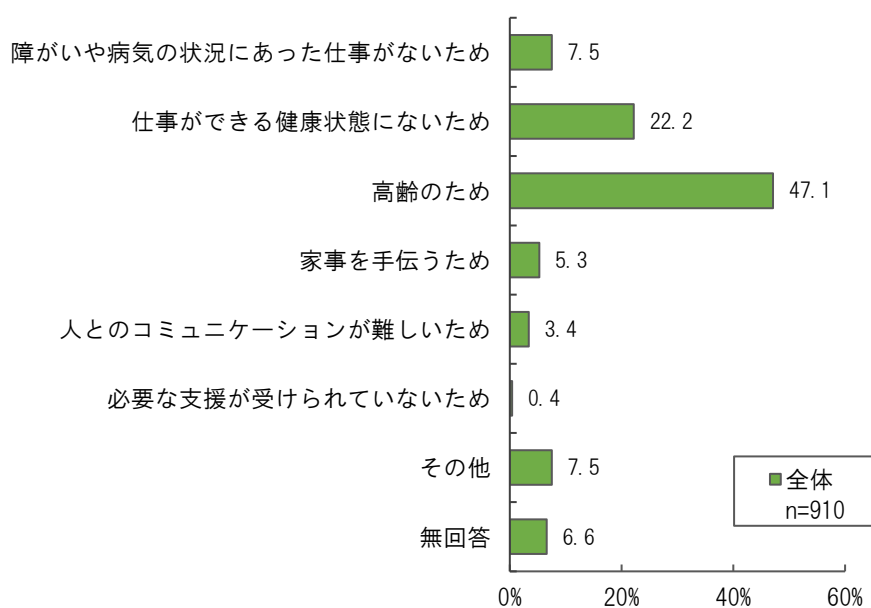
（3）日中を自宅で過ごす理由

問22で「いずれにも該当せず自宅にいる」と答えた方のみ

問24 自宅にいる主な理由は何ですか。（○は1つ）

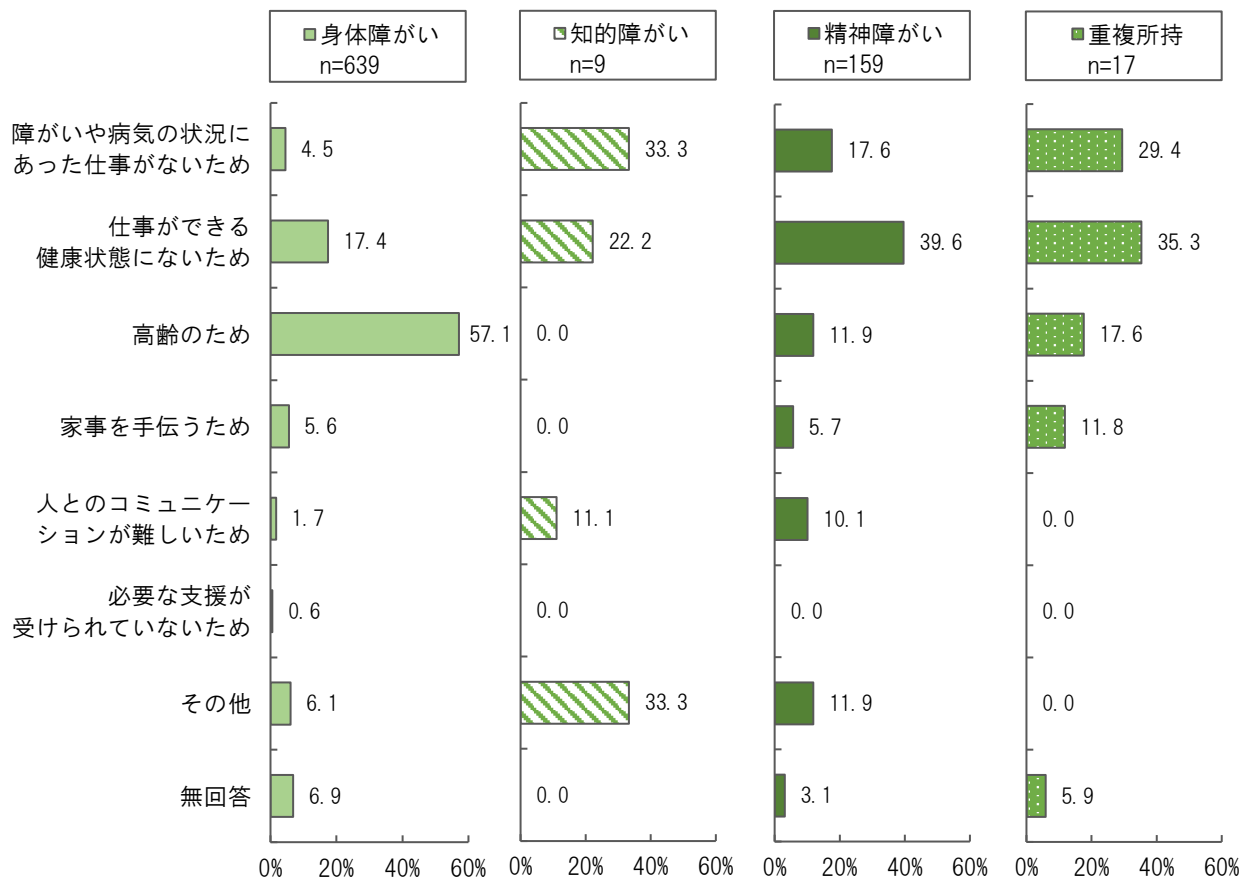
○自宅にいる主な理由は、「高齢のため」が47.1%と最も高く、次いで「仕事ができる健康状態にないため」が22.2%、「障がいや病気の状況にあった仕事がないため」が7.5%となっています。

■ 日中を自宅で過ごす主な理由



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「高齢のため」（57.1%）、精神障がいでは「仕事ができる健康状態にないため」（39.6%）が最も高くなっています。

■ 日中を自宅で過ごす主な理由【所持手帳種類別】



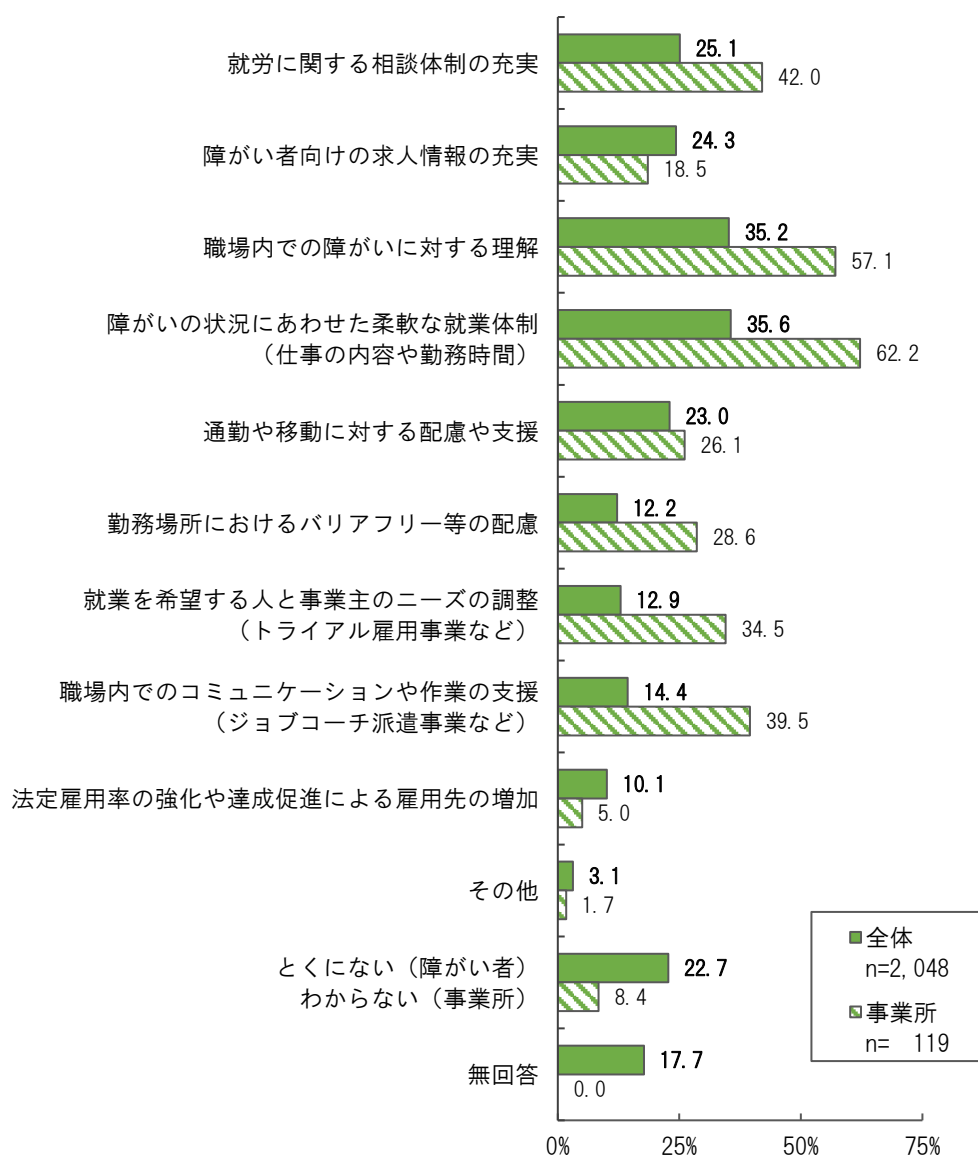
（４）就労促進に必要な配慮

問25 あなたは障がいのある人の就労を促進するために、どのような配慮が必要であると思いますか。（〇は5つまで）

○就労促進に必要な配慮は、「障がいの状況にあわせた柔軟な就業体制（仕事の内容や勤務時間）」が35.6%と最も高く、次いで「職場内での障がいに対する理解」が35.2%、「就労に関する相談体制の充実」が25.1%となっています。

○事業所調査（問13）においても、障がい者の調査結果と同様に、柔軟な就業体制や仕事内容への配慮、障がいに対する理解など、働きやすさへの配慮が上位に入っており、障がい者、事業者ともに重要な配慮であると認識していることが分かりました。

■ 障がいのある人の就労促進に必要な配慮【事業所調査比較】



○所持手帳種類別にみると、身体障がい・精神障がいでは「障がいの状況にあわせた柔軟な就業体制（仕事の内容や勤務時間）」（31.4%・48.1%）、知的障がいでは「職場内での障がいに対する理解」（43.2%）、重複所持では「通勤や移動に対する配慮や支援」（35.8%）が最も高くなっています。

■ 障がいのある人の就労促進に必要な配慮【所持手帳種類別】

単位：%

	身体 障がい n=1,199	知的 障がい n=148	精神 障がい n=424	重複 所持 n=67
就労に関する相談体制の充実	20.7	29.7	34.9	23.9
障がい者向けの求人情報の充実	20.3	26.4	36.1	25.4
職場内での障がいに対する理解	30.1	43.2	46.2	34.3
障がいの状況にあわせた柔軟な就業体制 （仕事の内容や勤務時間）	31.4	38.5	48.1	34.3
通勤や移動に対する配慮や支援	22.4	28.4	21.5	35.8
勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	14.4	5.4	6.6	19.4
就業を希望する人と事業主のニーズの調整 （トライアル雇用事業など）	11.6	9.5	17.5	9.0
職場内でのコミュニケーションや作業の支援 （ジョブコーチ派遣事業など）	9.5	26.4	21.9	20.9
法定雇用率の強化や達成促進による雇用先の増加	9.0	8.1	15.1	6.0
その他	2.6	5.4	5.0	0.0
とくにない	26.4	15.5	17.0	16.4
無回答	20.8	13.5	8.3	22.4

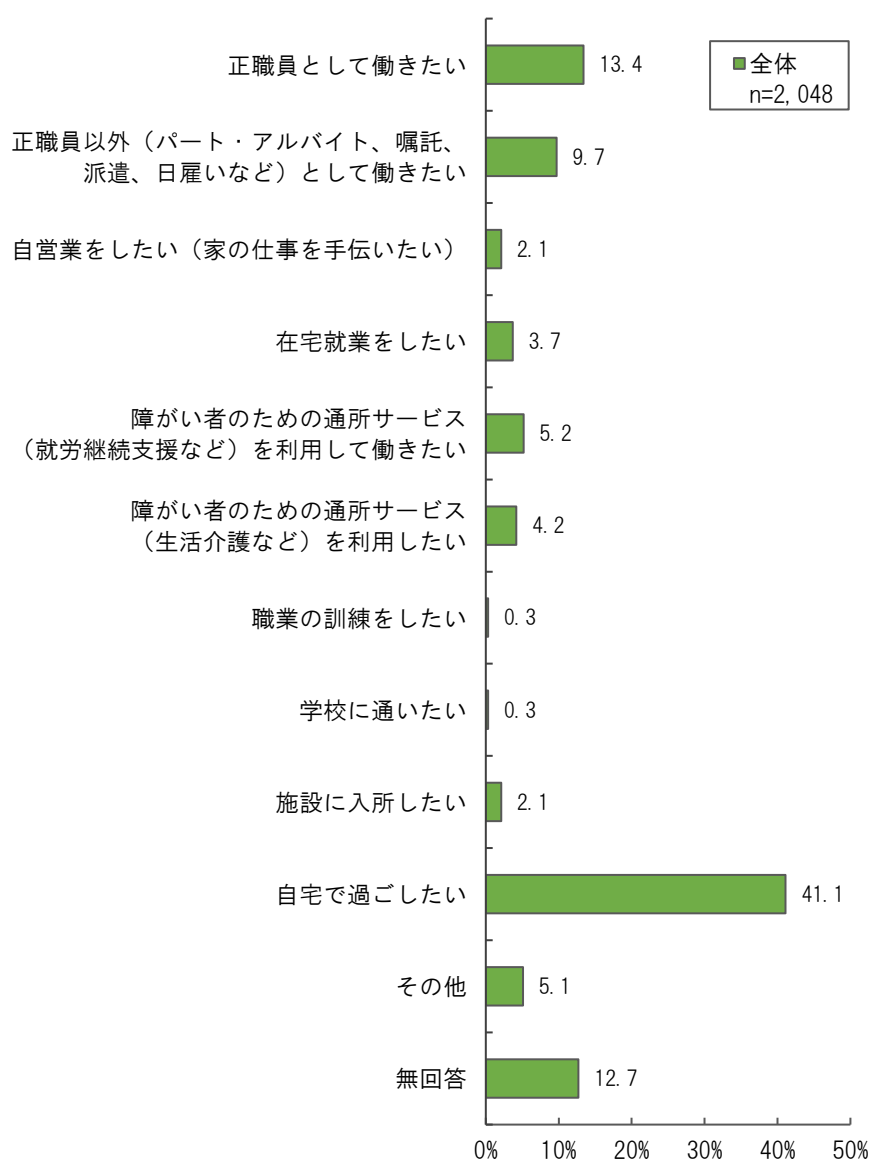
※最も高い割合に網掛けをしています。

（5）日中の過ごし方に関する今後の意向

問26 今後、主に日中をどのように過ごしたいですか。（○は1つ）

○日中の過ごし方に関する今後の意向をみると、「自宅で過ごしたい」が41.1%と最も高く、次いで「正職員として働きたい」が13.4%、「正職員以外（パート・アルバイト、嘱託、派遣、日雇いなど）として働きたい」が9.7%となっています。

■ 日中の過ごし方に関する今後の意向



○所持手帳種類別にみると、身体障がい・精神障がいでは「自宅で過ごしたい」（52.9%・27.6%）、知的障がいでは「障がい者のための通所サービス（就労継続支援など）を利用して働きたい」（25.7%）、重複所持では「障がい者のための通所サービス（生活介護など）を利用したい」（25.4%）が最も高くなっています。

■ 日中の過ごし方に関する今後の意向【所持手帳種類別】

単位：%

	身体障がい n=1,199	知的障がい n=148	精神障がい n=424	重複所持 n=67
正職員として働きたい	8.5	19.6	22.9	11.9
正職員以外（パート・アルバイト、嘱託、派遣、日雇いなど）として働きたい	6.7	12.2	16.0	6.0
自営業をしたい（家の仕事を手伝いたい）	1.9	2.0	2.1	1.5
在宅就業をしたい	2.8	1.4	7.3	1.5
障がい者のための通所サービス（就労継続支援など）を利用して働きたい	1.2	25.7	10.6	10.4
障がい者のための通所サービス（生活介護など）を利用したい	3.3	15.5	0.7	25.4
職業の訓練をしたい	0.3	0.7	0.2	0.0
学校に通いたい	0.3	0.0	0.5	0.0
施設に入所したい	2.1	4.1	1.9	3.0
自宅で過ごしたい	52.9	5.4	27.6	17.9
その他	5.3	3.4	5.0	7.5
無回答	14.7	10.1	5.2	14.9

※最も高い割合に網掛けをしています。

8 これからの生活について

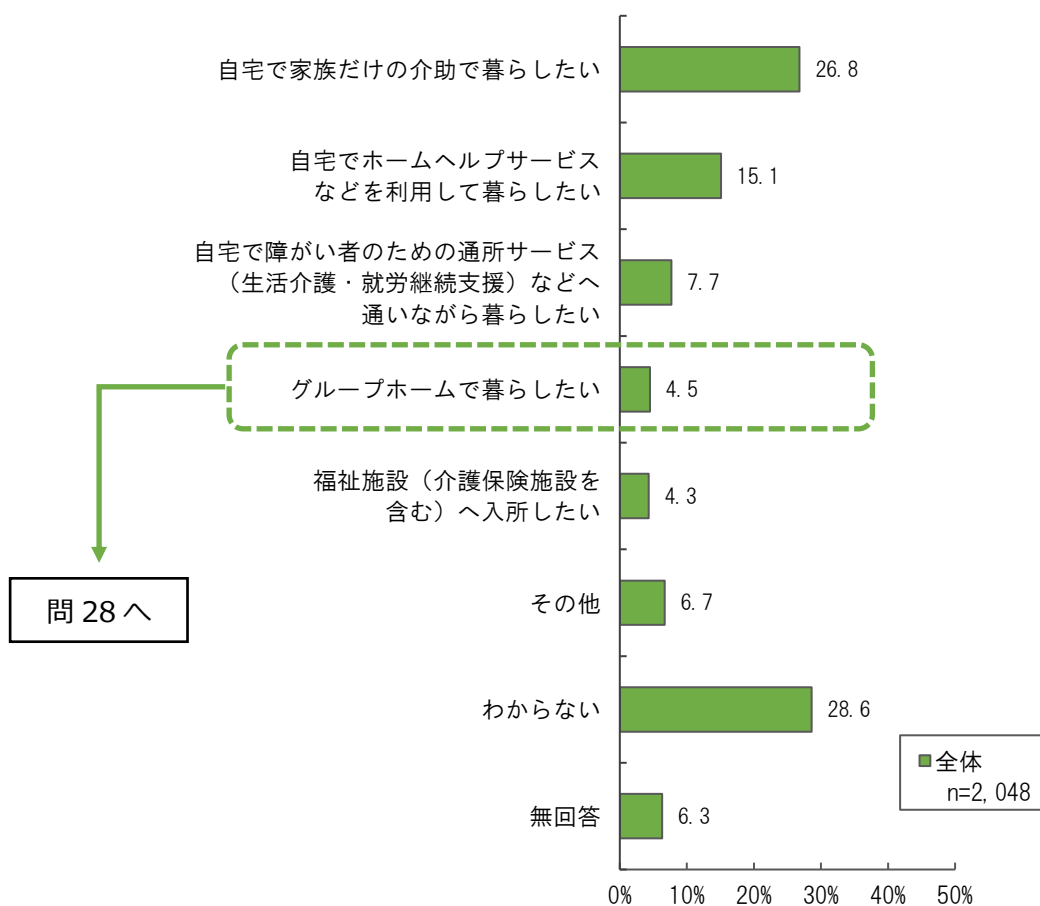
(1) 暮らし方に関する今後の意向

問27 今後どこでどのように暮らしたいとお考えですか。（○は1つ）

○暮らし方に関する今後の意向をみると、「わからない」が28.6%と最も高く、次いで「自宅で家族だけの介助で暮らしたい」が26.8%、「自宅でホームヘルプサービスなどを利用して暮らしたい」が15.1%となっています。

また、「グループホームで暮らしたい」は4.5%となっています。

■ 暮らし方に関する今後の意向



○所持手帳種類別にみると、身体障がい・知的障がい・精神障がいでは「わからない」（28.8%・25.7%・29.7%）、重複所持では「自宅で障がい者のための通所サービス（生活介護・就労継続支援）などへ通いながら暮らしたい」（23.9%）が最も高くなっています。

■ 暮らし方に関する今後の意向【所持手帳種類別】

単位：%

	身体障がい n=1,199	知的障がい n=148	精神障がい n=424	重複所持 n=67
自宅で家族だけの介助で暮らしたい	28.4	14.9	28.5	17.9
自宅でホームヘルプサービスなどを利用して暮らしたい	17.8	3.4	11.3	7.5
自宅で障がい者のための通所サービス（生活介護・就労継続支援）などへ通いながら暮らしたい	5.6	17.6	10.4	23.9
グループホームで暮らしたい	1.2	23.0	6.1	17.9
福祉施設（介護保険施設を含む）へ入所したい	4.9	6.1	1.4	4.5
その他	5.7	5.4	9.7	7.5
わからない	28.8	25.7	29.7	14.9
無回答	7.6	4.1	2.8	6.0

※最も高い割合に網掛けをしています。

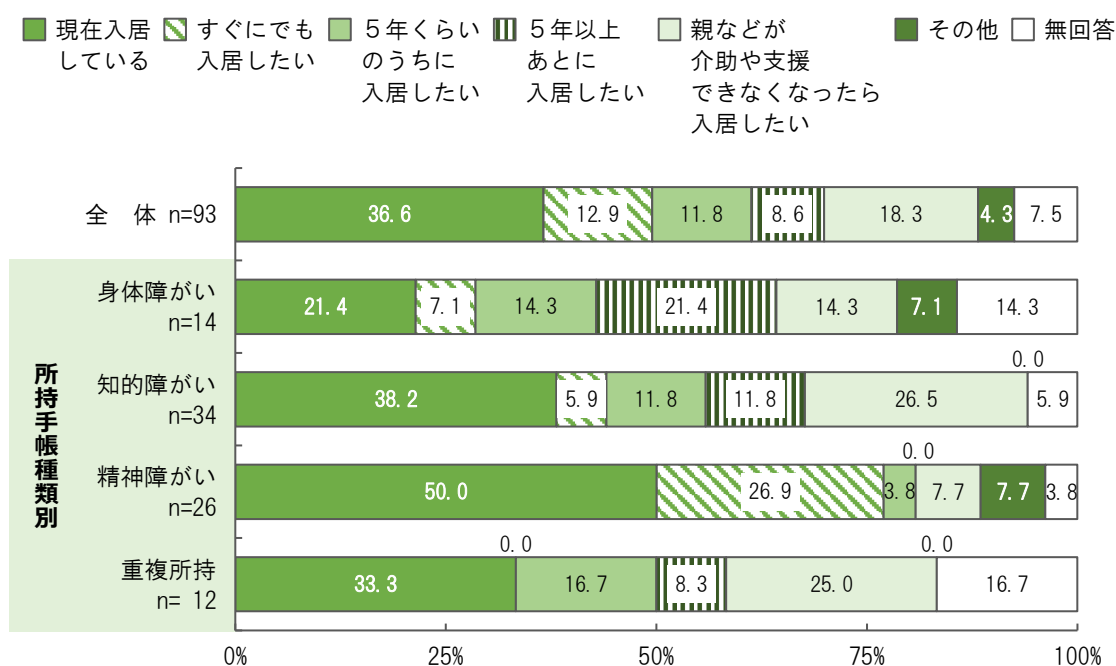
（２）グループホームへの入居希望時期

問27で「グループホームで暮らしたい」と答えた方のみ

問28 いつ頃からグループホームに入居したいと思いますか。（○は1つ）

- グループホームでの生活を希望する方の入居のタイミングは、「現在入居している」が36.6%と最も高く、次いで「親などが介助や支援できなくなったら入居したい」が18.3%、「すぐにでも入居したい」が12.9%となっています。
- 所持手帳種類別にみると、知的障がいでは「現在入居している」が38.2%、「親などが介助や支援できなくなったら入居したい」が26.5%となっています。
- グループホーム入居希望者のうち「親などが介助や支援できなくなったら入居したい」というニーズが一定数あるため、親などの介助や支援がなくなる万一の事態に備えて、グループホームの入居体験などの機会を増やし、円滑な入居につなげていく必要があります。

■ 入居希望時期【所持手帳種類別】



9 外出について

(1) 外出の頻度

問29 あなたはどれくらいの頻度で外出していますか。（○は1つ）

○外出の頻度は、「週に4日以上」が44.0%と最も高く、次いで「週に2、3日」が27.5%、「週に1日」が7.8%となっています。

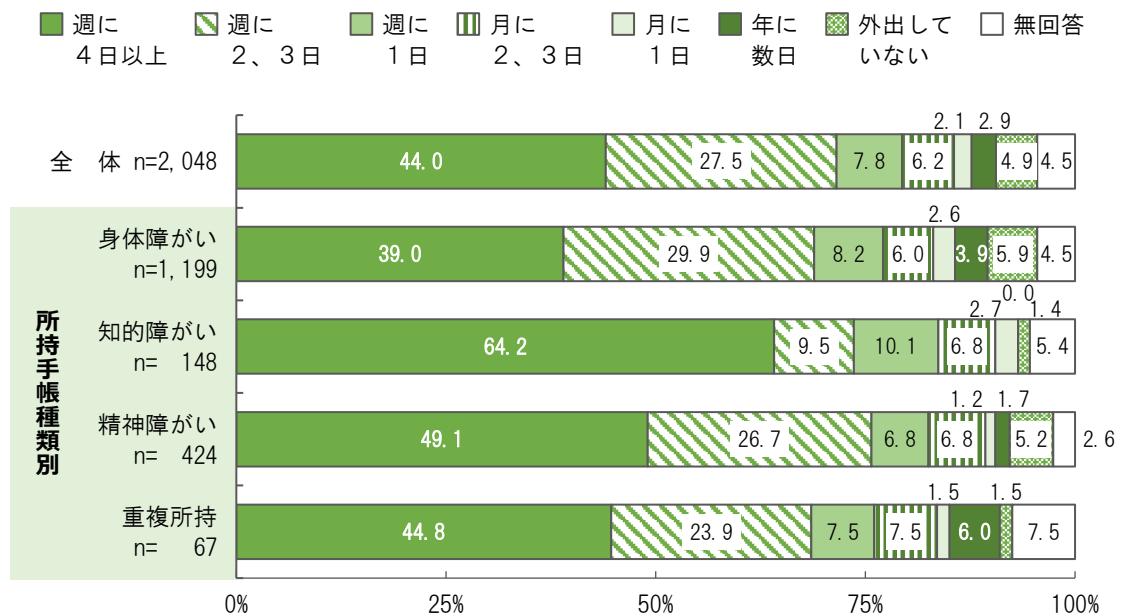
○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「週に4日以上」が39.0%と最も高く、次いで「週に2、3日」が29.9%となっています。

知的障がいでは「週に4日以上」が64.2%と最も高く、次いで「週に1日」が10.1%となっています。

精神障がいでは「週に4日以上」が49.1%と最も高く、次いで「週に2、3日」が26.7%となっています。

重複所持では「週に4日以上」が44.8%と最も高く、次いで「週に2、3日」が23.9%となっています。

■ 外出の頻度【所持手帳種類別】

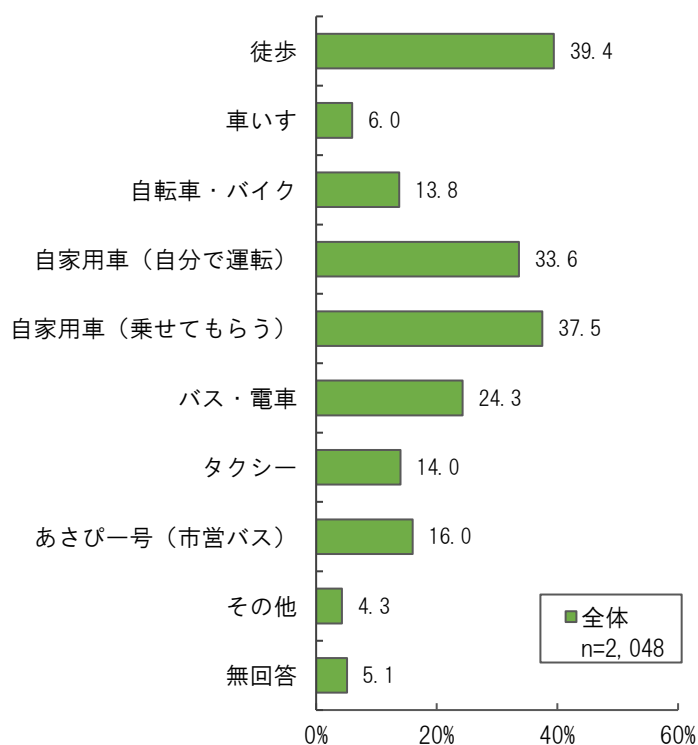


（2）外出時の交通手段

問30 外出のときの交通手段は何ですか。（○はいくつでも）

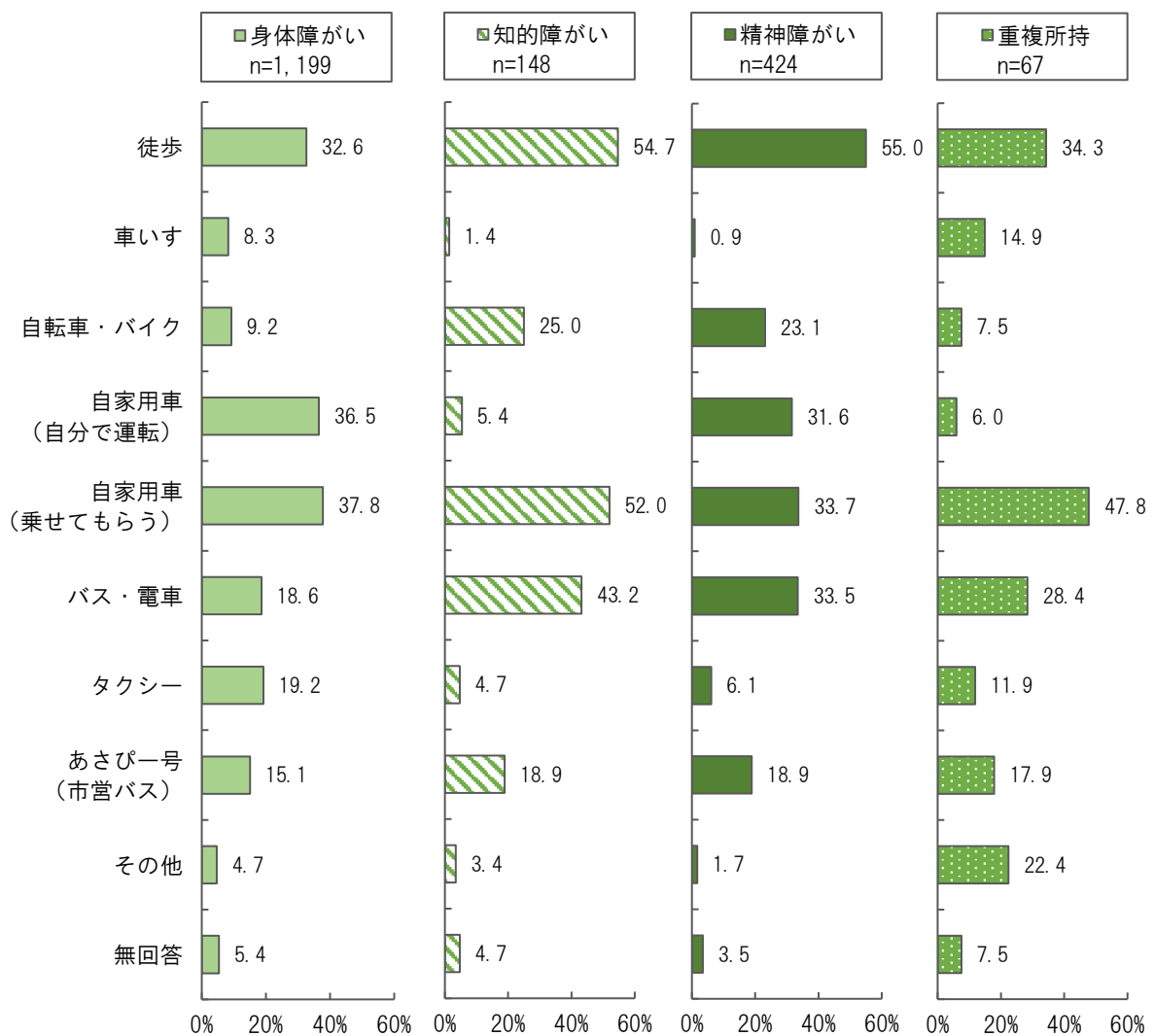
○外出時の交通手段は、「徒歩」が39.4%と最も高く、次いで「自家用車（乗せてもらう）」が37.5%、「自家用車（自分で運転）」が33.6%となっています。

■ 外出時の交通手段



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「自家用車（乗せてもらう）」が37.8%と最も高く、次いで「自家用車（自分で運転）」が36.5%、「徒歩」が32.6%となっています。知的障がいでは「徒歩」が54.7%と最も高く、次いで「自家用車（乗せてもらう）」が52.0%、「バス・電車」が43.2%となっています。精神障がいでは「徒歩」が55.0%と最も高く、次いで「自家用車（乗せてもらう）」が33.7%、「バス・電車」が33.5%となっています。重複所持では「自家用車（乗せてもらう）」が47.8%と最も高く、次いで「徒歩」が34.3%、「バス・電車」が28.4%となっています。

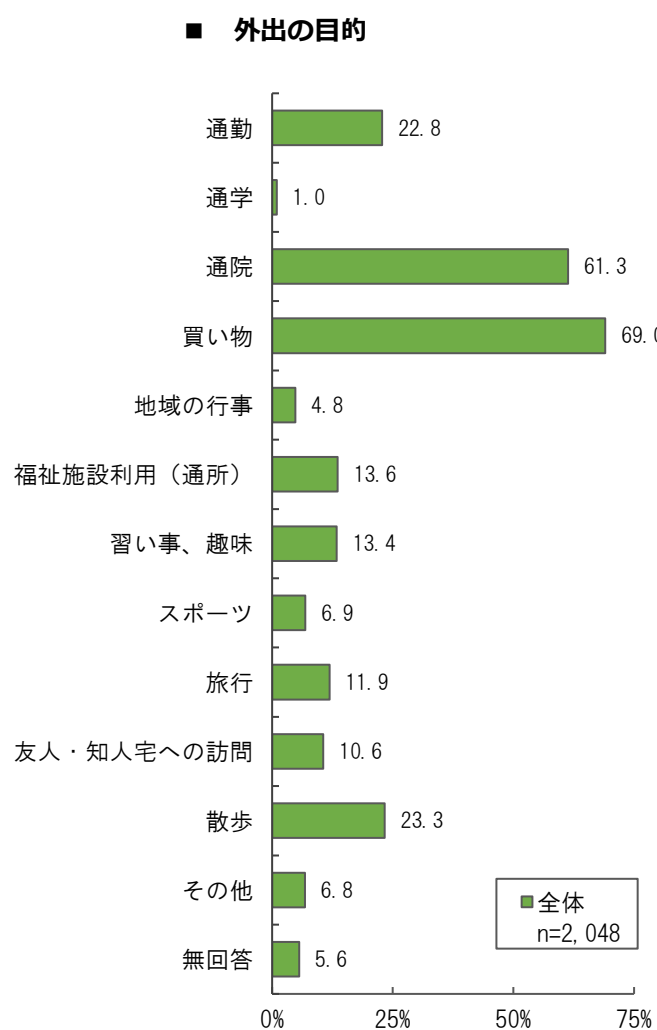
■ 外出時の交通手段【所持手帳種類別】



（3）外出の目的

問31 外出の目的は何ですか。（○はいくつでも）

○外出の目的は、「買い物」が69.0%と最も高く、次いで「通院」が61.3%、「散歩」が23.3%となっています。



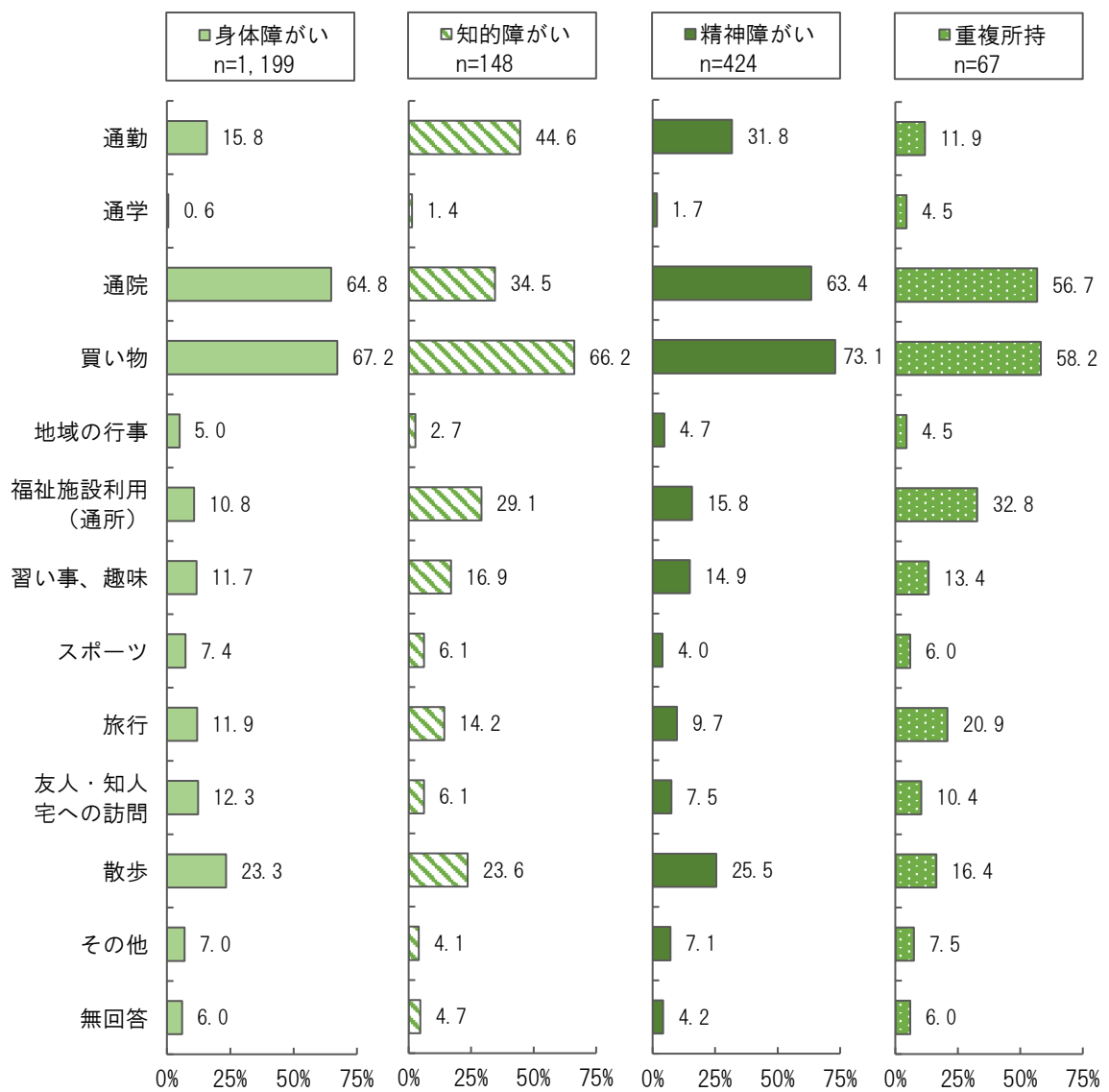
○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「買い物」が67.2%と最も高く、次いで「通院」が64.8%、「散歩」が23.3%となっています。

知的障がいでは「買い物」が66.2%と最も高く、次いで「通勤」が44.6%、「通院」が34.5%となっています。

精神障がいでは「買い物」が73.1%と最も高く、次いで「通院」が63.4%、「通勤」が31.8%となっています。

重複所持では「買い物」が58.2%と最も高く、次いで「通院」が56.7%、「福祉施設利用（通所）」が32.8%となっています。

■ 外出の目的【所持手帳種類別】

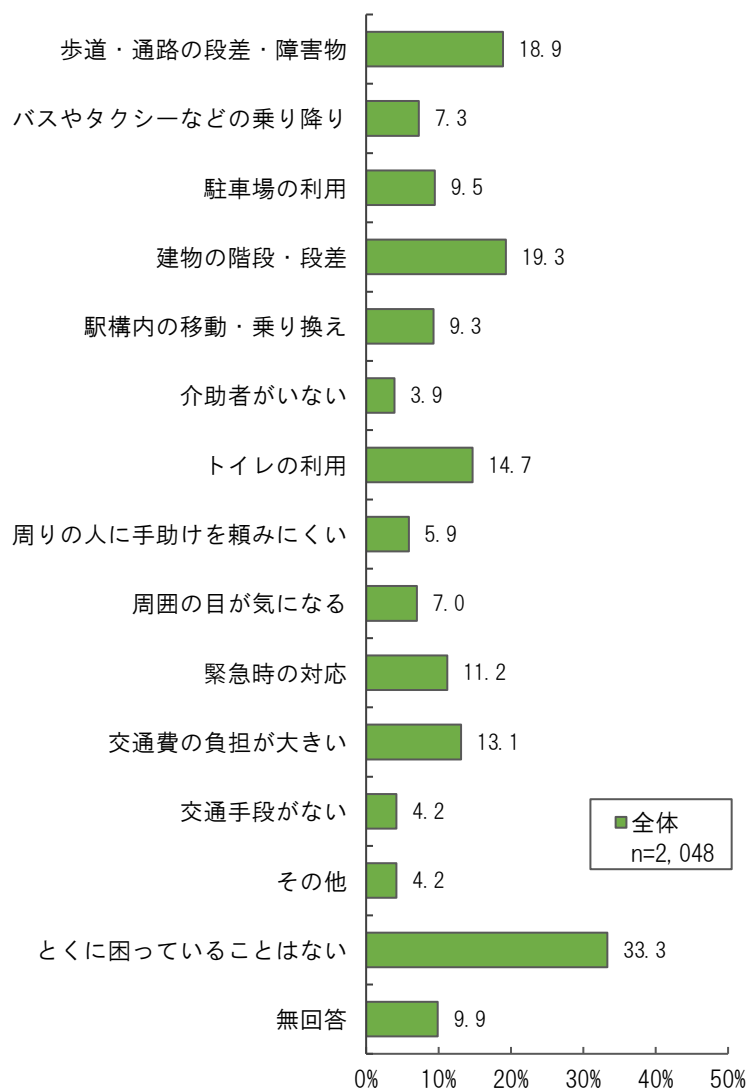


（4）外出時に困ること

問32 外出するうえで困ることは何ですか。（○はいくつでも）

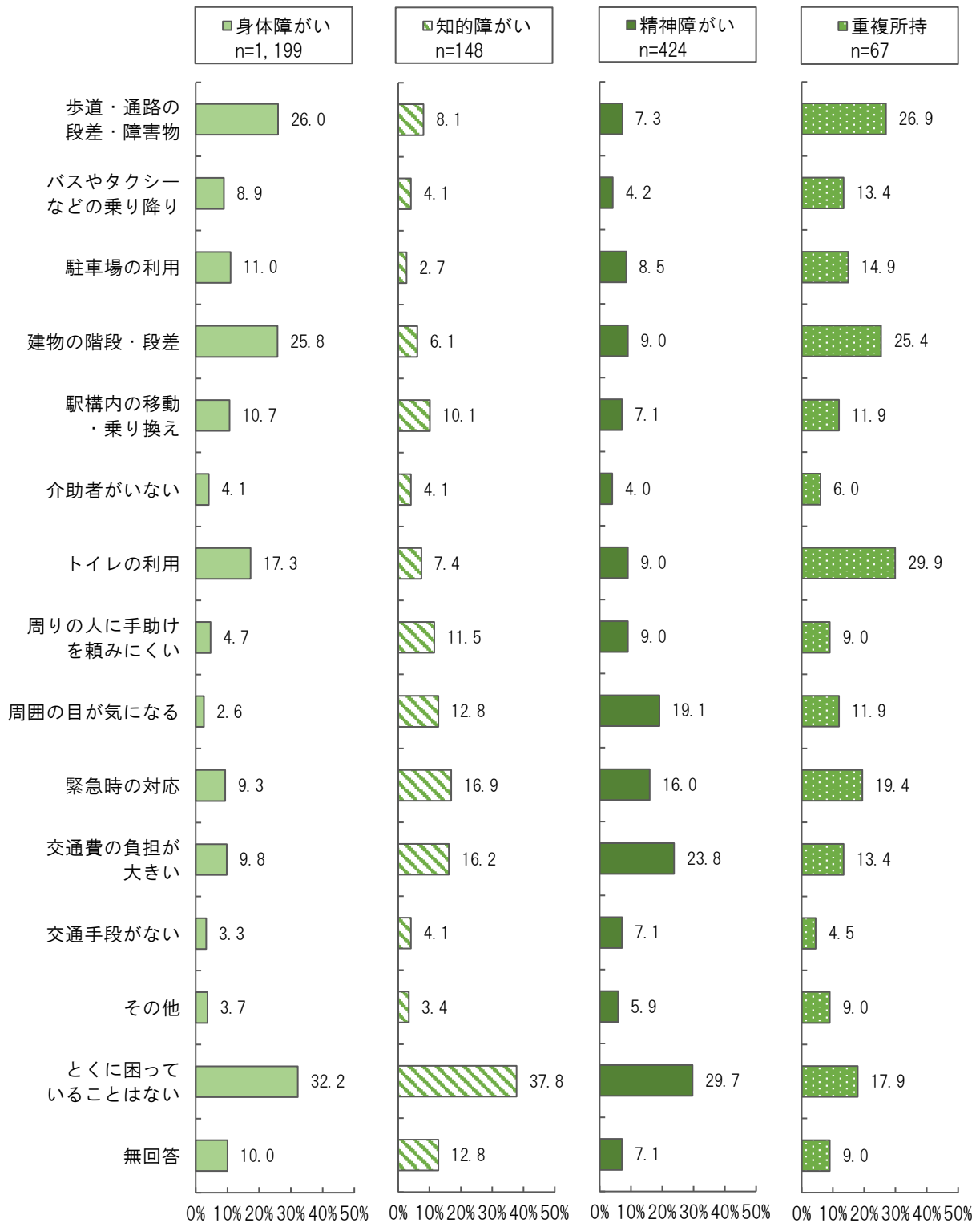
○外出時に困ることをみると、「とくに困っていることはない」が33.3%と最も高いものの、「建物の階段・段差」は19.3%、「歩道・通路の段差・障害物」は18.9%、「トイレの利用」は14.7%が困ることとしてあげています。

■ 外出時に困ること



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「歩道・通路の段差・障害物」（26.0%）、知的障がいでは「緊急時の対応」（16.9%）、精神障がいでは「交通費の負担が大きい」（23.8%）、重複所持では「トイレの利用」（29.9%）を困ることの上位としてあげています。

■ 外出時に困ること【所持手帳種類別】



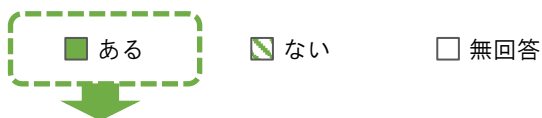
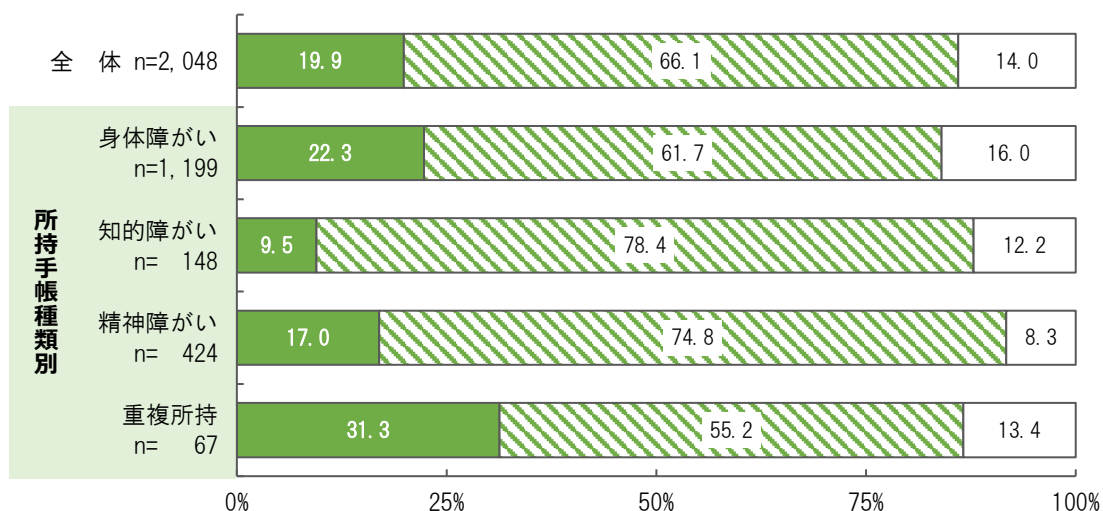
（5）公共施設の利用に関して

問33 市内の公共施設を利用するときに、不便を感じたことがありますか。（○は1つ）

○市内の公共施設を利用するときに、不便を感じたことが「ある」は19.9%、「ない」は66.1%となっています。

○所持手帳種類別にみると、「ある」は重複所持が31.3%と最も高くなっています。

■ 公共施設利用の際の不便を感じたことの有無【所持手帳種類別】



問 34 ・ 問 35 へ

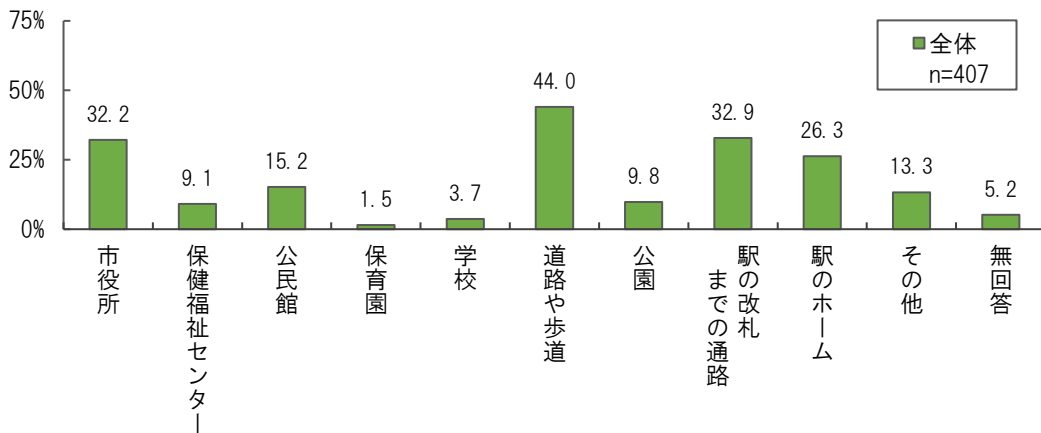
問33で「ある」と答えた方のみ

問34 どの施設で感じましたか。(○はいくつでも)

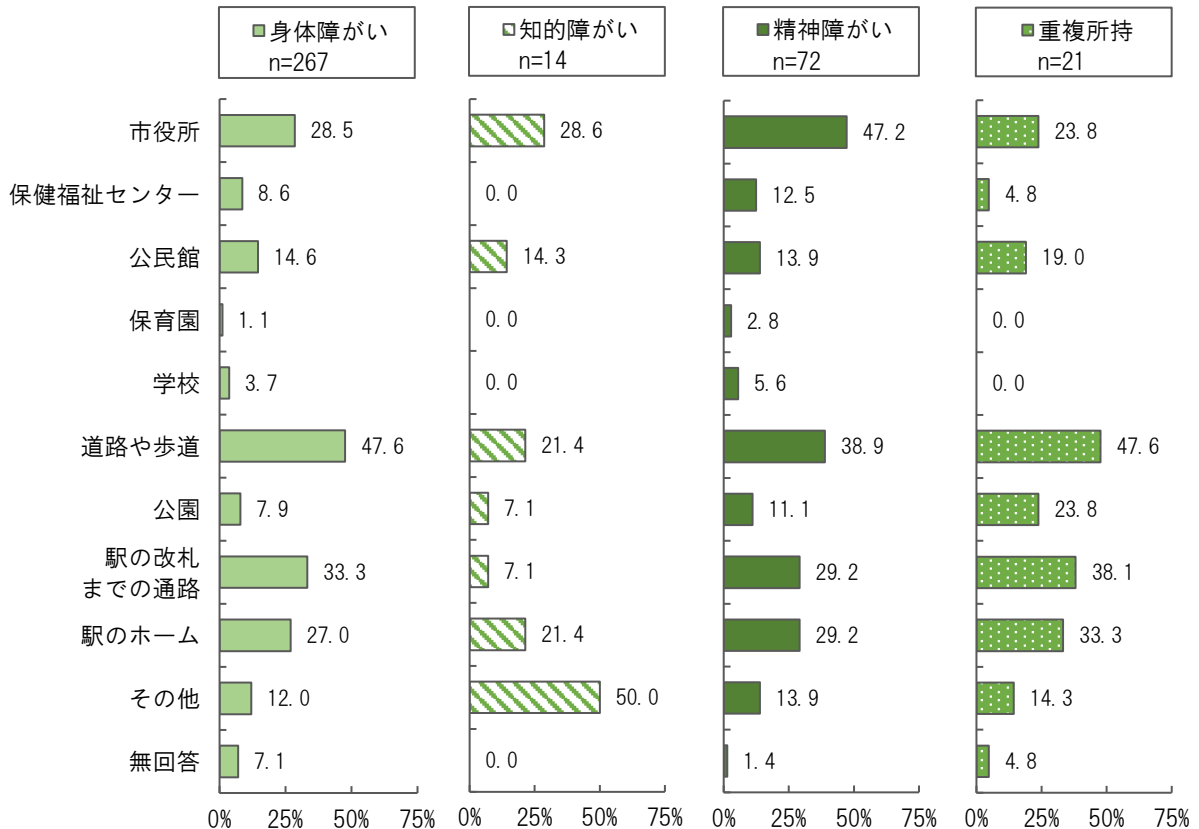
○不便を感じた施設は、「道路や歩道」が44.0%と最も高く、次いで「駅の改札までの通路」が32.9%、「市役所」が32.2%となっています。

○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「道路や歩道」が47.6%、精神障がいでは「市役所」が47.2%と高くなっています。

■ 不便を感じた施設

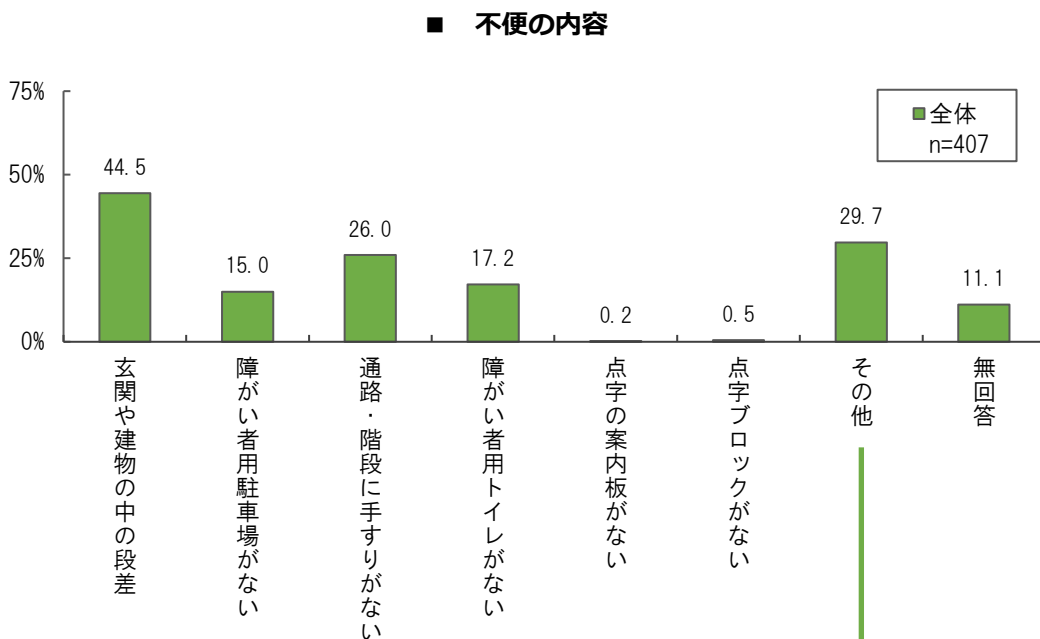


■ 不便を感じた施設【所持手帳種類別】



問35 どのような不便でしたか。(○はいくつでも)

○不便を感じた内容は、「玄関や建物の中の段差」が44.5%と最も高く、次いで「通路・階段に手すりがない」が26.0%となっています。

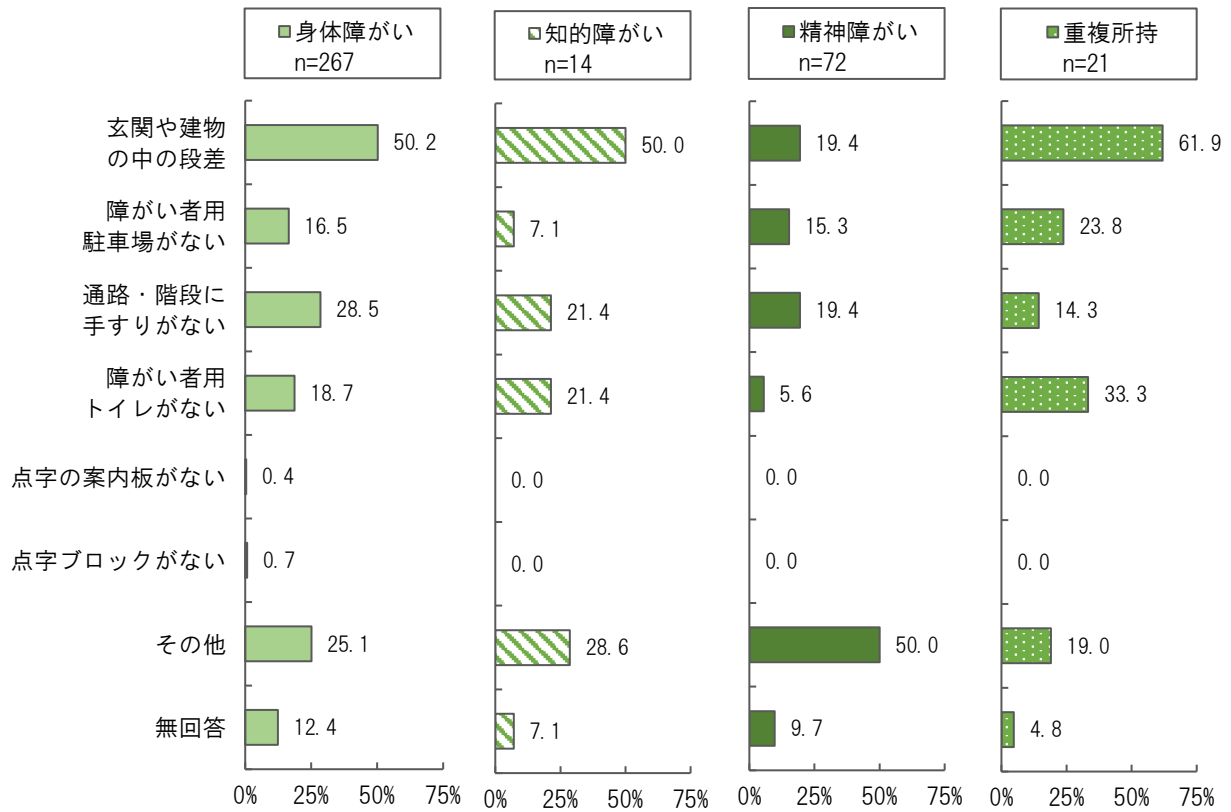


■ その他の主な内容

主なその他の内容 (n=121)	件数 (件)	割合 (%)
公共交通機関がない、時間がかかる	19	15.7
歩道等の整備が不十分 (狭い、急な傾斜など)	14	11.6
案内が不十分、わかりにくい	12	9.9
エレベーターがない、階段が多い	11	9.1
駐車場が少ない、利用できない	11	9.1
トイレの整備が不十分 (洋式がない、汚いなど)	10	8.3

○所持手帳種類別にみると、身体障がい・精神障がいでは「玄関や建物の中の段差」(50.2%・19.4%)、「通路・階段に手すりがない」(28.5%・19.4%)が高くなっています。

■ 不便の内容【所持手帳種類別】



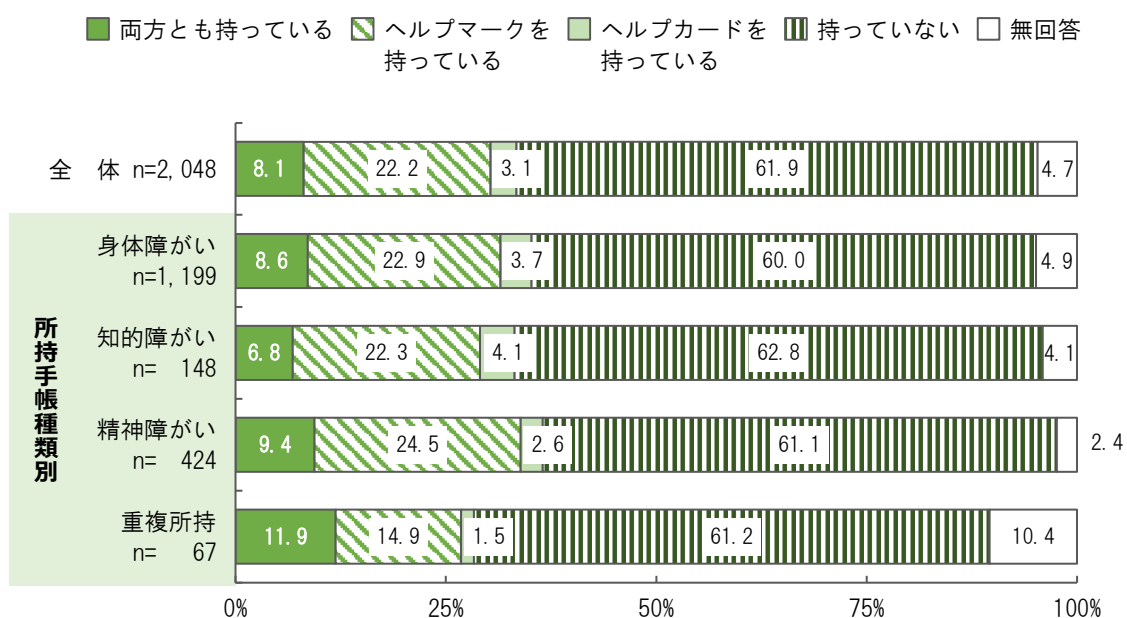
（6）ヘルプマーク・ヘルプカードの所持状況

問36 あなたは、「ヘルプマーク」か「ヘルプカード」を持っていますか。（○は1つ）

○ヘルプマーク・ヘルプカードの所持状況を見ると、「持っていない」が61.9%と最も高く、「両方とも持っている」は8.1%、「ヘルプマークを持っている」は22.2%、「ヘルプカードを持っている」は3.1%となっています。

○所持手帳種類別にみると、「両方とも持っている」は重複所持（11.9%）で最も高く、「ヘルプマークを持っている」は精神障がい（24.5%）、「ヘルプカードを持っている」は知的障がい（4.1%）で最も高くなっています。

■ ヘルプマーク・ヘルプカードの所持状況【所持手帳種類別】

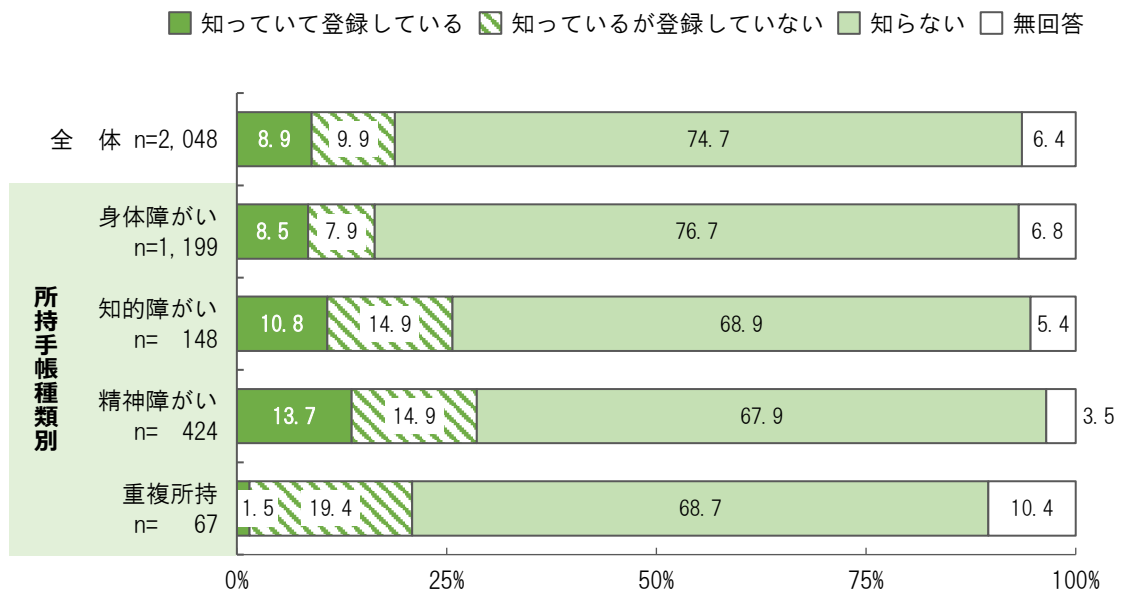


（7）障害者手帳アプリの認知度

問37 あなたは障害者手帳アプリ「ミライロID」を知っていますか。（○は1つ）

- 障害者手帳アプリ「ミライロID」の認知度は、「知らない」が74.7%を占めている一方、「知っているが登録していない」(9.9%)を合わせた『知っている』も18.8%と2割に満たない状況です。
- 所持手帳種類別にみると、『知っている』は身体障がいでは16.4%、知的障がいでは25.7%、精神障がいでは28.6%、重複所持では20.9%となっています。

■ 「ミライロID」の認知度【所持手帳種類別】

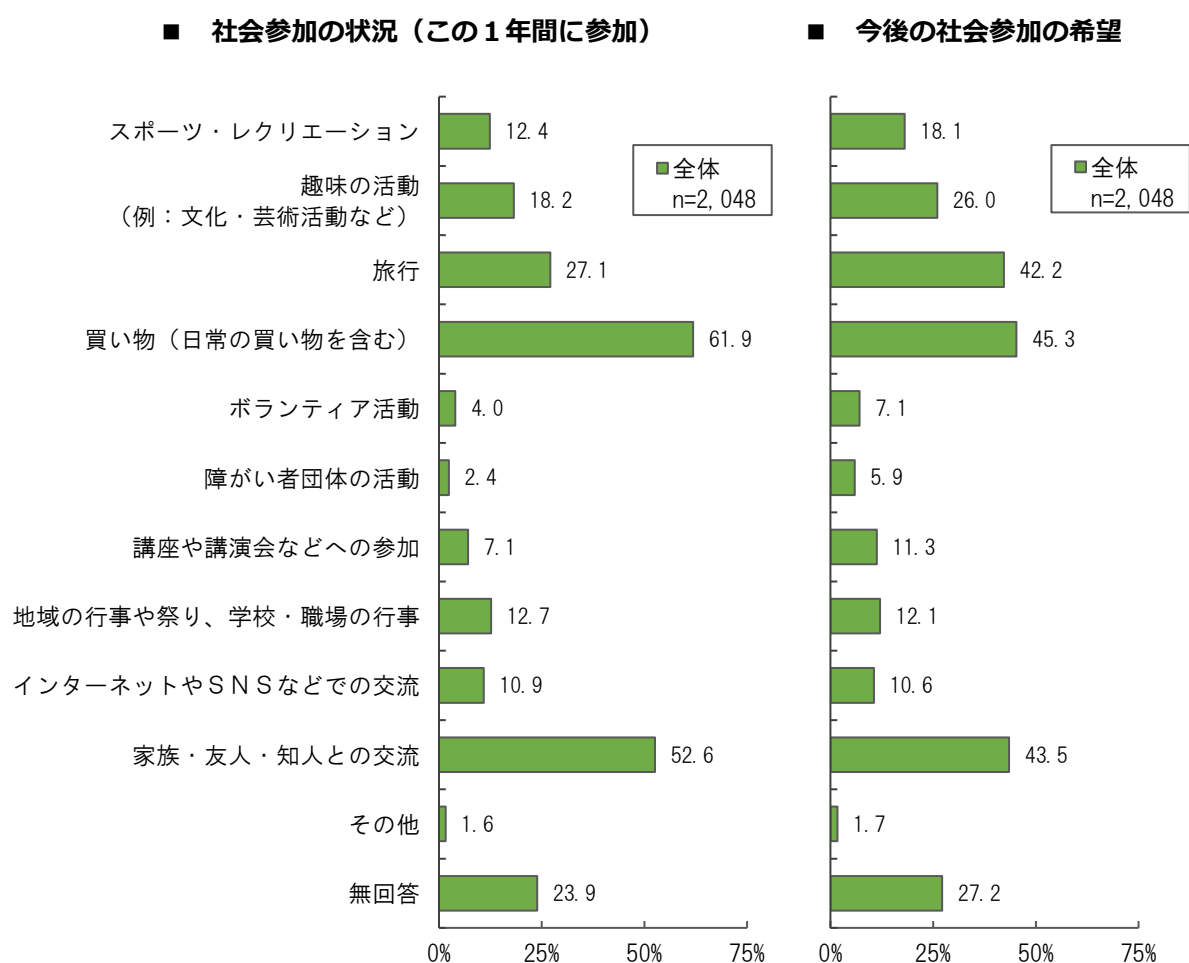


10 社会参加（仕事を除く）について

（1）社会参加の状況と今後の意向

問38 この1年にどのような社会参加をしましたか。また、今後どのような社会参加をしたいと思いますか。（〇はいくつでも）

- この1年間に参加した活動等は、「買い物（日常の買い物を含む）」が61.9%と最も高く、次いで「家族・友人・知人との交流」が52.6%、「旅行」が27.1%となっています。
- 今後参加を希望する活動等は、「買い物（日常の買い物を含む）」が45.3%と最も高く、次いで「家族・友人・知人との交流」が43.5%、「旅行」が42.2%となっています。
- 実際の参加状況と今後の希望を比較すると、「旅行」では15.1ポイント希望が高くなっています。
- 実際の参加状況と今後の希望の差を、参加できていないが参加したいというニーズと捉え、旅行をはじめ、スポーツや趣味など様々な活動に参加しやすい環境づくりが必要と考えられます。



○所持手帳種類別にみると、この1年間に参加した活動等は、いずれも「買い物（日常の買い物を含む）」が最も高くなっています。

○今後参加を希望する活動等は、身体障がいでは「家族・友人・知人との交流」（43.8%）、知的障がい・精神障がいでは「買い物（日常の買い物を含む）」（57.4%・47.4%）、重複所持では「旅行」（50.7%）が最も高くなっています。

■ 社会参加の状況（この1年間に参加）【所持手帳種類別】

単位：%

	身体障がい n=1,199	知的障がい n=148	精神障がい n=424	重複所持 n=67
スポーツ・レクリエーション	11.5	15.5	10.6	13.4
趣味の活動（例：文化・芸術活動など）	16.1	17.6	21.7	20.9
旅行	26.1	29.7	25.5	26.9
買い物（日常の買い物を含む）	58.2	68.2	71.0	55.2
ボランティア活動	3.8	3.4	4.2	3.0
障がい者団体の活動	1.6	10.1	2.8	3.0
講座や講演会などへの参加	7.3	2.0	6.4	1.5
地域の行事や祭り、学校・職場の行事	10.8	20.9	11.8	14.9
インターネットやSNSなどでの交流	7.8	11.5	20.5	6.0
家族・友人・知人との交流	53.3	52.0	53.1	44.8
その他	1.5	2.7	2.4	1.5

※最も高い割合に網掛けをしています。

■ 今後の社会参加の希望【所持手帳種類別】

単位：%

	身体障がい n=1,199	知的障がい n=148	精神障がい n=424	重複所持 n=67
スポーツ・レクリエーション	16.0	20.3	18.9	20.9
趣味の活動（例：文化・芸術活動など）	23.1	17.6	34.7	28.4
旅行	41.3	39.9	40.6	50.7
買い物（日常の買い物を含む）	42.9	57.4	47.4	41.8
ボランティア活動	5.6	6.1	10.4	9.0
障がい者団体の活動	3.8	12.8	9.0	17.9
講座や講演会などへの参加	11.7	4.7	12.3	7.5
地域の行事や祭り、学校・職場の行事	9.8	16.9	14.4	13.4
インターネットやSNSなどでの交流	7.9	13.5	18.6	6.0
家族・友人・知人との交流	43.8	44.6	42.7	37.3
その他	1.4	3.4	2.8	1.5

※最も高い割合に網掛けをしています。

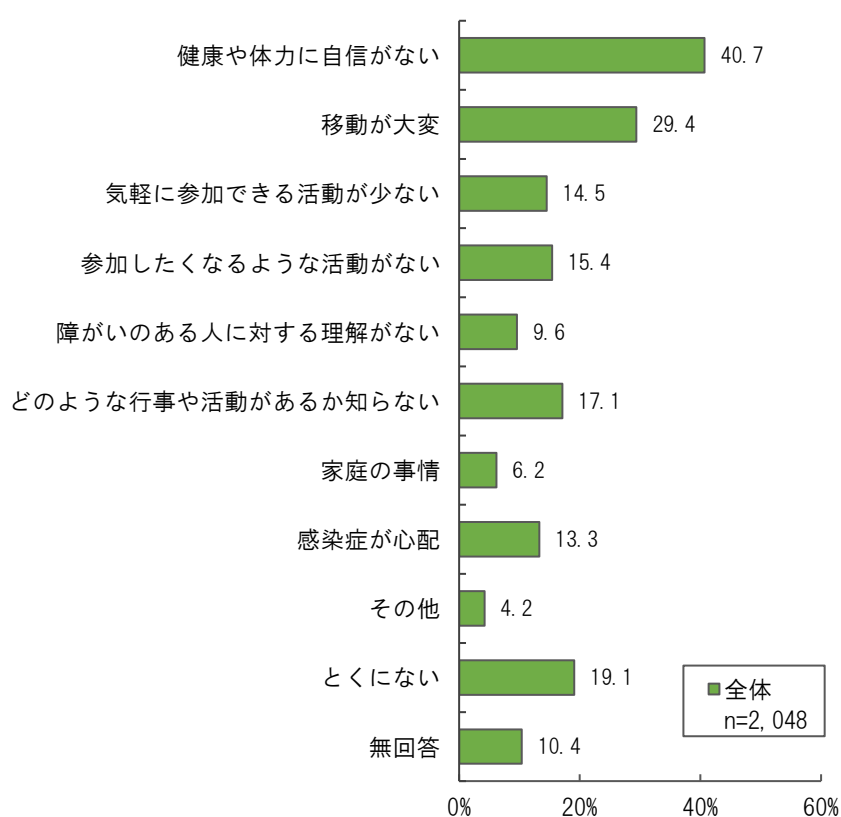
（2）社会参加するうえでの問題

問39 あなたが社会参加する場合、問題となることはありますか。（○はいくつでも）

○社会参加する場合の問題をみると、「健康や体力に自信がない」が40.7%と最も高く、次いで「移動が大変」が29.4%、「どのような行事や活動があるか知らない」が17.1%となっています。

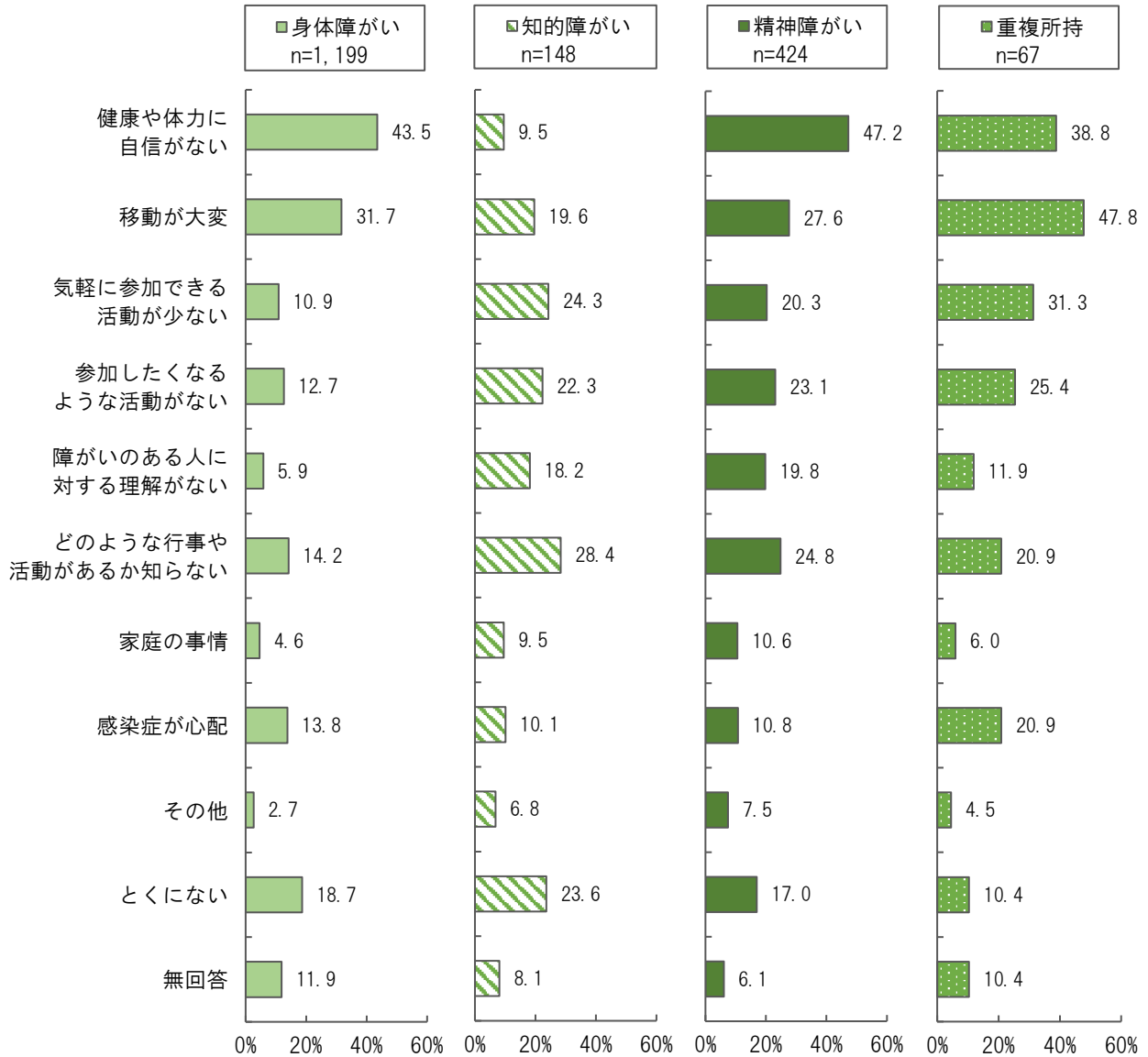
一方、「とくにない」は19.1%となっています。

■ 社会参加するうえでの問題



○所持手帳種類別にみると、身体障がい・精神障がいでは「健康や体力に自信がない」（43.5%・47.2%）、知的障がいでは「どのような行事や活動があるか知らない」（28.4%）、重複所持では「移動が大変」（47.8%）が最も高くなっています。

■ 社会参加するうえでの問題【所持手帳種類別】



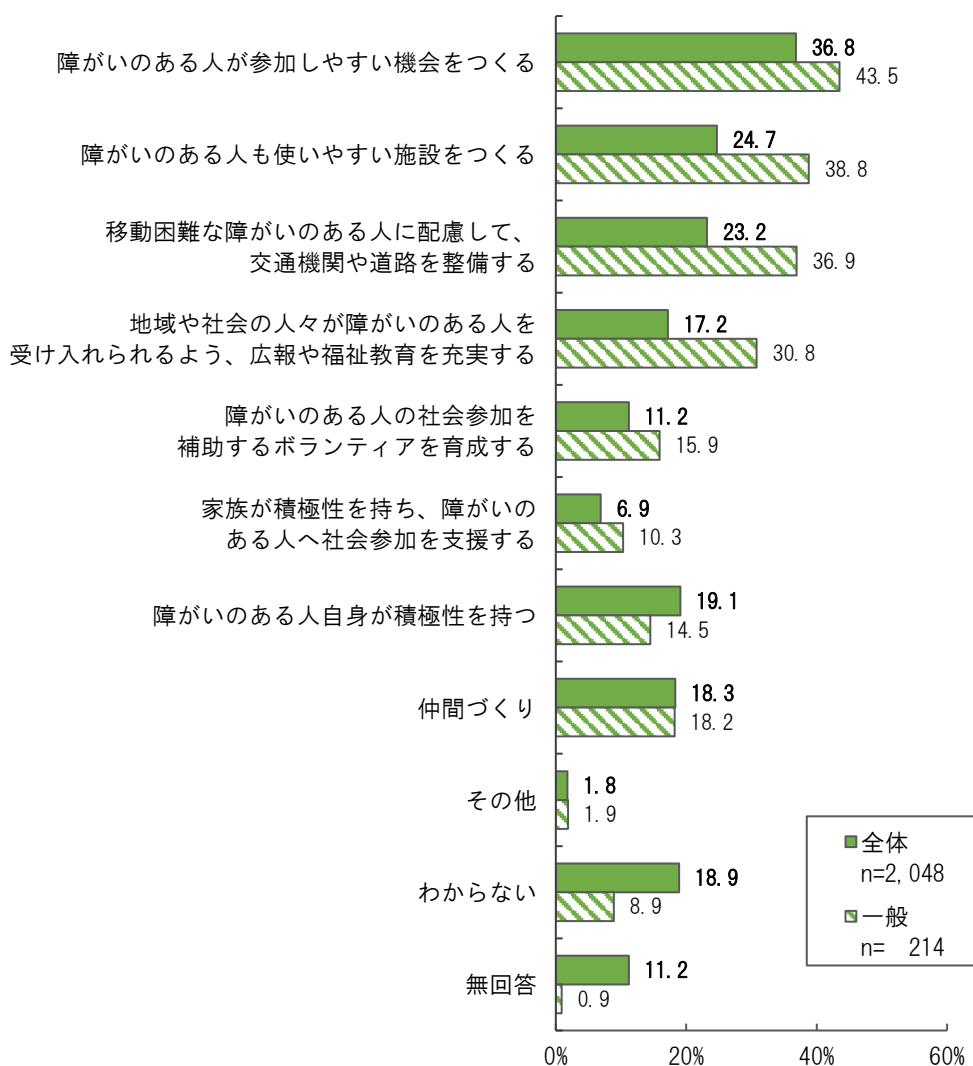
（3）積極的な社会参加に大切なこと

問40 あなたは障がいのある人が地域や社会に積極的に参加できるようにするために、大切なことは何だとお考えですか。（○は3つまで）

○積極的な社会参加に大切なことは、「障がいのある人が参加しやすい機会をつくる」が36.8%と最も高く、次いで「障がいのある人も使いやすい施設をつくる」が24.7%、「移動困難な障がいのある人に配慮して、交通機関や道路を整備する」が23.2%となっています。

○同じ設問を一般市民調査（問13）と比較すると、「障がいのある人自身が積極性を持つ」は一般市民が14.5%に対して、障がい者が19.1%と高く、障がい者自身が積極性を持つべきであるという認識がうかがえます。

■ 積極的な社会参加に大切なこと【一般市民調査比較】



○所持手帳種類別にみると、いずれも「障がいのある人が参加しやすい機会をつくる」が最も高くなっています。

■ 積極的な社会参加に大切なこと【所持手帳種類別】

単位：%

	身体 障がい n=1,199	知的 障がい n=148	精神 障がい n=424	重複 所持 n=67
障がいのある人が参加しやすい機会をつくる	33.4	48.0	38.4	37.3
障がいのある人も使いやすい施設をつくる	24.9	22.3	20.8	31.3
移動困難な障がいのある人に配慮して、交通機関や道路を整備する	25.8	10.1	19.3	28.4
地域や社会の人々が障がいのある人を受け入れられるよう、広報や福祉教育を充実する	13.0	31.1	22.6	16.4
障がいのある人の社会参加を補助するボランティアを育成する	9.1	23.0	10.8	22.4
家族が積極性を持ち、障がいのある人へ社会参加を支援する	5.2	10.8	10.8	11.9
障がいのある人自身が積極性を持つ	21.3	14.2	18.9	10.4
仲間づくり	17.5	26.4	18.9	10.4
その他	1.5	2.0	3.1	0.0
わからない	18.6	17.6	22.2	17.9
無回答	13.4	4.7	6.1	10.4

※最も高い割合に網掛けをしています。

11 地域活動について

（1）近所づきあいの程度

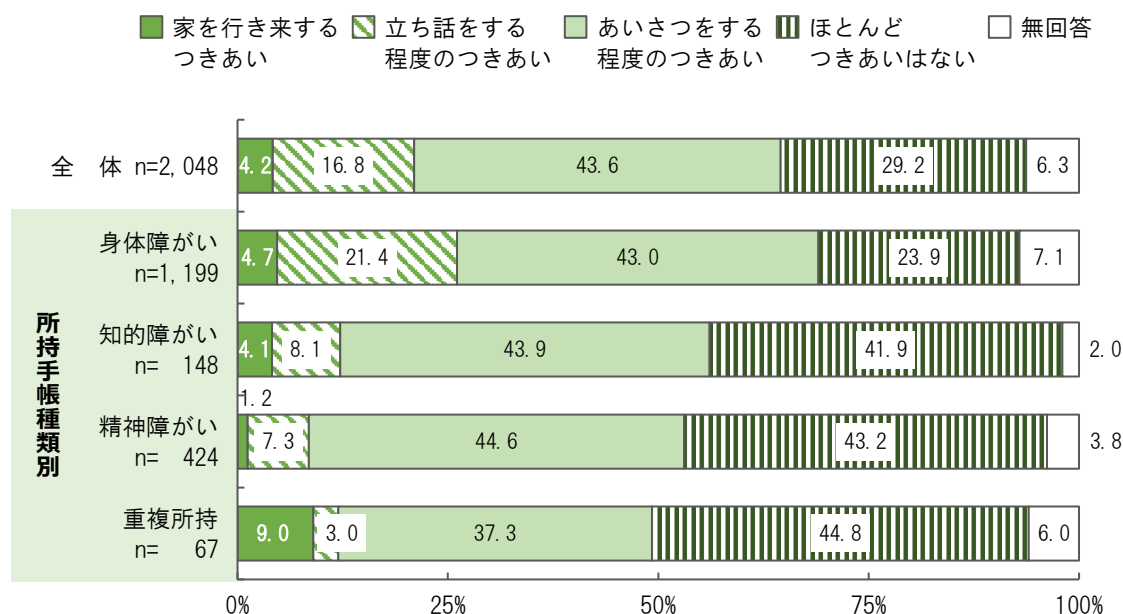
問41 あなたは、ふだん近所の方とどの程度のおつきあいをしていますか。（○は1つ）

○近所づきあいの程度をみると、「あいさつをする程度のつきあい」が43.6%と最も高く、次いで「ほとんどつきあいはない」が29.2%、「立ち話をする程度のつきあい」が16.8%となっています。

○所持手帳種類別にみると、身体障がい・知的障がい・精神障がいでは「あいさつをする程度のつきあい」（43.0%・43.9%・44.6%）、重複所持では「ほとんどつきあいはない」（44.8%）が最も高くなっています。

また、「家を行き来するつきあい」と「立ち話をする程度のつきあい」を合わせた『ある程度のつきあいがある』は、身体障がいでは26.1%、知的障がいでは12.2%、精神障がいでは8.5%、重複所持では12.0%となっています。

■ 近所づきあいの程度【所持手帳種類別】

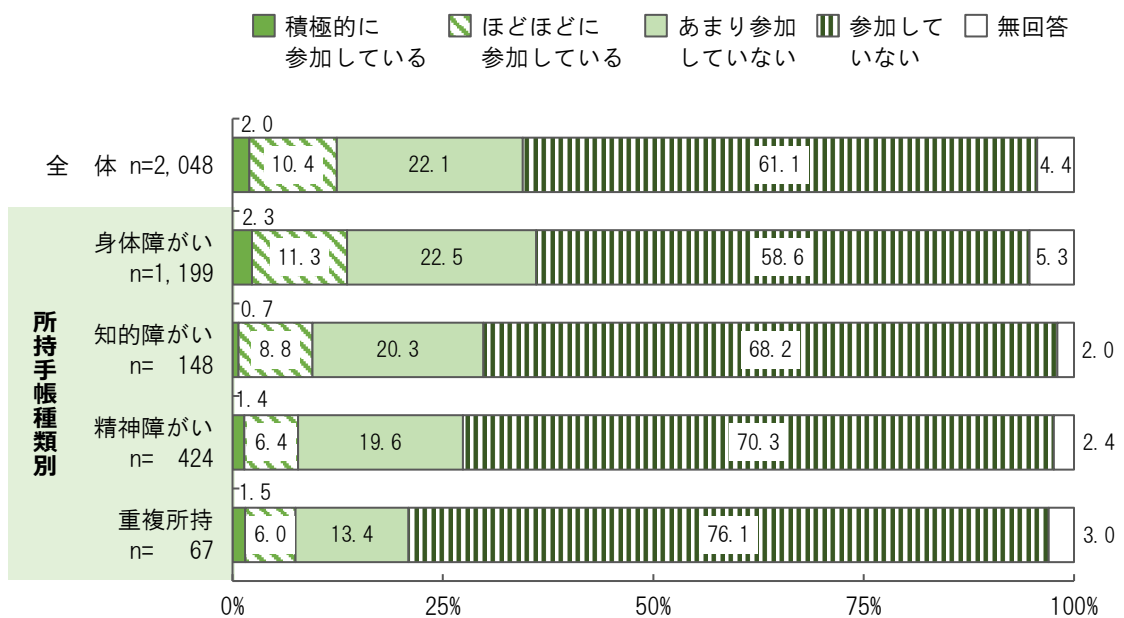


（2）地域活動や行事への参加

問42 あなたは地域の活動や行事にどの程度参加していますか。（○は1つ）

- 地域活動や行事への参加をみると、「参加していない」が61.1%と最も高く、次いで「あまり参加していない」が22.1%、「ほどほどに参加している」が10.4%となっています。
- 所持手帳種類別にみると、いずれも「参加していない」が最も高くなっています。また、「積極的に参加している」と「ほどほどに参加している」を合わせた『参加している』は、身体障がいでは13.6%、知的障がいでは9.5%、精神障がいでは7.8%、重複所持では7.5%となっています。

■ 地域活動や行事への参加程度【所持手帳種類別】



(3) 居住地域の住みやすさ

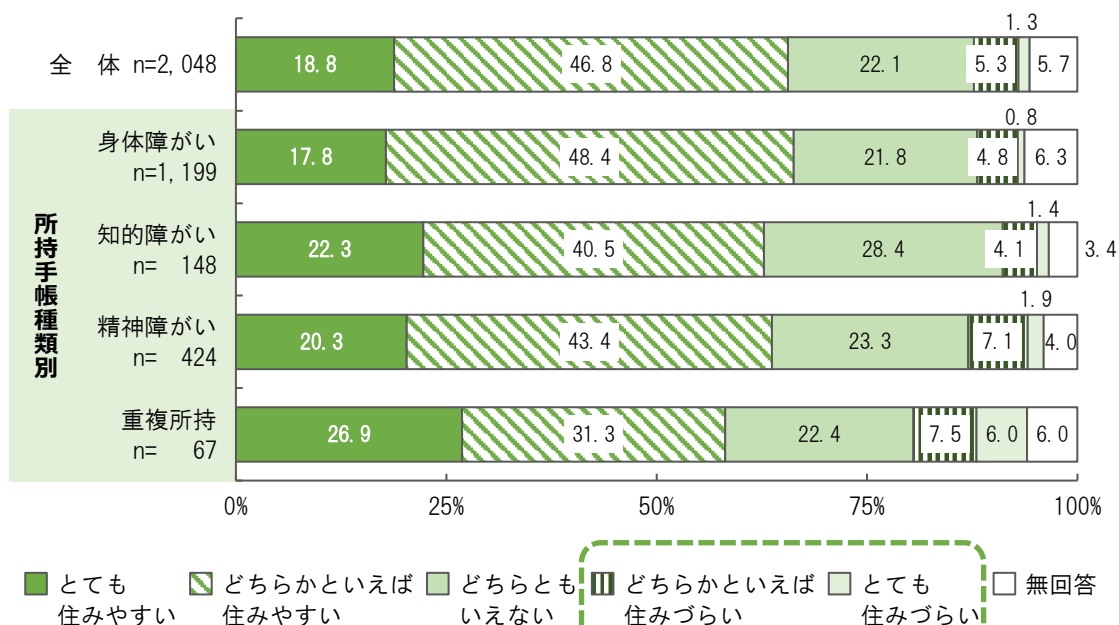
問43 あなたの住んでいる地域（小学校区）は住みやすいと思いますか。（○は1つ）

○居住地域の住みやすさをみると、「どちらかといえば住みやすい」が46.8%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が22.1%となっています。

また、「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい』は65.6%、「どちらかといえば住みづらい」と「とても住みづらい」を合わせた『住みづらい』は6.6%となり、『住みやすい』が大きく上回っています。

○所持手帳種類別にみると、『住みづらい』は身体障がいでは5.6%、知的障がいでは5.5%、精神障がいでは9.0%、重複所持では13.5%となっています。

■ 居住地域の住みやすさ【所持手帳種類別】



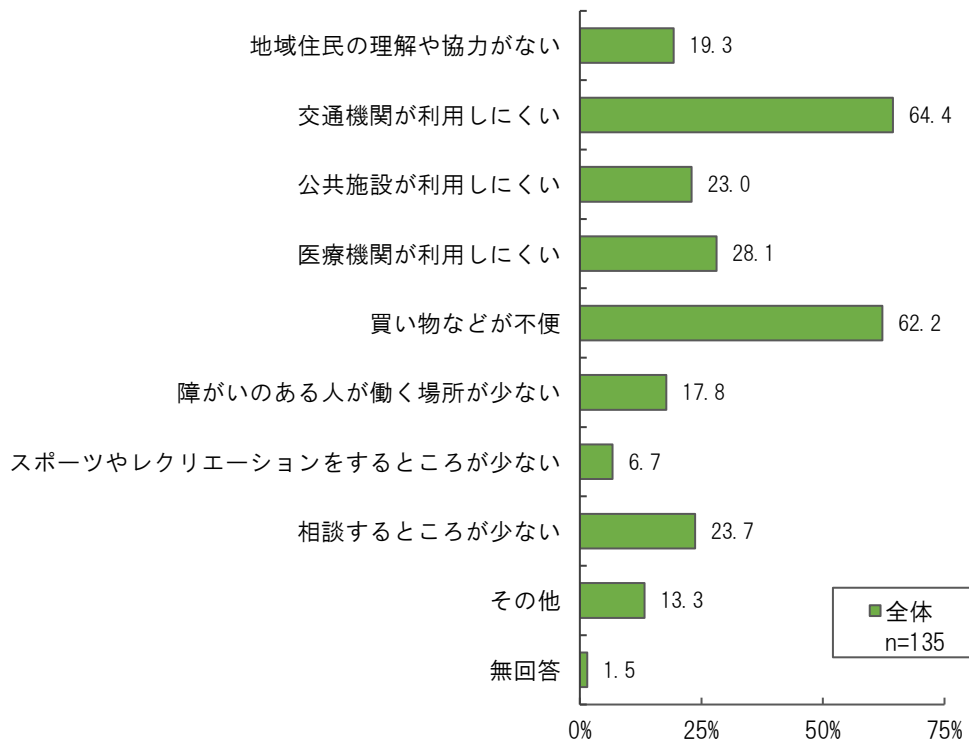
問44へ

問43で「どちらかといえば住みづらい」または「とても住みづらい」と答えた方のみ

問44 住みづらい理由は何ですか。（○はいくつでも）

○住みづらい理由をみると、「交通機関が利用しにくい」が64.4%と最も高く、次いで「買い物などが不便」が62.2%、「医療機関が利用しにくい」が28.1%となっています。

■ 住みづらい理由



- 所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「買い物などが不便」（69.1%）、精神障がいでは「交通機関が利用しにくい」（65.8%）が最も高くなっています。
- 年齢区分別にみると、18～39歳・40～64歳では「交通機関が利用しにくい」（60.0%・68.6%）、65歳以上では「買い物などが不便」（75.0%）が最も高くなっています。

■ 住みづらい理由【所持手帳種類別】

単位：%

	身体障がい n=68	知的障がい n=8	精神障がい n=38	重複所持 n=9
地域住民の理解や協力が無い	13.2	25.0	26.3	44.4
交通機関が利用しにくい	61.8	75.0	65.8	77.8
公共施設が利用しにくい	20.6	37.5	21.1	44.4
医療機関が利用しにくい	26.5	37.5	21.1	77.8
買い物などが不便	69.1	62.5	44.7	77.8
障がいのある人が働く場所が少ない	5.9	25.0	31.6	22.2
スポーツやレクリエーションをするところが少ない	2.9	37.5	5.3	11.1
相談するところが少ない	14.7	37.5	36.8	22.2
その他	13.2	12.5	18.4	0.0
無回答	2.9	0.0	0.0	0.0

※最も高い割合に網掛けをしています。

■ 住みづらい理由【年齢区分別】

単位：%

	18～39歳 n=30	40～64歳 n=35	65歳以上 n=64
地域住民の理解や協力が無い	30.0	28.6	9.4
交通機関が利用しにくい	60.0	68.6	67.2
公共施設が利用しにくい	20.0	34.3	17.2
医療機関が利用しにくい	30.0	34.3	25.0
買い物などが不便	53.3	51.4	75.0
障がいのある人が働く場所が少ない	40.0	28.6	0.0
スポーツやレクリエーションをするところが少ない	10.0	8.6	4.7
相談するところが少ない	43.3	25.7	14.1
その他	13.3	11.4	12.5
無回答	0.0	2.9	1.6

※最も高い割合に網掛けをしています。

12 災害時に困ることについて

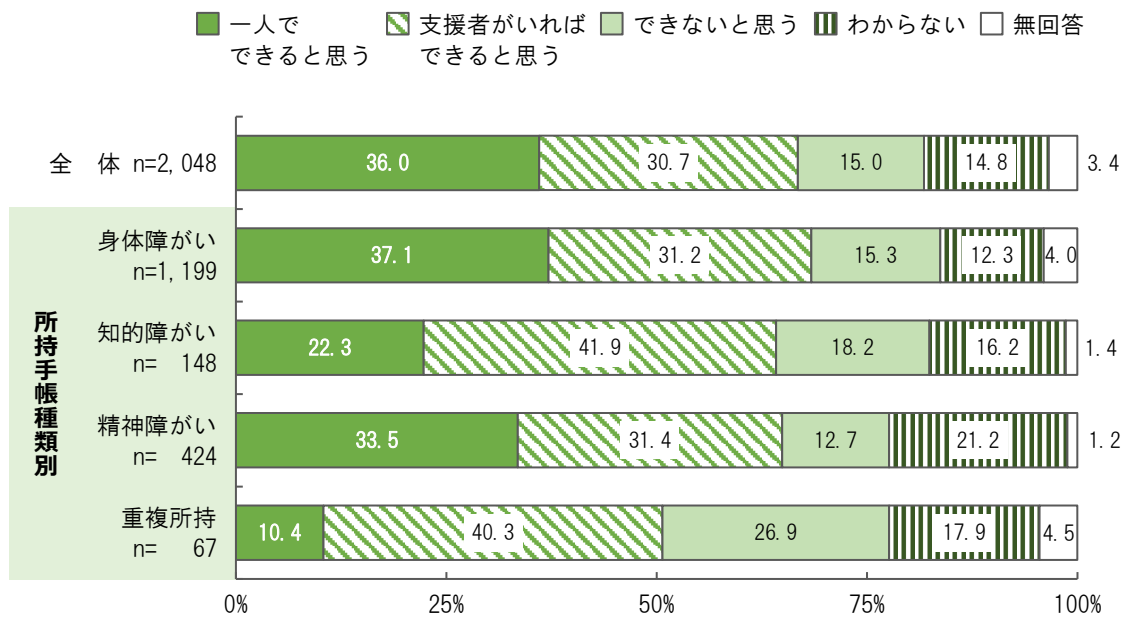
（1）災害時の避難の可否

問45 地震などの災害時に避難できますか。（○は1つ）

○災害時の避難は、「一人でできると思う」が36.0%と最も高く、次いで「支援者がいればできると思う」が30.7%となっている一方、「できないと思う」は15.0%となっています。

○所持手帳種類別にみると、身体障がい・精神障がいでは「一人でできると思う」（37.1%・33.5%）、知的障がい・重複所持では「支援者がいればできると思う」（41.9%・40.3%）が最も高くなっています。

■ 災害時の避難の可否【所持手帳種類別】

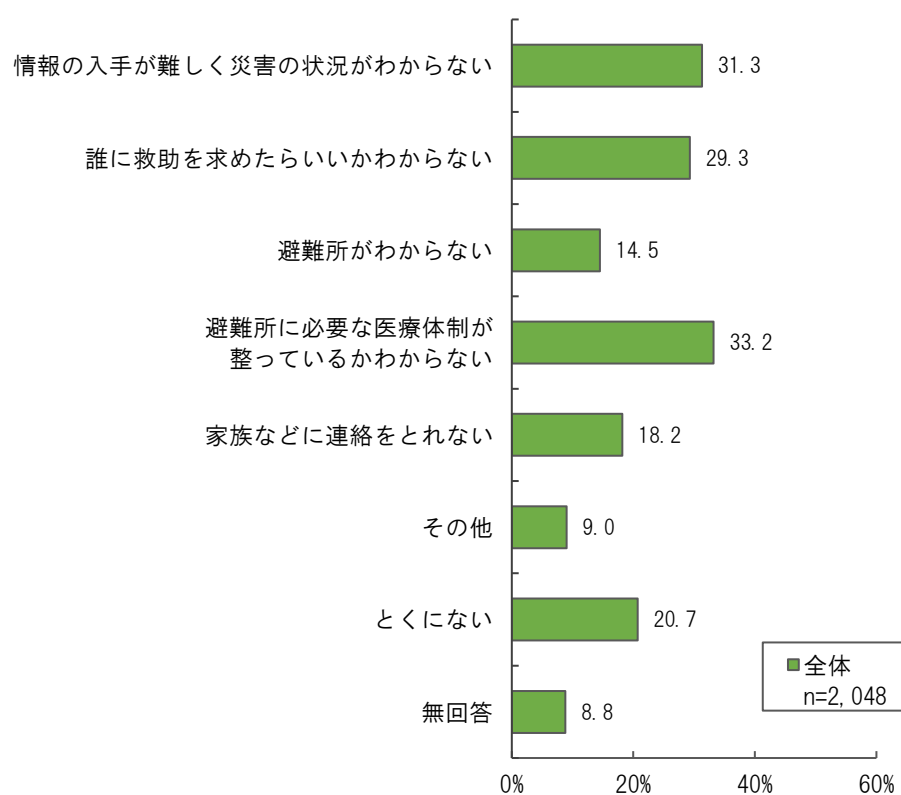


（2）災害時に困ることや不安なこと

問46 地震などの災害時にすぐに困ることや不安に思うことは何ですか。
（○はいくつでも）

○災害時に困ることや不安なことは、「避難所に必要な医療体制が整っているかわからない」が33.2%と最も高く、次いで「情報の入手が難しく災害の状況がわからない」が31.3%、「誰に救助を求めたらいいかわからない」が29.3%となっています。

■ 災害時に困ることや不安なこと



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「避難所に必要な医療体制が整っているかわからない」が33.5%と最も高く、次いで「情報の入手が難しく災害の状況がわからない」が29.2%、「誰に救助を求めたらいいかわからない」が27.3%となっています。

知的障がいでは「情報の入手が難しく災害の状況がわからない」が47.3%と最も高く、次いで「誰に救助を求めたらいいかわからない」が45.3%、「家族などに連絡をとれない」が36.5%となっています。

精神障がいでは「誰に救助を求めたらいいかわからない」が34.9%と最も高く、次いで「避難所に必要な医療体制が整っているかわからない」が34.7%、「情報の入手が難しく災害の状況がわからない」が32.3%となっています。

重複所持では「避難所に必要な医療体制が整っているかわからない」が38.8%と最も高く、次いで「情報の入手が難しく災害の状況がわからない」が31.3%、「誰に救助を求めたらいいかわからない」が25.4%となっています。

■ 災害時に困ることや不安なこと【所持手帳種類別】

単位：%

	身体障がい n=1,199	知的障がい n=148	精神障がい n=424	重複所持 n=67
情報の入手が難しく災害の状況がわからない	29.2	47.3	32.3	31.3
誰に救助を求めたらいいかわからない	27.3	45.3	34.9	25.4
避難所がわからない	10.8	29.1	20.8	19.4
避難所に必要な医療体制が整っているかわからない	33.5	25.7	34.7	38.8
家族などに連絡をとれない	14.0	36.5	24.8	17.9
その他	7.6	10.8	12.0	11.9
とくにない	22.1	16.2	17.5	16.4
無回答	10.3	6.1	4.2	11.9

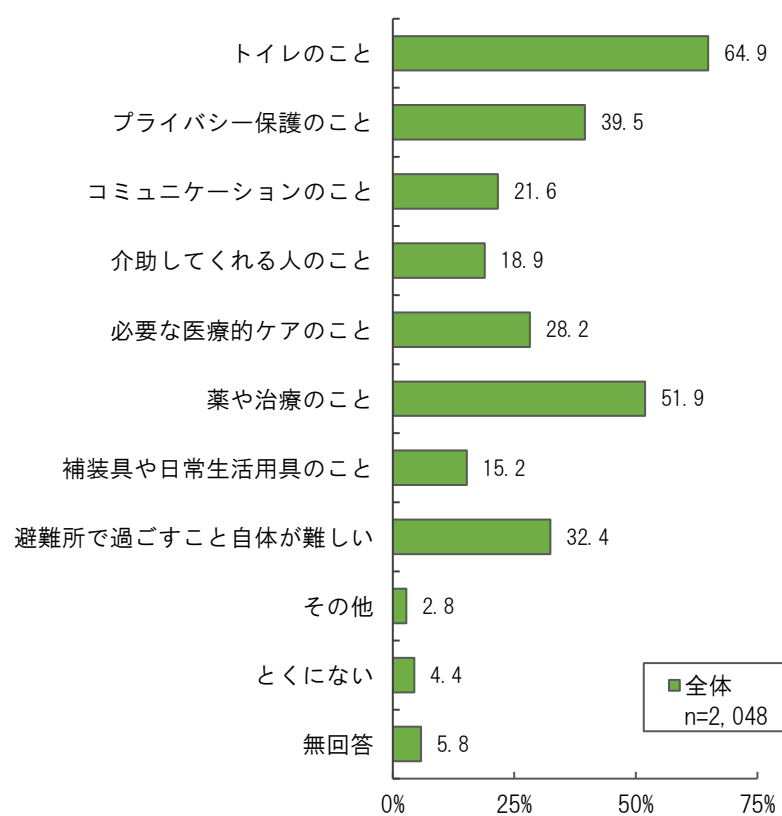
※最も高い割合に網掛けをしています。

（3）災害時に避難所で困ること

問47 災害時に、避難所等で困ると思われることは何ですか。（○はいくつでも）

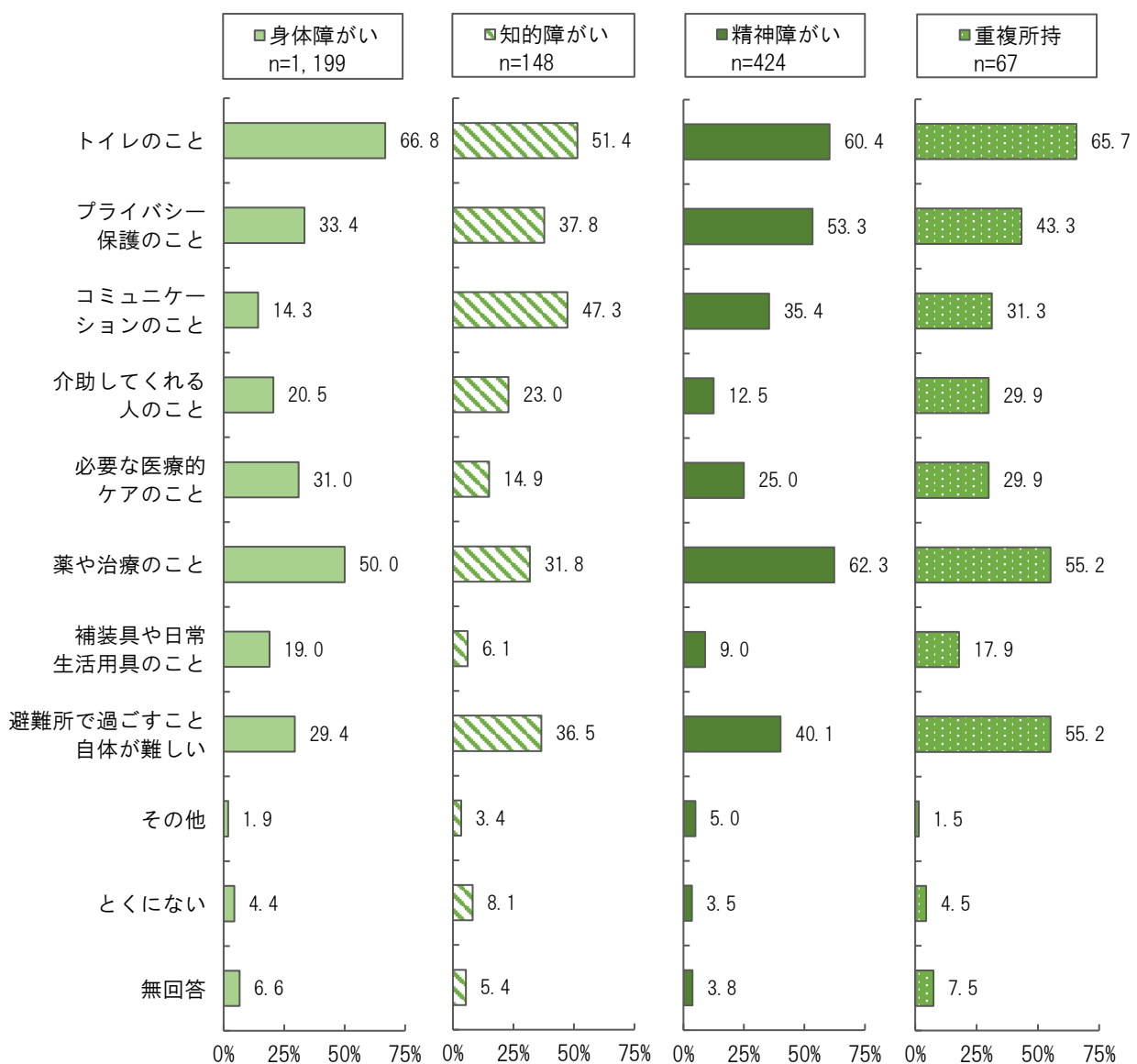
○災害時に避難所で困ることは、「トイレのこと」が64.9%と最も高く、次いで「薬や治療のこと」が51.9%、「プライバシー保護のこと」が39.5%となっています。

■ 災害時に避難所で困ること



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「トイレのこと」が66.8%と最も高く、次いで「薬や治療のこと」が50.0%、「プライバシー保護のこと」が33.4%となっています。知的障がいでは「トイレのこと」が51.4%と最も高く、次いで「コミュニケーションのこと」が47.3%、「プライバシー保護のこと」が37.8%となっています。精神障がいでは「薬や治療のこと」が62.3%と最も高く、次いで「トイレのこと」が60.4%、「プライバシー保護のこと」が53.3%となっています。重複所持では「トイレのこと」が65.7%と最も高く、次いで「薬や治療のこと」「避難所で過ごすこと自体が難しい」が各55.2%、「プライバシー保護のこと」が43.3%となっています。

■ 災害時に避難所で困ること【所持手帳種類別】



13 相談などについて

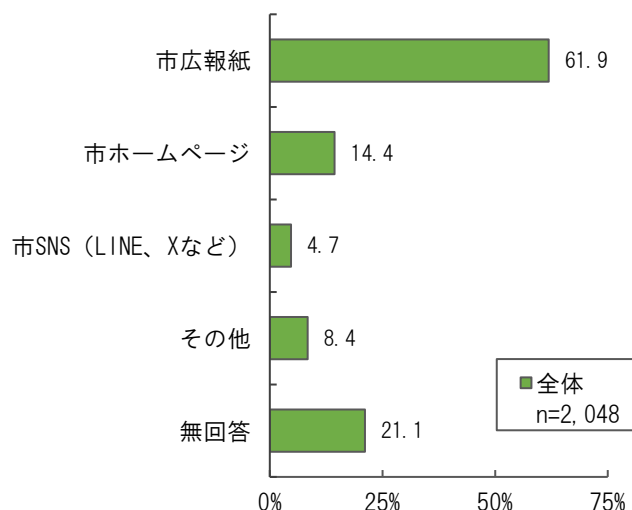
（1）障がいに関する情報の取得方法

問48 市の広報の中で、障がいや発達障がいなどに関する情報（相談や支援、イベントなど）をどのように取得していますか。（○はいくつでも）

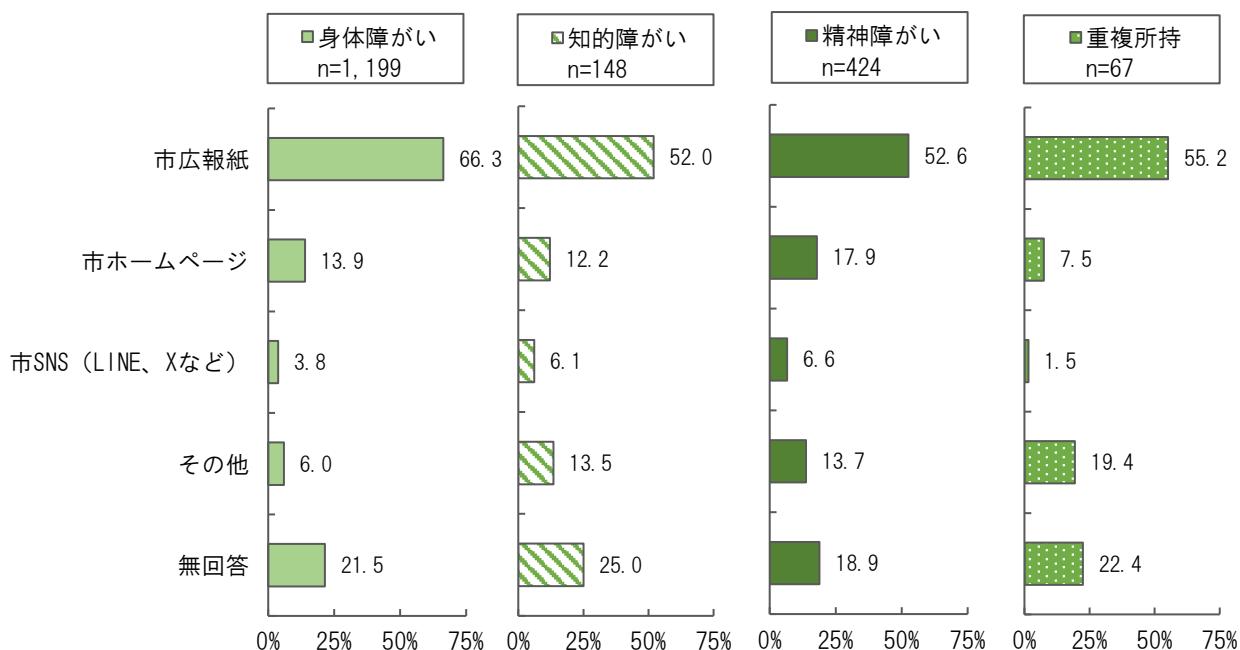
○障がいに関する情報の取得方法は、「市広報紙」が61.9%と最も高く、次いで「市ホームページ」が14.4%、「市SNS（LINE、Xなど）」が4.7%となっています。

○所持手帳種類別にみると、いずれも「市広報紙」が最も高くなっています。

■ 障がいに関する情報の取得方法



■ 障がいに関する情報の取得方法【所持手帳種類別】

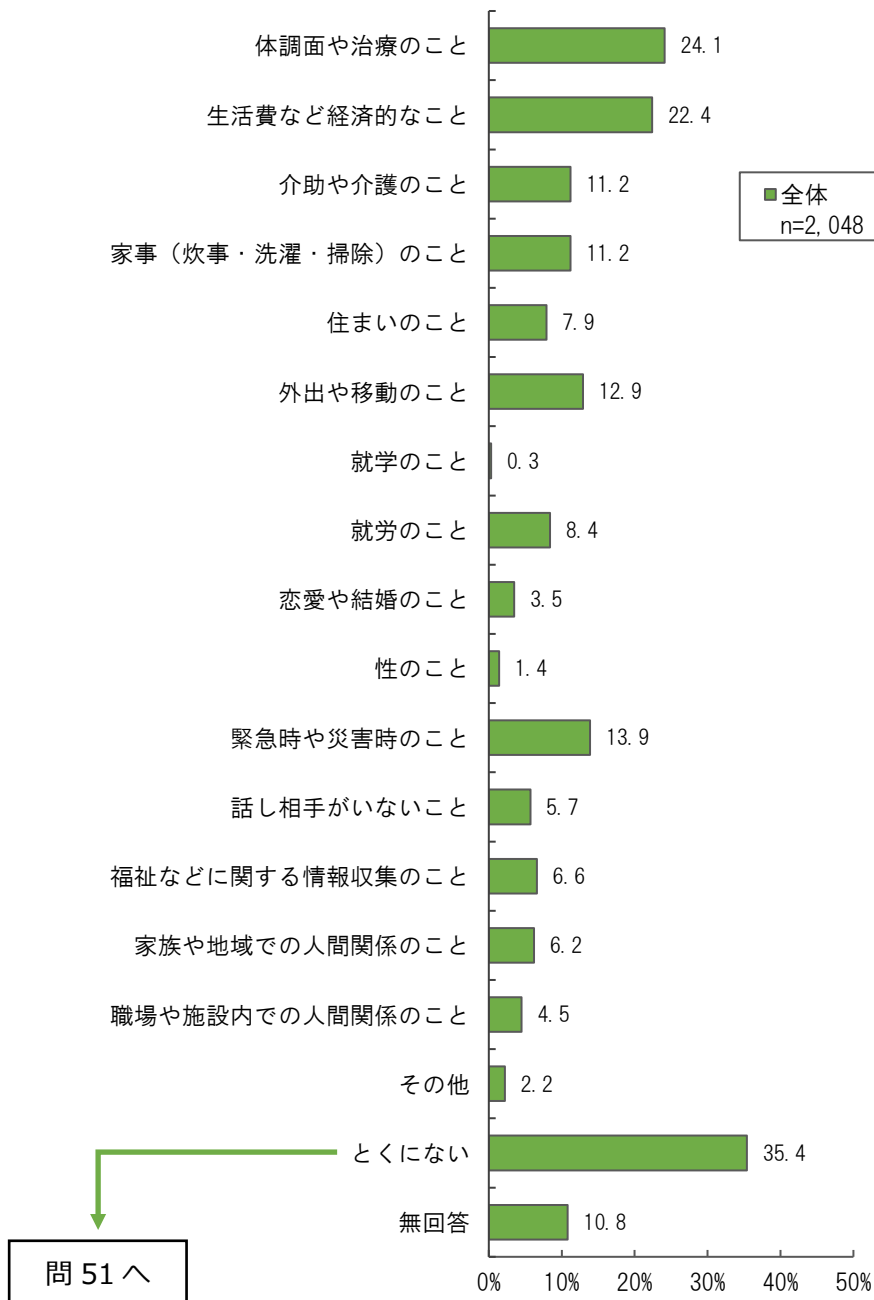


（2）悩みや相談したいこと

問49 現在、悩んでいることや相談したいことがありますか。（○はいくつでも）

○現在の悩みや相談したいことは、「とくにない」が35.4%と最も高いものの、「体調面や治療のこと」（24.1%）、「生活費など経済的なこと」（22.4%）は2割以上が悩みごとや相談したいこととしてあげています。

■ 悩みや相談したいこと



○所持手帳種類別にみると、身体障がい・知的障がい・重複所持では「とくにない」（38.9%・33.1%・32.8%）が最も高く、精神障がいでは「生活費など経済的なこと」（46.9%）が最も高くなっています。

■ 悩みや相談したいこと【所持手帳種類別】

単位：%

	身体障がい n=1,199	知的障がい n=148	精神障がい n=424	重複所持 n=67
体調面や治療のこと	21.5	14.2	37.3	23.9
生活費など経済的なこと	15.0	16.2	46.9	23.9
介助や介護のこと	13.3	9.5	6.6	20.9
家事（炊事・洗濯・掃除）のこと	8.0	12.8	21.9	16.4
住まいのこと	5.8	8.8	14.4	11.9
外出や移動のこと	13.3	12.2	13.9	16.4
就学のこと	0.0	0.7	1.2	0.0
就労のこと	3.4	7.4	25.5	10.4
恋愛や結婚のこと	1.4	6.8	8.3	6.0
性のこと	0.8	1.4	3.3	1.5
緊急時や災害時のこと	13.3	16.9	15.1	17.9
話し相手がないこと	3.7	9.5	10.6	9.0
福祉などに関する情報収集のこと	5.7	5.4	10.4	7.5
家族や地域での人間関係のこと	3.3	7.4	12.7	9.0
職場や施設内での人間関係のこと	1.3	11.5	11.6	9.0
その他	1.8	3.4	3.3	3.0
とくにない	38.9	33.1	21.7	32.8
無回答	12.6	12.2	5.7	11.9

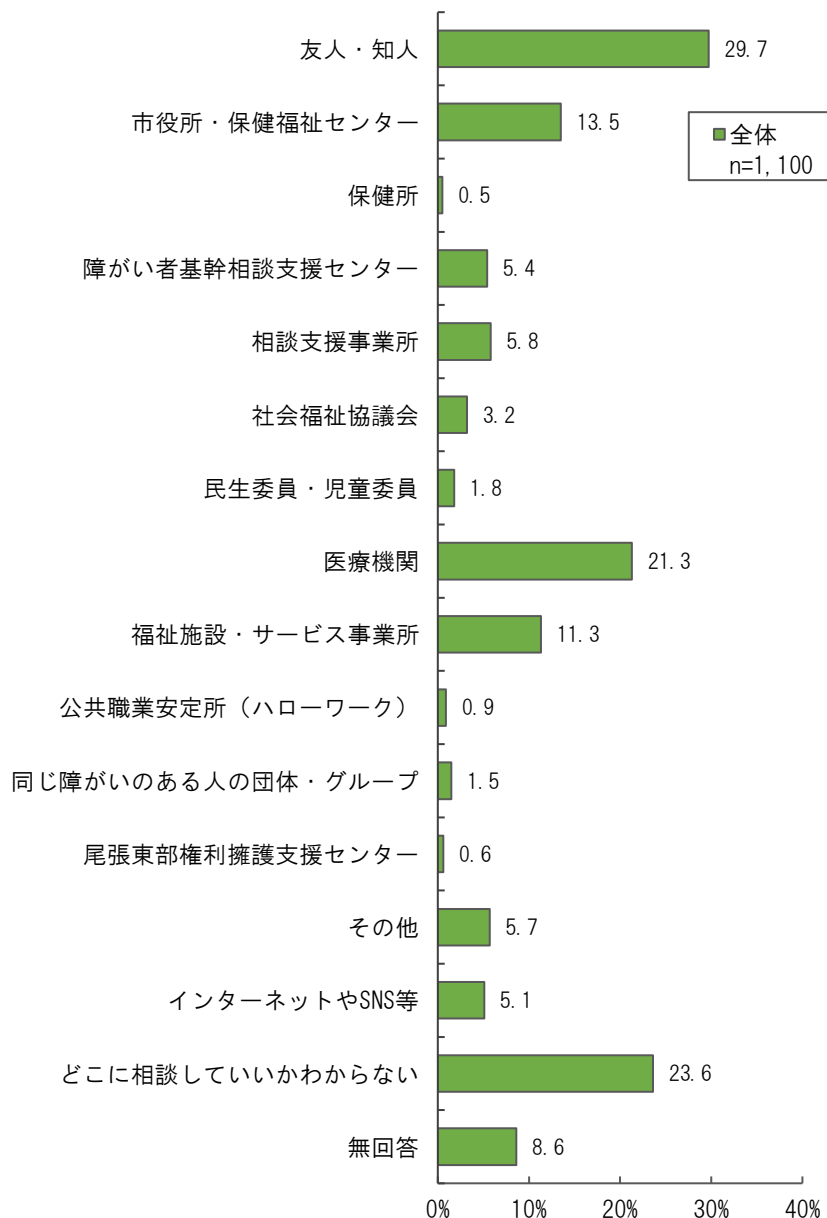
※最も高い割合に網掛けをしています。

（3）悩みの相談先

問50 悩んでいることを、家族以外でどこに相談していますか。（○はいくつでも）

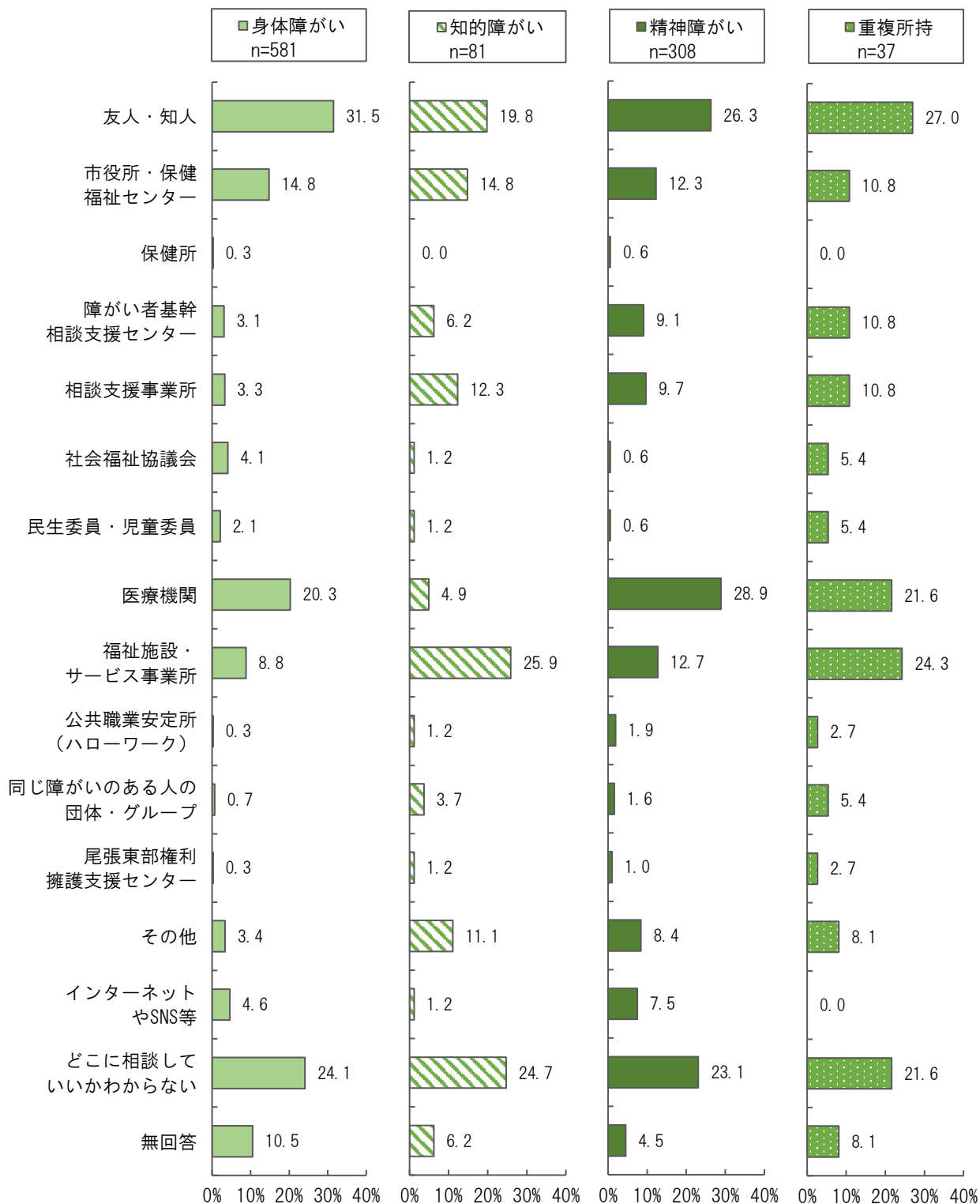
- 家族以外の悩みの相談先をみると、「友人・知人」（29.7%）、「医療機関」（21.3%）、「市役所・保健福祉センター」（13.5%）、「福祉施設・サービス事業所」（11.3%）が上位となっている一方、「どこに相談していいかわからない」は23.6%となっています。
- 「どこに相談していいかわからない」が全体の約4分の1を占めていることから、潜在的な相談のニーズがうかがえます。こうした結果を踏まえて、気軽に相談できる場所や人の周知が必要と考えられます。

■ 悩みの相談先（家族以外）



○所持手帳種類別にみると、身体障がい・重複所持では「友人・知人」（31.5%・27.0%）、知的障がいでは「福祉施設・サービス事業所」（25.9%）、精神障がいでは「医療機関」（28.9%）が最も高くなっています。

■ 悩みの相談先（家族以外）【所持手帳種類別】



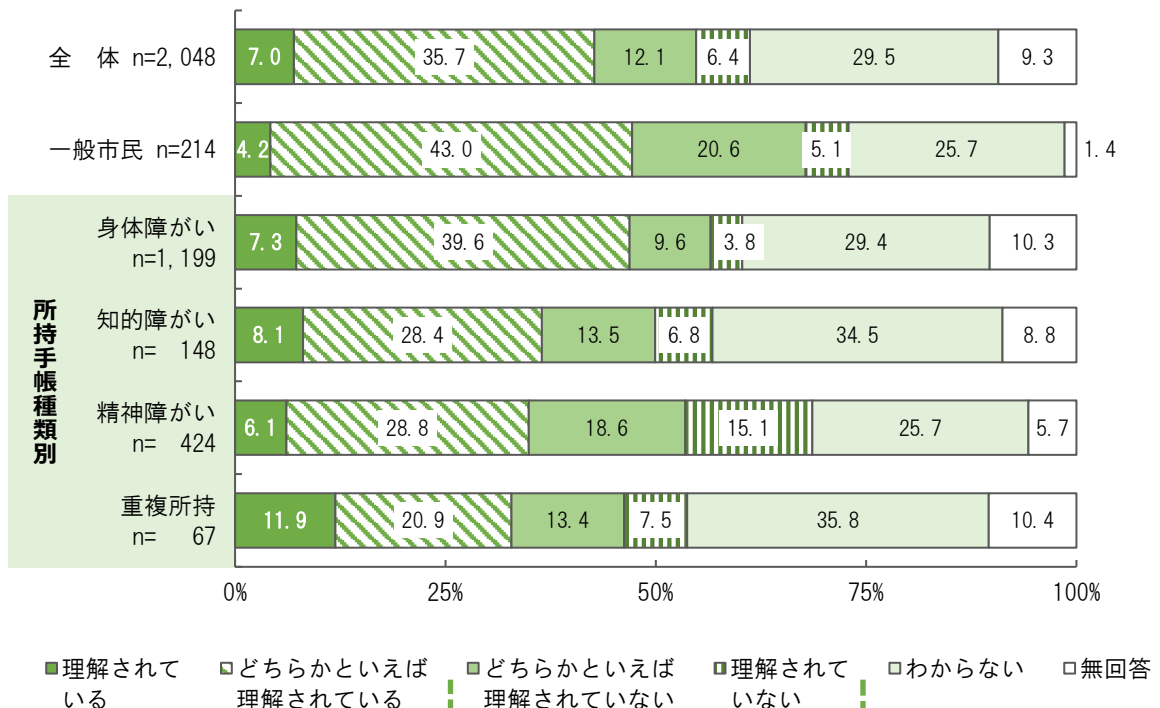
14 権利擁護について

（1）障がいのある人に対する社会の理解

問51 あなたは日常生活の中で、障がいのある人に対する社会の理解についてどう感じますか。（○は1つ）

- 障がいのある人に対する社会の理解は、「どちらかといえば理解されている」が35.7%と最も高く、次いで「わからない」が29.5%となっています。
- 一方、『理解されていない』（「どちらかといえば理解されていない」+「理解されていない」）と感じている方は18.5%となっています。
- 所持手帳種類別にみると、『理解されていない』は身体障がいでは13.4%、知的障がいでは20.3%、精神障がいでは33.7%、重複所持では20.9%となっており、精神障がいで高くなっています。
- 同じ設問を一般市民調査（問7）と比較すると、『理解されていない』は障がい者の18.5%に対して一般市民は25.7%と高く、一般市民の方が障がい者に対する社会の理解がないという認識を持っていることが分かりました。

■ 障がいのある人に対する社会の理解【一般市民調査比較・所持手帳種類別】



問 51 - 1 へ

問51で「どちらかといえば理解されていない」「理解されていない」と答えた方のみ

問51-1 あなたは日常生活の中で、障がいのある人が理解されていないと感じることは何ですか。（自由回答）

○障がいのある人が理解されていないと感じることは、「見た目（精神障がいや内部障がい等）では分からない障がい者への配慮不足」が45件（14.2%）と最も多く、次いで「障がいの具体的な内容、困難さが理解されていない」が30件（9.5%）となっています。

■ 障がいのある人が理解されていないと感じることの自由回答の分類

自由回答の分類 (n=379)	件数 (件)	割合 (%)
障がいの具体的な内容、困難さが理解されていない	68	17.9
差別・偏見・嫌な思いをする	44	11.6
見た目では分からない障がい者（精神障がいや内部障がい等）への配慮不足	39	10.3
無知・無関心、見て見ぬふりをされる	33	8.7
公共マナー・モラルの欠如	17	4.5
支援・サービスの不足	14	3.7
就労に関する困難、職場などの配慮不足	13	3.4
周囲の反応が気になる（気兼ねする）	8	2.1
バリアフリー等の整備不足	4	1.1
その他	27	7.1
無回答	112	29.6

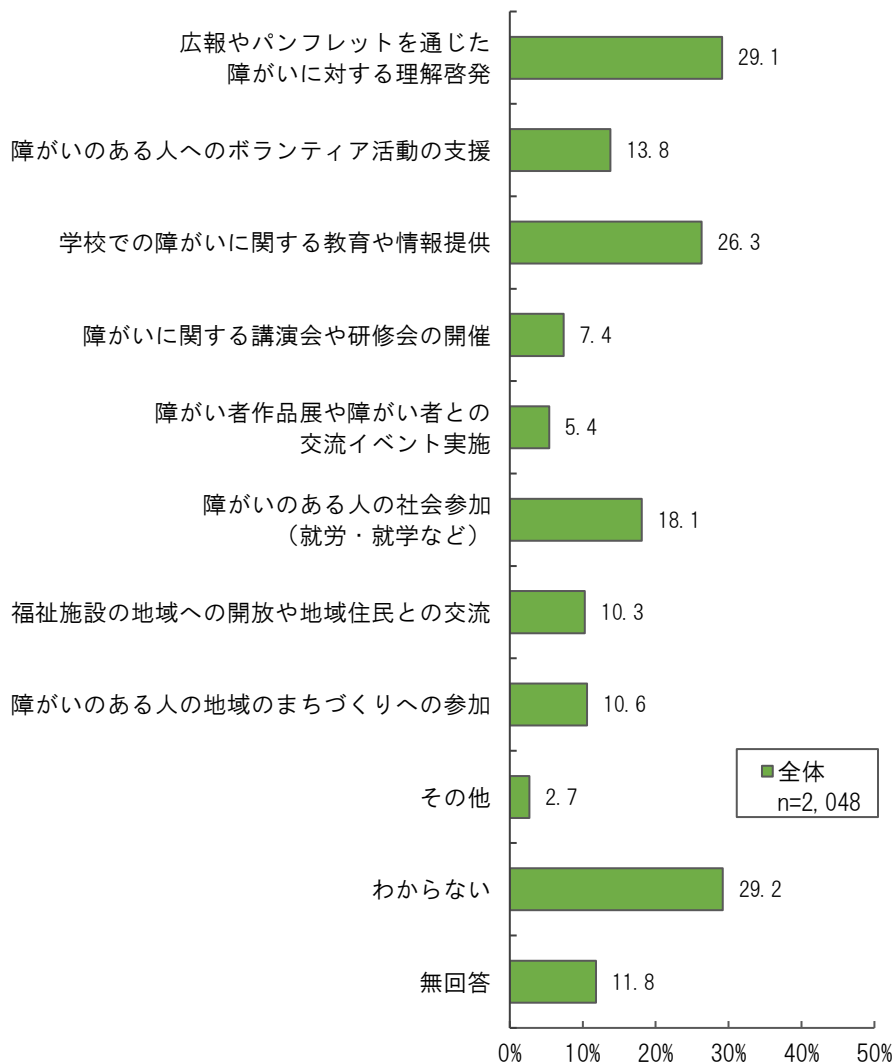
（2）市民理解を深めるために必要なこと

問52 障がいのある人に対する市民の理解を深めるために、必要だと思うことは何ですか。（○は3つまで）

○障がいのある人に対する市民理解を深めるために必要なことは、「広報やパンフレットを通じた障がいに対する理解啓発」（29.1%）、「学校での障がいに関する教育や情報提供」（26.3%）、「障がいのある人の社会参加（就労・就学など）」（18.1%）が上位となっています。

一方、「わからない」が29.2%と最も高くなっています。

■ 市民理解を深めるために必要なこと



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「広報やパンフレットを通じた障がいに対する理解啓発」が29.5%と最も高く、次いで「わからない」（29.4%）、「学校での障がいに関する教育や情報提供」（23.4%）となっています。

知的障がいでは「わからない」が33.1%と最も高く、次いで「学校での障がいに関する教育や情報提供」（28.4%）、「広報やパンフレットを通じた障がいに対する理解啓発」（20.9%）となっています。

精神障がいでは「学校での障がいに関する教育や情報提供」「わからない」が各31.8%と最も高く、次いで「広報やパンフレットを通じた障がいに対する理解啓発」（28.3%）、「障がいのある人の社会参加（就労・就学など）」（25.7%）となっています。

重複所持では「わからない」が31.3%と最も高く、次いで「広報やパンフレットを通じた障がいに対する理解啓発」（20.9%）、「学校での障がいに関する教育や情報提供」「福祉施設の地域への開放や地域住民との交流」（各19.4%）となっています。

■ 市民理解を深めるために必要なこと【所持手帳種類別】

単位：%

	身体障がい n=1,199	知的障がい n=148	精神障がい n=424	重複所持 n=67
広報やパンフレットを通じた障がいに対する理解啓発	29.5	20.9	28.3	20.9
障がいのある人へのボランティア活動の支援	13.8	17.6	10.4	16.4
学校での障がいに関する教育や情報提供	23.4	28.4	31.8	19.4
障がいに関する講演会や研修会の開催	6.2	2.7	11.8	9.0
障がい者作品展や障がい者との交流イベント実施	4.0	8.1	6.1	10.4
障がいのある人の社会参加（就労・就学など）	15.1	17.6	25.7	9.0
福祉施設の地域への開放や地域住民との交流	9.7	16.9	7.5	19.4
障がいのある人の地域のまちづくりへの参加	8.8	10.8	13.4	13.4
その他	1.8	3.4	5.0	3.0
わからない	29.4	33.1	31.8	31.3
無回答	14.0	10.8	5.7	14.9

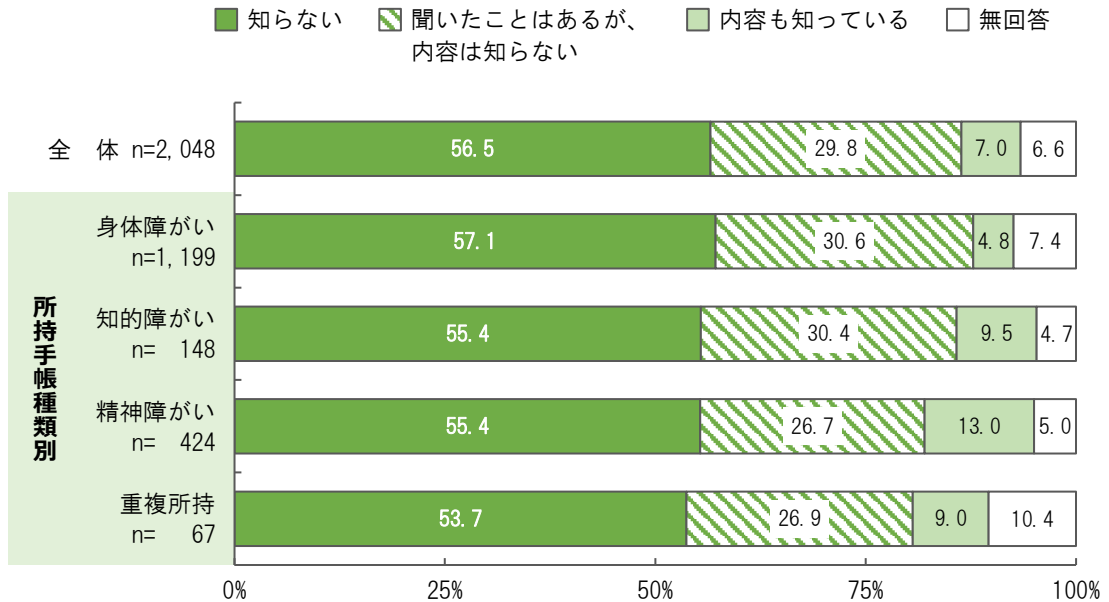
※最も高い割合に網掛けをしています。

（3）日常生活自立支援事業の認知度

問53 日常生活自立支援事業を知っていますか。（○は1つ）

- 日常生活自立支援事業の認知度をみると、「知らない」が56.5%と最も高く、「聞いたことはあるが、内容は知らない」は29.8%、「内容も知っている」は7.0%となっています。
- 所持手帳種類別にみると、いずれも「知らない」が最も高くなっています。一方、「内容も知っている」は身体障がいでは4.8%、知的障がいでは9.5%、精神障がいでは13.0%、重複所持では9.0%となっています。

■ 日常生活自立支援事業の認知度【所持手帳種類別】



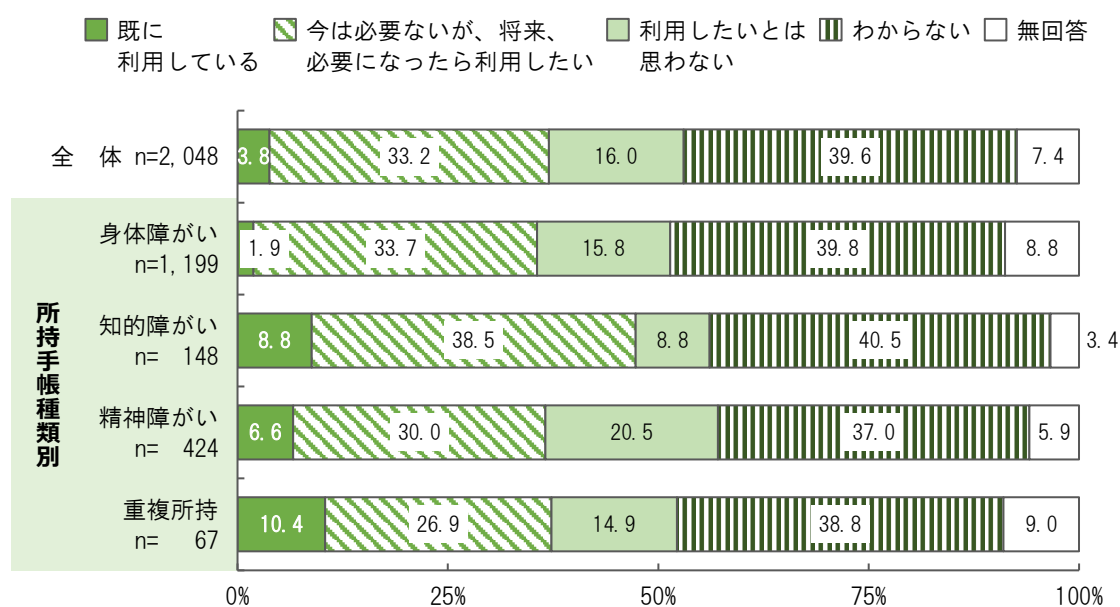
（４）日常生活自立支援事業の利用意向

問54 日常生活自立支援事業を利用したいですか。（○は1つ）

○日常生活自立支援事業の利用意向をみると、「わからない」が39.6%と最も高く、次いで「今は必要ないが、将来、必要になったら利用したい」が33.2%となっています。また、「既に利用している」と「今は必要ないが、将来、必要になったら利用したい」を合わせた『利用意向あり』は37.0%となっています。

○所持手帳種類別にみると、『利用意向あり』は身体障がいでは35.6%、知的障がいでは47.3%、精神障がいでは36.6%、重複所持では37.3%となっています。

■ 日常生活自立支援事業の利用意向【所持手帳種類別】

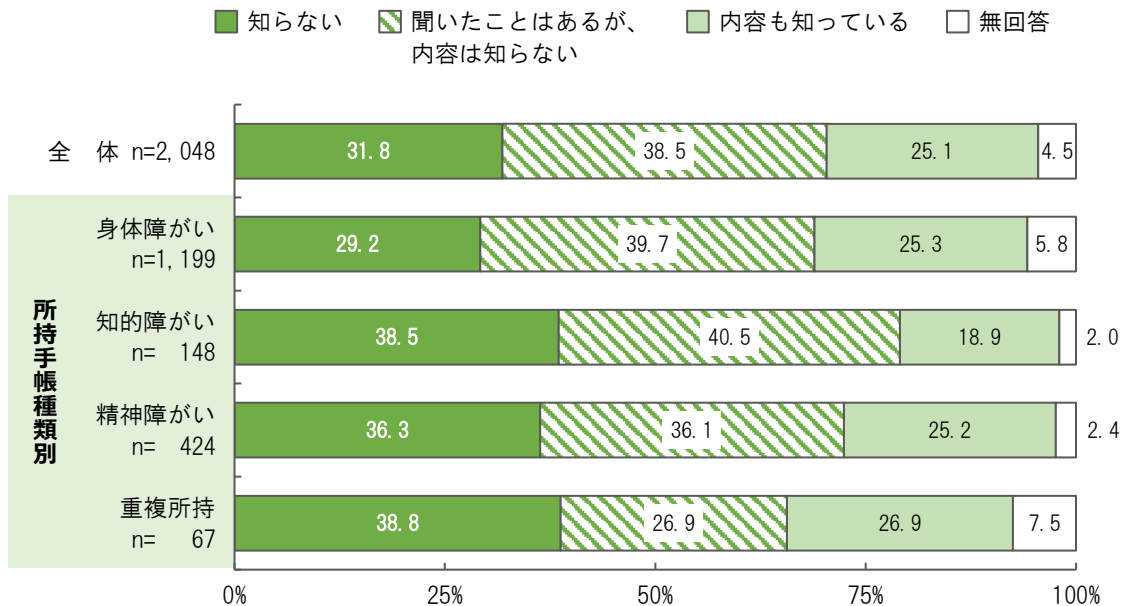


（5）成年後見制度の認知度

問55 成年後見制度を知っていますか。（○は1つ）

- 成年後見制度の認知度をみると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が38.5%と最も高く、次いで「知らない」が31.8%、「内容も知っている」が25.1%となっています。
- 所持手帳種類別にみると、身体障がい・知的障がいでは「聞いたことはあるが、内容は知らない」（39.7%・40.5%）、精神障がい・重複所持では「知らない」（36.3%・38.8%）が最も高くなっています。

■ 成年後見制度の認知度【所持手帳種類別】



（6）成年後見制度の利用意向

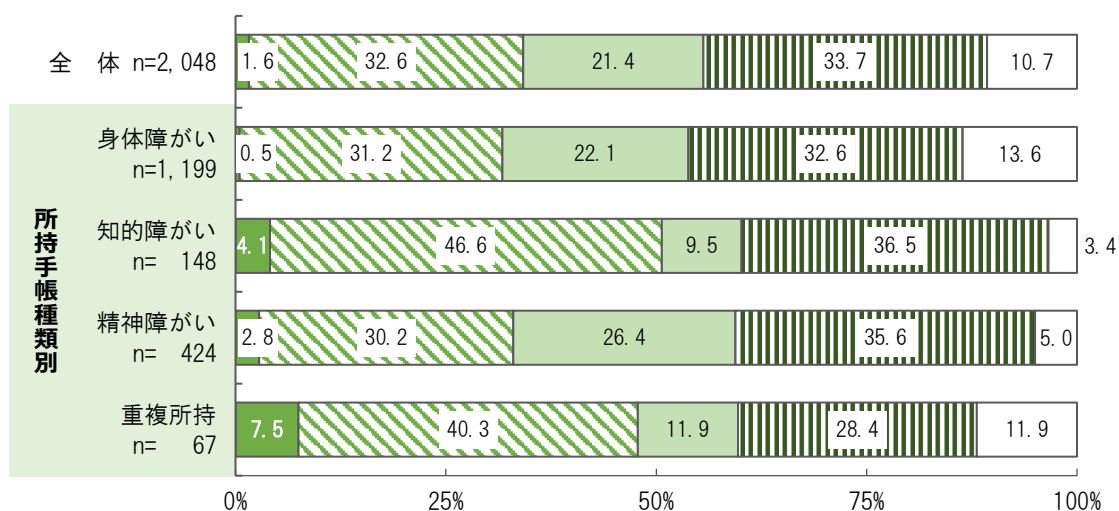
問56 成年後見制度を利用したいですか。（○は1つ）

○成年後見制度の利用意向をみると、「わからない」が33.7%と最も高く、次いで「今は必要ないが、将来、必要になったら利用したい」が32.6%となっています。

また、「既に利用している」と「今は必要ないが、将来、必要になったら利用したい」を合わせた『利用意向あり』は34.2%となっています。

○所持手帳種類別にみると、『利用意向あり』は身体障がいでは31.7%、知的障がいでは50.7%、精神障がいでは33.0%、重複所持では47.8%となっています。

■ 成年後見制度の利用意向【所持手帳種類別】



■ 既に利用している ■ 今は必要ないが、将来、必要になったら利用したい ■ 利用したいとは思わない ■ わからない □ 無回答

問 57 へ

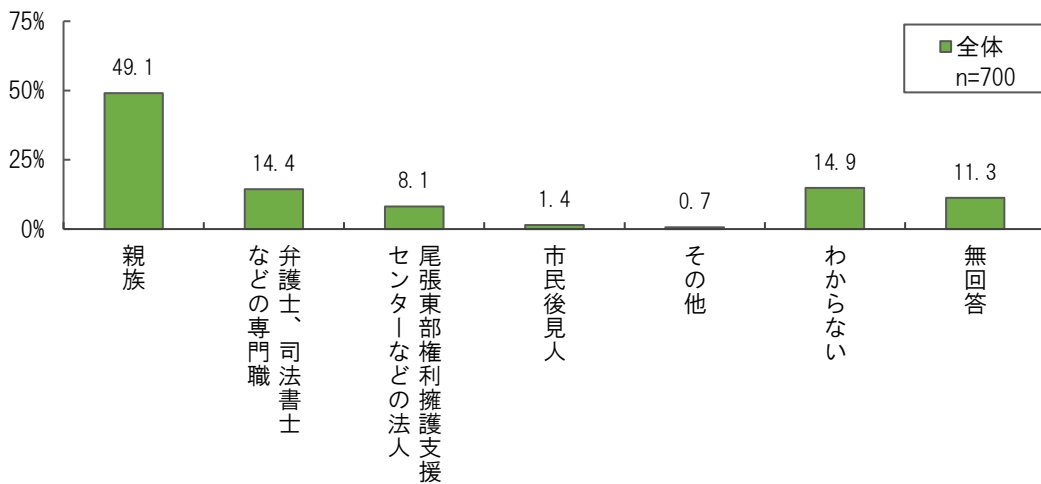
問56で「既に利用している」または「今は必要ないが、将来、必要になったら利用したい」と答えた方のみ

問57 支援してくれる後見人などはどのような方を希望しますか。（○は1つ）

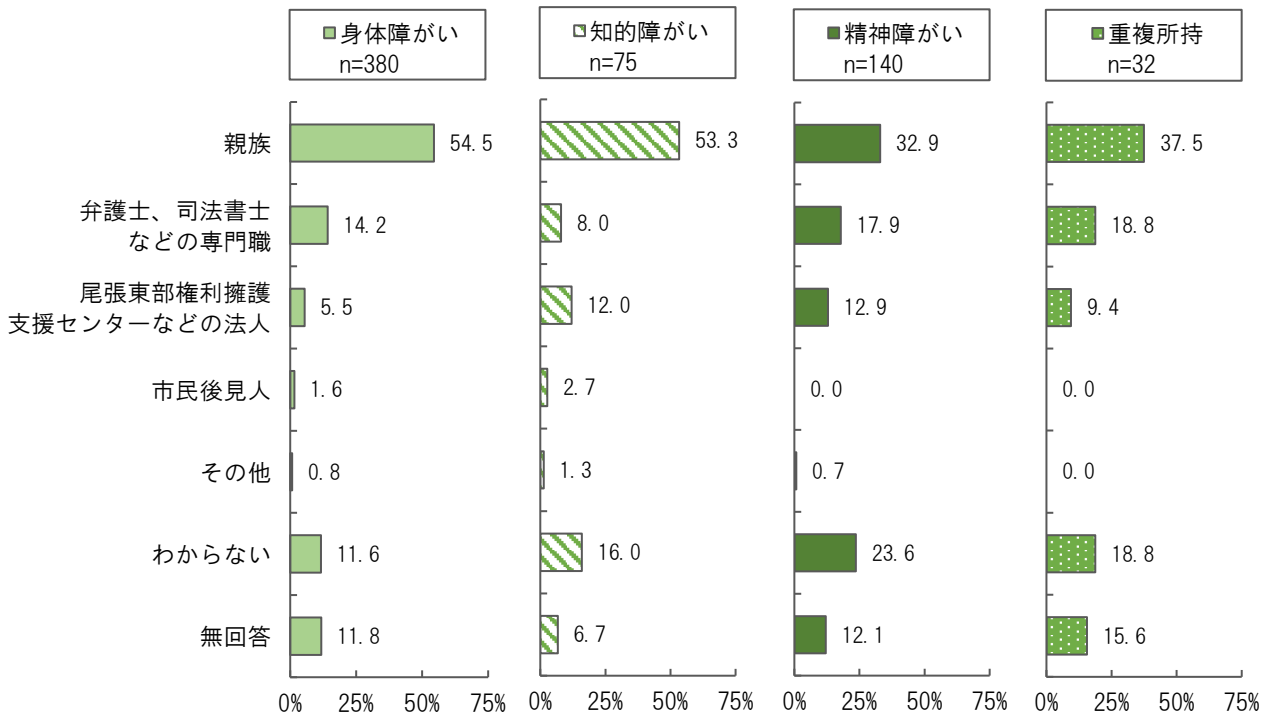
○希望する後見人は、「親族」が49.1%と最も高くなっています。

○所持手帳種類別にみると、いずれも「親族」が最も高くなっています。また、「弁護士、司法書士などの専門職」は重複所持で18.8%、精神障がい者で17.9%となっています。

■ 希望する後見人



■ 希望する後見人【所持手帳種類別】

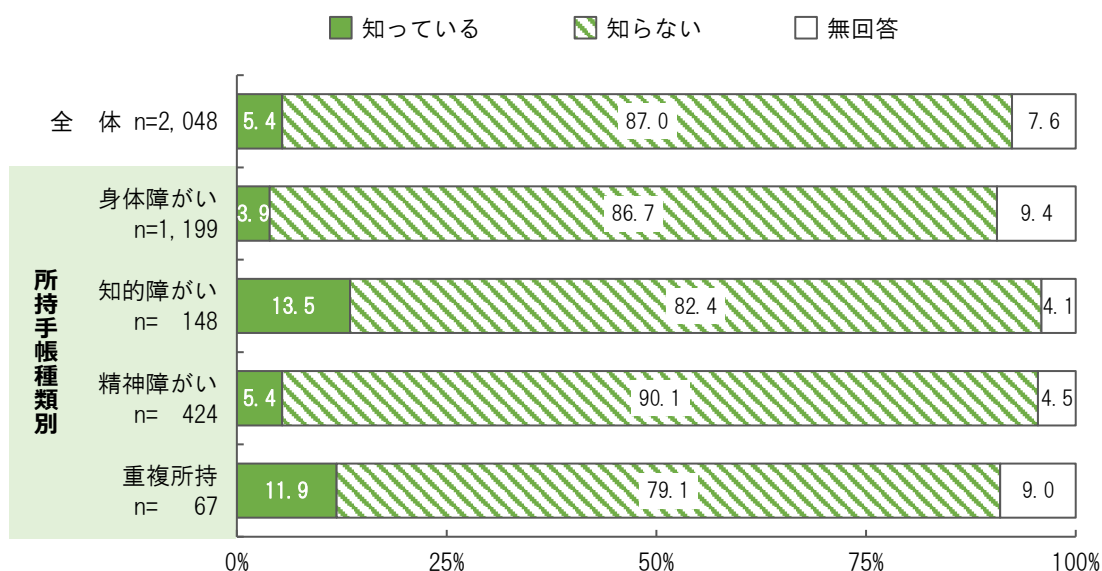


（7）尾張東部権利擁護支援センターの認知度

問58 あなたは、成年後見制度の相談や利用支援などを行う尾張東部権利擁護支援センター（あすライツ）を知っていますか。（○は1つ）

- 尾張東部権利擁護支援センター（あすライツ）の認知度をみると、「知らない」が87.0%を占め、「知っている」は5.4%となっています。
- 所持手帳種類別にみると、「知っている」は身体障がいでは3.9%、知的障がいでは13.5%、精神障がいでは5.4%、重複所持では11.9%であり、知的障がいで認知度が高くなっています。

■ 尾張東部権利擁護支援センターの認知度【所持手帳種類別】



15 障がいなどのある人に対する差別や配慮について

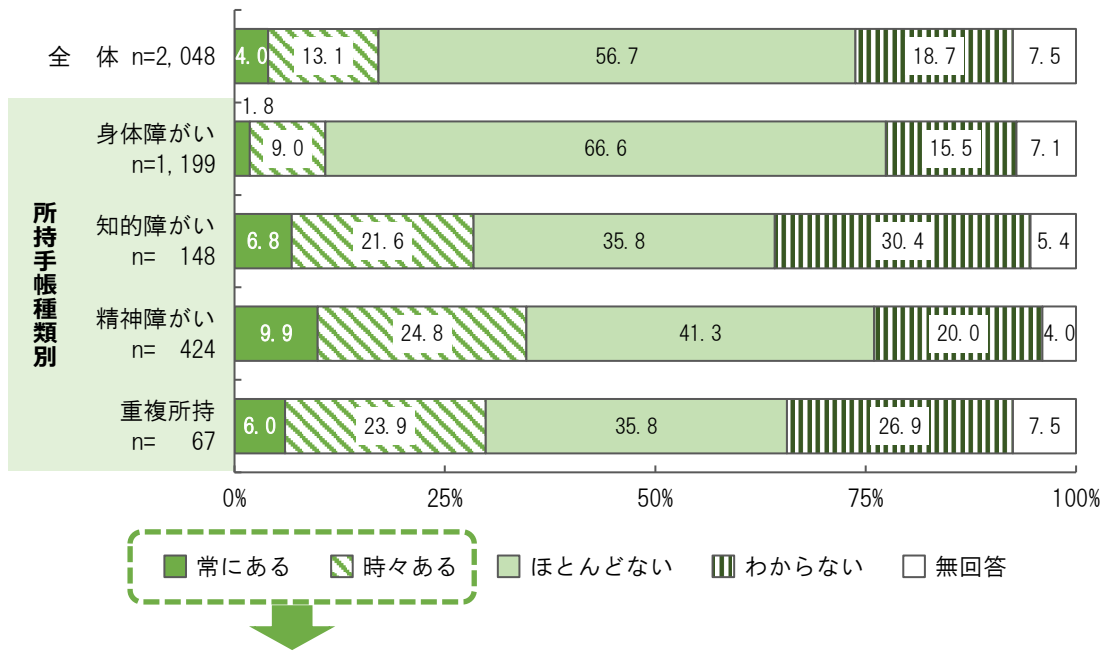
（1）差別をうけたりいやな思いをしたことの有無

問59 あなたは、障がいなどがあるために差別をうけたり、いやな思いをしたことがありますか。（○は1つ）

○差別をうけたりいやな思いをしたことの有無をみると、「ほとんどない」が56.7%と最も高くなっています。一方、「常にある」(4.0%)と「時々ある」(13.1%)を合わせた17.1%は差別やいやな思いをしたことが『ある』としています。

○所持手帳種類別にみると、『ある』は身体障がいでは10.8%、知的障がいでは28.4%、精神障がいでは34.7%、重複所持では29.9%となり、精神障がいでも最も高くなっています。

■ 差別をうけたりいやな思いをしたことの有無【所持手帳種類別】



■ いやな思いをした具体的な内容

具体的な内容（一部抜粋記載）	
身体障がい	言語障がいでは自分の思いを上手く伝えられず、嫌な思いをすることがある。
	内部障がいは外からわからないので、障がい者用駐車場に駐車をしたら怒鳴られたことがある。もっと車いすだけでなく、内部障がいについても普及してほしい。
	ハローワークで視覚の状態を伝えて面接に行っても、視覚を理由に断られる。
	補聴器をつけても聞こえないので、何度も聞き直すと相手はバカにされたと思って怒りだすことがある。
	歩行時、邪魔扱いされる。
	職場で理解されず、サボっていると思われるような言動を受ける。

具体的な内容（一部抜粋記載）	
知的障がい	じっと見られたり、奇異な目で見られたりしたことがある。
	電車に乗っている時に「どけ」と言われたりする。何を迷惑と思われているかわからない。
	職場の人に仕事が遅いと言われた。
	近所の子どもが「あの人バカなの？」と言っている事に不快感を持つ。
精神障がい	コミュニケーションが上手く取れないので話が進まない。
	正しい判断ができず、一人前として扱ってもらえない。
	障がい者雇用というものの自体に理解が示されなかったり、腫れ物を扱うかのようにすごく慎重に対応された。全国的に精神障がいへの理解をもう少し深める働きがあった方がいい。
	障がい者枠の就職の面接で、あまり良い感じで応じてくれない。
	本人は病気との認識がないので、普通に接しているつもりでも一般の人には恐れられてしまう。環境の変化に慣れることが苦手である。
	精神障がいは見た目が普通なので、お元気なのにとか、病人には見えないとか、その人には何でも無い一言が自分を苦しめる。
	精神障がい者と知られると、偏見の言葉「聞いてしまってすみませんでした」と言われた。
支援や年金、健康保険など健常者に比べて優遇されているところだけを切り取って、羨ましいと言われること。	
重複所持	飲食店のトイレや通路が狭いのは仕方がないが、車いすは邪魔と怒鳴られたりする。
	意見が対立した時に、陰で「わがままだ」と言われてしまう。
	自治会の行事に参加しても、誰にも声をかけられない。
	受験を断られた。
い持なついで	聴力が悪いため、無視してる、人の話を聞かないやつだと勘違いされる。

（2）市役所の配慮

問60 市役所の窓口や電話での職員の対応、市役所から自宅に届く文書などについて、障がいのある人などへの配慮をどのように感じていますか。（○は1つ）

○市役所の配慮について、『配慮されている』（「配慮はされており、満足している」＋「十分ではないが、ある程度、配慮はされている」）と感じている方は75.9%、一方、『配慮されていない』（「どちらかというと配慮が足りないと思う」＋「配慮はほとんど感じられない」）と感じている方は8.4%となっています。

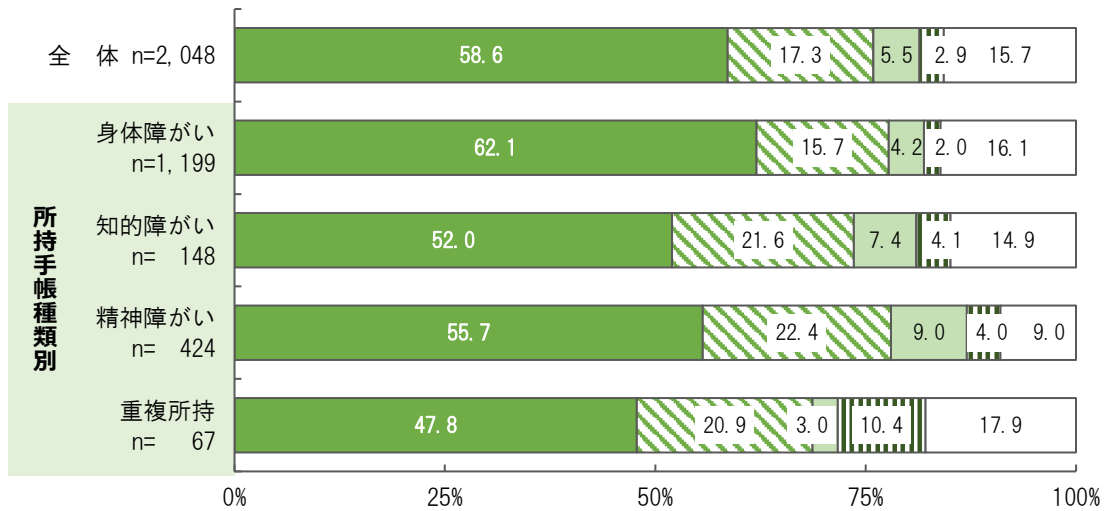
○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは『配慮されている』は77.8%、『配慮されていない』は6.2%となっています。

知的障がいでは『配慮されている』は73.6%、『配慮されていない』は11.5%となっています。

精神障がいでは『配慮されている』は78.1%、『配慮されていない』は13.0%となっています。

重複所持では『配慮されている』は68.7%、『配慮されていない』は13.4%となっています。

■ 市役所の配慮【所持手帳種類別】



配慮はされており、満足している
 十分ではないが、ある程度、配慮はされている
 どちらかというと配慮が足りないと思う
 配慮はほとんど感じられない
 無回答

配慮が足りないと感じた具体的な内容

■ 配慮が足りないと感じた具体的な内容の分類

具体的な内容の分類（n=527）	件数（件）	割合（%）
職員の言動における配慮・知識不足	75	14.2
文書の字が小さい、内容が難しく理解できない	42	8.0
意思疎通への配慮不足	35	6.6
待ち時間が長い、手続きが煩雑、部署間の連携不足	24	4.6
情報提供の分かりやすさ向上	23	4.4
障がいに対応した取り組みが遅れている	16	3.0
アンケートについて	16	3.0
来庁を前提とした手続きによる負担	15	2.8
プライバシーの保護が不十分	6	1.1
その他	26	4.9
わからない	12	2.3
特に不満に思うことはない、配慮されている	11	2.1
無回答	226	42.9

《職員の言動における配慮・知識不足：一部抜粋記載》

- ・ご担当者によって対応が異なり、障がい者の立場での対応ではないことが多々ありました。（身体障がい）
- ・市役所の職員が、障がい者に対しての知識があまりない。（身体障がい）
- ・面倒くさそうな対応、できるだけ関わり合いたくないという態度が伝わってくるが多い。（身体障がい）
- ・職員の応対で、過剰に子ども扱いのような言葉遣いで接されることに少し違和感を感じる。普通の言葉遣いで接してほしい。（精神障がい）
- ・一人前の判断ができないという考えが根底にあると感じられることがあった。（精神障がい）
- ・見た目では障がい者と分からない人への配慮。健常者、障がい者を皆同等に扱ってほしい。（持っていない）

《文書の字が小さい、内容が難しく理解できない：一部抜粋記載》

- ・視覚障がいのため、文字の大きさにより見えないことが多い。（身体障がい）
- ・点字表記がないので、どのような文書なのかを気軽に見ることが難しい。（身体障がい）
- ・内容が難しすぎて自分では分からない。（知的障がい）

《意思疎通への配慮不足：一部抜粋記載》

- ・聴覚障がい者のため、電話での対応が難しい。（身体障がい）
- ・窓口では拡声器などは使用されているが、筆談などは少ないように感じる。（身体障がい）
- ・早口でわかっている体で話されたことがある。理解できない。ゆっくり丁寧すぎるぐらいで話してくれると助かります。（精神障がい）

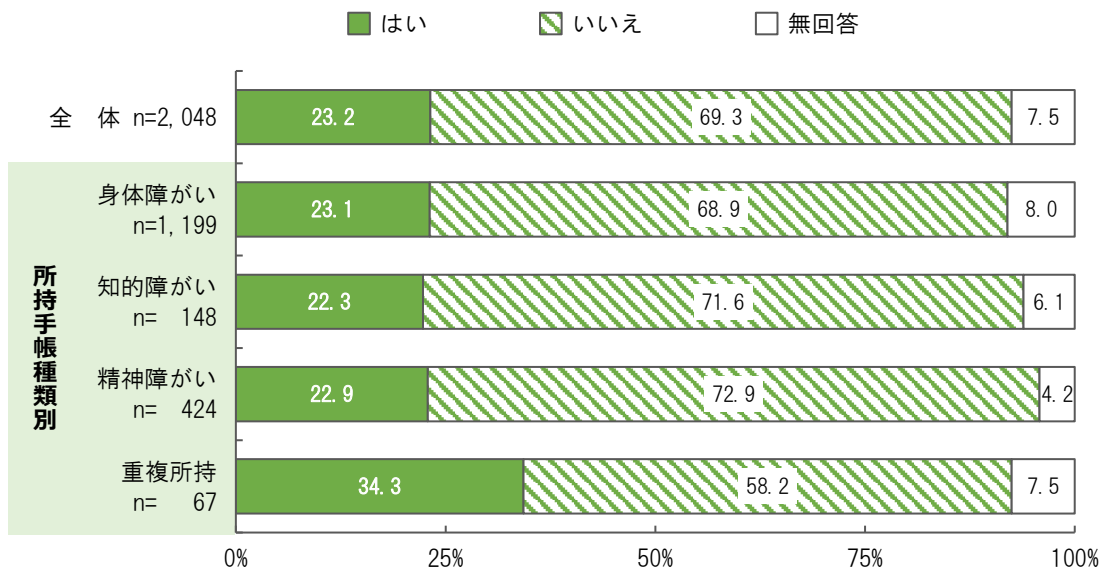
（3）虐待に関する相談窓口の認知度

問61 障がいのある人などに対する虐待に気づいた人は、市へ通報する義務があります。
あなたは虐待に関する相談窓口が市役所にあることを知っていますか。（○は1つ）

○市役所にある虐待に関する相談窓口の認知度をみると、「はい」（知っている）は23.2%、「いいえ」（知らない）が69.3%となっています。

○所持手帳種類別にみると、「はい」（知っている）は身体障がいでは23.1%、知的障がいでは22.3%、精神障がいでは22.9%、重複所持では34.3%であり、重複所持での認知度が最も高くなっています。

■ 虐待に関する相談窓口の認知度【所持手帳種類別】



16 障害福祉サービスなどについて

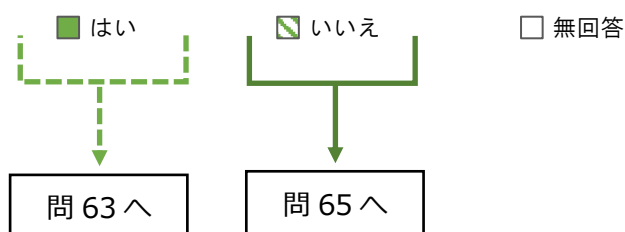
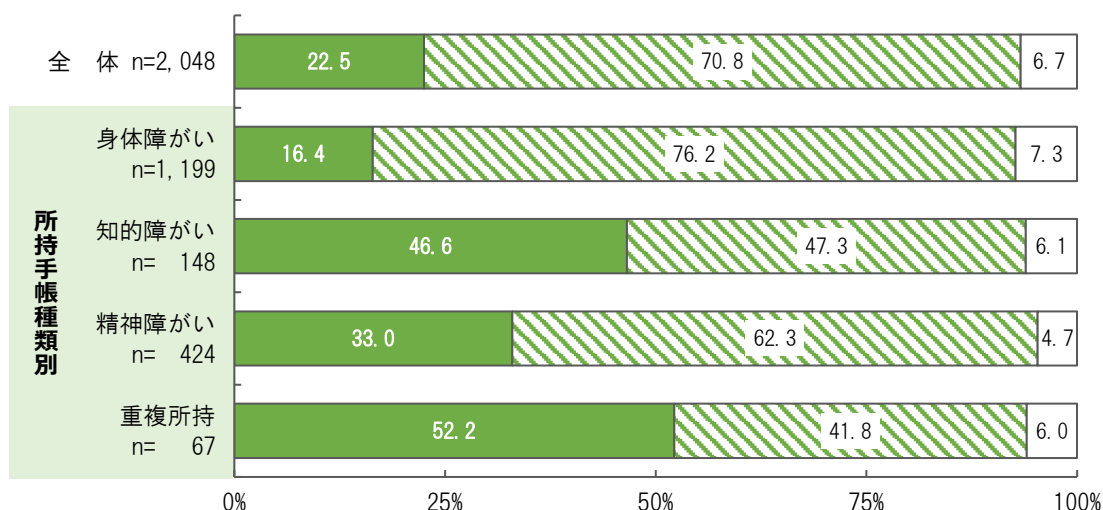
（1）障害福祉サービスの利用の有無

問62 あなたは、現在、障害福祉サービス（介護保険制度での利用は除きます。）などを利用していますか。（○は1つ）

○障害福祉サービスの利用の有無をみると、「はい」（利用している）は22.5%、「いいえ」（利用していない）は70.8%となっています。

○所持手帳種類別にみると、「はい」（利用している）は身体障がいでは16.4%、知的障がいでは46.6%、精神障がいでは33.0%、重複所持では52.2%であり、重複所持で最も高くなっています。

■ 障害福祉サービスの利用の有無【所持手帳種類別】



問62で「はい」と答えた方のみ

問63 現在利用している障害福祉サービスに満足していますか。（○は1つ）

○現在利用している障害福祉サービスの満足度は、『満足』（「満足している」+「どちらかといえば満足している」）と感じている方は61.4%、『不満』（「やや不満である」+「不満である」）と感じている方は11.3%となっています。

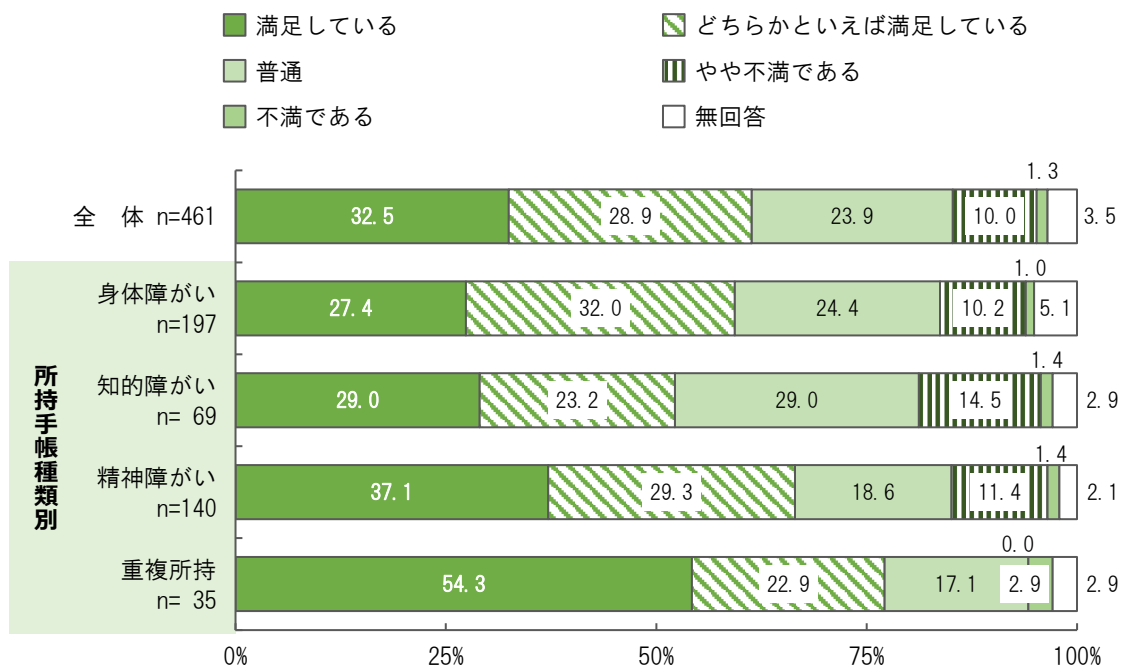
○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは『満足』は59.4%、『不満』は11.2%となっています。

知的障がいでは『満足』は52.2%、『不満』は15.9%となっています。

精神障がいでは『満足』は66.4%、『不満』は12.8%となっています。

重複所持では『満足』は77.2%、『不満』は2.9%となっており、利用している割合が最も高い重複所持で『満足』の割合も最も高くなっています。

■ 利用中の障害福祉サービスの満足度【所持手帳種類別】

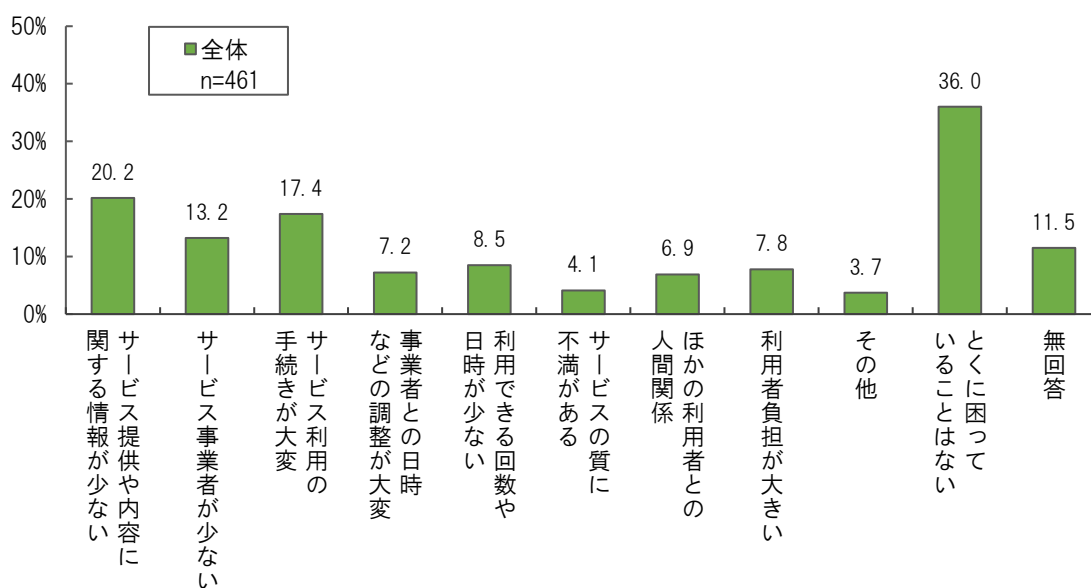


問62で「はい」と答えた方のみ

問64 障害福祉サービスなどを利用する上で困っていることはありますか。
 (○はい/いくつかでも)

○利用する上で困っていることをみると、「とくに困っていることはない」が36.0%と最も高いものの、「サービス提供や内容に関する情報が少ない」(20.2%)、「サービス利用の手続きが大変」(17.4%)は約2割が困っていることとしてあげています。

■ 利用する上で困っていること



○所持手帳種類別にみると、身体障がい・知的障がい・精神障がいでは「とくに困っていることはない」（37.6%・34.8%・35.7%）、重複所持では「サービス事業者が少ない」「とくに困っていることはない」（各31.4%）が最も高くなっています。

また、困っていることとして、身体障がいでは「サービス提供や内容に関する情報が少ない」（22.3%）、「サービス利用の手続きが大変」（15.2%）が上位となっています。

知的障がいでは「サービス事業者が少ない」（18.8%）、「サービス提供や内容に関する情報が少ない」「サービス利用の手続きが大変」（各13.0%）が上位となっています。

精神障がいでは「サービス利用の手続きが大変」（23.6%）、「サービス提供や内容に関する情報が少ない」（22.1%）が上位となっています。

重複所持では「サービス事業者が少ない」（31.4%）、「サービス提供や内容に関する情報が少ない」「サービス利用の手続きが大変」（各20.0%）が上位となっています。

■ 利用する上で困っていること【所持手帳種類別】

単位：%

	身体障がい n=197	知的障がい n=69	精神障がい n=140	重複所持 n=35
サービス提供や内容に関する情報が少ない	22.3	13.0	22.1	20.0
サービス事業者が少ない	10.7	18.8	10.7	31.4
サービス利用の手続きが大変	15.2	13.0	23.6	20.0
事業者との日時などの調整が大変	5.1	10.1	8.6	11.4
利用できる回数や日時が少ない	11.7	7.2	3.6	17.1
サービスの質に不満がある	1.0	4.3	7.9	8.6
ほかの利用者との人間関係	2.5	10.1	10.7	11.4
利用者負担が大きい	9.6	5.8	6.4	5.7
その他	0.5	7.2	5.7	5.7
とくに困っていることはない	37.6	34.8	35.7	31.4
無回答	12.2	14.5	8.6	2.9

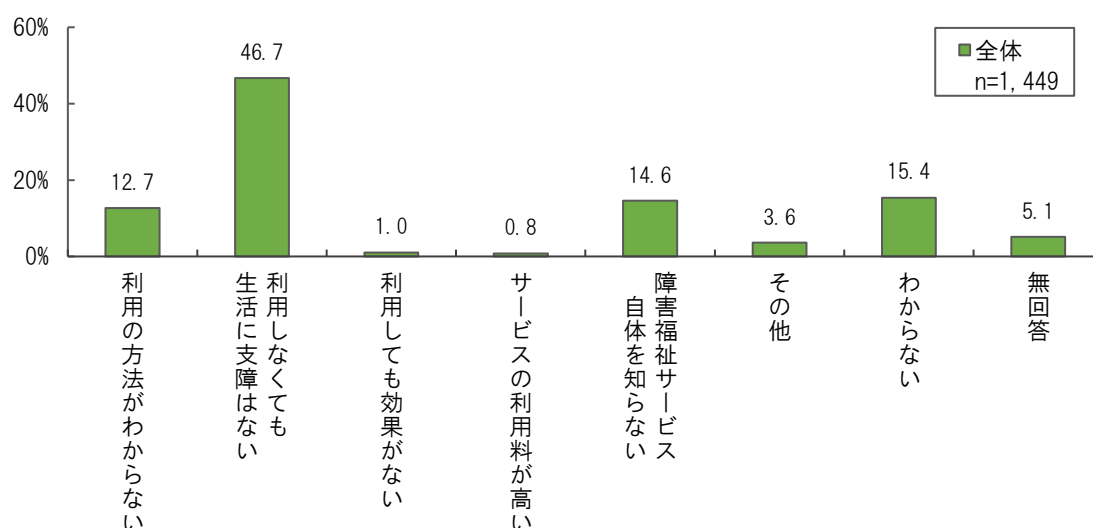
※最も高い割合に網掛けをしています。

問62で「いいえ」と答えた方のみ

問65 障害福祉サービスなどを利用していない理由は何ですか。（○は1つ）

- 障害福祉サービスを利用していない理由は、「利用しなくても生活に支障はない」が46.7%と最も高く、次いで「わからない」が15.4%、「障害福祉サービス自体を知らない」が14.6%となっています。
- 所持手帳種類別にみると、身体障がい・知的障がい・精神障がいでは「利用しなくても生活に支障はない」（50.4%・37.1%・29.9%）、重複所持では「わからない」（25.0%）が最も高くなっています。

■ 障害福祉サービスを利用していない理由



■ 障害福祉サービスを利用していない理由【所持手帳種類別】

単位：%

	身体障がい n=914	知的障がい n=70	精神障がい n=264	重複所持 n=28
利用の方法がわからない	11.9	14.3	16.7	17.9
利用しなくても生活に支障はない	50.4	37.1	29.9	17.9
利用しても効果がない	0.2	0.0	3.4	3.6
サービスの利用料が高い	0.7	2.9	1.5	0.0
障害福祉サービス自体を知らない	15.1	14.3	17.8	10.7
その他	2.8	2.9	7.6	7.1
わからない	13.3	22.9	20.8	25.0
無回答	5.5	5.7	2.3	17.9

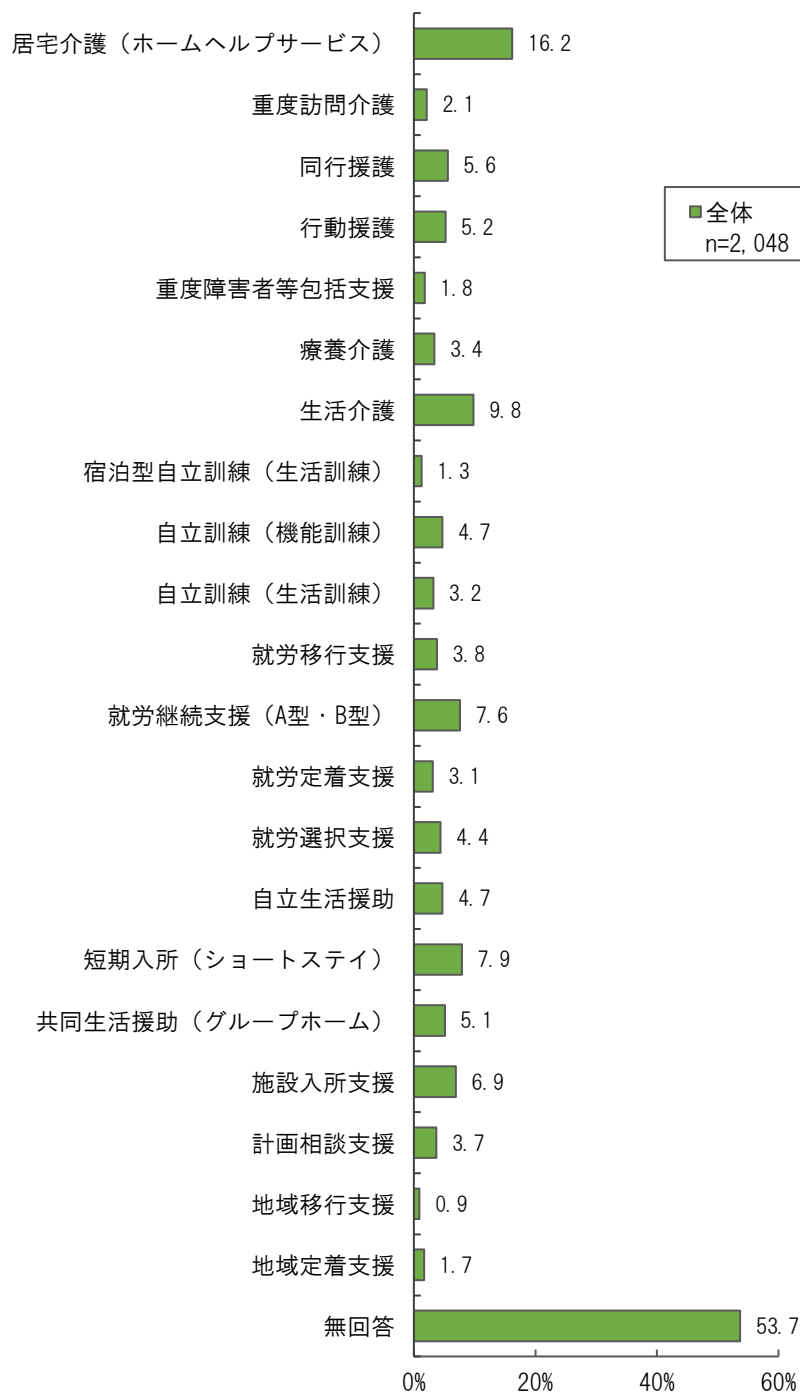
※最も高い割合に網掛けをしています。

（２）障害福祉サービスの利用意向

問66 「あなた」は次のサービスを今後3年以内（継続利用も含む）に利用したいですか。
（○はいくつでも）

○障害福祉サービスの利用意向をみると、「居宅介護（ホームヘルプサービス）」が16.2%と最も高く、次いで「生活介護」が9.8%、「短期入所（ショートステイ）」が7.9%となっています。

■ 障害福祉サービスの利用意向



○所持手帳種類別にみると、身体障がいでは「居宅介護（ホームヘルプサービス）」（19.2%）、知的障がい・精神障がいでは「就労継続支援（A型・B型）」（27.0%・19.1%）、重複所持では「生活介護」（31.3%）が最も高くなっています。

■ 障害福祉サービスの利用意向【所持手帳種類別】

単位：%

	身体障がい n=1,199	知的障がい n=148	精神障がい n=424	重複所持 n=67
居宅介護（ホームヘルプサービス）	19.2	8.8	10.4	19.4
重度訪問介護	2.3	1.4	0.9	7.5
同行援護	5.8	10.1	4.0	13.4
行動援護	5.2	9.5	5.0	11.9
重度障害者等包括支援	2.3	1.4	0.2	6.0
療養介護	4.0	1.4	1.2	6.0
生活介護	9.2	14.9	6.6	31.3
宿泊型自立訓練（生活訓練）	0.7	2.7	2.1	3.0
自立訓練（機能訓練）	5.5	0.7	4.0	9.0
自立訓練（生活訓練）	3.0	3.4	2.8	9.0
就労移行支援	1.5	5.4	10.6	4.5
就労継続支援（A型・B型）	2.0	27.0	19.1	9.0
就労定着支援	1.3	7.4	8.0	3.0
就労選択支援	2.4	7.4	10.1	3.0
自立生活援助	4.0	6.1	6.8	9.0
短期入所（ショートステイ）	8.0	18.9	2.6	26.9
共同生活援助（グループホーム）	2.6	20.3	6.8	10.4
施設入所支援	8.1	11.5	1.9	7.5
計画相談支援	2.1	8.8	5.9	13.4
地域移行支援	0.7	0.7	1.2	6.0
地域定着支援	1.3	2.0	1.4	4.5
無回答	57.2	35.8	48.3	32.8

※最も高い割合に網掛けをしています。

17 障がい者施策等について

（1）障がい者施策の満足度と今後の優先度

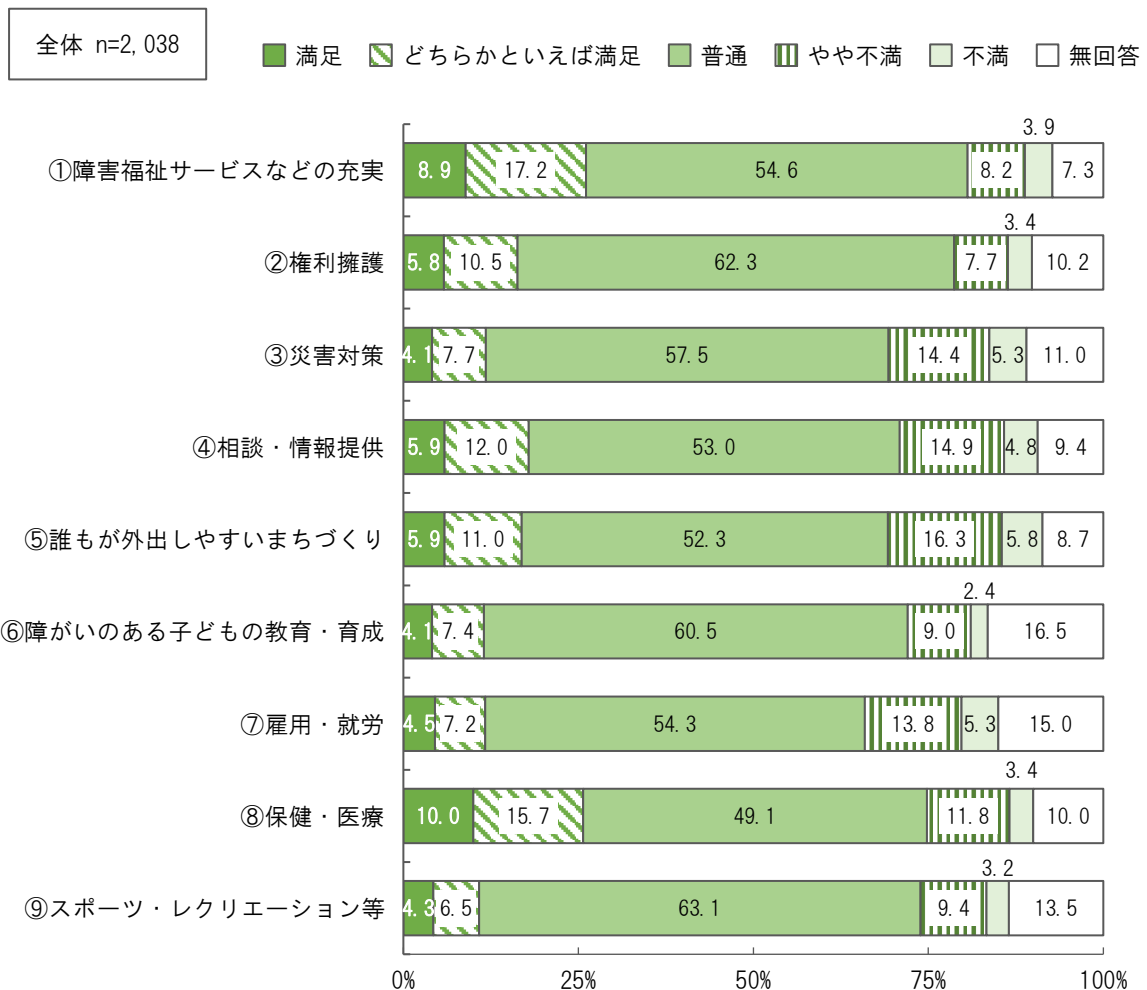
問67 尾張旭市の障がい者施策全般についておたずねします。下の表の①～⑨の項目ごとに、「現在の満足度」と「今後の優先度」のそれぞれに○を1つずつつけてください。

○障がい者施策の現在の満足度をみると、すべての項目で「普通」が最も高くなっています。また、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は“①障害福祉サービスなどの充実”が26.1%と最も高く、次いで“⑧保健・医療”が25.7%、“④相談・情報提供”が17.9%となっています。

一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は“⑤誰もが外出しやすいまちづくり”が22.1%と最も高く、次いで“③災害対策”“④相談・情報提供”が各19.7%、“⑦雇用・就労”が19.1%となっています。

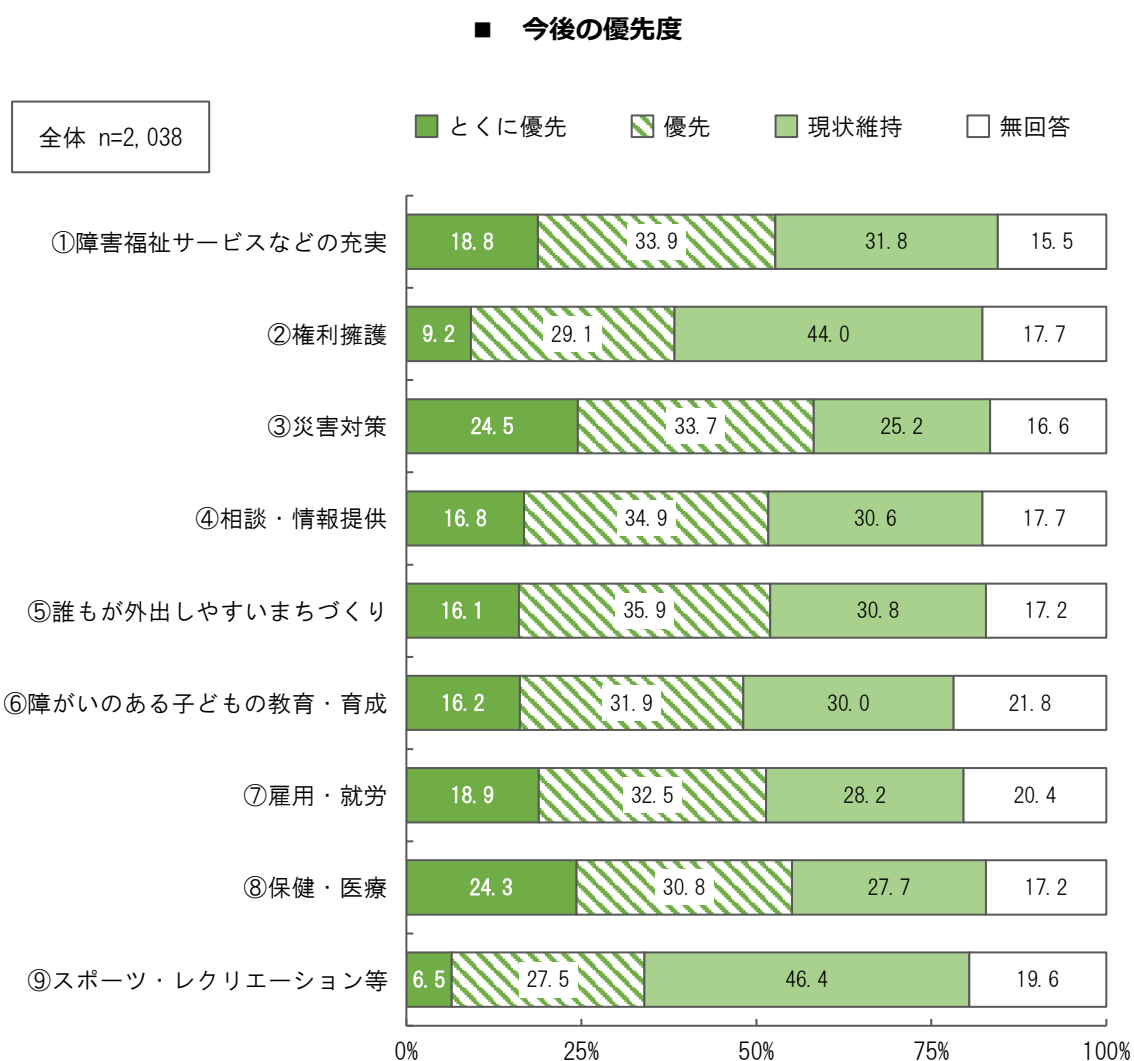
“④相談・情報提供”は『満足』、『不満』ともに上位となっています。

■ 現在の満足度



○障がい者施策の今後の優先度をみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は“③災害対策”が58.2%と最も高く、次いで“⑧保健・医療”が55.1%、“①障害福祉サービスなどの充実”が52.7%となっています。

また、「現状維持」は“⑨スポーツ・レクリエーション等”（46.4%）、“②権利擁護”（44.0%）で高くなっています。



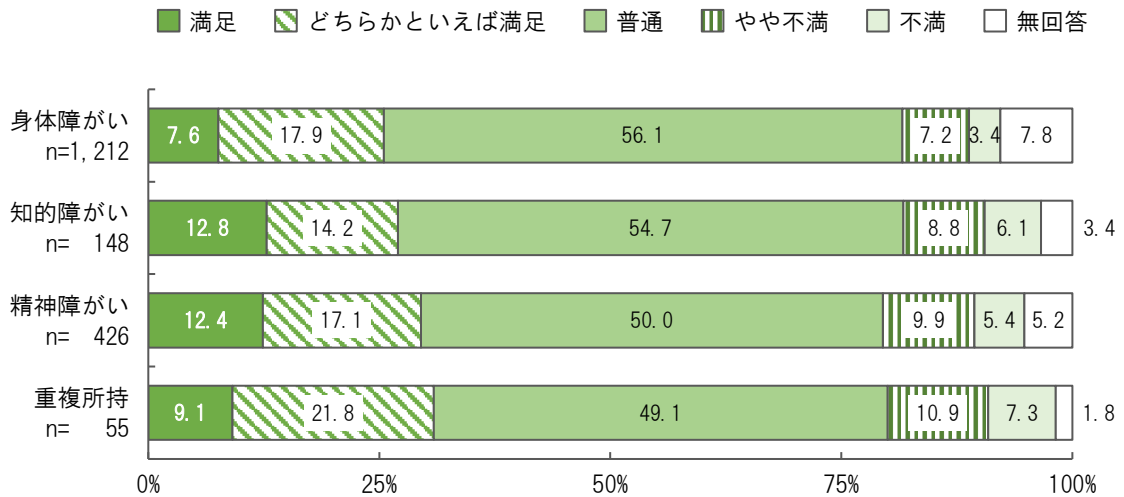
◆以下は、障がい者施策ごとの現在の満足度と今後の優先度を所持手帳種類別にみています。

① 障害福祉サービスなどの充実

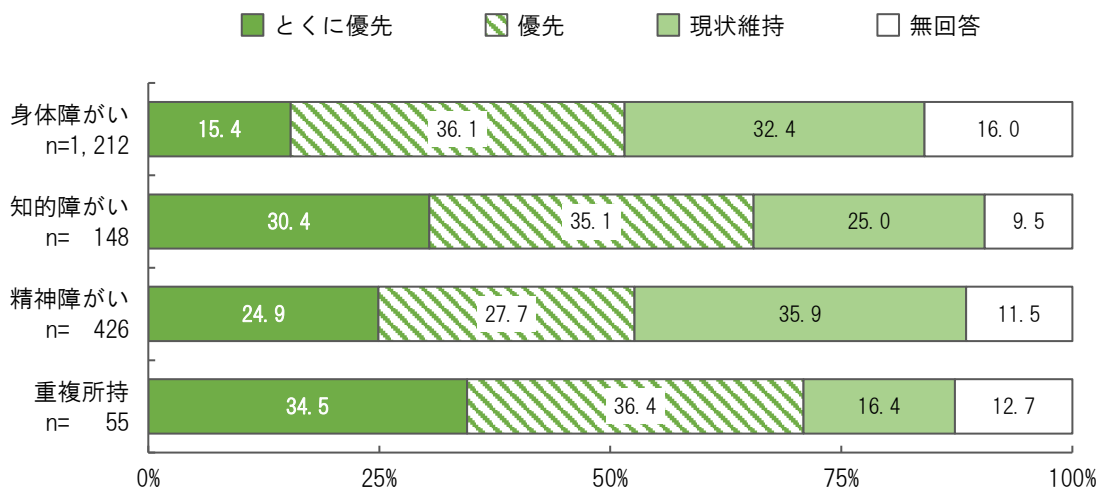
○満足度を所持手帳種類別にみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は身体障がいでは25.5%、知的障がいでは27.0%、精神障がいでは29.5%、重複所持では30.9%となっています。

○今後の優先度を所持手帳種類別にみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は身体障がいでは51.5%、知的障がいでは65.5%、精神障がいでは52.6%、重複所持では70.9%となっています。

■ 現在の満足度【所持手帳種類別】



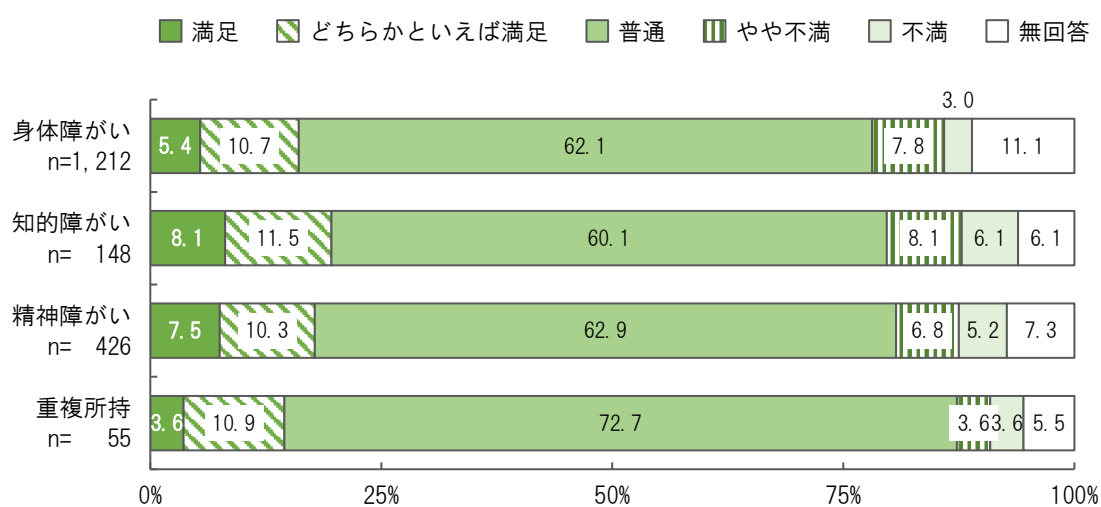
■ 今後の優先度【所持手帳種類別】



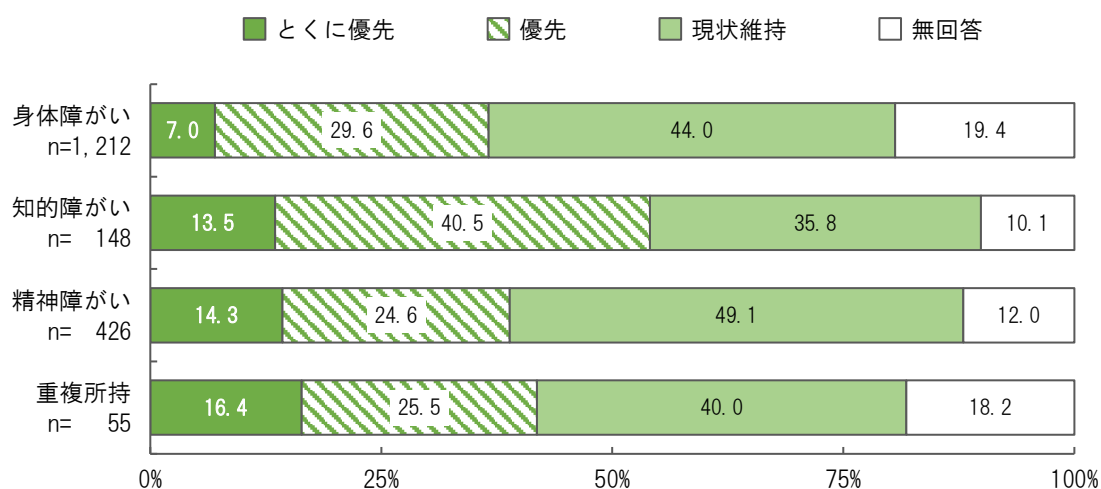
② 権利擁護

- 満足度を所持手帳種類別にみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は身体障がいでは16.1%、知的障がいでは19.6%、精神障がいでは17.8%、重複所持では14.5%となっています。
- 今後の優先度を所持手帳種類別にみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は身体障がいでは36.6%、知的障がいでは54.0%、精神障がいでは38.9%、重複所持では41.9%となっています。

■ 現在の満足度【所持手帳種類別】



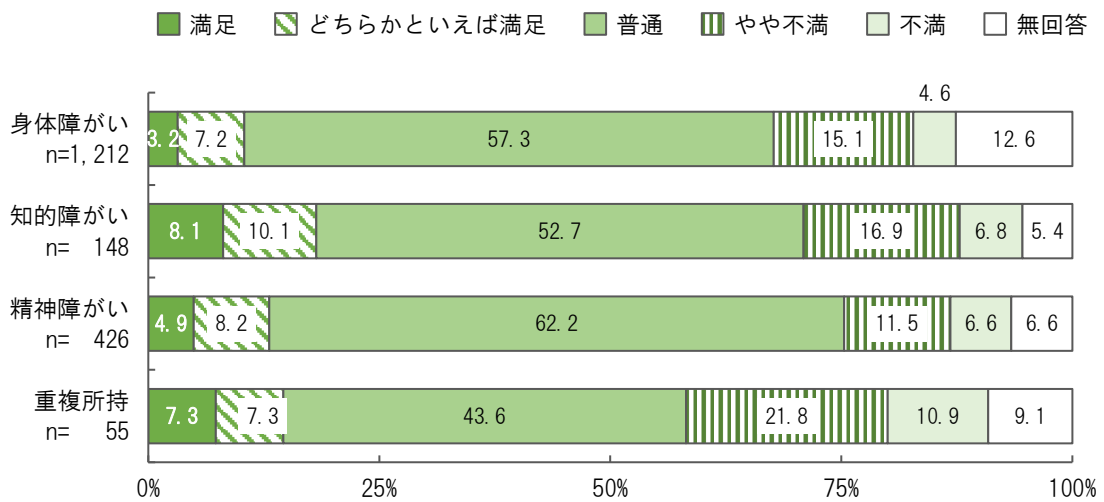
■ 今後の優先度【所持手帳種類別】



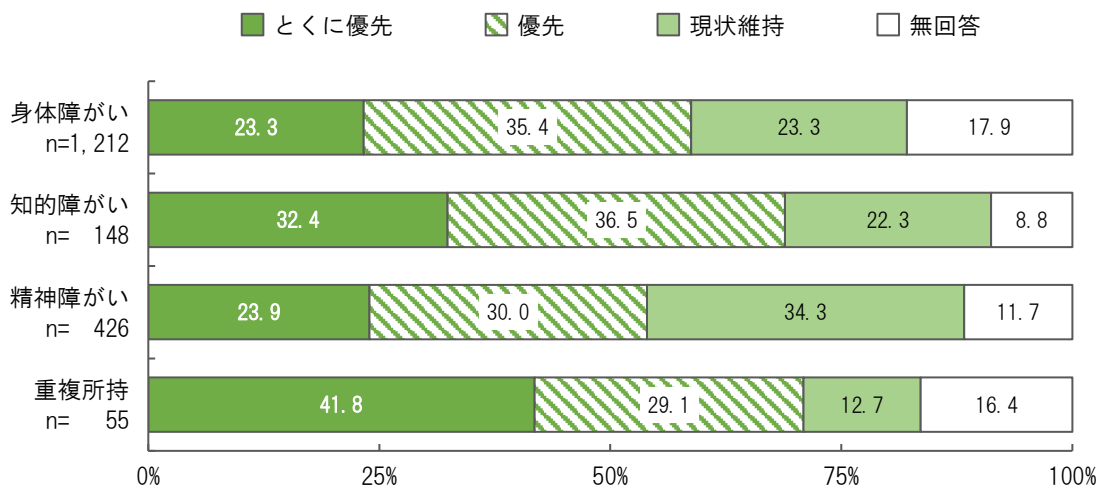
③ 災害対策

- 満足度を所持手帳種類別にみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は身体障がいでは10.4%、知的障がいでは18.2%、精神障がいでは13.1%、重複所持では14.6%となっています。
- 今後の優先度を所持手帳種類別にみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は身体障がいでは58.7%、知的障がいでは68.9%、精神障がいでは53.9%、重複所持では70.9%となっています。

■ 現在の満足度【所持手帳種類別】



■ 今後の優先度【所持手帳種類別】

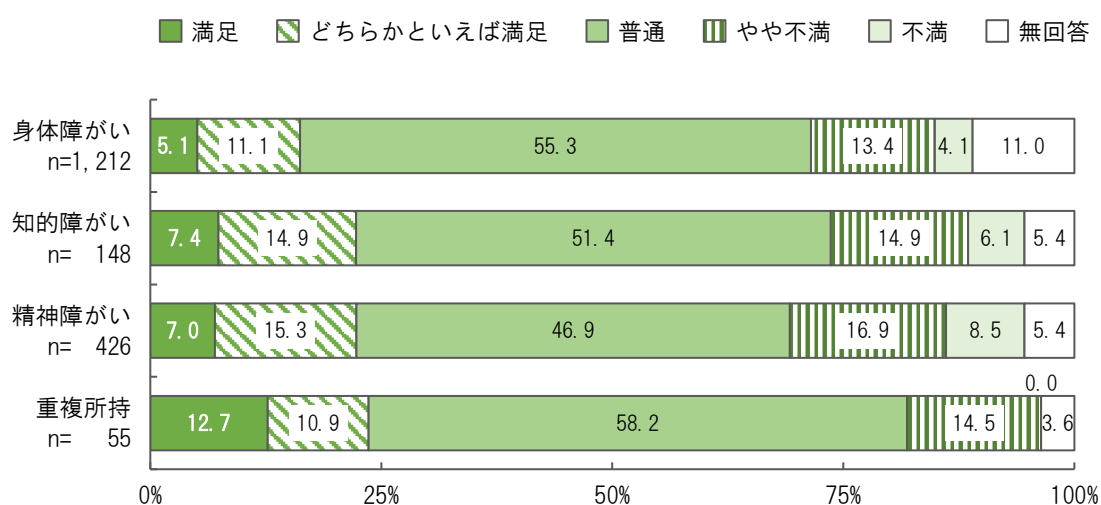


④ 相談・情報提供

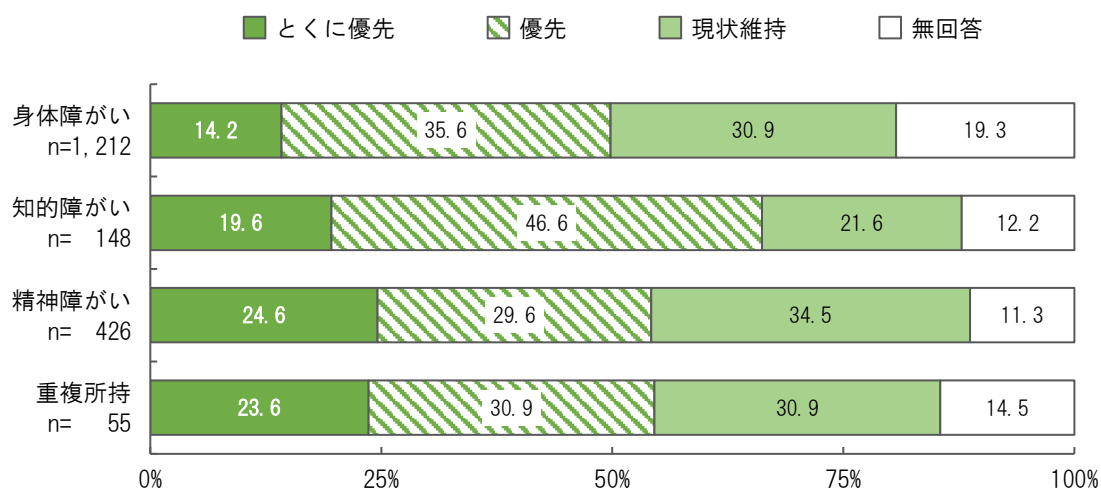
○満足度を所持手帳種類別にみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は身体障がいでは16.2%、知的障がいでは22.3%、精神障がいでは22.3%、重複所持では23.6%となっています。

○今後の優先度を所持手帳種類別にみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は身体障がいでは49.8%、知的障がいでは66.2%、精神障がいでは54.2%、重複所持では54.5%となっています。

■ 現在の満足度【所持手帳種類別】



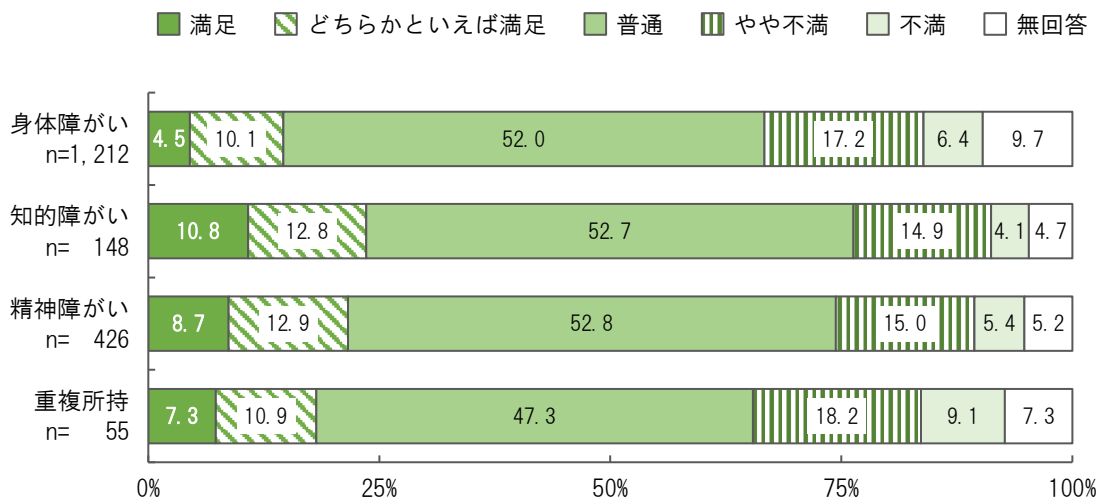
■ 今後の優先度【所持手帳種類別】



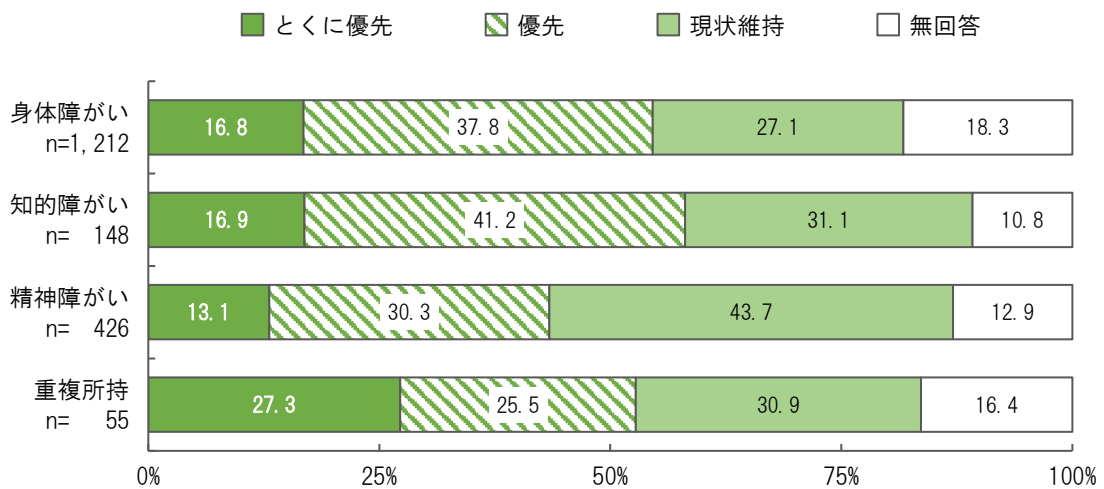
⑤ 誰もが外出しやすいまちづくり

- 満足度を所持手帳種類別にみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は身体障がいでは14.6%、知的障がいでは23.6%、精神障がいでは21.6%、重複所持では18.2%となっています。
- 今後の優先度を所持手帳種類別にみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は身体障がいでは54.6%、知的障がいでは58.1%、精神障がいでは43.4%、重複所持では52.8%となっています。

■ 現在の満足度【所持手帳種類別】



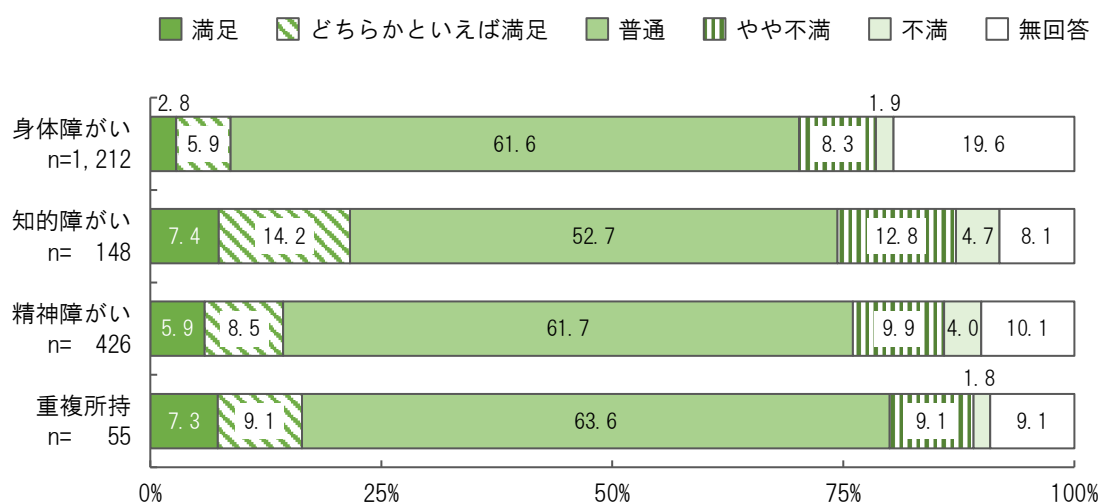
■ 今後の優先度【所持手帳種類別】



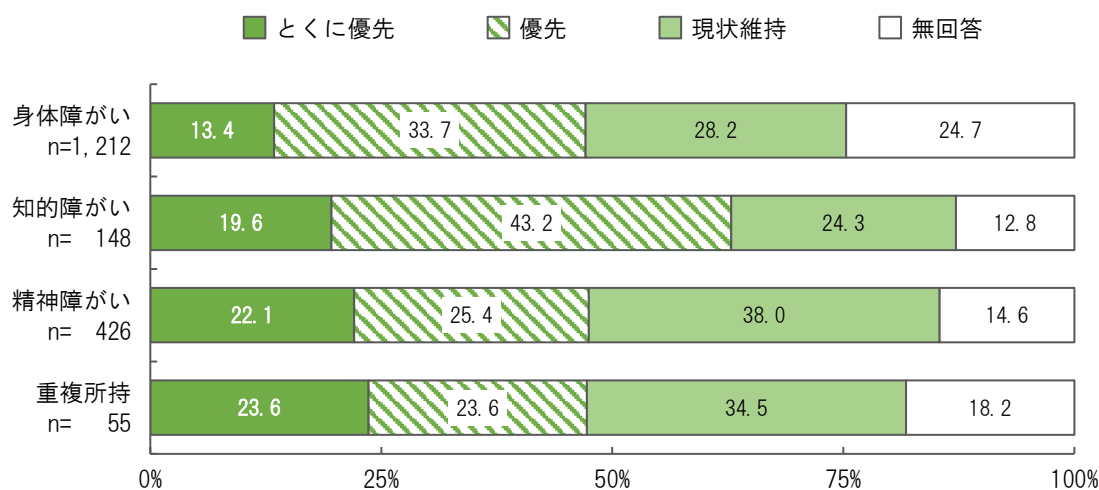
⑥ 障がいのある子どもの教育・育成

- 満足度を所持手帳種類別にみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は身体障がいでは8.7%、知的障がいでは21.6%、精神障がいでは14.4%、重複所持では16.4%となっています。
- 今後の優先度を所持手帳種類別にみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は身体障がいでは47.1%、知的障がいでは62.8%、精神障がいでは47.5%、重複所持では47.2%となっています。

■ 現在の満足度【所持手帳種類別】



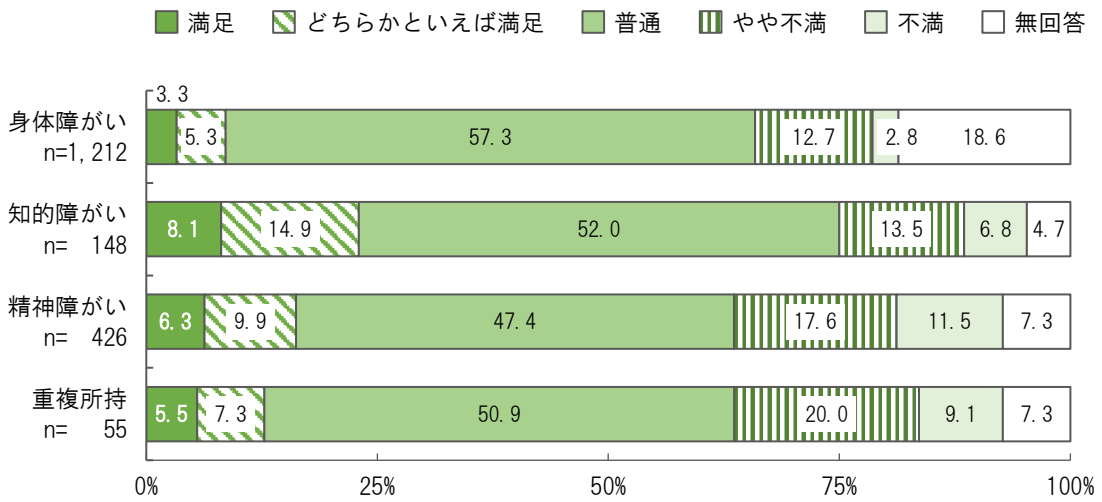
■ 今後の優先度【所持手帳種類別】



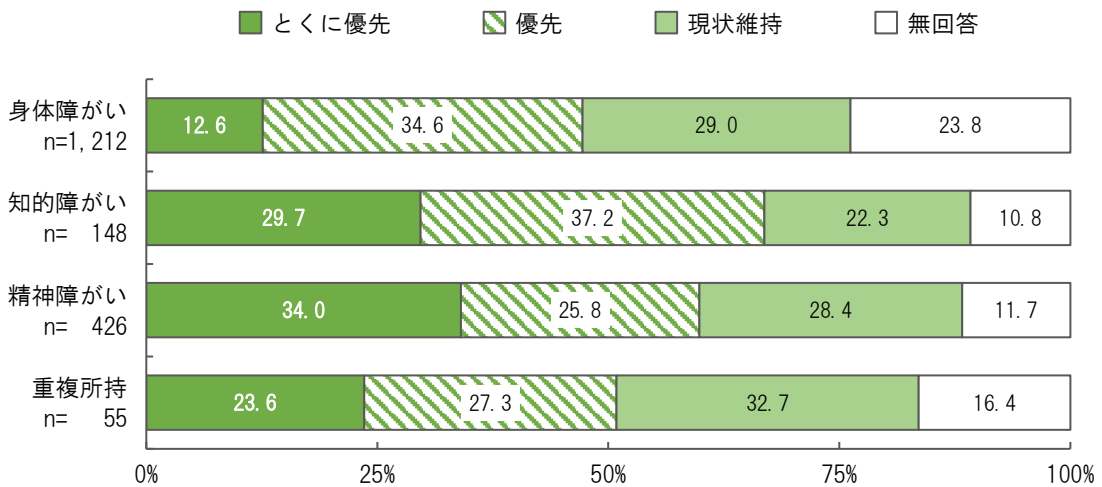
⑦ 雇用・就労

- 満足度を所持手帳種類別にみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は身体障がいでは8.6%、知的障がいでは23.0%、精神障がいでは16.2%、重複所持では12.8%となっています。
- 今後の優先度を所持手帳種類別にみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は身体障がいでは47.2%、知的障がいでは66.9%、精神障がいでは59.8%、重複所持では50.9%となっています。

■ 現在の満足度【所持手帳種類別】



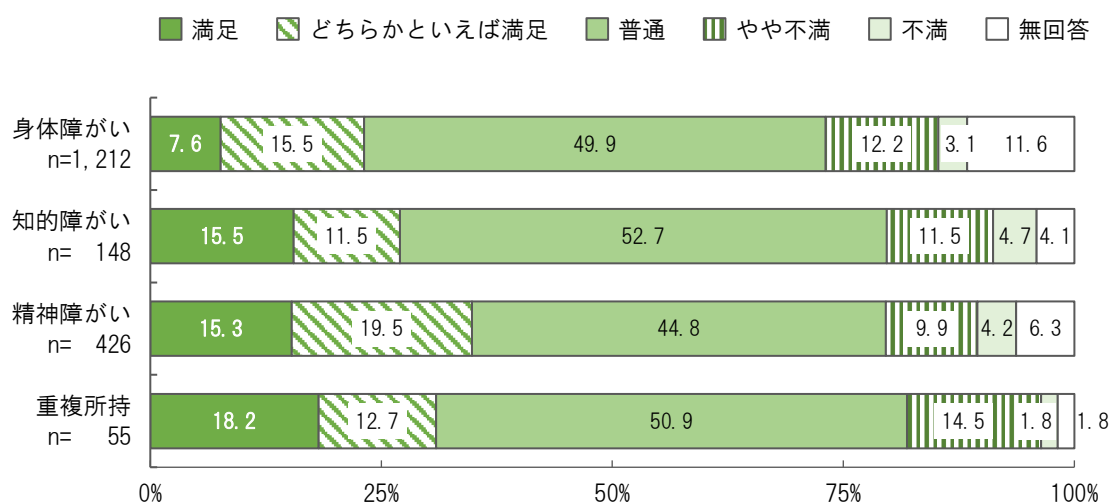
■ 今後の優先度【所持手帳種類別】



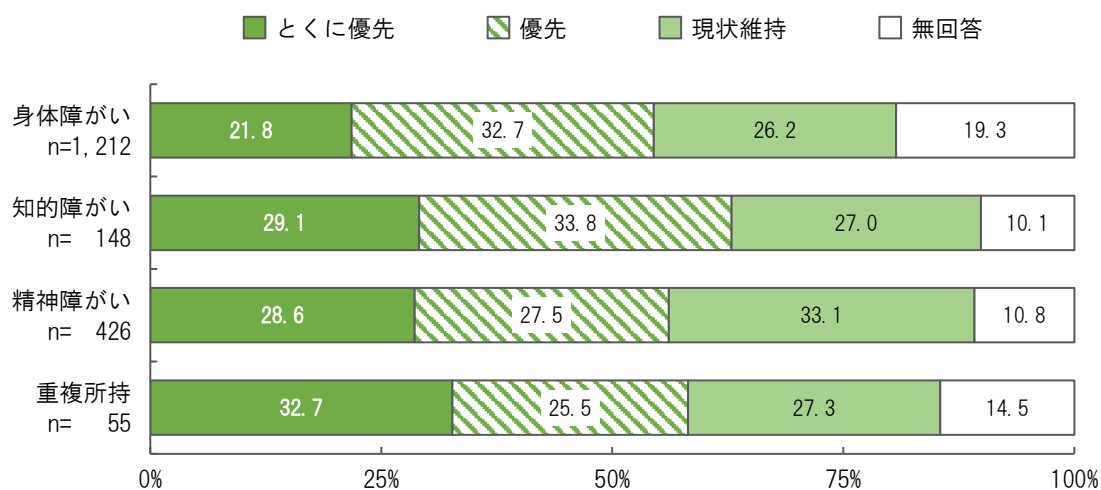
⑧ 保健・医療

- 満足度を所持手帳種類別にみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は身体障がいでは23.1%、知的障がいでは27.0%、精神障がいでは34.8%、重複所持では30.9%となっています。
- 今後の優先度を所持手帳種類別にみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は身体障がいでは54.5%、知的障がいでは62.9%、精神障がいでは56.1%、重複所持では58.2%となっています。

■ 現在の満足度【所持手帳種類別】



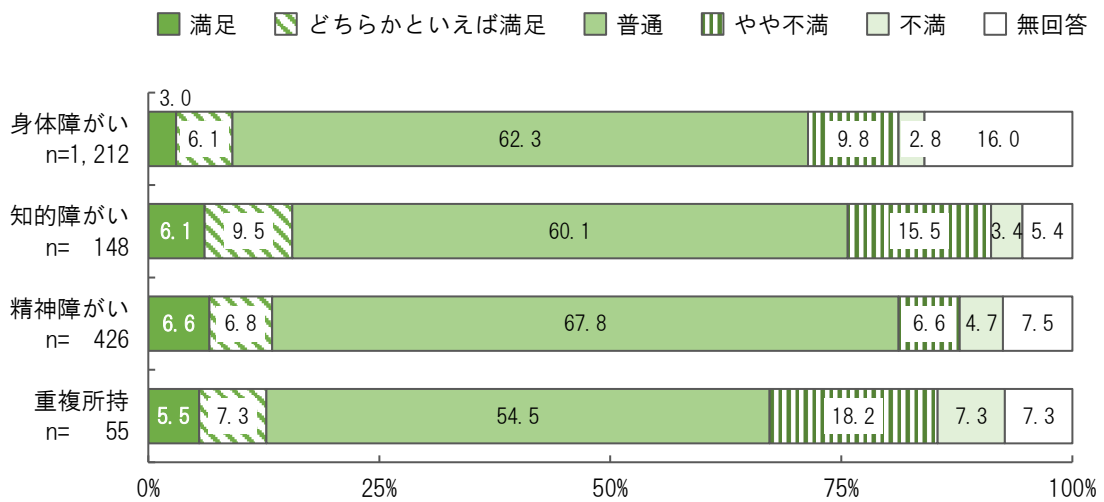
■ 今後の優先度【所持手帳種類別】



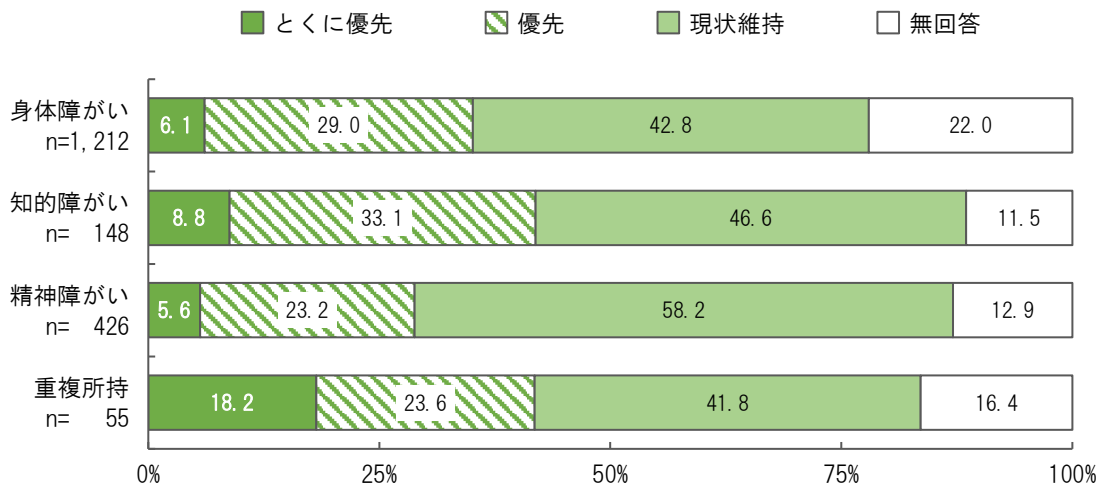
⑨ スポーツ・レクリエーション等

- 満足度を所持手帳種類別にみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は身体障がいでは9.1%、知的障がいでは15.6%、精神障がいでは13.4%、重複所持では12.8%となっています。
- 今後の優先度を所持手帳種類別にみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は身体障がいでは35.1%、知的障がいでは41.9%、精神障がいでは28.8%、重複所持では41.8%となっています。

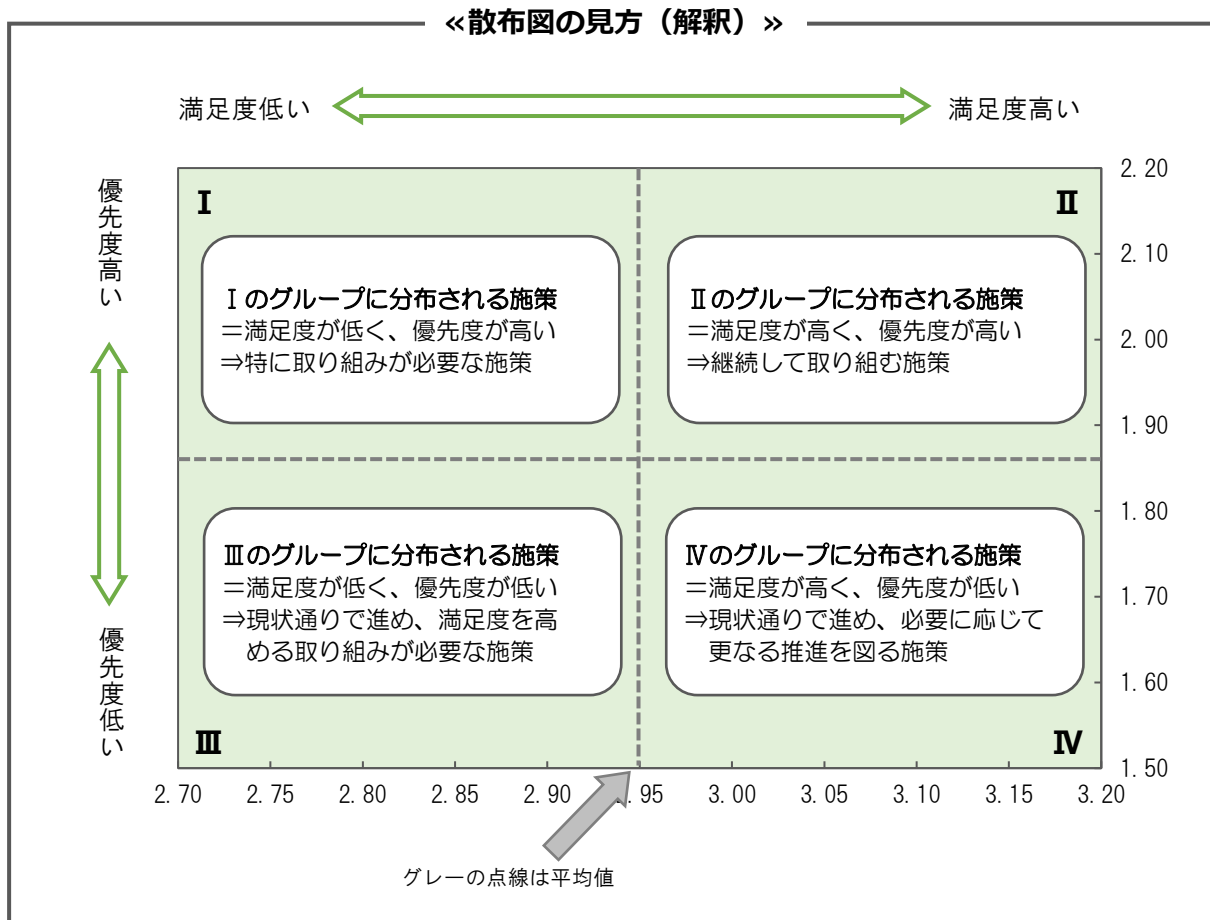
■ 現在の満足度【所持手帳種類別】



■ 今後の優先度【所持手帳種類別】

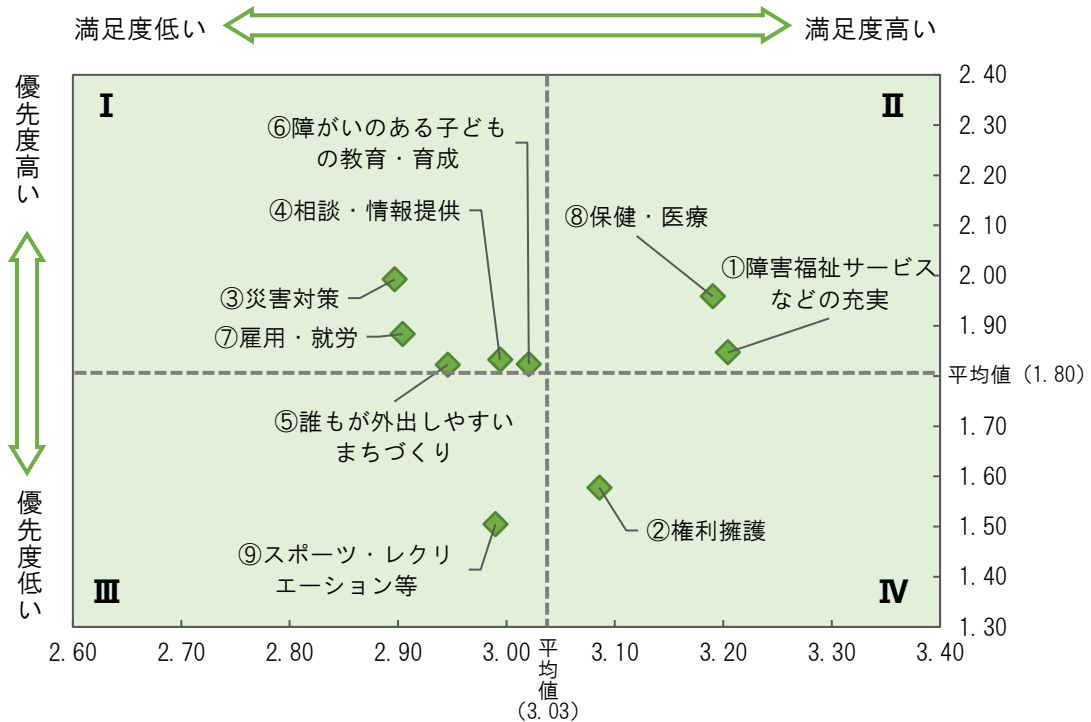


◆以下は、障がい者に関する施策9項目について、「満足度」は5段階、「優先度」は3段階の評価で得た回答を点数化し、横軸を「満足度」、縦軸を「優先度」として散布図にしました。



○グループⅠ（特に取り組みが必要な施策）には、「③災害対策」「④相談・情報提供」「⑤誰もが外出しやすいまちづくり」「⑥障がいのある子どもの教育・育成」「⑦雇用・就労」の5施策が上がり、中でも「③災害対策」「⑦雇用・就労」の優先度は高くなっています。グループⅡ（継続して取り組む施策）には、「①障害福祉サービスなどの充実」「⑧保健・医療」の2施策が上がり、満足度は高いものの、優先度も高くなっています。グループⅢ（現状通りで進め、満足度を高める取り組みが必要な施策）には、「⑨スポーツ・レクリエーション等」が上がっています。グループⅣ（現状通りで進め、必要に応じて更なる推進を図る施策）には、「②権利擁護」が上がっています。

■ 施策の現在の満足度と今後の優先度【全体】

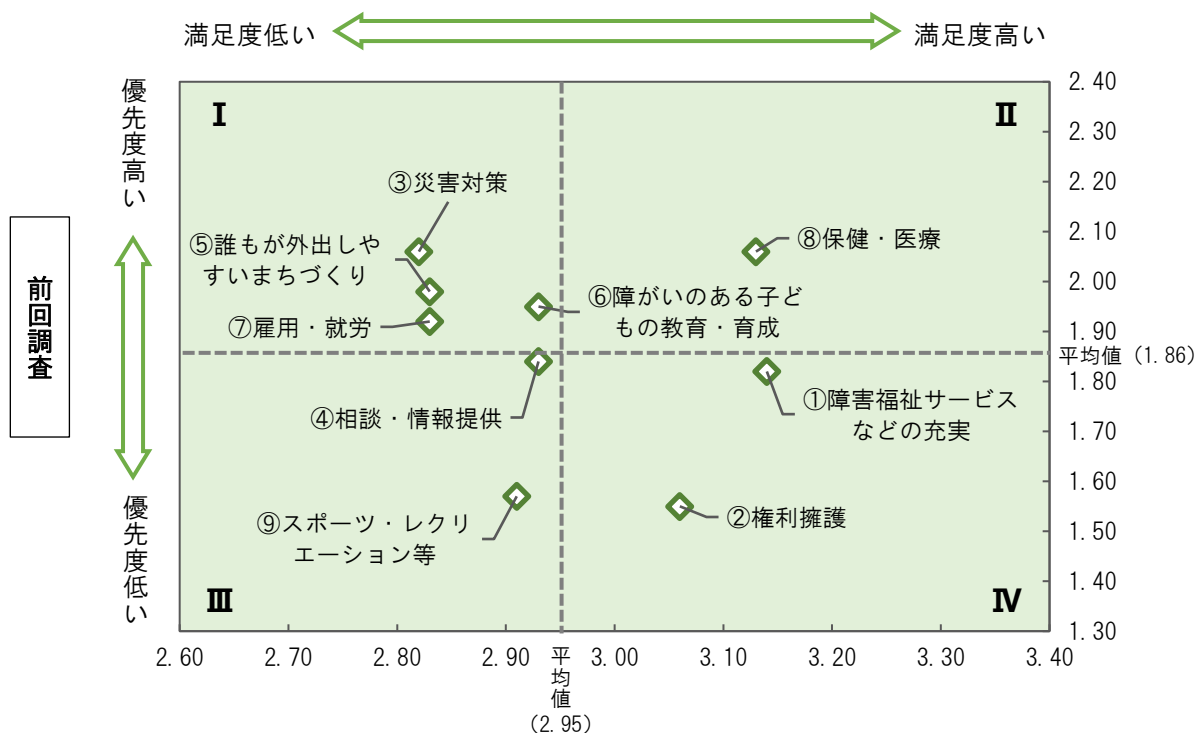
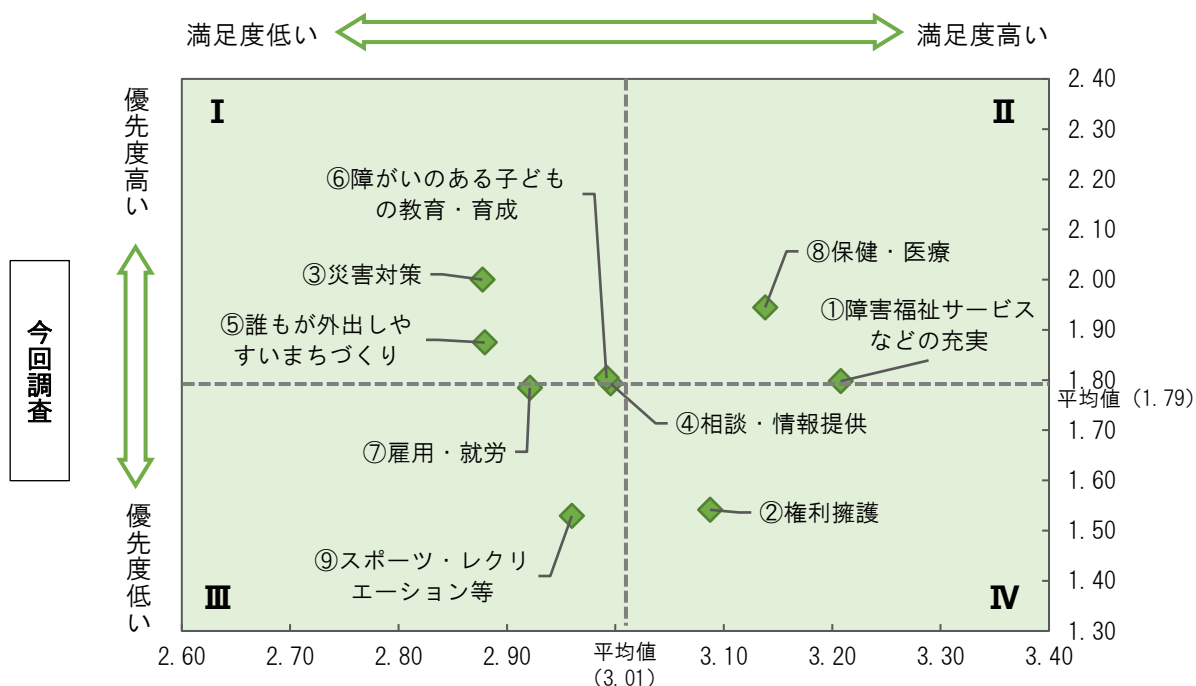


○所持手帳種類別に見ると、いずれの障がいもグループⅠ（特に取り組みが必要な施策）には「③災害対策」が上がっており、優先的に取り組む必要があります。また、「②権利擁護」と「⑨スポーツ・レクリエーション等」は、いずれの障がいでも優先度が低くなっています。

○身体障がいの前回調査との比較をみると、「③災害対策」「⑤誰もが外出しやすいまちづくり」「⑥障がいのある子どもの教育・育成」は前回同様にグループ I であるものの、満足度は上がっています。

すべての施策において、満足度は高く、優先度は低く推移していることから、施策への一定の支持がうかがえます。

■ 施策の現在の満足度と今後の優先度【身体障がい：前回調査比較】

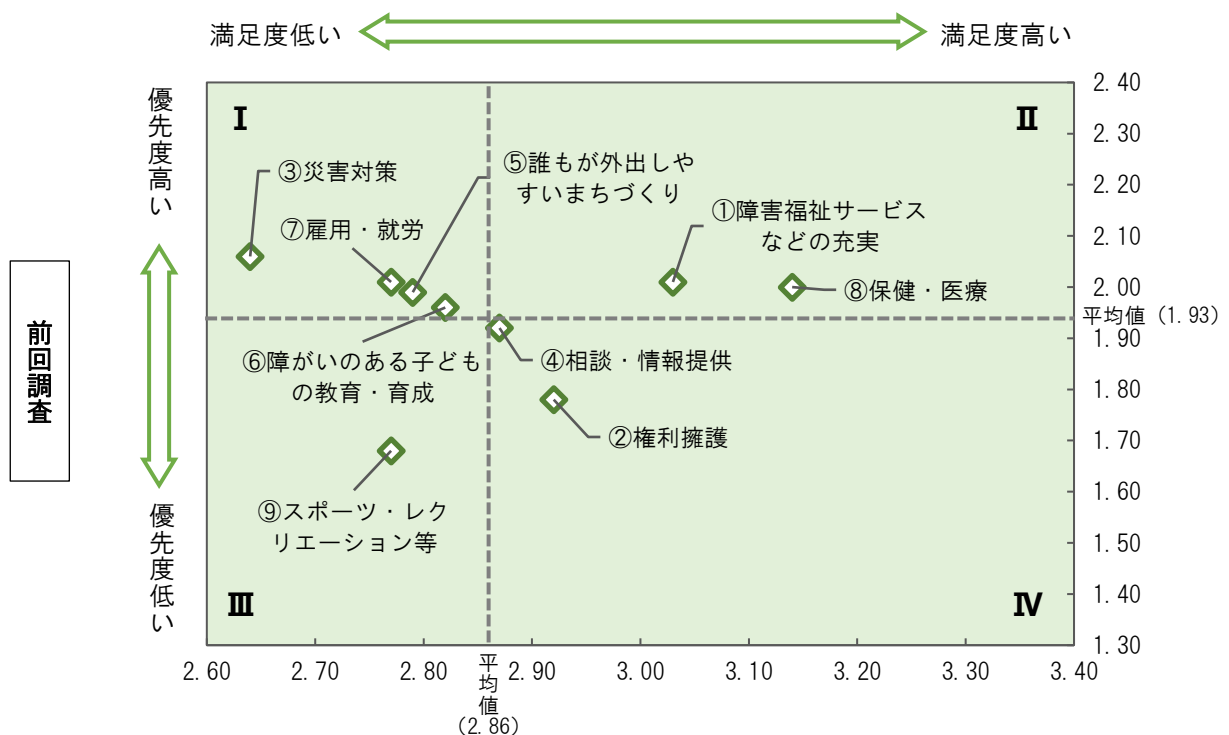
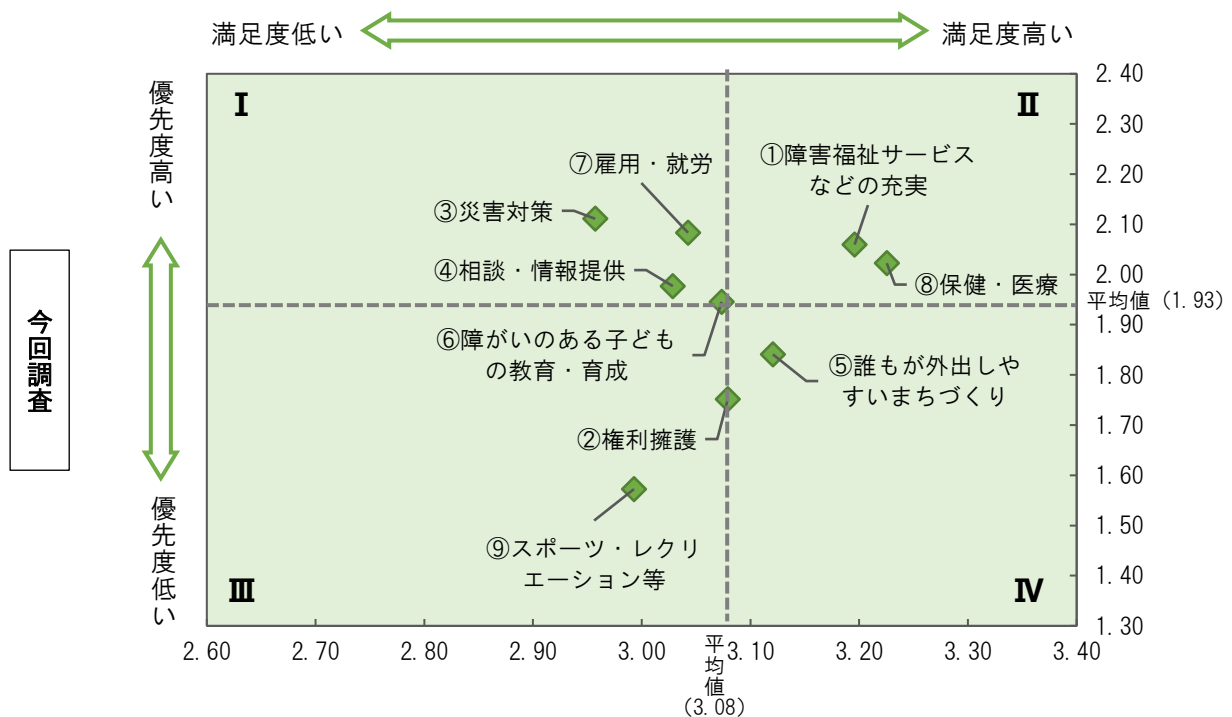


○知的障がいの前回調査との比較をみると、優先度の平均値は変わらないものの、すべて施策において満足度が上がっており、満足度の平均値は大幅に高くなっています。

「③災害対策」「⑥障がいのある子どもの教育・育成」「⑦雇用・就労」は前回同様にグループIであるものの、満足度は大幅に上がっています。

また、前回グループIであった「⑤誰もが外出しやすいまちづくり」は、今回はグループIVとなっていることから、施策への一定の支持がうかがえます。

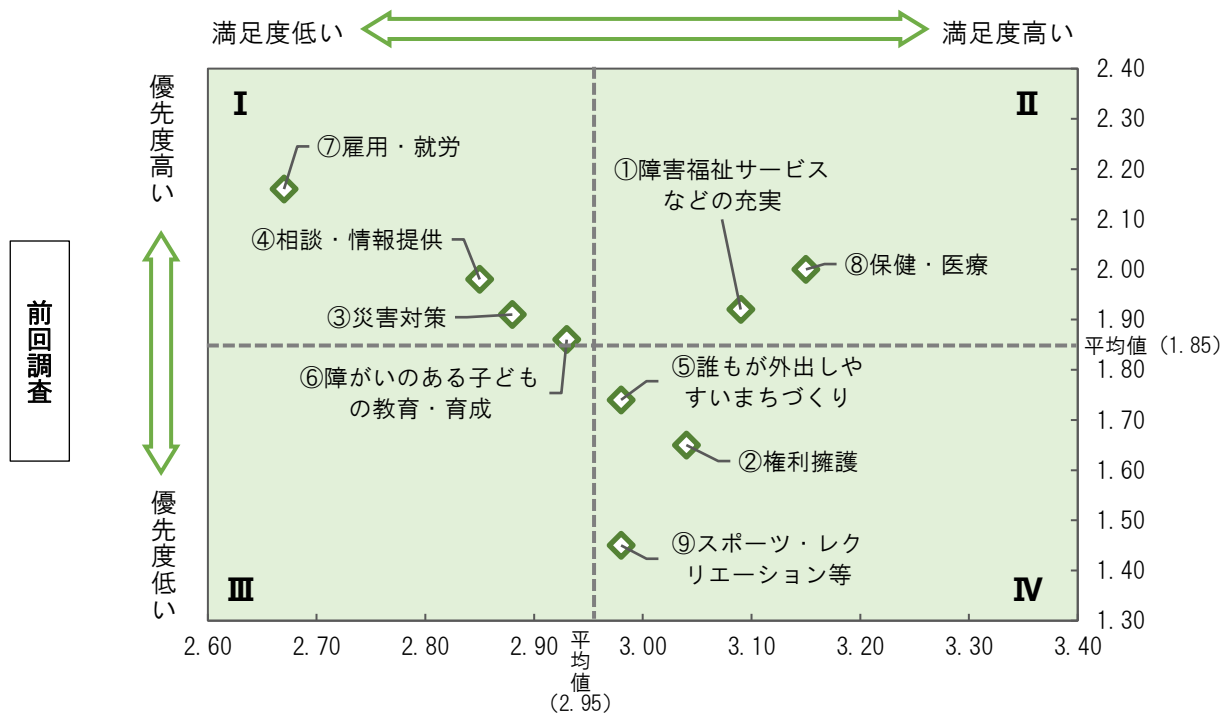
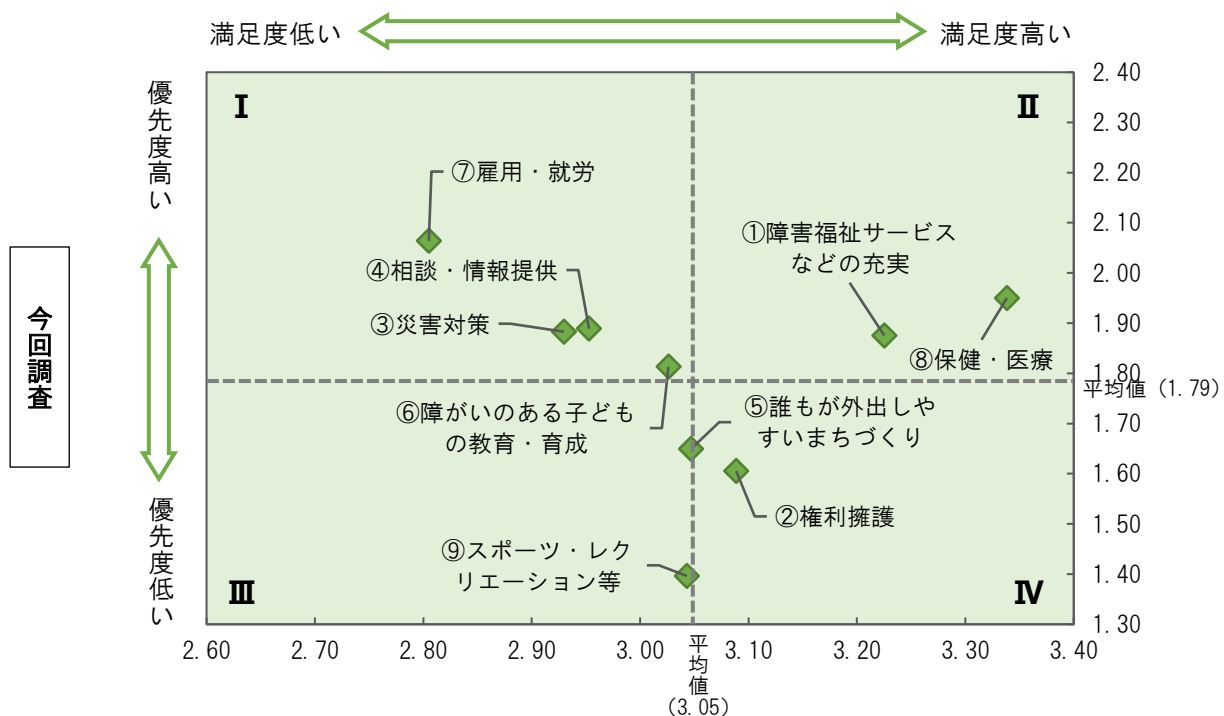
■ 施策の現在の満足度と今後の優先度【知的障がい：前回調査比較】



○精神障がいの前回調査との比較をみると、「③災害対策」「④相談・情報提供」「⑥障がいのある子どもの教育・育成」「⑦雇用・就労」は前回同様にグループ I であるものの、満足度は大幅に上がっています。

すべての施策において満足度は高く、優先度は低く推移していることから、施策への一定の支持がうかがえます。

■ 施策の現在の満足度と今後の優先度【精神障がい：前回調査比較】

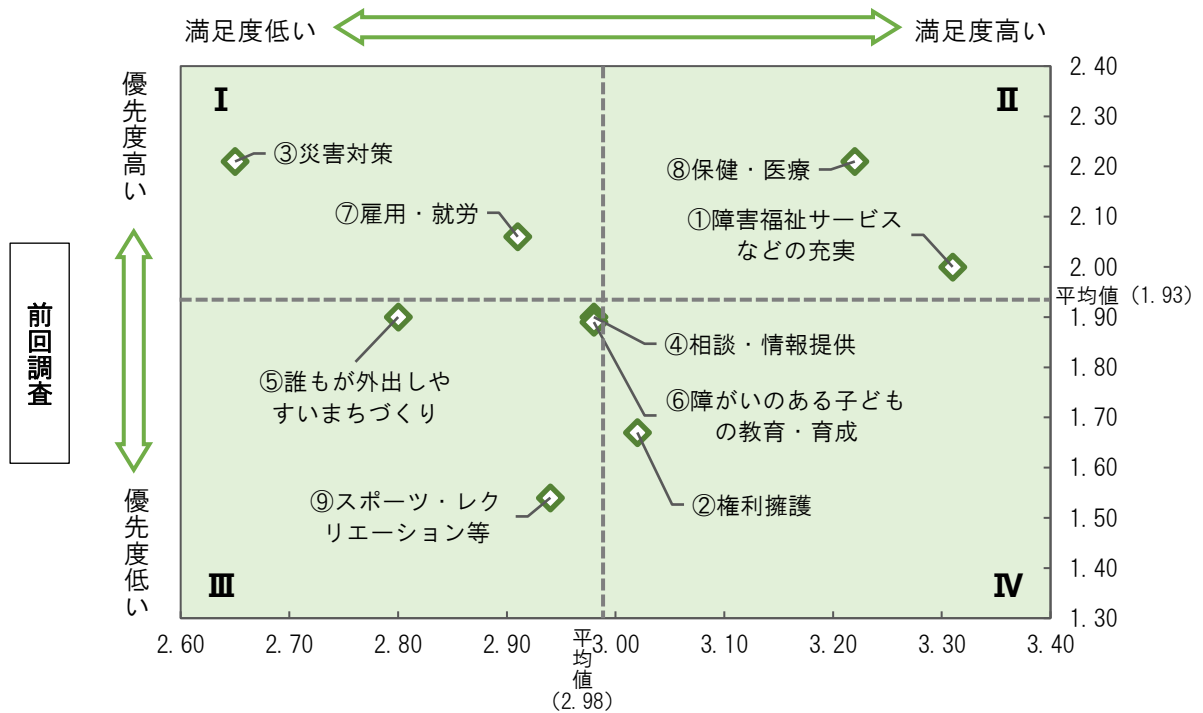
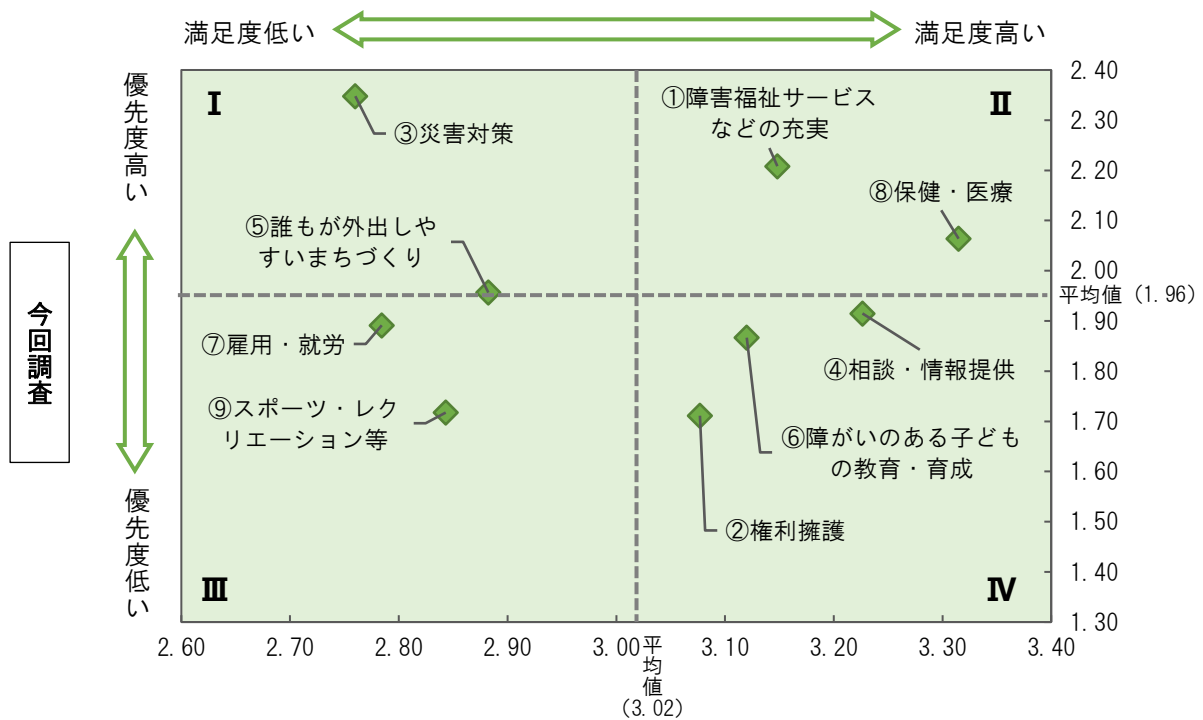


○重複所持の前回調査との比較をみると、満足度の平均値が上がっています。

「③災害対策」は前回同様にグループⅠとなっており、満足度は大幅に上がっているものの優先度も大幅に上がっているため、早期の対策が必要となっています。

また、「①障害福祉サービスなどの充実」「⑨スポーツ・レクリエーション等」は満足度は大幅に低く、優先度は大幅に高く推移し、施策に対する不満が顕在化していることから、対応が求められています。

■ 施策の現在の満足度と今後の優先度【重複所持：前回調査比較】



（2）障がいのある人にとっての尾張旭市の暮らしやすさ

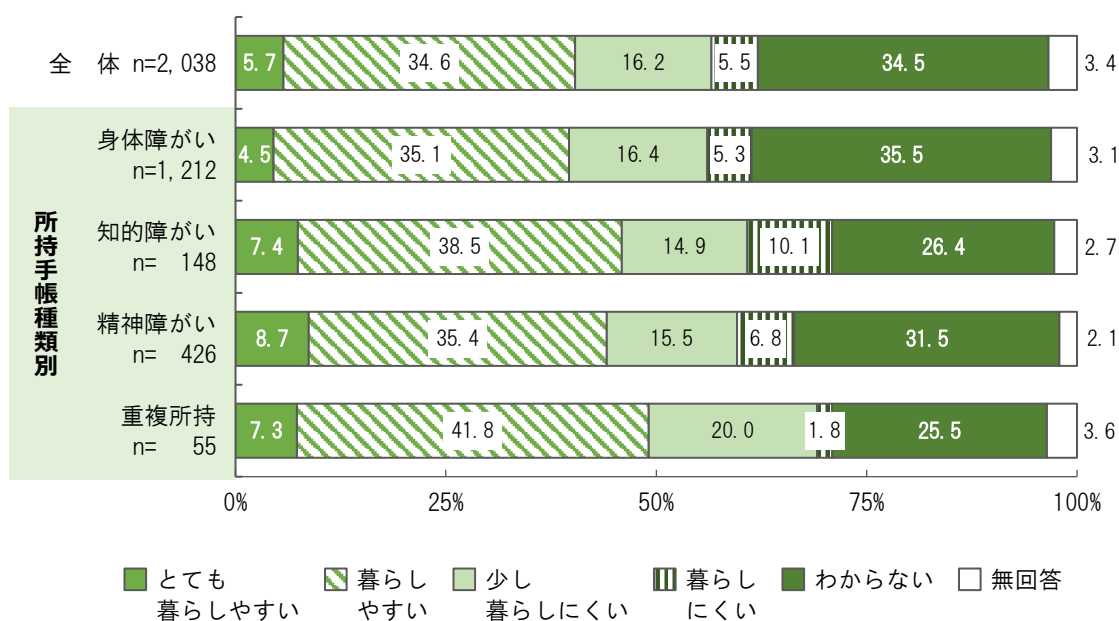
問68 あなたは、障がいのある人にとって尾張旭市は暮らしやすいと思いますか。それとも、暮らしにくいと思いますか。（○は1つ）

○障がいのある人にとって尾張旭市は暮らしやすいと思うかの問いでは、「暮らしやすい」が34.6%と最も高く、「とても暮らしやすい」（5.7%）合わせた40.3%が『暮らしやすい』と回答しています。

一方、『暮らしにくい』（「少し暮らしにくい」+「暮らしにくい」）は21.7%となっています。

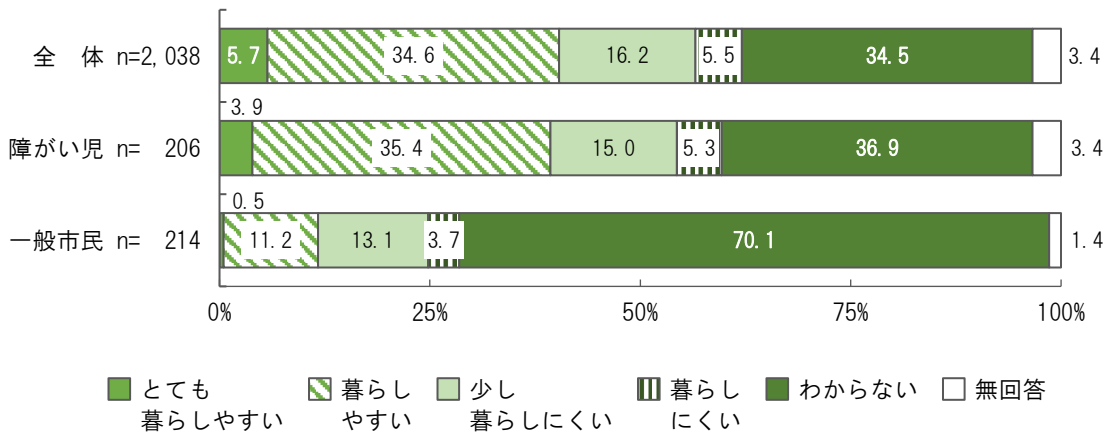
○所持手帳種類別にみると、『暮らしやすい』は身体障がいでは39.6%、知的障がいでは45.9%、精神障がいでは44.1%、重複所持では49.1%となっています。

■ 尾張旭市は暮らしやすいと思うか【所持手帳種類別】



○障がい児調査（問64）・一般市民調査（問12）との比較をみると、『暮らしやすい』は障がい児とは大きな差はないものの、一般市民調査は11.7%と大幅に低くなっています。また、一般市民は「わからない」が70.1%を占めています。

■ 尾張旭市は暮らしやすいと思うか【障がい児・一般市民調査比較】



◆『暮らしやすい』と思う理由と『暮らしにくい』と思う理由は下記のとおりです。

■ 「とても暮らしやすい」理由

「とても暮らしやすい」理由（一部抜粋記載）		所持手帳種類
サービス等の支援の充実	医療を負担していただけたら、大きいことですよ。	精神障がい
	義肢の申請にて尽力をつくして下さい。	身体障がい
	障がい者への手当が充実している。	身体障がい
	職員の方が熱心で親切。人口が少ないので相談窓口が空いている。	精神障がい
	助成があり、デイサービス（東尾張病院）1割負担を市が助成していただいている、助かっています。	精神障がい
地域環境の充実	緊急のときの病院が近くにある交通の便も良いです。	重複所持
	静かで後ろからの自転車など気付けやすい道路が整備しており良いと思う。	身体障がい
	作業所が近くにあって働きやすい。	精神障がい
	病院、スーパー等が近くにあり工場が少なく、周りに池が有り環境面も良い。	知的障がい

■ 「暮らしやすい」理由

「暮らしやすい」理由（一部抜粋記載）		所持手帳種類
サービス等の支援の充実	医療費の助成が、しっかりしている。	精神障がい
	あさぴー号の利用などの助成があること。	身体障がい
	タクシー券の補助等がある事。	身体障がい
	あさひスマイルクーポンの実施などの手当てがある。	精神障がい
	サービスが色々ある、情報提供が色々されてる、窓口で丁寧に対応してくれる。	重複所持
地域環境の充実	公共施設、交通手段等が比較的バリアフリーになっている。	身体障がい
	森林公園があり家の近くには公園があり、買物も便利で通所施設に毎日元気に行けています。	知的障がい
	近くに就労支援施設があって歩いて通える。	精神障がい
	私の行動範囲はきわめて狭いですが、あさぴーが走り出してから、買い物や通院でよく利用しています。（我が家には車がありません）	精神障がい
	医療施設の充実。	身体障がい

■ 「少し暮らしにくい」理由

「少し暮らしにくい」理由（一部抜粋記載）		所持手帳種類
サービス等の支援が不十分	市の財政が苦しいために特定疾患の人の通院の福祉医療が無くなった。	身体障がい
	障がいのある人のデイサービスは少ないと思う。	身体障がい
	将来、自分がどのような生活を送るのか見えて来ない所。尾張旭市独自のグループホームや施設がない。	知的障がい
	もっと市民税等を下げてほしい。	精神障がい
	市に相談したときに真摯に相談にのってもらえず、締切り組に対応される。通院時に介護タクシーを使用したいが、制限があり、難しい。	重複所持
	災害時の対応が全くわからないので不安。親亡きあとの子どもの将来も不安。安心して預けられる施設がない。	重複所持
地域環境の不便さ・理解が少ない	公共交通機関の便数が少ない。どうしても自家用車を選択してしまう。	身体障がい
	バスの運行が少ないので、あまり使えない。	身体障がい
	ひとりで移動が困難。あさぴー号に乗りにくい。	知的障がい
	道路にガードレールや街灯が少ない	精神障がい
	あさぴー号 1 時間に 1 本では日常的に使うには少し厳しい。	重複所持

■ 「暮らしにくい」理由

「暮らしにくい」理由（一部抜粋記載）		所持手帳種類
サービス等の支援が不十分	福祉サービスが充実していない。	身体障がい
	肢体不自由障がい者の入居施設がほとんど、利用不可能な状況。	身体障がい
	充実した施設がない様に思う。よい施設があれば、体力もつくし回復もするでしょう。私は色々見て春日井市に決め、行っています。	身体障がい
	就労支援を初めて利用の際、精神の人は難しいので利用を中止したらと提案された。	精神障がい
	生活費の支援が無い。食事も作れない不安（パニック）など、とても一人暮らしができない。	精神障がい
	福祉サービスの利用の仕方を教えてもらえない。	精神障がい
	訪問リハビリが利用できないのが、つらいです。生活費の面も苦しいです。	重複所持
学校も生活介護事業所もすべて市外に行っている。（受け入れてくれるところがない）	重複所持	
地域環境の不便さ	車がない場合、移動することが難しく病院への通院や、買い物がすごくたいへん困っています。	身体障がい
	側道の段差、幅がせまい。公園の階段の不足、整備不十分等々。	身体障がい
	公共施設が少ない。	精神障がい
	歩行者通路の幅がせまい。	精神障がい
	仕事を探すのも難しく暮らしにくいと思いました。	知的障がい
	坂も多いし、どこへ行くにも遠い。（スーパー、病院、駅）	知的障がい
	土日祝日も含め、あさび一号バスの運行本数が少なすぎる。	知的障がい

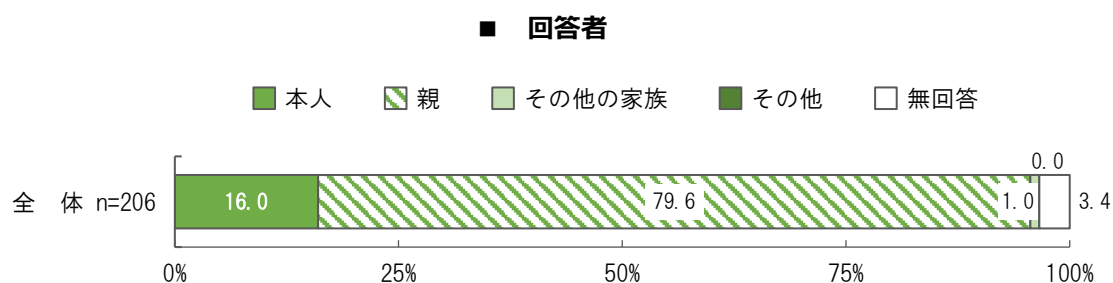
Ⅲ 調査の結果（障がい児）

1 調査の回答者について

（1）調査票の記入者

■ このアンケートをご記入いただくのはどなたですか。（○は1つ）

○調査の回答者は、「本人」が16.0%、「親」が79.6%、「その他家族」が1.0%となっています。

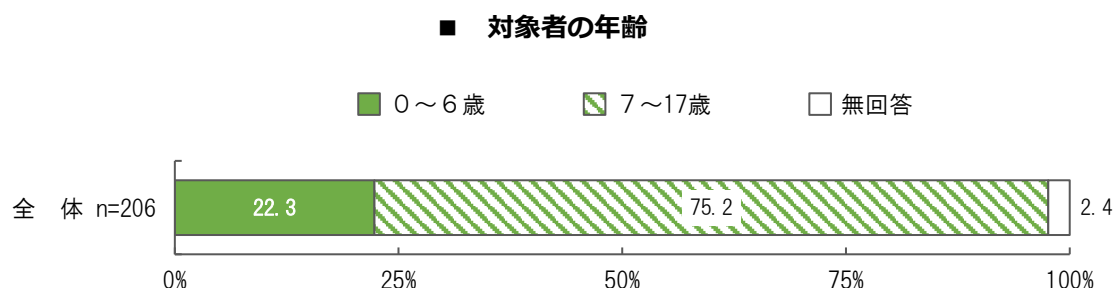


2 あなた（宛名の方）の年齢、ご家族などについて

（1）対象者の年齢

問1 あなた（封筒の宛名のご本人）の年齢は満何歳ですか（令和8年1月1日現在）。

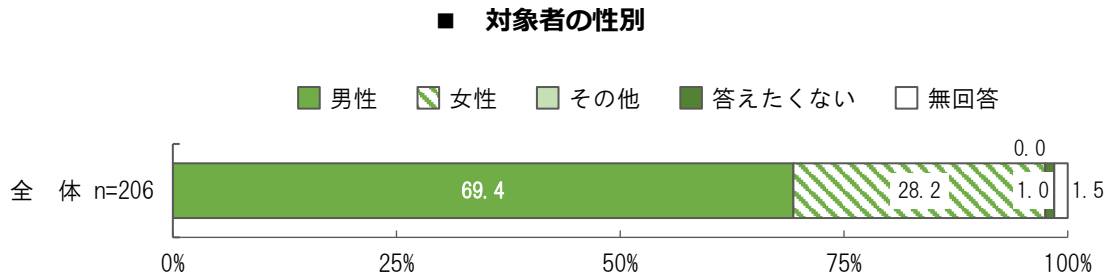
○対象者の年齢は、「0～6歳」が22.3%、「7～17歳」が75.2%となっています。



（2）対象者の性別

問2 あなたの性別をお答えください。（○は1つ）

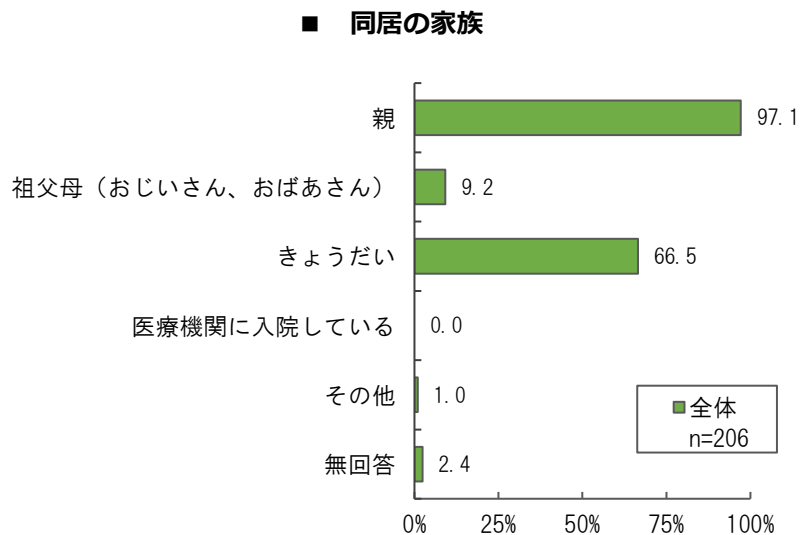
○対象者の性別は、「男性」が69.4%、「女性」が28.2%となっています。



（3）同居の家族

問3 現在、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。（○はいくつでも）

○同居の家族の状況を見ると、「親」が97.1%と最も高く、次いで「きょうだい」が66.5%となっています。



3 あなたの障がいの種類、等級（程度）などについて

(1) 障害者手帳の所持状況

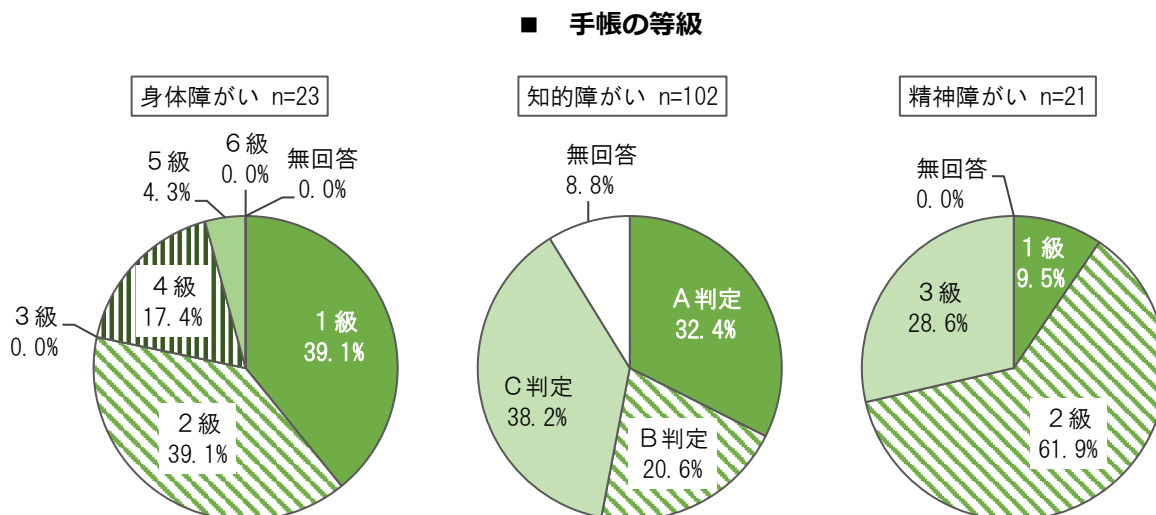
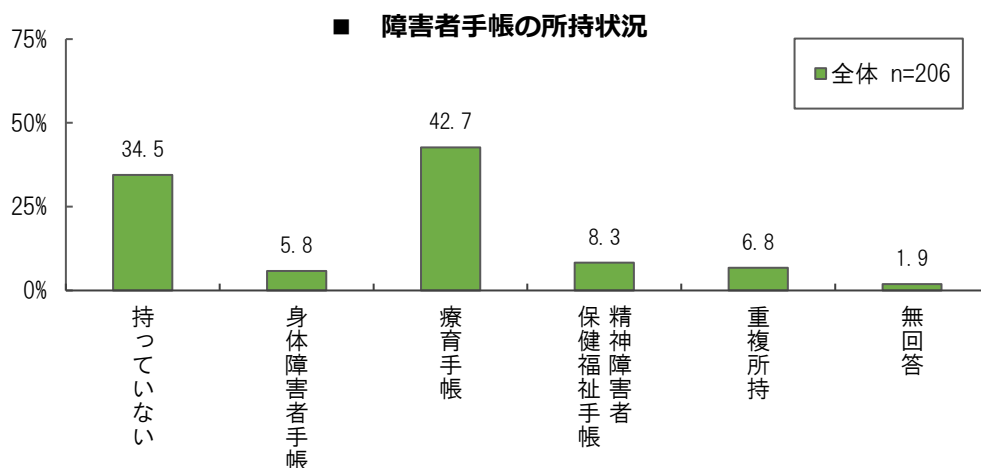
問4 あなたが、お持ちの障害者手帳は次のどれですか。（○はいくつでも）
また、お持ちの手帳については、あてはまる等級（程度）に○をつけてください。

○対象者が持っている障害者手帳の種類は、「療育手帳」が42.7%と最も高く、「身体障害者手帳」が5.8%、と「精神障害者保健福祉手帳」が8.3%、「重複所持」が6.8%となっています。一方、「持っていない」は34.5%となっています。

○各手帳の等級は、『身体障害者手帳』では「1級」「2級」が各39.1%と最も高く、次いで「4級」が17.4%となっています。

『療育手帳』では「C判定」が38.2%と最も高く、次いで「A判定」が32.4%、「B判定」が20.6%となっています。

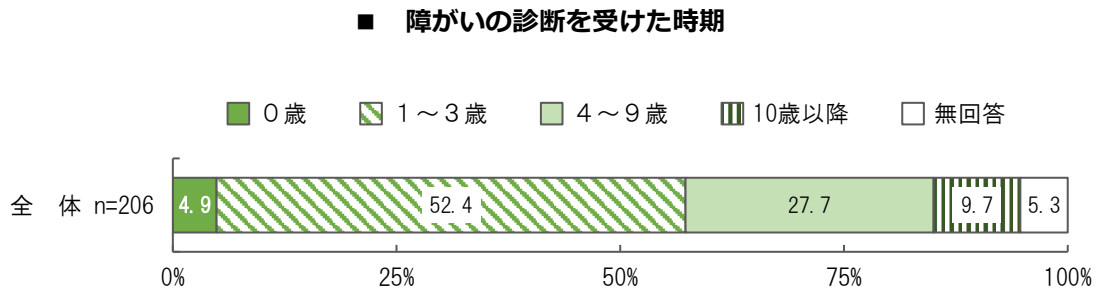
『精神障害者保健福祉手帳』では「2級」が61.9%と最も高く、次いで「3級」が28.6%、「1級」が9.5%となっています。



（2）障がいの診断を受けた時期

問5 あなたが最初に診断を受けた時期（気付いた時期）は何歳ごろですか。

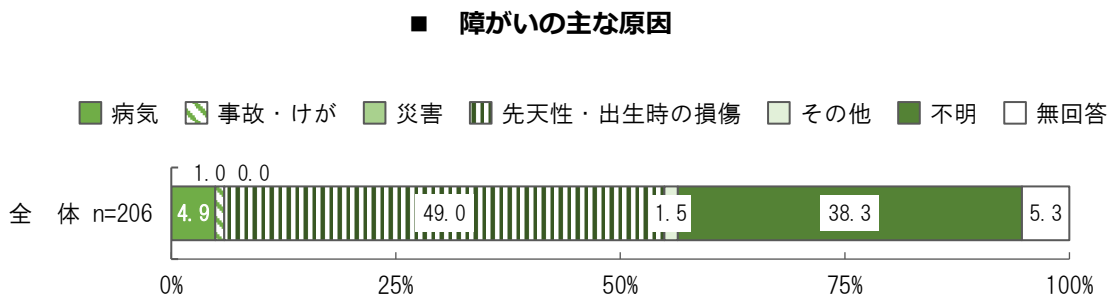
○最初に障がいの診断を受けた時期は、「1～3歳」が52.4%と最も高く、次いで「4～9歳」が27.7%、「10歳以降」が9.7%となっています。



（3）障がいの主な原因

問6 障がいの主な原因はつぎのどれですか。（○は1つ）

○障がいの主な原因は、「先天性・出生時の損傷」が49.0%と最も高く、次いで「不明」が38.3%、「病気」が4.9%となっています。

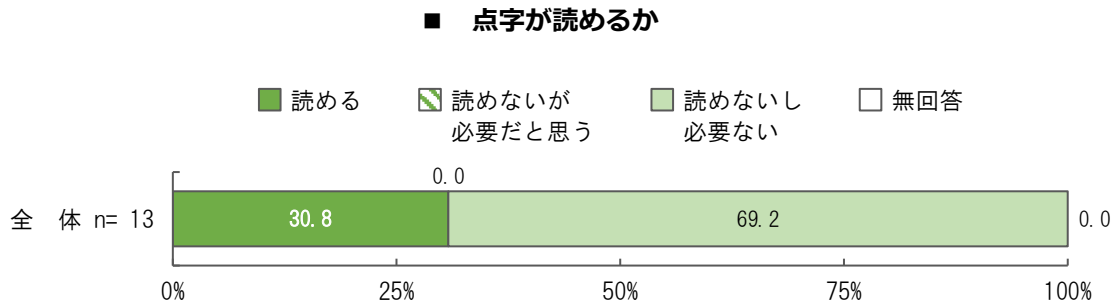


（４）点字の利用

視覚障がいのある方のみ

問7 あなたは、点字が読めますか。（○は1つ）

○点字が「読める」のは30.8%となっています。

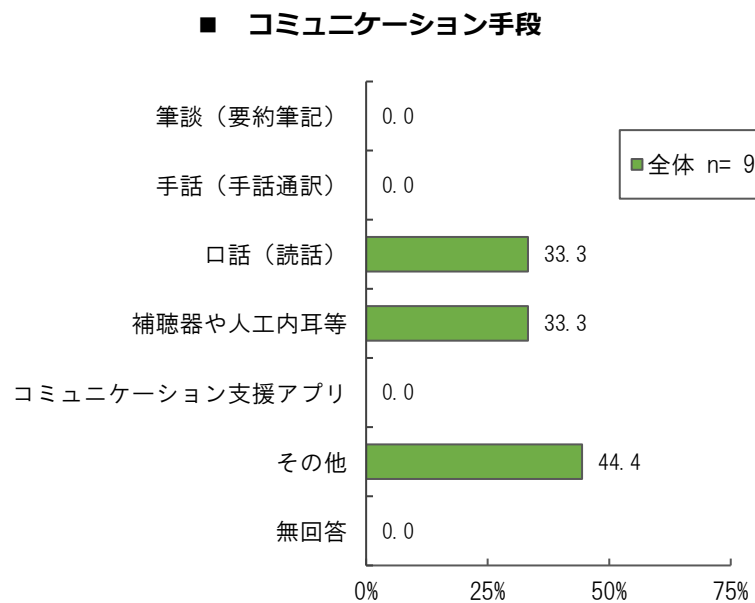


（５）コミュニケーション手段

聴覚・言語障がいのある方のみ

問8 あなたは、日常的にどのようなコミュニケーション手段を利用していますか。（○はいくつでも）

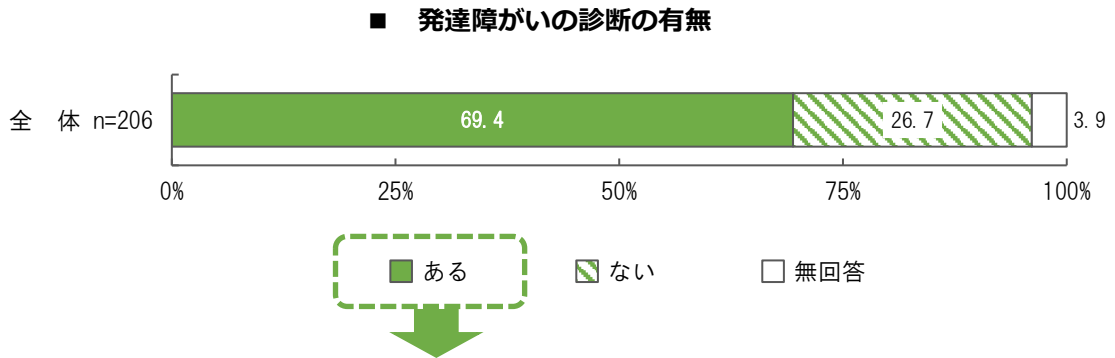
○聴覚・言語障がいがある方のコミュニケーション手段をみると、「口話（読話）」「補聴器や人工内耳等」が各33.3%となっています。



（6）発達障がいの診断状況

問9 あなたは発達障がいとして診断されたことはありますか。（○は1つ）

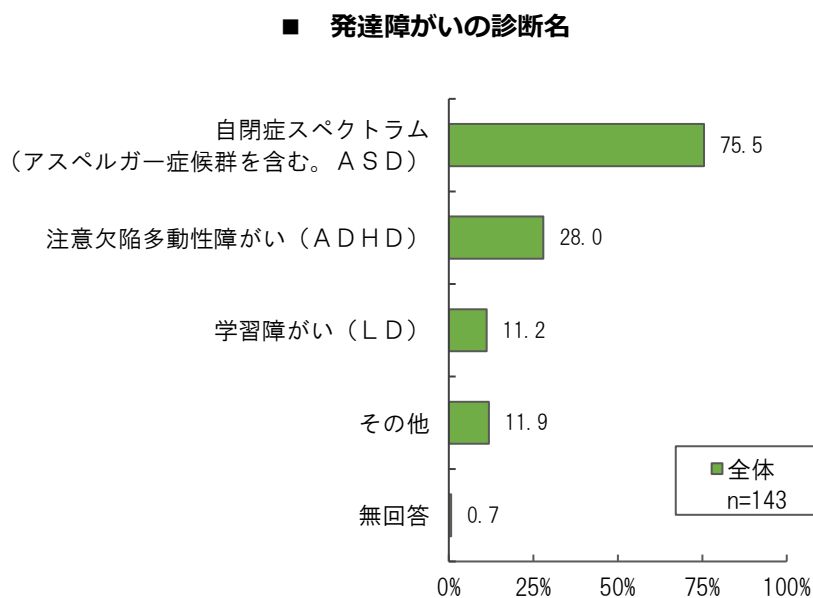
○発達障がいの診断状況を見ると、「ある」が69.4%、「ない」が26.7%となっています。



問9で「ある」と答えた方のみ

問10 診断名は何ですか。（○はいくつでも）

○診断された発達障がいは、「自閉症スペクトラム（アスペルガー症候群を含む。ASD）」が75.5%と最も高く、次いで「注意欠陥多動性障がい（ADHD）」が28.0%、「学習障がい（LD）」が11.2%となっています。

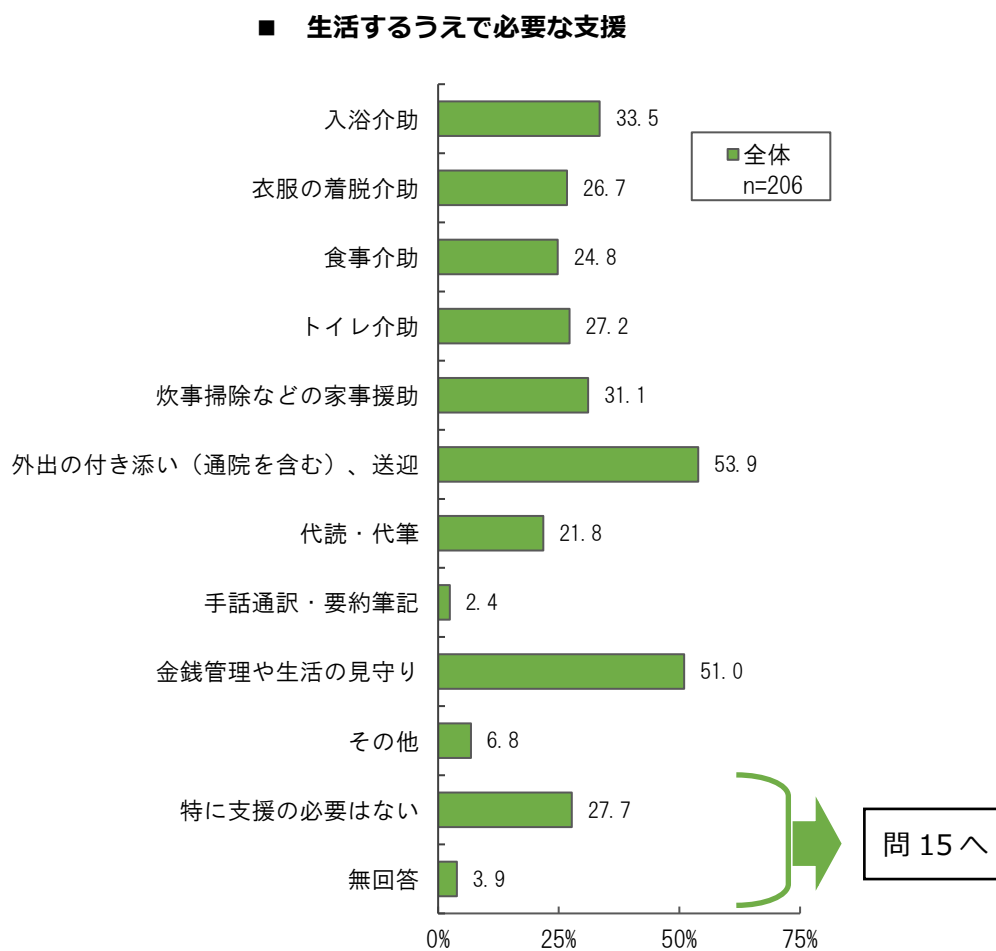


4 支援（援助、介助、看護）してくれる人のことについて

（1）生活するうえで必要な支援

問11 ふだんの生活で、どのような支援が必要ですか。（○はいくつでも）

○生活するうえで必要な支援をみると、「外出の付き添い（通院を含む）、送迎」が53.9%と最も高く、次いで「金銭管理や生活の見守り」が51.0%、「入浴介助」が33.5%となっています。

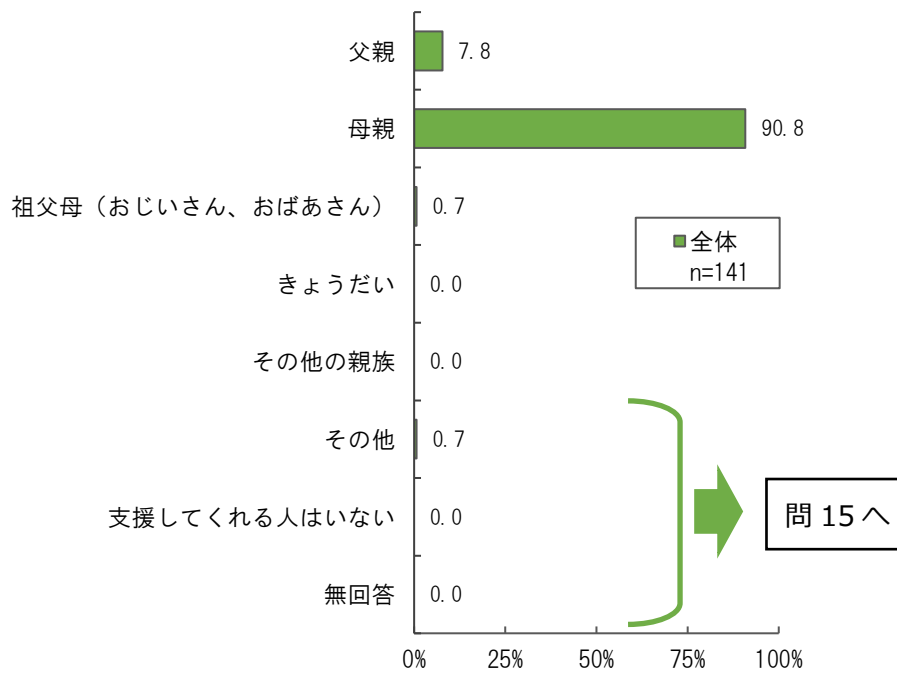


（2）主な支援者

問12 主に支援してくれる人はどなたですか。（○は1つ）

○主に支援をしてくれる人は、「母親」が90.8%と最も高く、次いで「父親」が7.8%となっています。

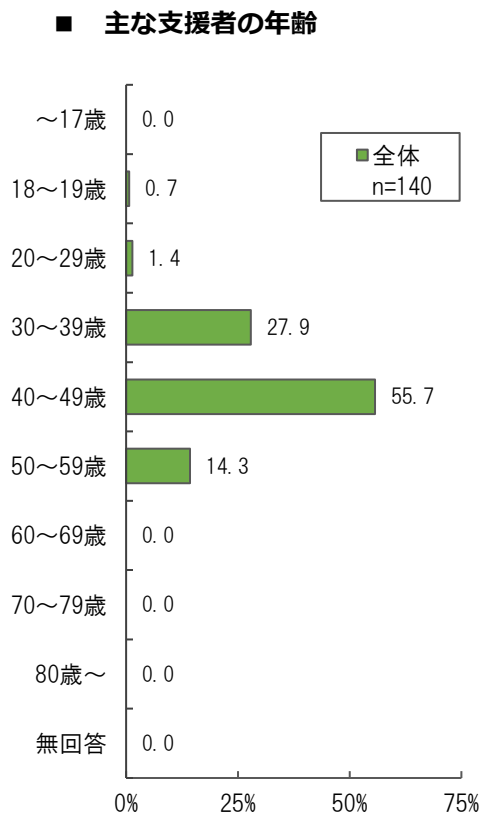
■ 主に支援してくれる人



（3）主な支援者の年齢

問13 主に支援してくれる人は何歳ですか。（○は1つ）

○主な支援者の年齢は、「40～49歳」が55.7%と最も高く、次いで「30～39歳」が27.9%、「50～59歳」が14.3%となっています。

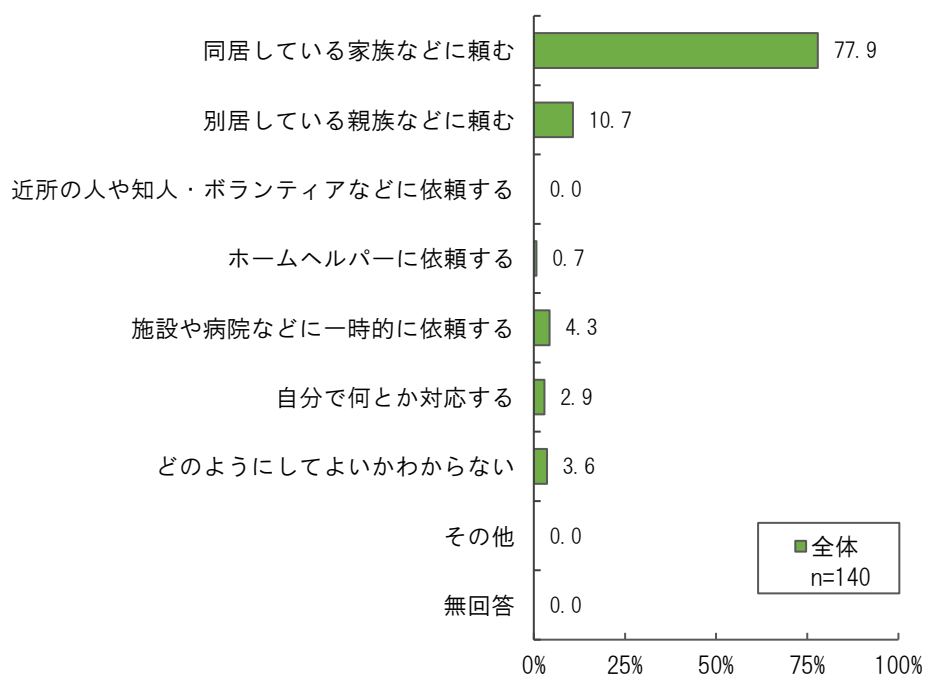


（４）主な支援者が一時的に援助できない場合の対処

問14 主に支援してくれる人が、万一急病や事故、用事などのために一時的に援助ができなくなった場合、どのようにすることになっていますか。（○は1つ）

○主な支援者が一時的に援助できない場合の対処は、「同居している家族などに頼む」が77.9%と最も高く、次いで「別居している親族などに頼む」が10.7%となっています。また、「どのようにしてよいかわからない」は3.6%となっています。

■ 主な支援者が一時的に援助できない場合の対処



5 医療について

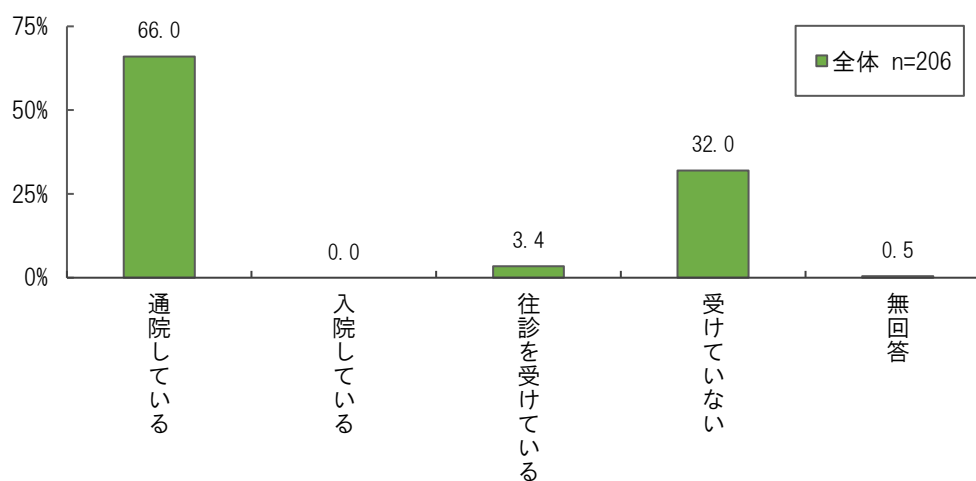
(1) 病気等の治療状況

問15 あなたは現在、病院などでなんらかの治療を受けていますか。（○はいくつでも）

○病院などでの治療状況をみると、「通院している」が66.0%と最も高く、「往診を受けている」は3.4%となっています。

一方、「受けていない」は32.0%となっています。

■ 病気等の治療状況

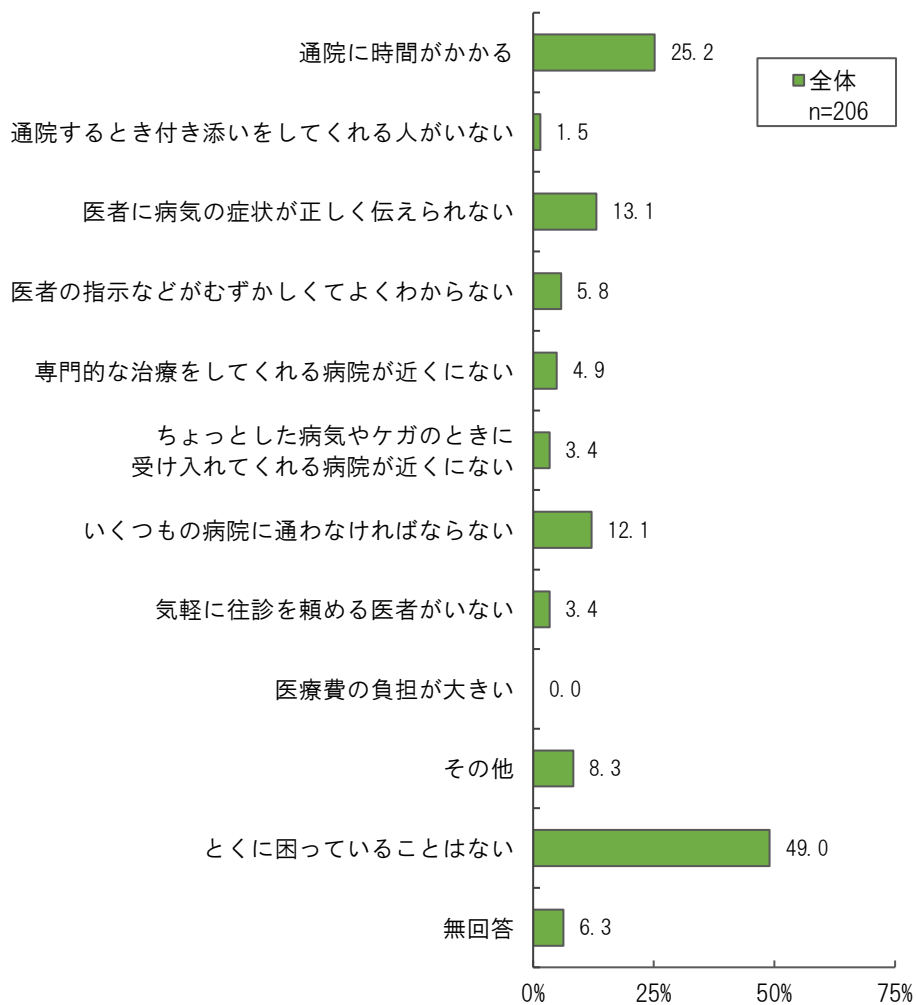


（2）医療に関して困っていること

問16 医療のことで、なにか困っていることがありますか。（○はいくつでも）

○医療のことで困っていることをみると、「とくに困っていることはない」が49.0%と最も高いものの、「通院に時間がかかる」（25.2%）、「医者に病気の症状が正しく伝えられない」（13.1%）、「いくつもの病院に通わなければならない」（12.1%）は1割以上が困っていることとしてあげています。

■ 医療に関して困っていること

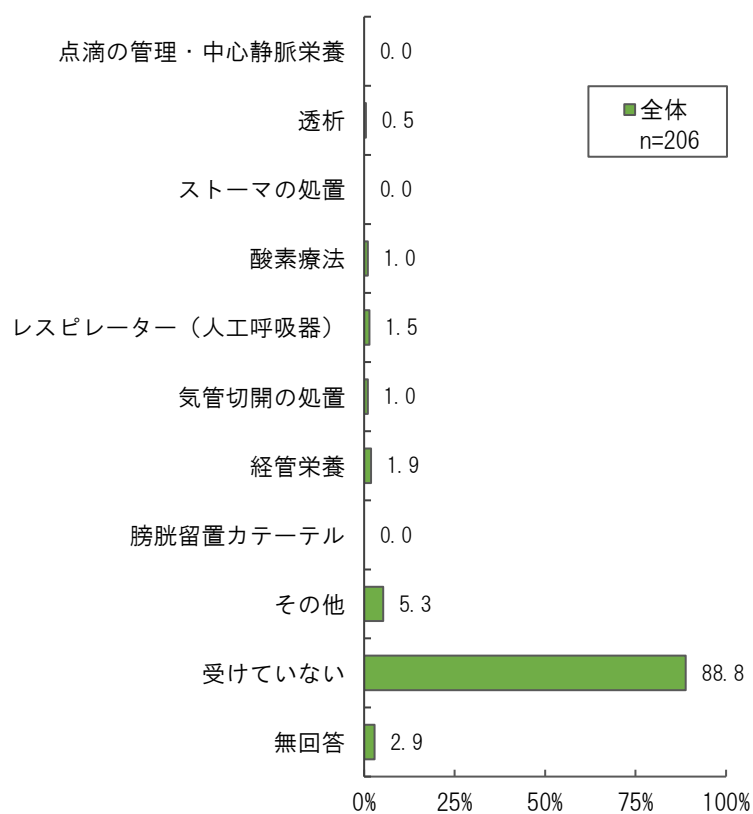


（４）医療的支援の状況

問17 あなたは、ふだん次のような、医療的支援を受けていますか。（○はいくつでも）

- 医療的支援は、「受けていない」が88.8%と最も高くなっています。また、受けている支援は、「経管栄養」が1.9%、「レスピレーター（人工呼吸器）」が1.5%となっています。
- 全体に占める割合は少ないものの医療的ケアの必要な子どもに対する対応は、預け先の少なさや家族への支援などの課題があり、今後の課題として捉える必要があります。

■ ふだん受けている医療的支援

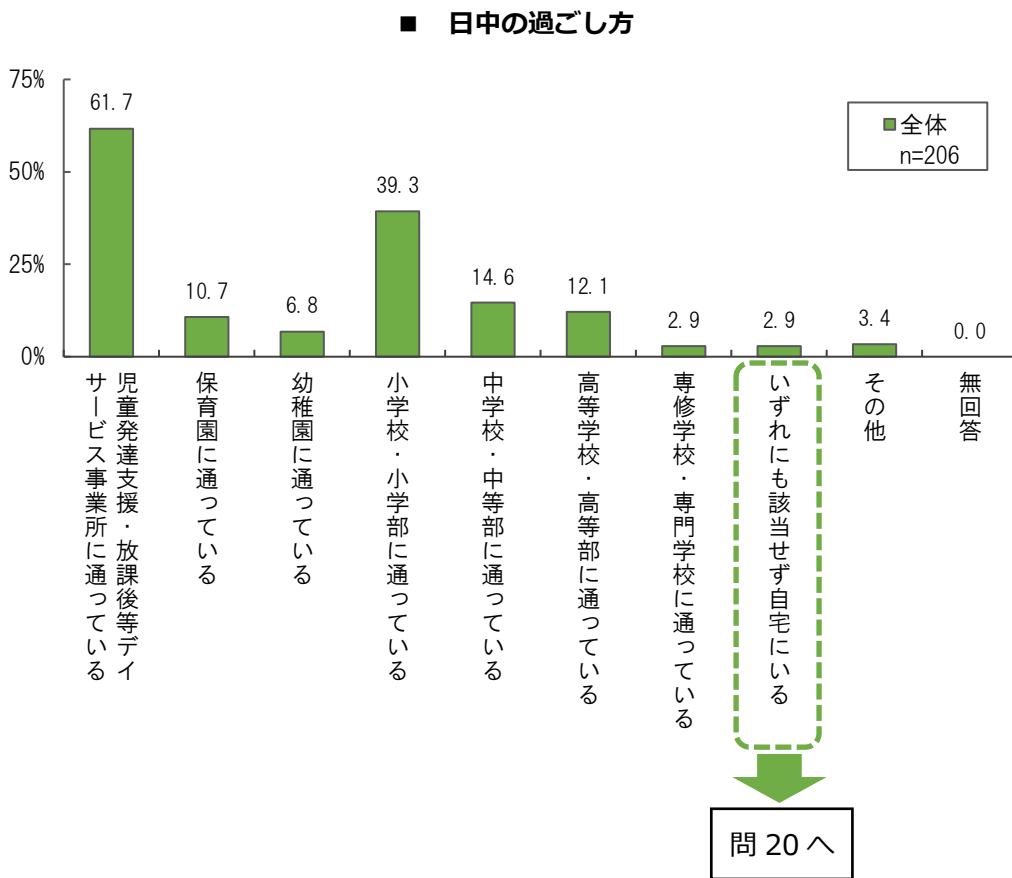


6 日中の活動について

(1) 日中の過ごし方

問18 現在、日中は主にどのように過ごしていますか。（○はいくつでも）

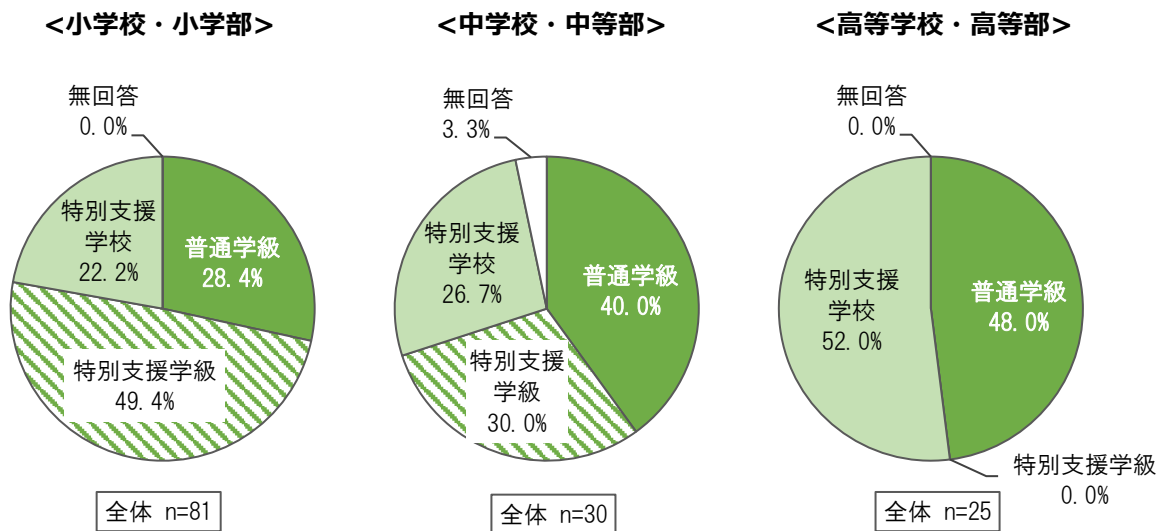
○日中の主な過ごし方をみると、「児童発達支援・放課後等デイサービス事業所に通っている」が61.7%と最も高く、次いで「小学校・小学部に通っている」が39.3%、「中学校・中等部に通っている」が14.6%となっています。



○小学校・小学部に通っている方は、「特別支援学級」が49.4%と最も高く、次いで「普通学級」(28.4%)、「特別支援学校」(22.2%)となっています。

中学校・中等部に通っている方は、「普通学級」が40.0%と最も高く、次いで「特別支援学級」(30.0%)、「特別支援学校」(26.7%)となっています。

高等学校・高等部に通っている方は、「特別支援学校」が52.0%、「普通学級」が48.0%となっています。

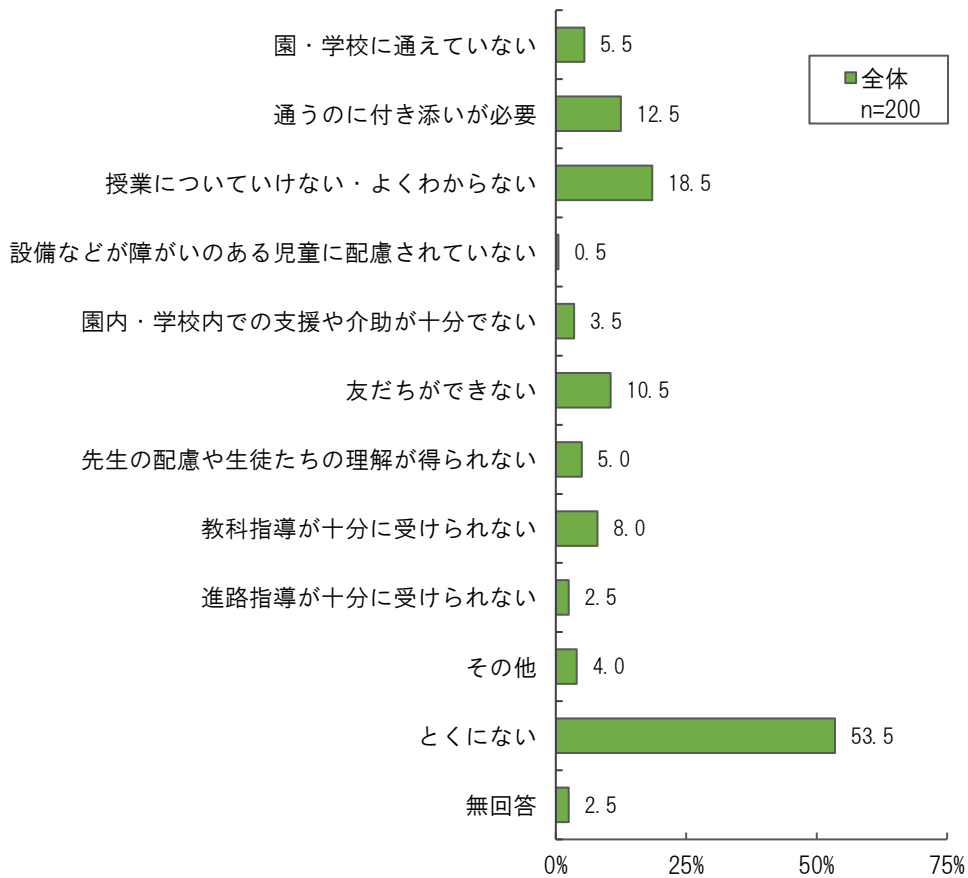


（2）通っている園や学校で困っていること

問19 現在通っている園や学校で困っていることがありますか。（○はいくつでも）

○通っている園や学校で困っていることは、「とくにない」が53.5%と最も高いものの、「授業についていけない・よくわからない」(18.5%)、「通うのに付き添いが必要」(12.5%)、「友だちができない」(10.5%) は1割以上が困っていることとしてあげています。

■ 通っている園や学校で困っていること

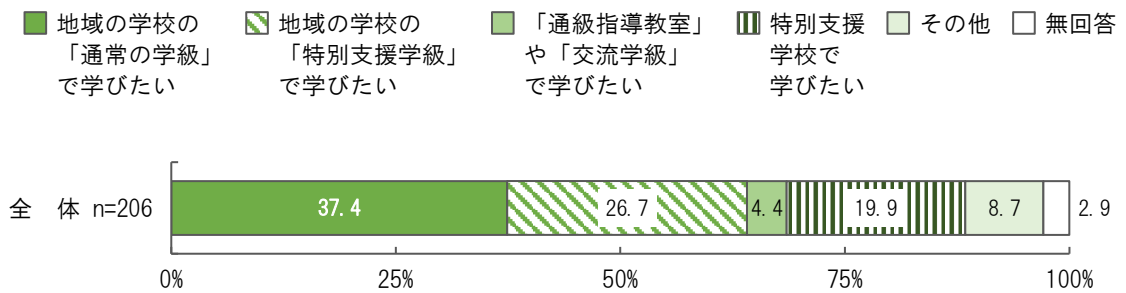


（3）学びの環境の希望

問20 どこで学びたいですか。（○は1つ）

○希望する学びの環境は、『地域の学校の「通常の学級」で学びたい』が37.4%と最も高く、次いで『地域の学校の「特別支援学級」で学びたい』が26.7%、『特別支援学校で学びたい』が19.9%となっています。

■ 学びの環境の希望



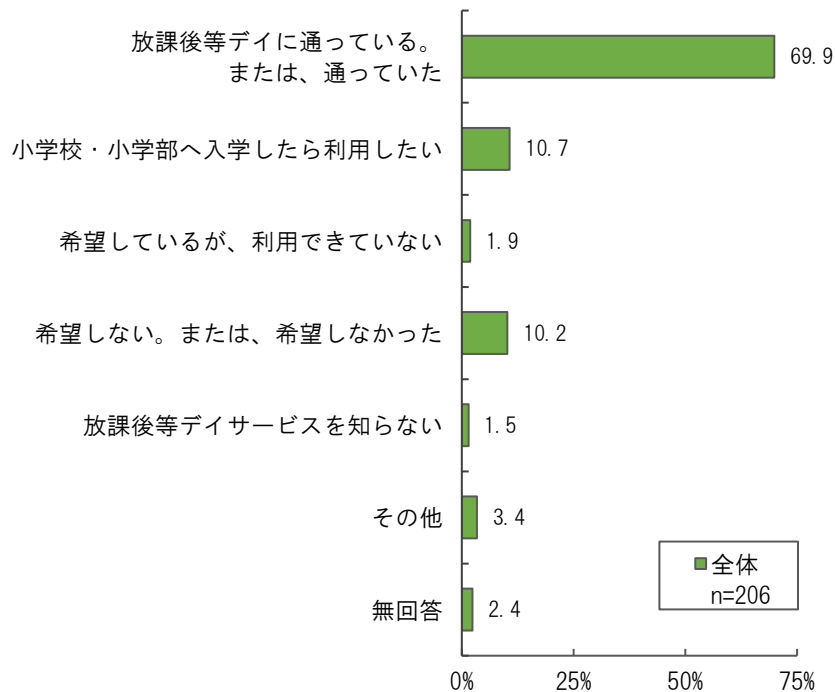
（４）放課後等デイサービス

問21 放課後や休業日に児童をあずかる放課後等デイサービスについて、あてはまるものに○をつけてください。（○は1つ）

○放課後等デイサービスに関してみると、「放課後等デイサービスに通っている。または、通っていた」が69.9%と最も高く、次いで「小学校・小学部へ入学したら利用したい」が10.7%となっています。

また、「希望しない。または、希望しなかった」は10.2%となっています。

■ 放課後等デイサービスに関して



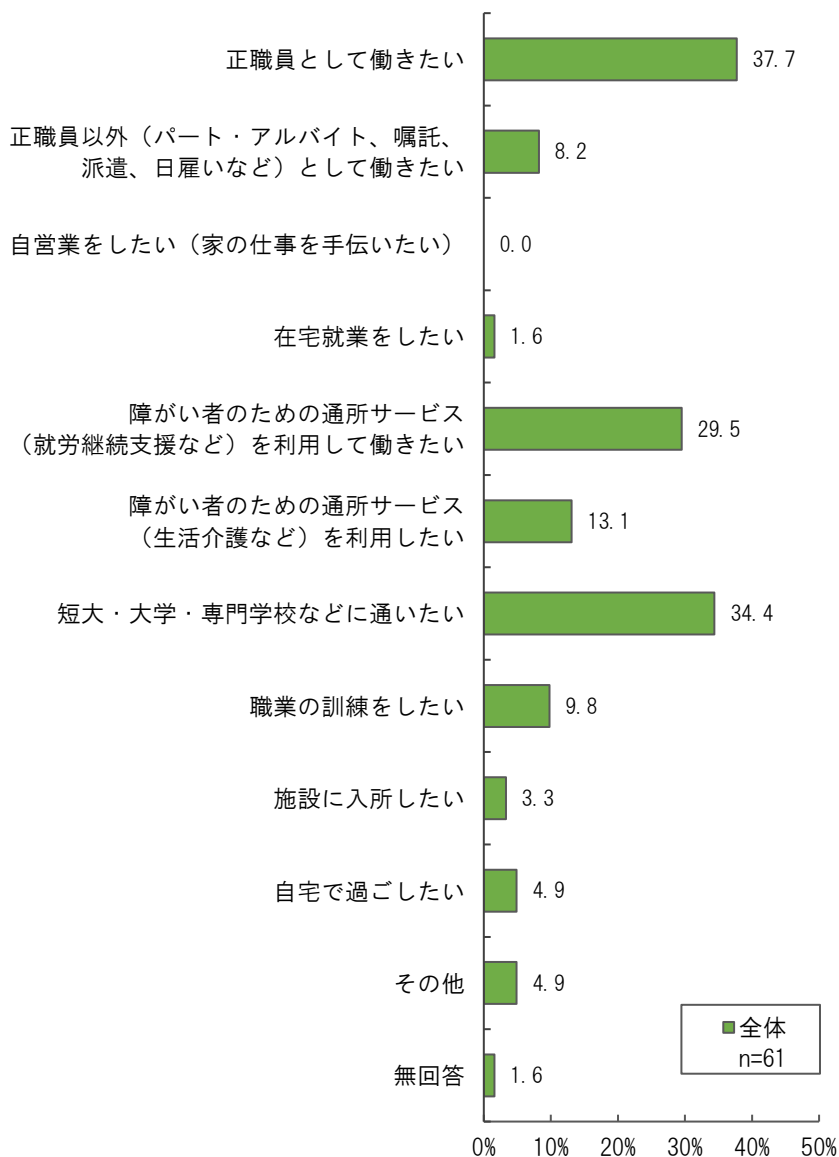
（５）学校卒業後における日中の過ごし方の意向

中学校・中等部、高等学校・高等部、専修学校・専門学校に通学している方のみ

問22 学校などを卒業してから、日中をどのように過ごしたいとお考えですか。
（〇はいくつでも）

○学校卒業後における日中の過ごし方の意向をみると、「正職員として働きたい」が37.7%と最も高く、次いで「短大・大学・専門学校などに通いたい」が34.4%、「障がい者のための通所サービス（就労継続支援など）を利用して働きたい」が29.5%となっています。

■ 学校卒業後における日中の過ごし方の意向



7 これからの生活について

(1) 学校卒業後における暮らし方の意向

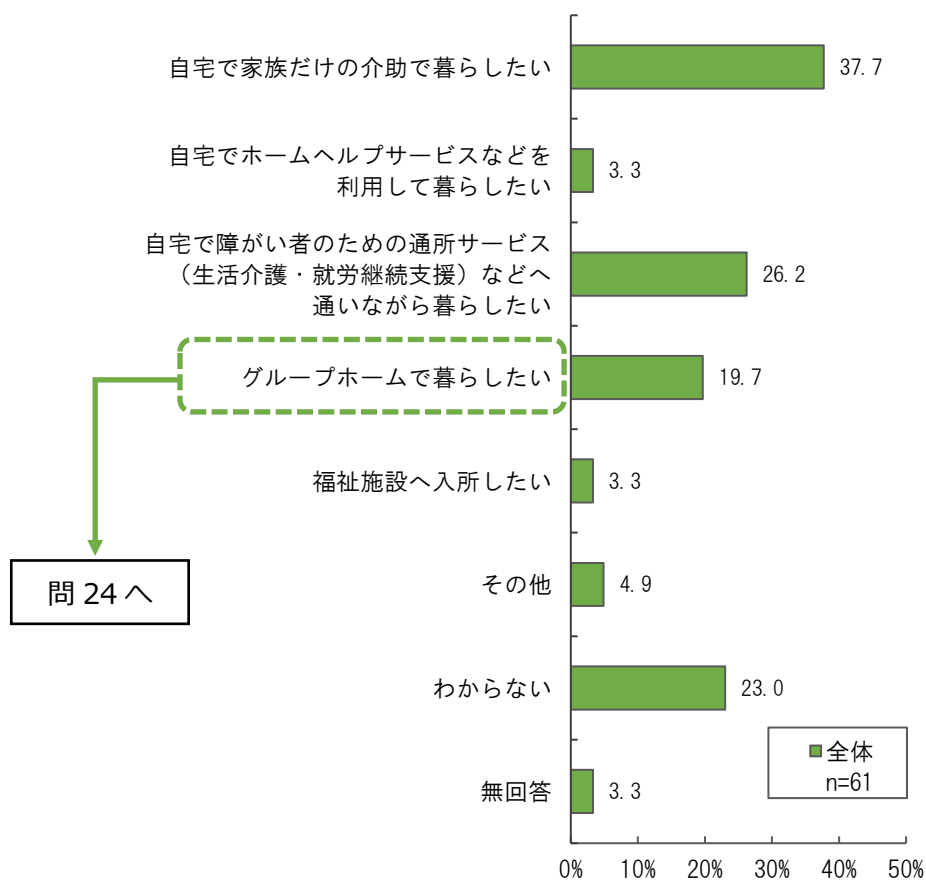
中学校・中等部、高等学校・高等部、専修学校・専門学校に通学している方のみ

問23 学校などを卒業してから、どこでどのように暮らしたいとお考えですか。
(○はいくつでも)

○学校卒業後における暮らし方の意向をみると、「自宅で家族だけの介助で暮らしたい」が37.7%と最も高く、次いで「自宅で障がい者のための通所サービス（生活介護・就労継続支援）などへ通いながら暮らしたい」が26.2%となり、自宅での生活を希望する割合が高くなっています。

一方、「グループホームで暮らしたい」は19.7%、「福祉施設へ入所したい」は3.3%となっています。

■ 学校卒業後における暮らし方の意向



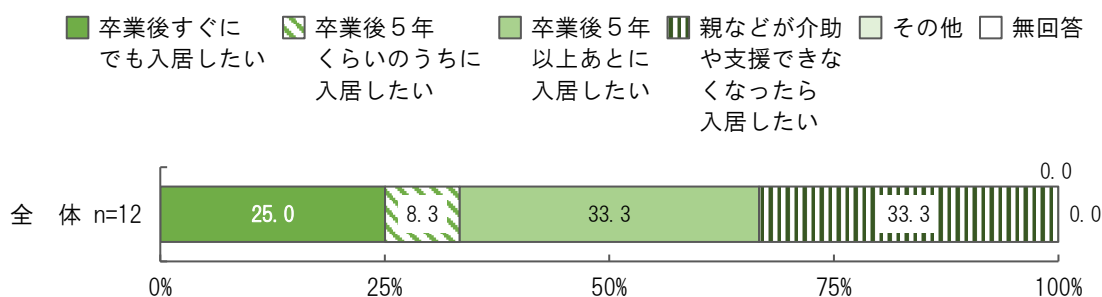
（2）グループホームへの入居希望時期

問23で「グループホームで暮らしたい」と答えた方のみ

問24 いつ頃からグループホームに入居したいと思いますか。（○は1つ）

○学校卒業後にグループホームでの生活を希望する方の入居のタイミングは、「卒業後5年以上あとに入居したい」「親などが介助や支援できなくなったら入居したい」が各33.3%、「卒業後すぐにでも入居したい」が25.0%となっています。

■ 入居希望時期

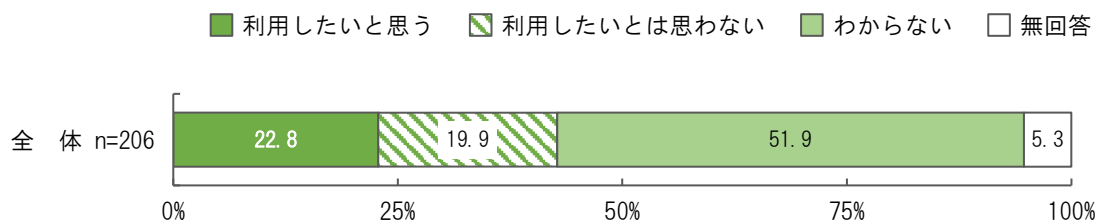


（3）グループホームなどを活用した一人暮らし体験

問25 あなたは、グループホームなどを活用した一人暮らしの体験の場があれば、利用したいと思いますか。（○は1つ）

○一人暮らし体験を「利用したいと思う」は22.8%、「利用したいとは思わない」は19.9%となっています。

■ 一人暮らし体験の利用意向



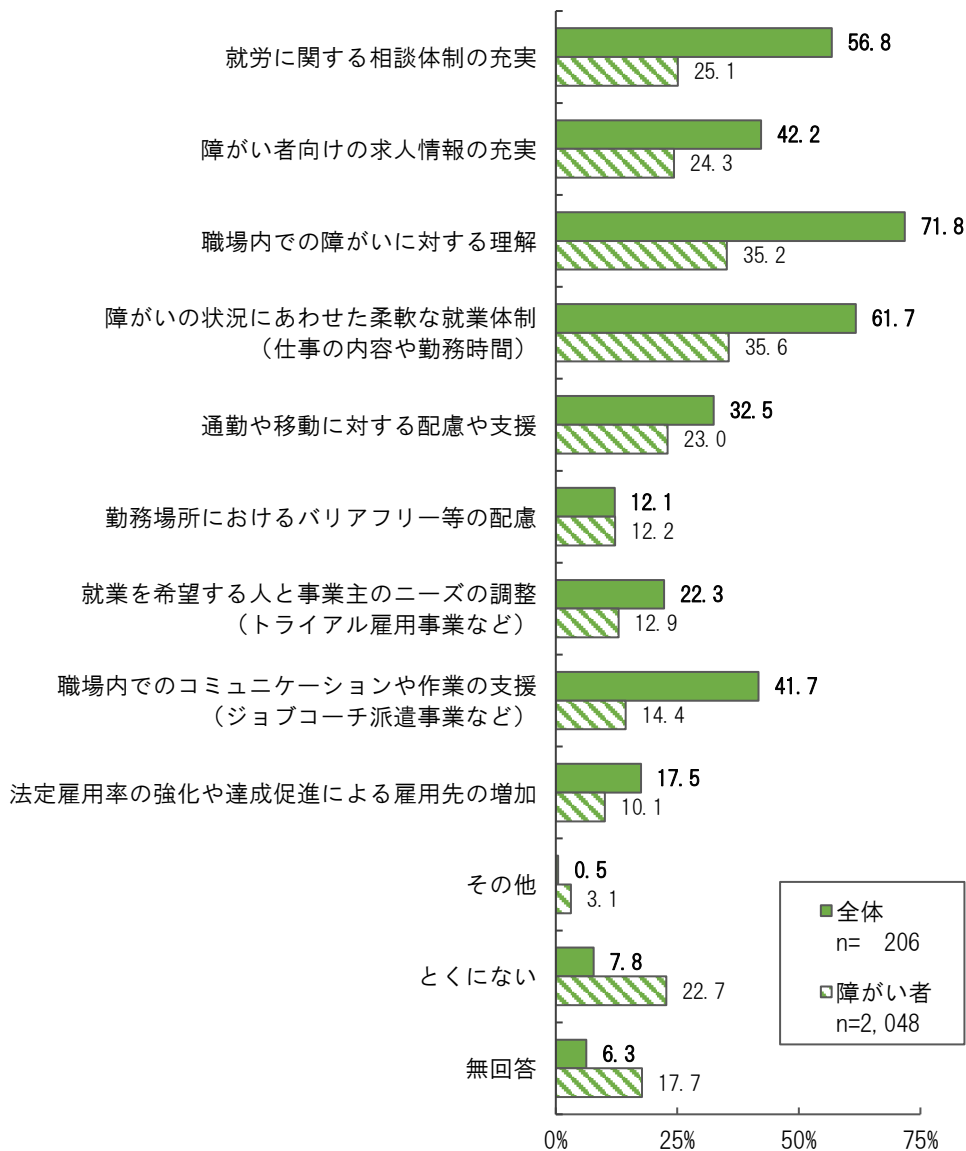
（４）就労促進に必要な配慮

問26 あなたは障がいのある人の就労を促進するために、どのような配慮が必要であると思いますか。（〇は5つまで）

○就労促進に必要な配慮は、「職場内での障がいに対する理解」が71.8%と最も高く、次いで「障がいの状況にあわせた柔軟な就業体制（仕事の内容や勤務時間）」が61.7%、「就労に関する相談体制の充実」が56.8%となっています。

○同じ設問を障がい者調査（問25）と比較すると、ともに柔軟な就業体制や障がいに対する理解など、働きやすさへの配慮が上位を占めており、就労促進のために必要な配慮であると認識していることが分かりました。

■ 障がいのある人の就労促進に必要な配慮【障がい者調査比較】

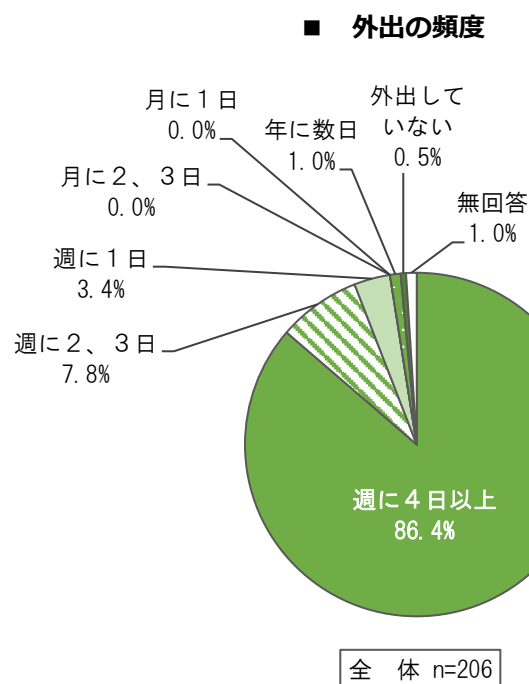


8 外出について

(1) 外出の頻度

問27 あなたはどれくらいの頻度で外出していますか。（○は1つ）

○外出の頻度は、「週に4日以上」が86.4%と最も高く、次いで「週に2、3日」が7.8%、「週に1日」が3.4%となっています。

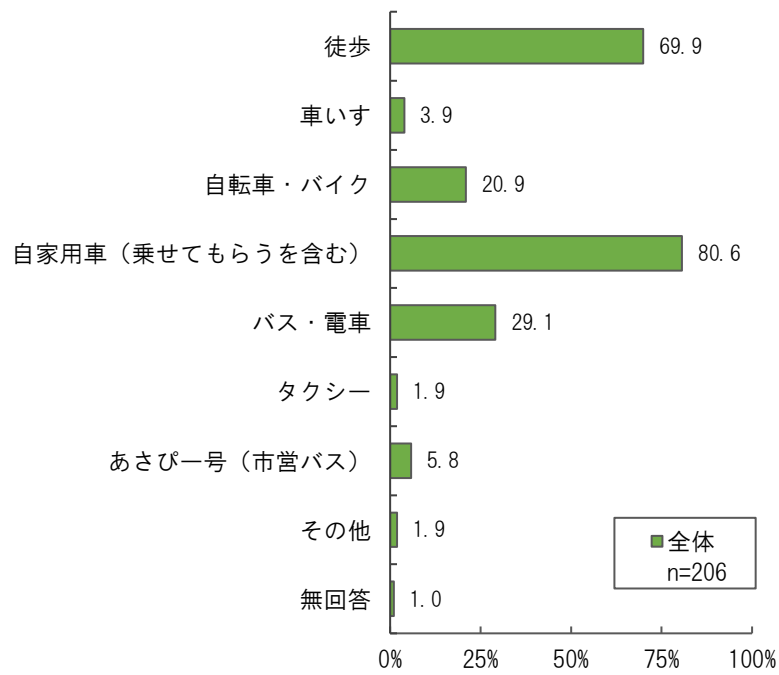


（2）外出時の交通手段

問28 外出のときの交通手段は何ですか。（○はいくつでも）

○外出時の交通手段は、「自家用車（乗せてもらうを含む）」が80.6%と最も高く、次いで「徒歩」が69.9%、「バス・電車」が29.1%となっています。

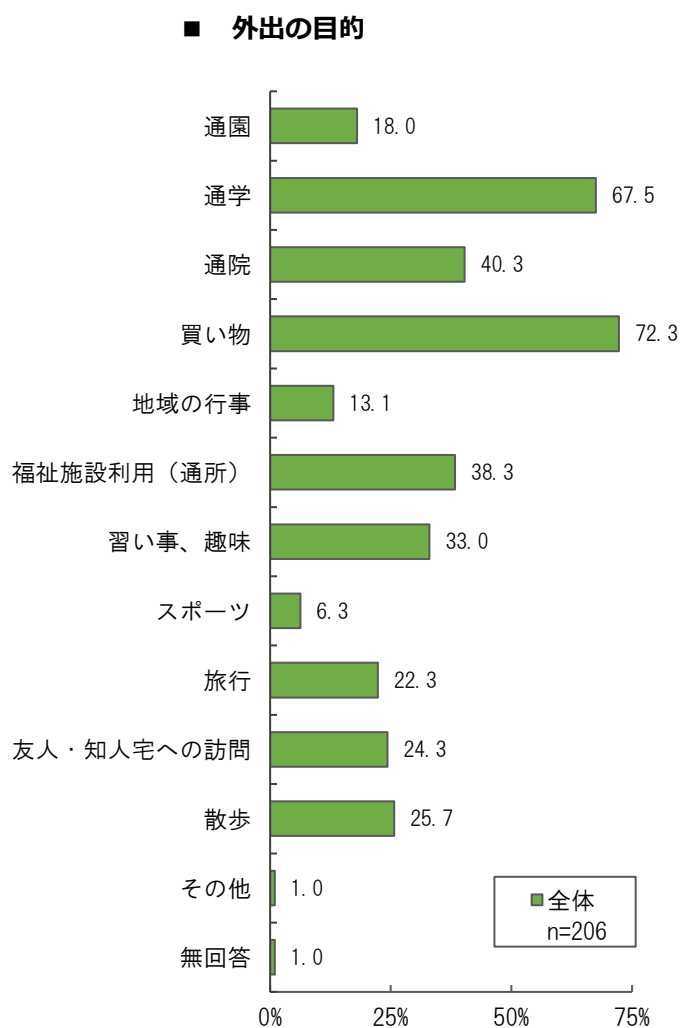
■ 外出時の交通手段



（3）外出の目的

問29 外出の目的は何ですか。（○はいくつでも）

○外出の目的は、「買い物」が72.3%と最も高く、次いで「通学」が67.5%、「通院」が40.3%となっています。

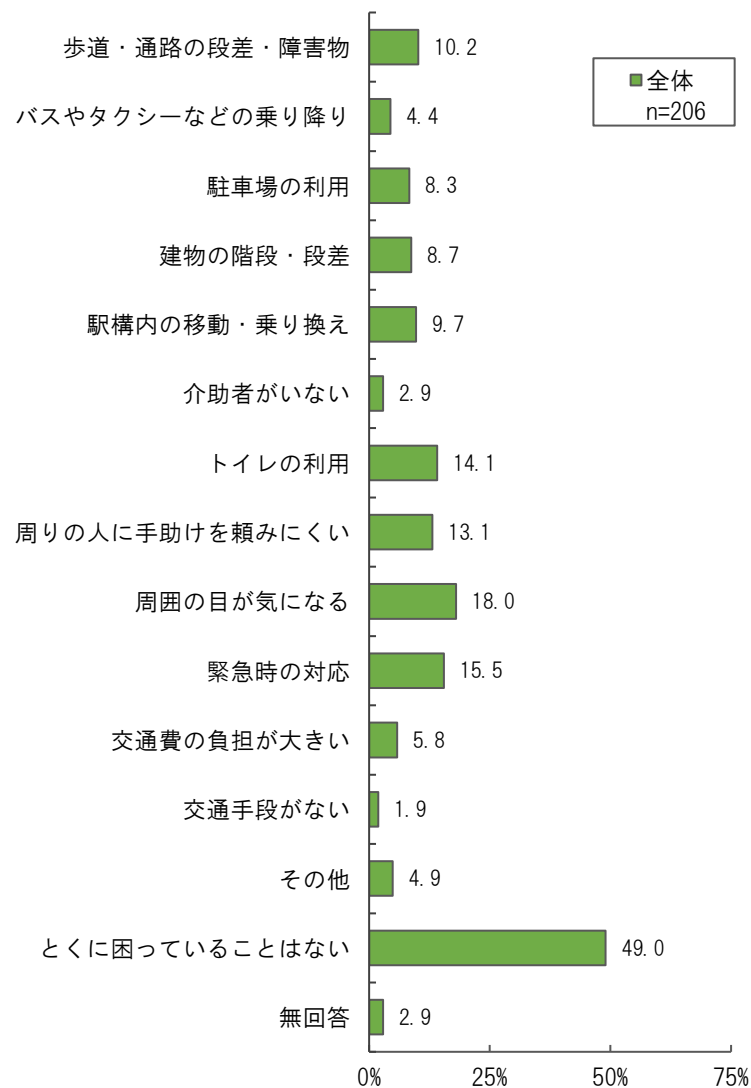


（４）外出時に困ること

問30 外出するうえで困ることは何ですか。（○はいくつでも）

○外出時に困ることをみると、「とくに困っていることはない」が49.0%と最も高いものの、「周囲の目が気になる」は18.0%、「緊急時の対応」は15.5%、「トイレの利用」は14.1%が困ることとしてあげています。

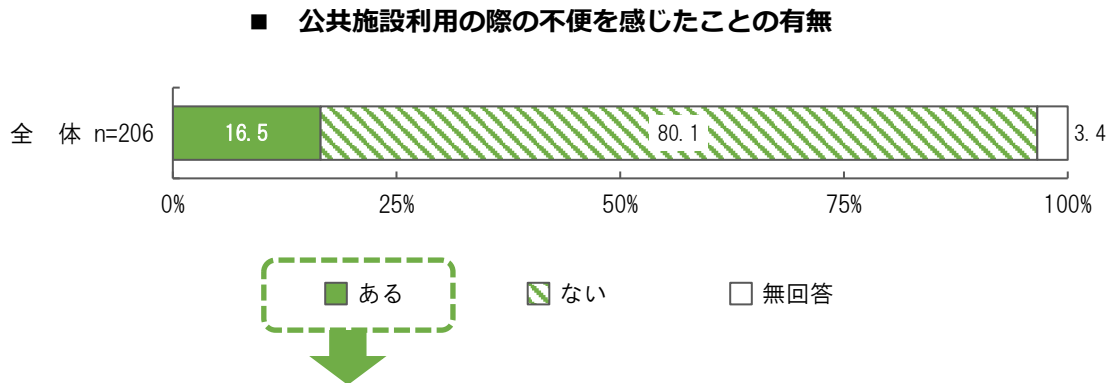
■ 外出時に困ること



(5) 公共施設の利用に関して

問31 市内の公共施設を利用するときに、不便を感じたことがありますか。(○は1つ)

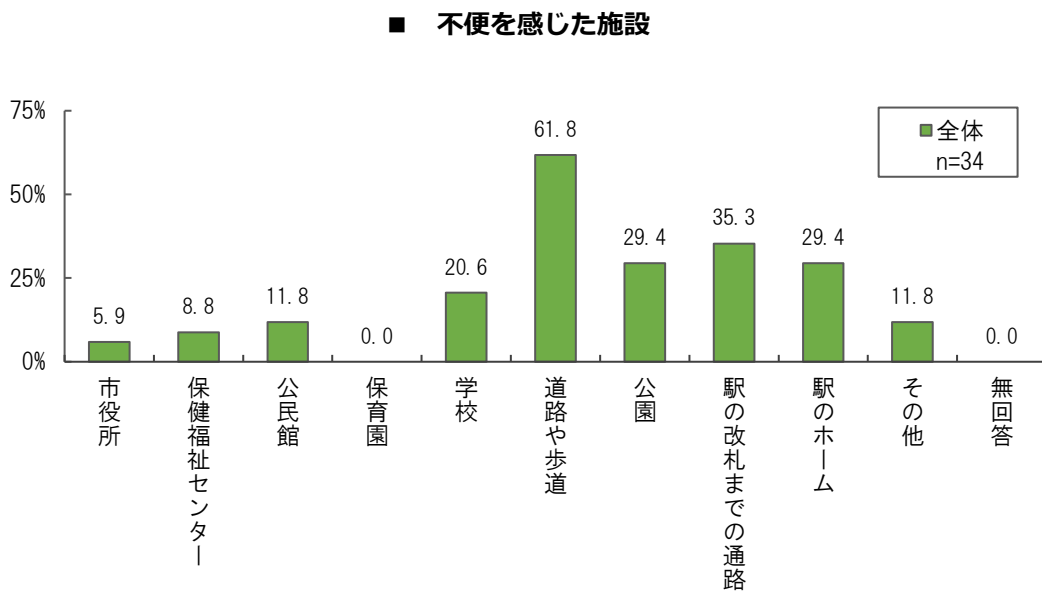
○市内の公共施設を利用するときに、不便を感じたことが「ある」は16.5%、「ない」は80.1%となっています。



問31で「ある」と答えた方のみ

問32 どの施設で感じましたか。(○はいくつでも)

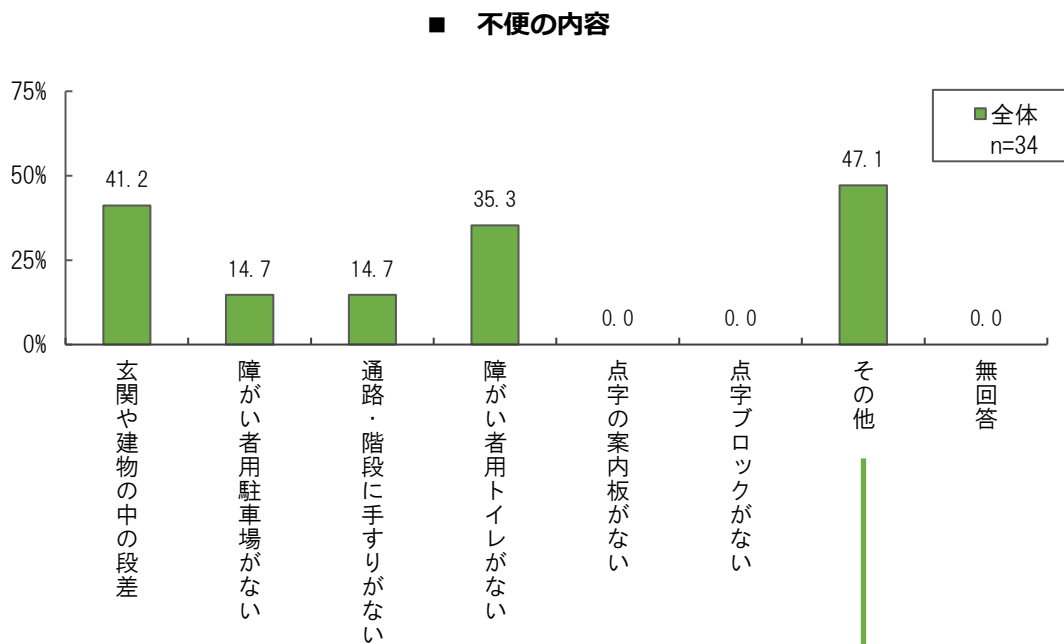
○不便を感じた施設は、「道路や歩道」が61.8%と最も高く、次いで「駅の改札までの通路」が35.3%、「公園」「駅のホーム」が各29.4%となっています。



問31で「ある」と答えた方のみ

問33 どのような不便でしたか。(○はいくつでも)

○不便を感じた内容は、「玄関や建物の中の段差」が41.2%、「障がい者用トイレがない」が35.3%、「障がい者用駐車場がない」「通路・階段に手すりがない」が各14.7%となっています。



■ その他の内容

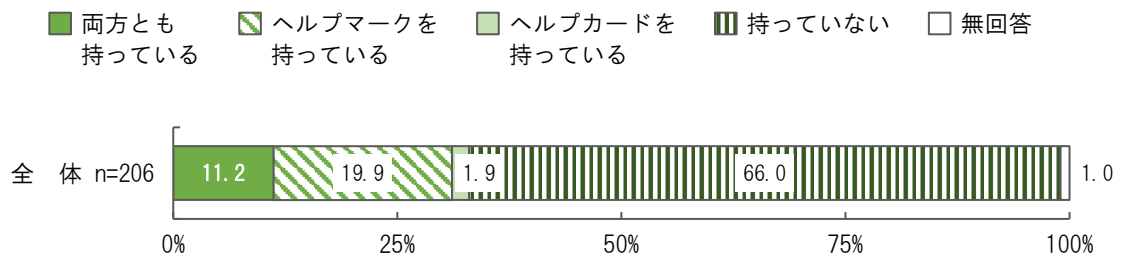
その他の内容（一部抜粋記載）
洋式トイレがない、汚い、故障している
道幅が狭い、歩道がない
エレベーターがない
障がい者専用駐車場の後ろにスペースがない（福祉車両のスロープが使えない）
駅のホームが狭い

（6）ヘルプマーク・ヘルプカードの所持状況

問34 あなたは、「ヘルプマーク」か「ヘルプカード」を持っていますか。（○は1つ）

○ヘルプマーク・ヘルプカードの所持状況を見ると、「持っていない」が66.0%と最も高く、「両方とも持っている」は11.2%、「ヘルプマークを持っている」は19.9%となっています。

■ ヘルプマーク・ヘルプカードの所持状況

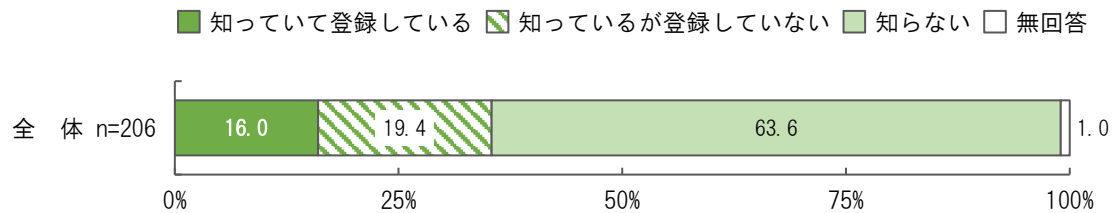


（7）障害者手帳アプリの認知度

問35 あなたは障害者手帳アプリ「ミライロID」を知っていますか。（○は1つ）

○障害者手帳アプリ「ミライロID」の認知度をみると、「知らない」が63.6%を占め、「知っているが登録していない」は19.4%、「知っているが登録している」は16.0%、「知っているが登録していない」は19.4%となっています。

■ 「ミライロID」の認知度

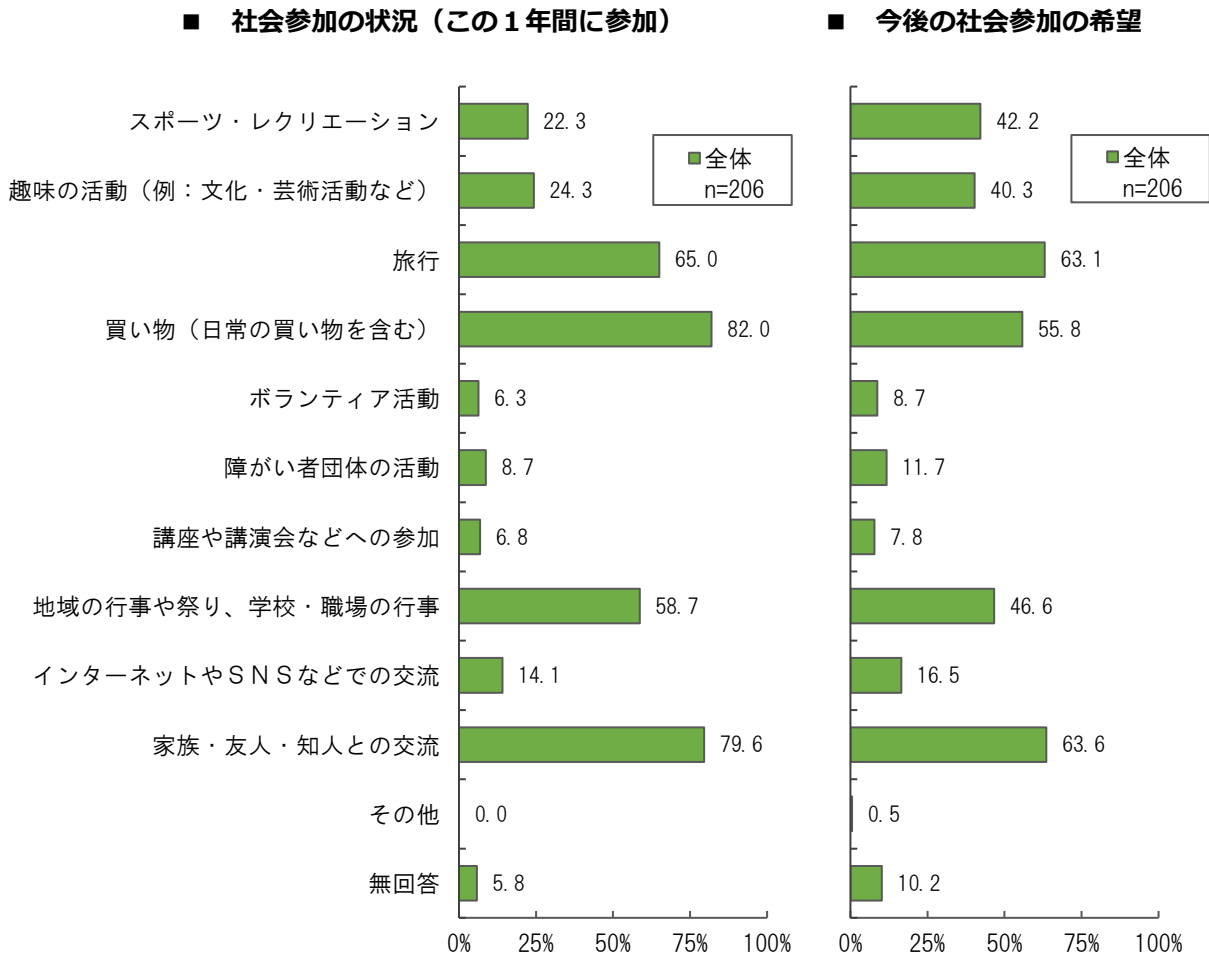


9 社会参加について

（1）社会参加の状況と今後の意向

問36 この1年にどのような社会参加をしましたか。また、今後どのような社会参加を
したいですか。（○はいくつでも）

- この1年間に参加した活動等は、「買い物（日常の買い物を含む）」が82.0%と最も高く、
次いで「家族・友人・知人との交流」が79.6%、「旅行」が65.0%となっています。
- 今後参加を希望する活動等は、「家族・友人・知人との交流」が63.6%と最も高く、次い
で「旅行」が63.1%、「買い物（日常の買い物を含む）」が55.8%となっています。
- 実際の参加状況と今後の希望を比較すると、「スポーツ・レクリエーション」では19.9ポ
イント、「趣味などの文化・芸術活動」では16.0ポイント希望が高くなっています。

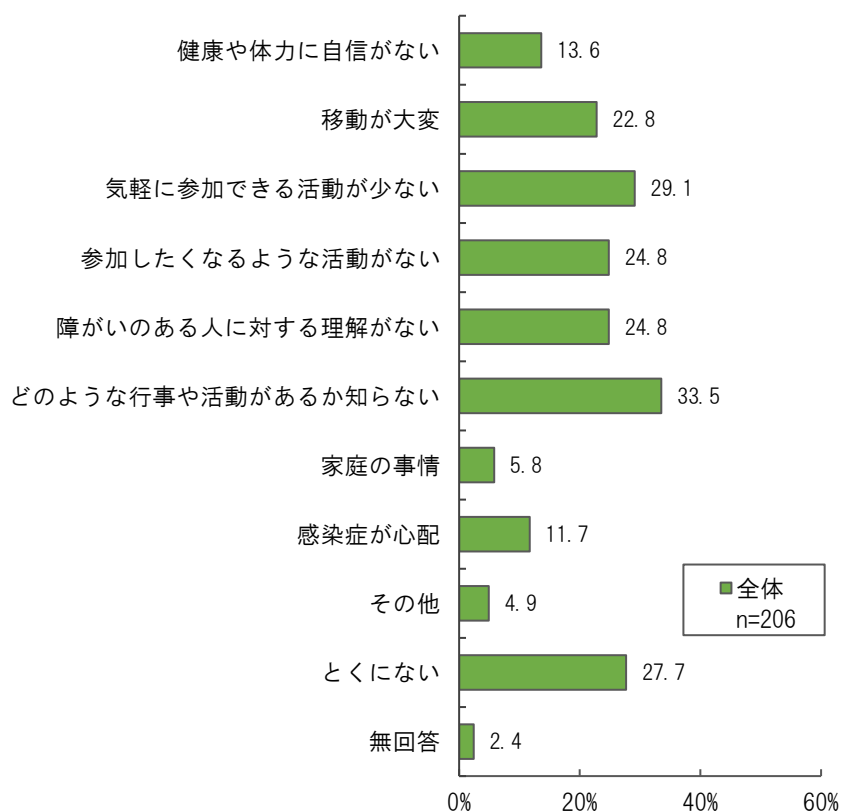


（2）社会参加するうえでの問題

問37 あなたが社会参加する場合、問題となることはありますか。（○はいくつでも）

○社会参加する場合の問題をみると、「どのような行事や活動があるか知らない」が33.5%と最も高く、次いで「気軽に参加できる活動が少ない」が29.1%となっています。一方、「とくにない」も27.7%と高くなっています。

■ 社会参加するうえでの問題

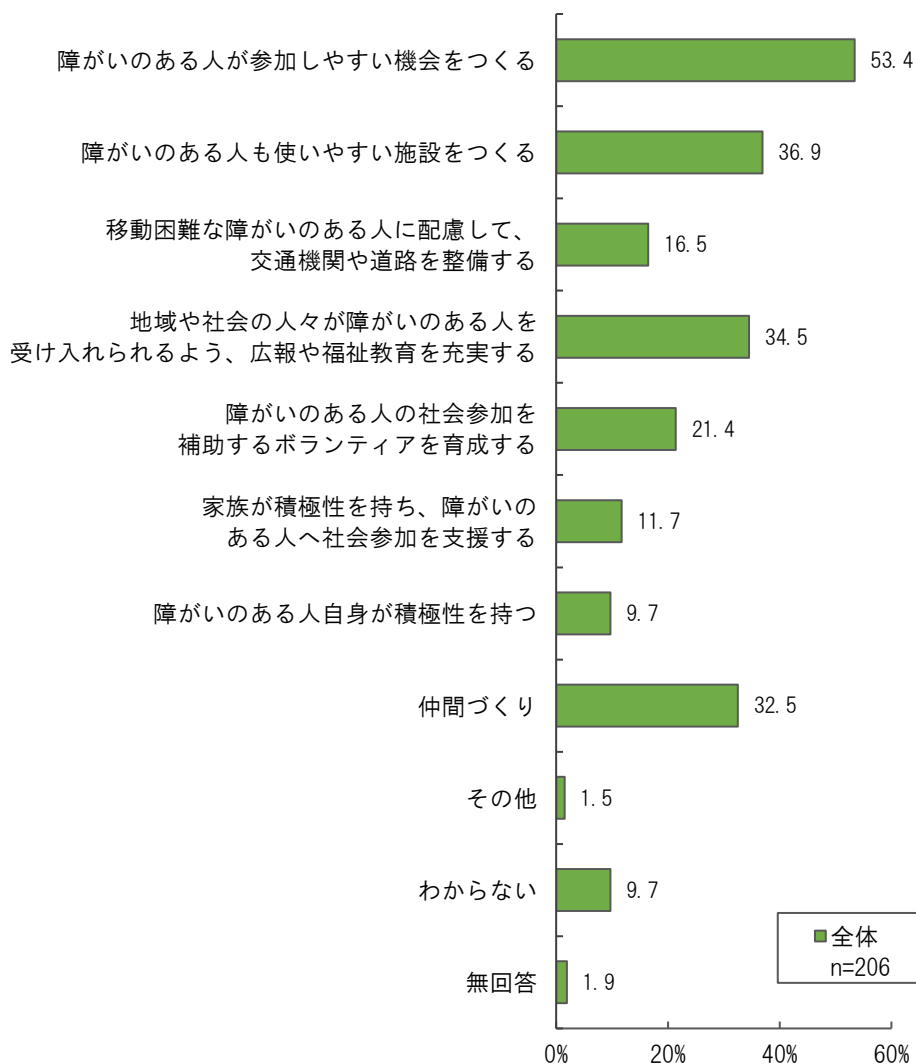


（3）積極的な社会参加に大切なこと

問38 あなたは障がいのある人が地域や社会に積極的に参加できるようにするために、大切なことは何だとお考えですか。（○は3つまで）

○積極的な社会参加に大切なことは、「障がいのある人が参加しやすい機会をつくる」が53.4%と最も高く、次いで「障がいのある人も使いやすい施設をつくる」が36.9%、「地域や社会の人々が障がいのある人を受け入れられるよう、広報や福祉教育を充実する」が34.5%となっています。

■ 積極的な社会参加に大切なこと



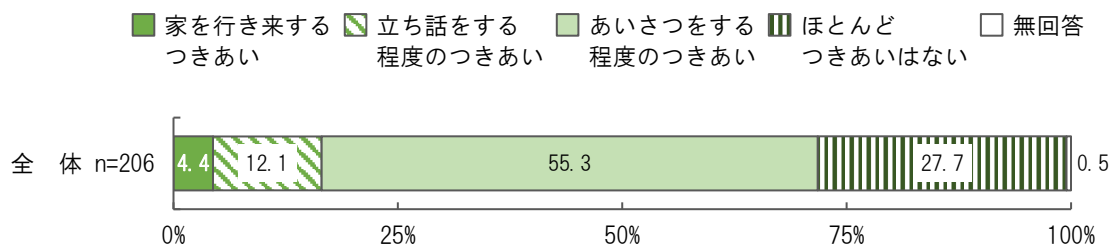
10 地域活動について

（1）近所づきあいの程度

問39 あなたは、ふだん近所の方とどの程度のおつきあいをしていますか。（○は1つ）

○近所づきあいの程度をみると、「あいさつをする程度のつきあい」が55.3%と最も高く、次いで「ほとんどつきあいはない」が27.7%、「立ち話をする程度のつきあい」が12.1%となっています。

■ 近所づきあいの程度

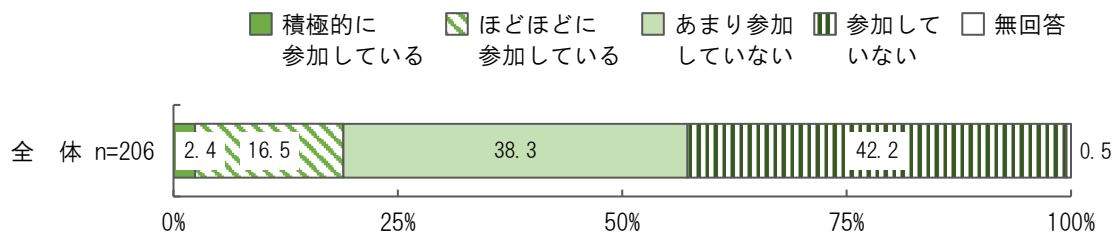


（2）地域活動や行事への参加

問40 あなたは地域の活動や行事にどの程度参加していますか。（○は1つ）

○地域活動や行事への参加をみると、「参加していない」が42.2%と最も高く、「あまり参加していない」（38.3%）を合わせた『参加していない』は80.5%を占めています。

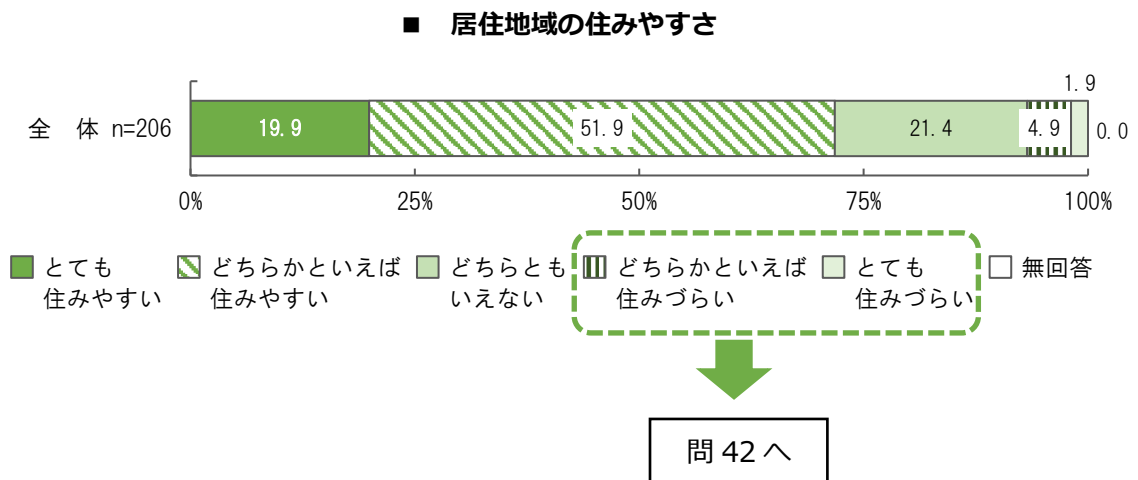
■ 地域活動や行事への参加程度



(3) 居住地域の住みやすさ

問41 あなたの住んでいる地域（小学校区）は住みやすいと思いますか。（○は1つ）

○居住地域の住みやすさをみると、「どちらかといえば住みやすい」が51.9%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が21.4%となっています。
 また、「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい』は71.8%、「どちらかといえば住みづらい」と「とても住みづらい」を合わせた『住みづらい』は6.8%となり、『住みやすい』が大きく上回っています。

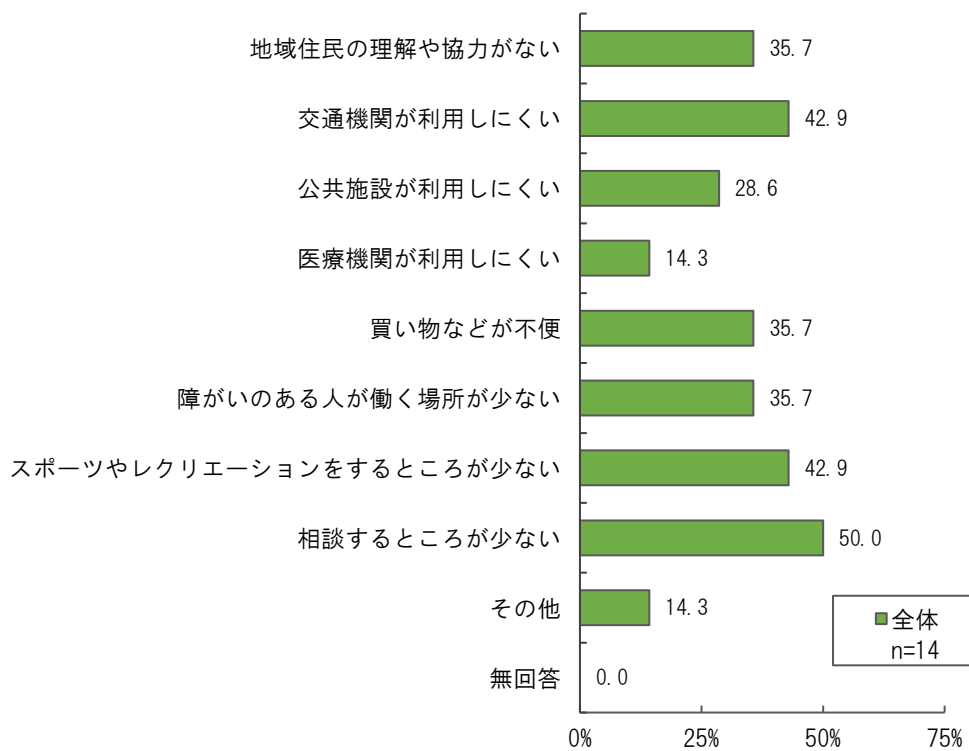


問41で「どちらかといえば住みづらい」または「とても住みづらい」と答えた方のみ

問42 住みづらい理由は何ですか。（○はいくつでも）

○住みづらい理由をみると、「相談するところが少ない」が50.0%と最も高く、次いで「交通機関が利用しにくい」「スポーツやレクリエーションをするところが少ない」が各42.9%となっています。

■ 住みづらい理由



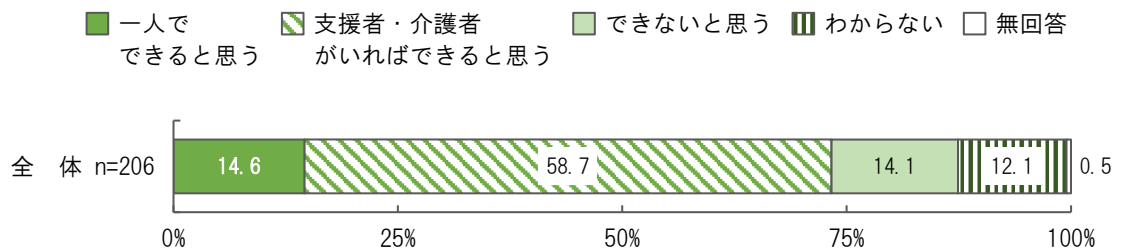
11 災害時に困ることについて

（1）災害時の避難の可否

問43 地震などの災害時に避難できますか。（○は1つ）

○災害時の避難は、「支援者・介護者がいればできると思う」が58.7%と最も高く、次いで「一人でできると思う」が14.6%となっています。
一方、「できないと思う」は14.1%となっています。

■ 災害時の避難の可否

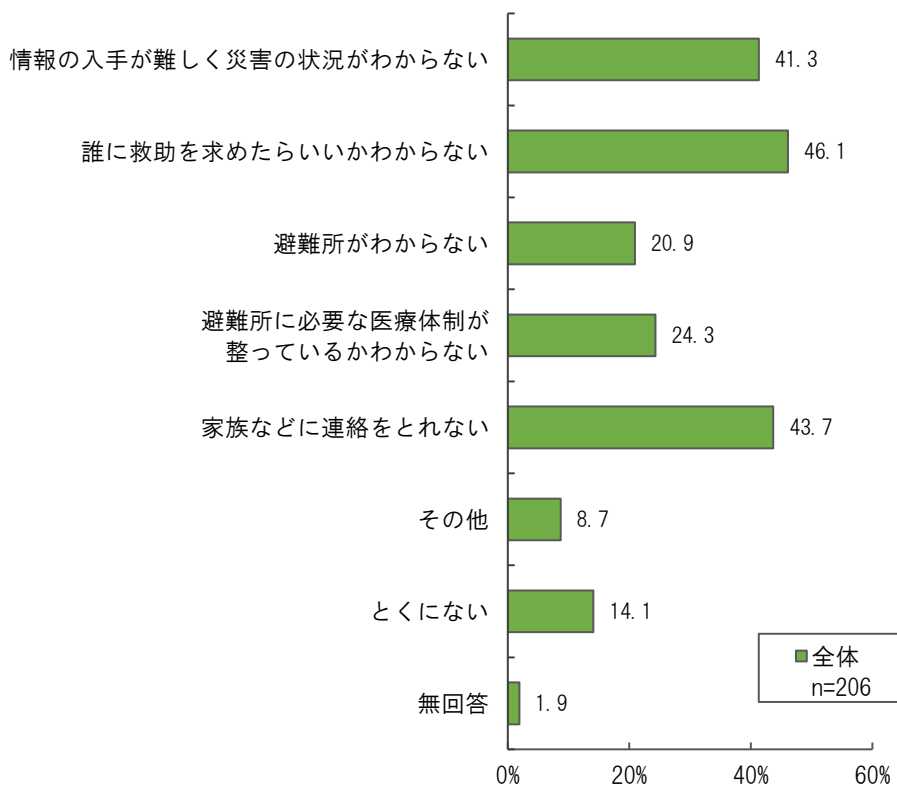


（２）災害時に困ることや不安なこと

問44 地震などの災害時にすぐに困ることや不安に思うことは何ですか。
（○はいくつでも）

○災害時に困ることや不安なことは、「誰に救助を求めたらいいかわからない」が46.1%と最も高く、次いで「家族などに連絡をとれない」が43.7%、「情報の入手が難しく災害の状況がわからない」が41.3%となっています。

■ 災害時に困ることや不安なこと

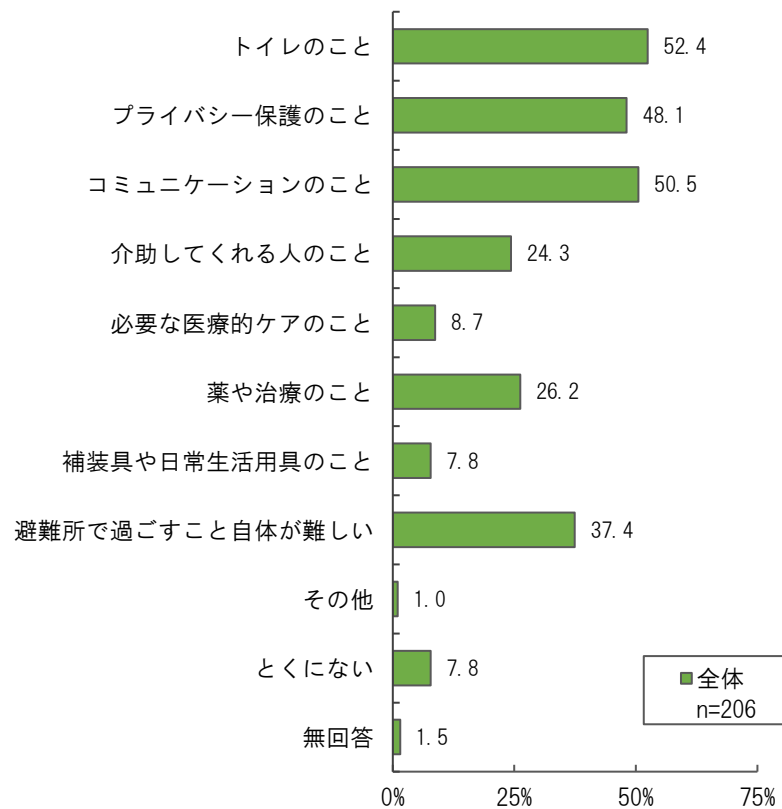


（3）災害時に避難所で困ること

問45 災害時に、避難所等で困ると思われることは何ですか。（○はいくつでも）

○災害時に避難所で困ることは、「トイレのこと」が52.4%と最も高く、次いで「コミュニケーションのこと」が50.5%、「プライバシー保護のこと」が48.1%となっています。

■ 災害時に避難所で困ること



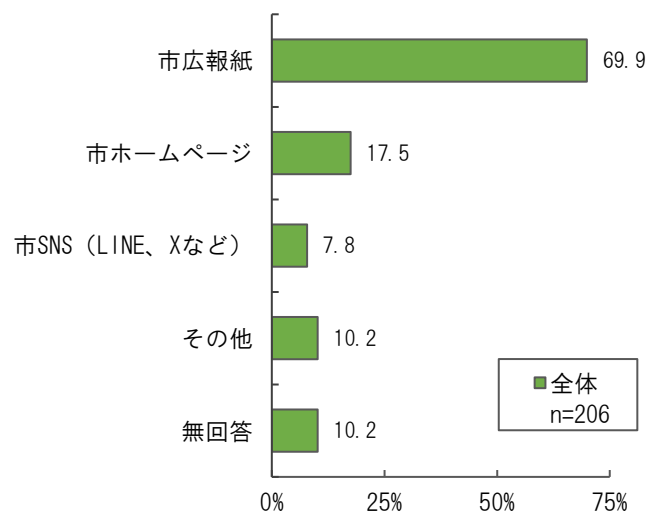
12 相談などについて

（1）障がいに関する情報の取得方法

問46 市の広報の中で、障がいや発達障がいなどに関する情報（相談や支援、イベントなど）をどのように取得していますか。（○はいくつでも）

○障がいに関する情報の取得方法は、「市広報紙」が69.9%と最も高く、次いで「市ホームページ」が17.5%、「市SNS（LINE、Xなど）」が7.8%となっています。

■ 障がいに関する情報の取得方法

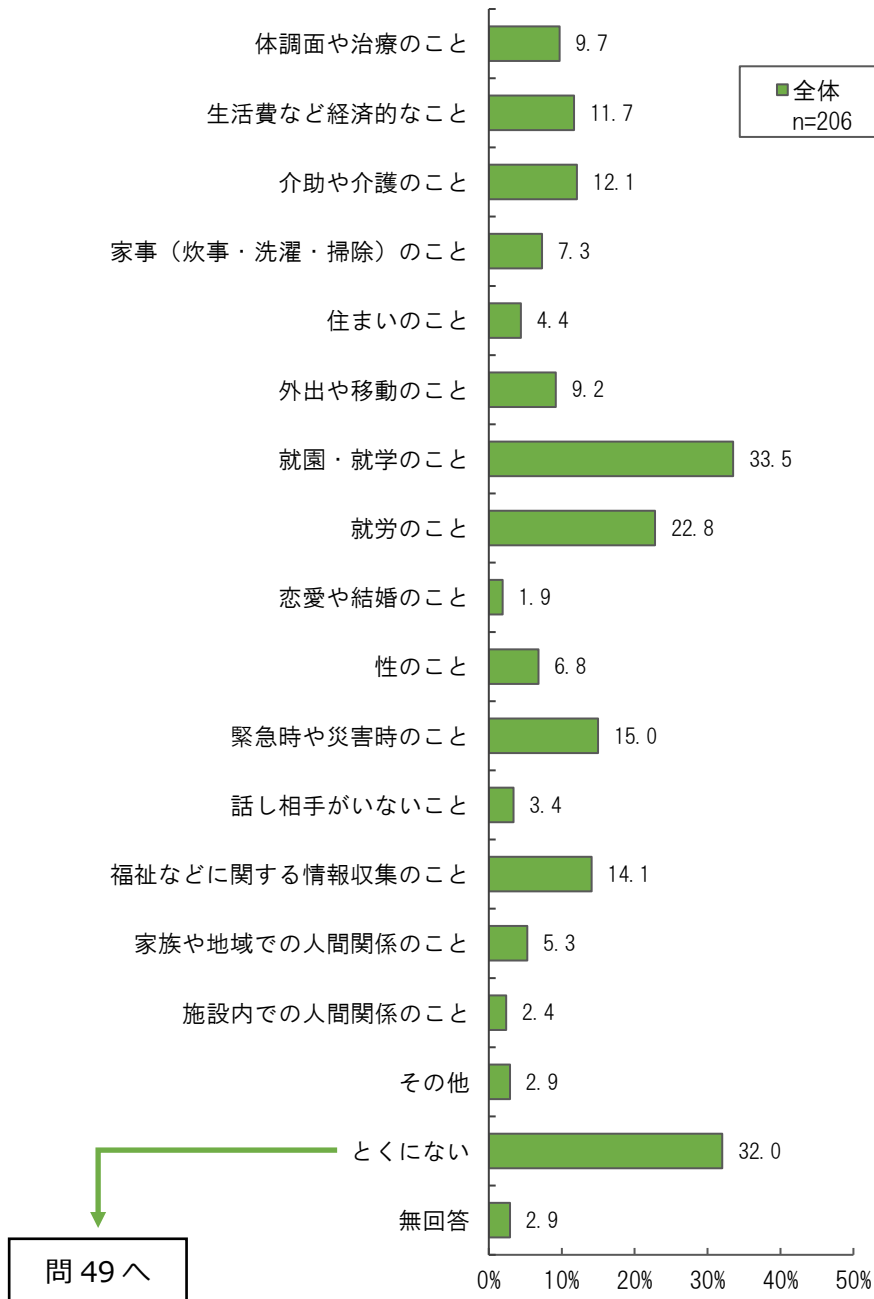


(2) 悩みや相談したいこと

問47 現在、悩んでいることや相談したいことがありますか。（○はいくつでも）

○現在の悩みや相談したいことは、「就園・就学のこと」が33.5%と最も高く、次いで「就労のこと」が22.8%、「緊急時や災害時のこと」が15.0%となっています。
一方、「とくにない」も32.0%と高くなっています。

■ 悩みや相談したいこと

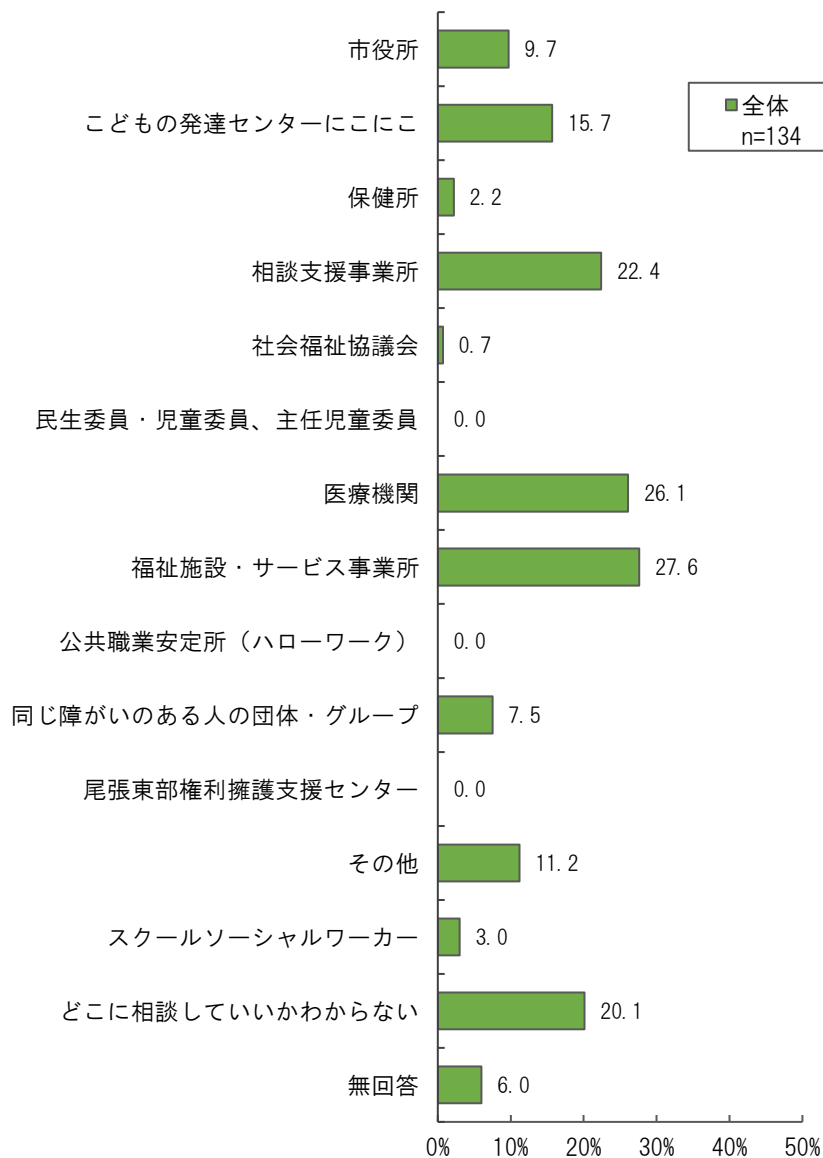


（3）悩みの相談先

問48 悩んでいることを、家族以外でどこに相談していますか。（○はいくつでも）

○家族以外の悩みの相談先をみると、「福祉施設・サービス事業所」が27.6%と最も高く、次いで「医療機関」が26.1%、「相談支援事業所」が22.4%となっています。一方、「どこに相談していいかわからない」も20.1%と高くなっています。

■ 悩みの相談先（家族以外）



13 権利擁護について

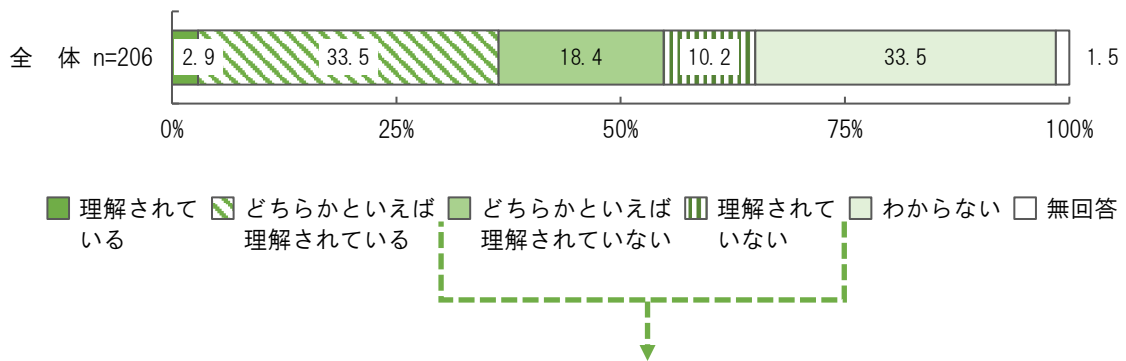
（1）障がいのある人に対する社会の理解

問49 あなたは日常生活の中で、障がいのある人に対する社会の理解についてどう感じますか。（○は1つ）

○障がいのある人に対する社会の理解は、「どちらかといえば理解されている」「わからない」が各33.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば理解されていない」が18.4%となっています。

また、『理解されていない』（「どちらかといえば理解されていない」+「理解されていない」）と感じている方は28.6%となっています。

■ 障がいのある人に対する社会の理解



問49で「どちらかといえば理解されていない」「理解されていない」と答えた方のみ

問49-1 あなたは日常生活の中で、障がいのある人が理解されていないと感じることは何ですか。（自由回答）

■ 障がいのある人が理解されていないと感じるものの自由回答の分類

自由回答の分類 (n=59)	件数 (件)	割合 (%)
障がいの具体的な内容、困難さが理解されていない	22	37.3
周囲の反応が気になる	9	15.3
見た目では分からない障がいへの配慮不足	6	10.2
支援・サービスの不足	3	5.1
差別・偏見・嫌な思いをする	3	5.1
バリアフリー等の整備不足	2	3.4
無回答	14	23.7

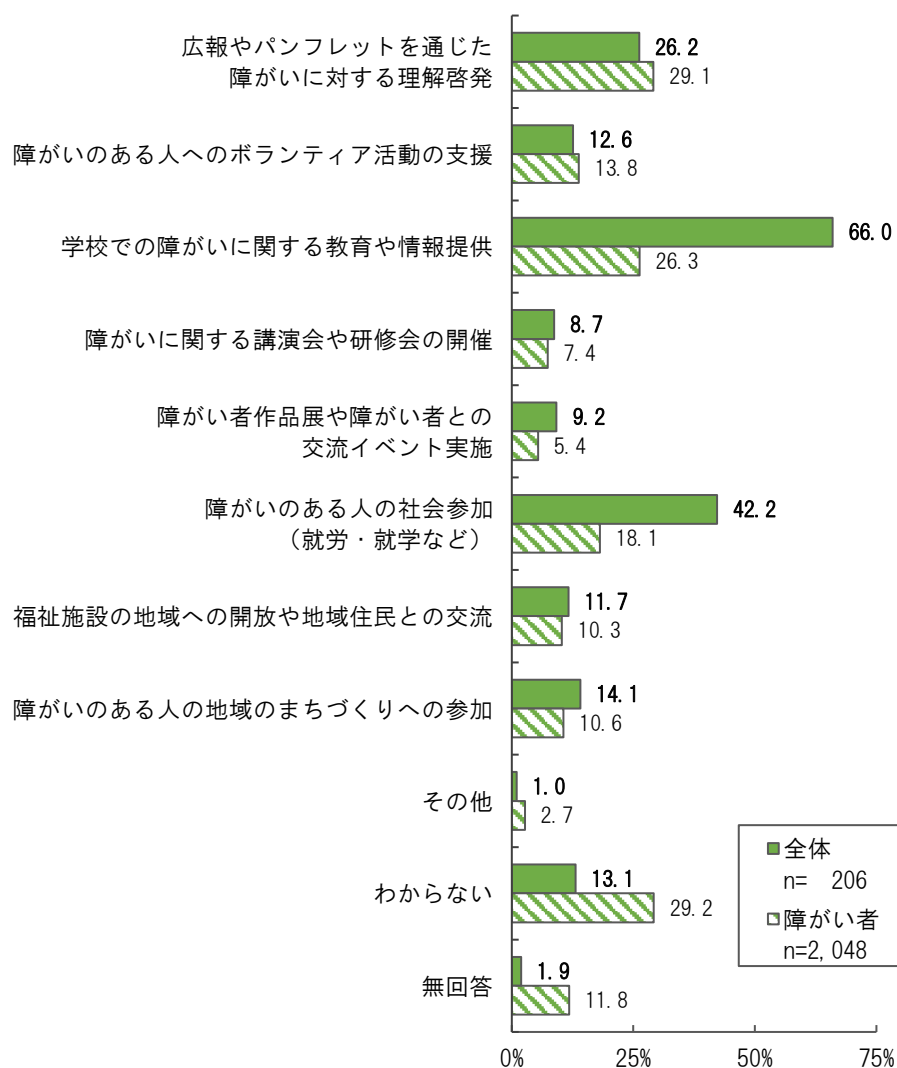
（２）市民理解を深めるために必要なこと

問50 障がいのある人に対する市民の理解を深めるために、必要だと思うことは何ですか。（○は3つまで）

○障がいのある人に対する市民理解を深めるために必要なことは、「学校での障がいに関する教育や情報提供」が66.0%と最も高く、次いで「障がいのある人の社会参加（就労・就学など）」が42.2%、「広報やパンフレットを通じた障がいに対する理解啓発」が26.2%となっています。

○同じ設問を障がい者調査（問52）と比較すると、ともに学校での障がいに関する教育や広報などでの障がいに対する理解啓発、障がい者の社会参加が上位を占めており、教育や啓発、社会参加の重要性がつかえます。

■ 市民理解を深めるために必要なこと

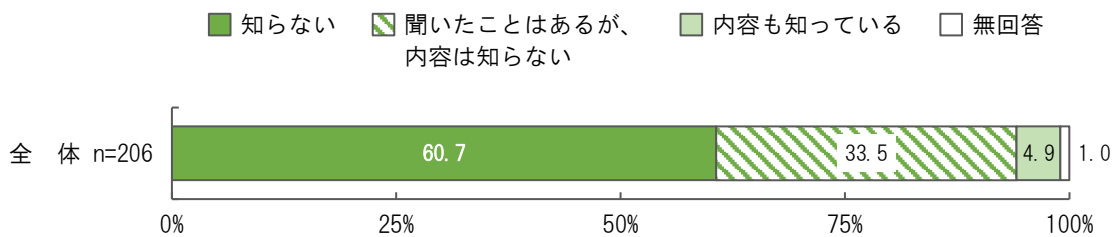


（3）日常生活自立支援事業の認知度

問51 日常生活自立支援事業を知っていますか。（○は1つ）

○日常生活自立支援事業の認知度をみると、「知らない」が60.7%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」が33.5%、「内容も知っている」が4.9%となっています。

■ 日常生活自立支援事業の認知度

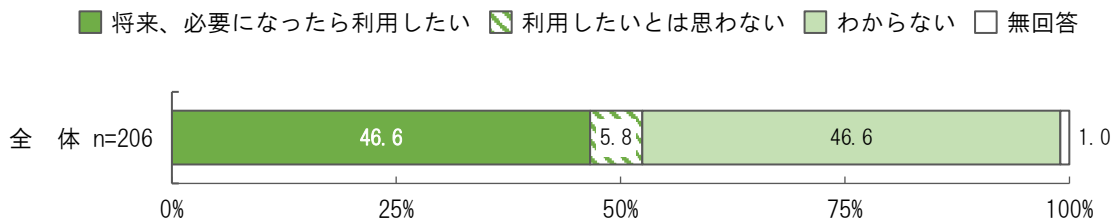


（4）日常生活自立支援事業の利用意向

問52 日常生活自立支援事業を利用したいですか。（○は1つ）

○日常生活自立支援事業の利用意向をみると、「将来、必要になったら利用したい」「わからない」が各46.6%となっています。また、「利用したいとは思わない」は5.8%となっています。

■ 日常生活自立支援事業の利用意向

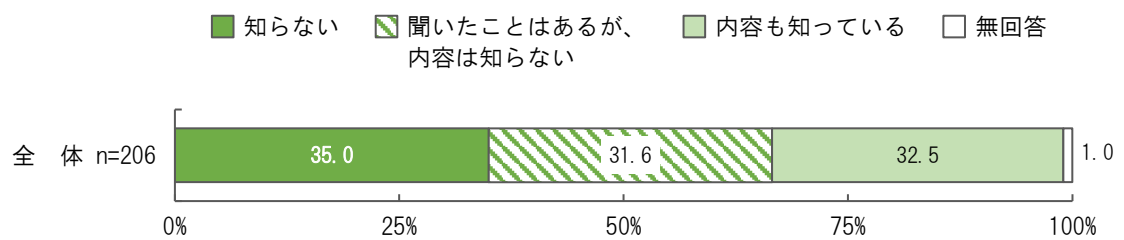


（5）成年後見制度の認知度

問53 成年後見制度を知っていますか。（○は1つ）

○成年後見制度の認知度をみると、「知らない」が35.0%と最も高く、次いで「内容も知っている」が32.5%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」は31.6%となっています。

■ 成年後見制度の認知度

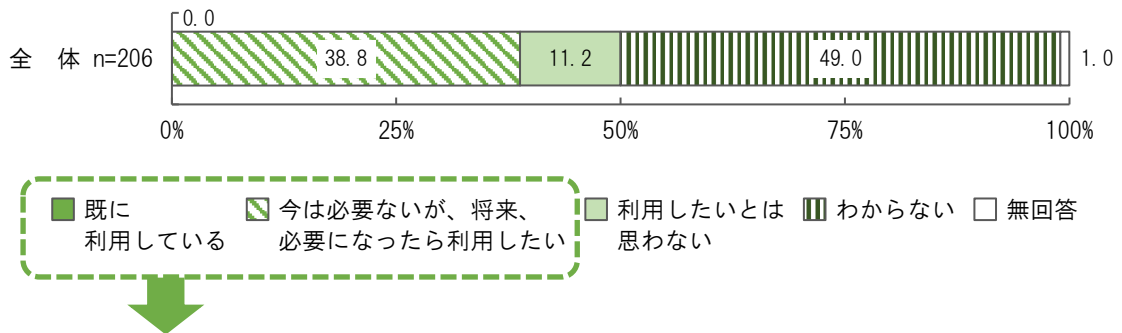


（6）成年後見制度の利用意向

問54 成年後見制度を利用したいですか。（○は1つ）

○成年後見制度の利用意向をみると、「わからない」が49.0%と最も高く、次いで「今は必要ないが、将来、必要になったら利用したい」が38.8%となっています。また、「利用したいとは思わない」は11.2%となっています。

■ 成年後見制度の利用意向

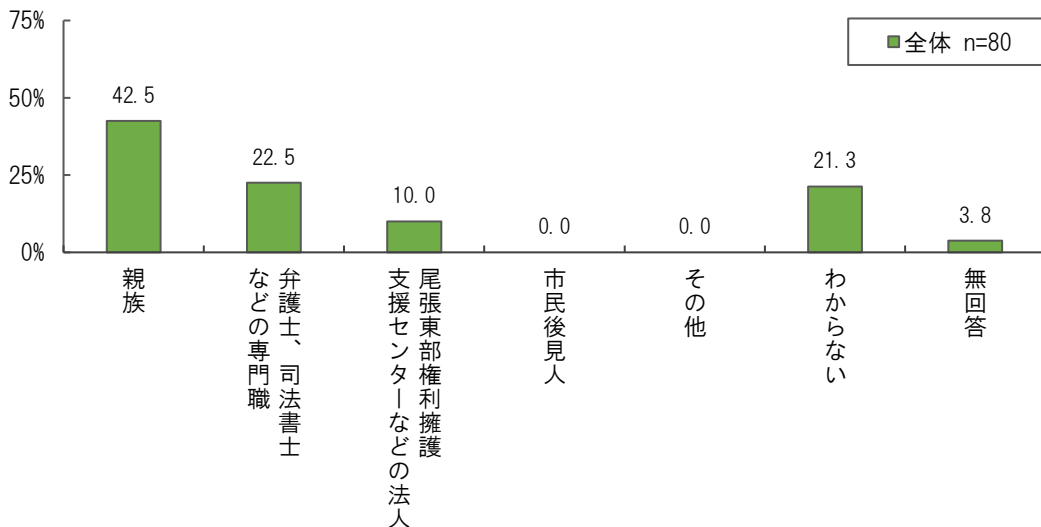


問54で「既に利用している」または「今は必要ないが、将来、必要になったら利用したい」と答えた方のみ

問55 支援してくれる後見人などはどのような方を希望しますか。（○は1つ）

○希望する後見人は、「親族」が42.5%と最も高く、次いで「弁護士、司法書士などの専門職」が22.5%となっています。

■ 希望する後見人

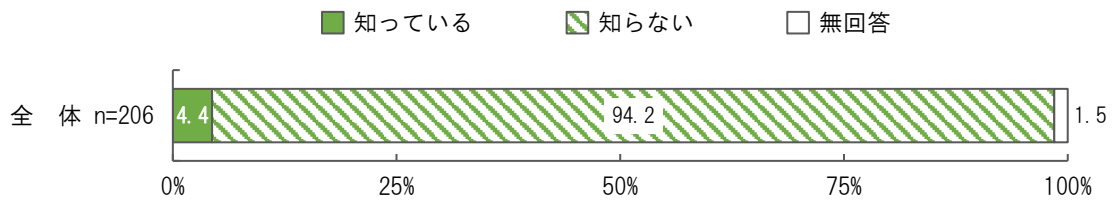


（7）尾張東部権利擁護支援センターの認知度

問56 あなたは、成年後見制度の相談や利用支援などを行う尾張東部権利擁護支援センター（あすライツ）を知っていますか。（○は1つ）

○尾張東部権利擁護支援センター（あすライツ）の認知度をみると、「知らない」が94.2%を占め、「知っている」は4.4%となっています。

■ 尾張東部権利擁護支援センターの認知度

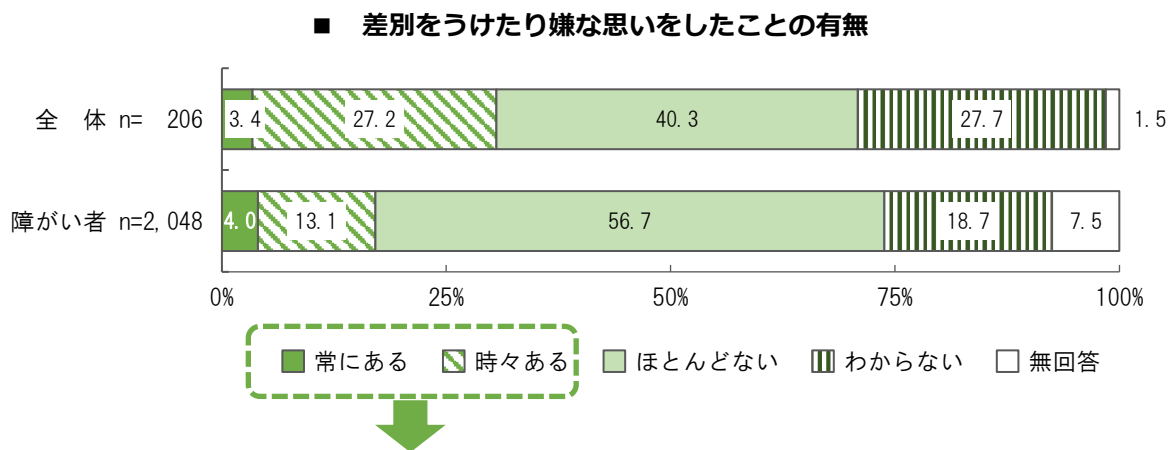


14 障がいなどのある人に対する差別や配慮について

（1）不当な扱いを受けたりいやな思いをしたことの有無

問57 あなたは、障がいなどがあるために不当な扱いを受けたり、いやな思いをしたことがありますか。（○は1つ）

- 不当な扱いを受けたりいやな思いをしたことの有無をみると、「ほとんどない」が40.3%と最も高く、次いで「わからない」（27.7%）、「時々ある」（27.2%）となっています。
- 同じ設問を障がい者調査（問59）と比較すると、「常にある」と「時々ある」を合わせた『ある』は、障がい者が17.1%に対して、障がい児は30.6%と高くなっています。



■ いやな思いをした具体的な内容

具体的な内容（一部抜粋記載）	
障がい 身体	学校で友達ができにくい。
	じろじろと見られる。
知的障がい	真似をされる。仲間外れにされる。
	悪口を言われたり、無視をされる。
	普通学級に交流に行った時に馴染めない。バカにする発言をされたりする。
	小学校特別支援級に通っていた時、行事で他の子のようにできない時に、教師や保護者から心無い反応をされた。
	説明しても理解ができず、みんなと同じように行動することができないため、障がいを知らない人から、「うるさい」「落ち着きがない」と注意を受ける。
精神障がい	あなたは障がい者なんだから～であるべき。人とは違うから同じことはしたらいけない、と言われる。
	発達障がいなので、「周囲の目」に気を遣うことが多い
	場面緘黙症で発語できないため、動物のように扱われ、対等な人間として扱われずとても辛かった。小学校の先生も含め理解がなく、忘れ物をした時に怒られたり、文字を記入するスピードが遅いことで怒られた。

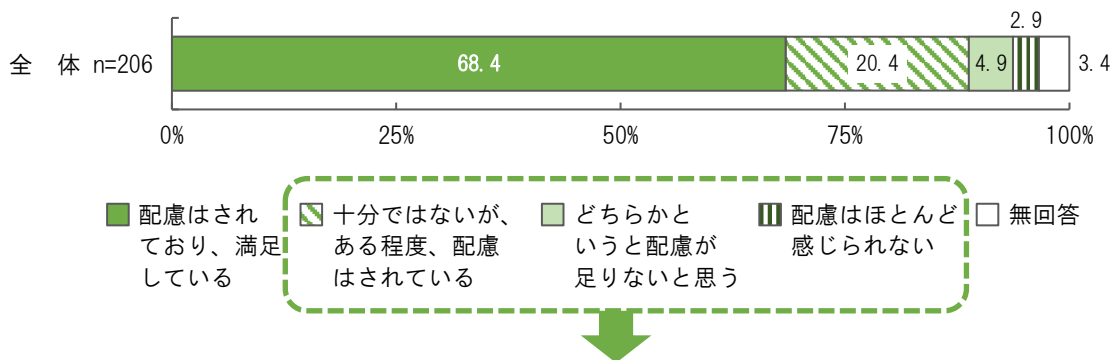
具体的な内容（一部抜粋記載）	
重 所 複 持	必要以上にジロジロ見られる。
	健常者と分けて考えられる。
持 っ て い な い	小児科、歯科など病院で静かに待っているのが難しく、ただ騒いでいると思われ嫌な思いをすることがある。
	変な目で見られることがある。または、変な目で見られないようにと気を遣う。
	周囲の子からバカにされることがある。嫌なことを言われる。挑発されて怒るように仕向けられる。
	他の人ができることができないと仲間はずれにされたり、一生懸命やっているのにふざけていると誤解される（先生にも）。
	幼稚園の入園で受け入れてもらえない。定型発達の子が当たり前で優先的としている世間や親の感覚。
	同じ歳の子とうまく会話ができない、分からないことがしんどいように見て感じます。年相応の授業も内容によりますが嫌な事も少なくないので、それも幼稚園への行き渋りに繋がっているのかなと感じています。
	まだ小学生なので、同級生に率直な言葉をかけられたりします。同伴している親が説明するなどして対処しています。
学校で交流級に参加している時に笑われたり、ひとりぼっちにされる時がある。	

（2）市役所の配慮

問58 市役所の窓口や電話での職員の対応、市役所から自宅に届く文書などについて、障がいのある人などへの配慮をどのように感じていますか。（○は1つ）

○市役所の配慮について、『配慮されている』（「配慮はされており、満足している」＋「十分ではないが、ある程度、配慮はされている」）と感じている方は88.8%、一方、『配慮されていない』（「どちらかという配慮が足りないと思う」＋「配慮はほとんど感じられない」）と感じている方は7.8%となっています。

■ 市役所の配慮【所持手帳種類別】



■ 配慮が足りないと感じた具体的な内容

配慮が足りないと感じた具体的な内容（一部抜粋記載）	
身体障がい	電動車いすを作る時、市からなかなか申請が下りなかったこと。
	補装具が申請してから日数がかかり、日常生活が不便になるのでもう少し配慮してもらいたい。
知的障がい	市役所に行かなくても、オンラインなどで手続きできるものが増えると良い。記入例が古いままなのか、提出書類と形式が違っているものがあった。
	文書の内容が固苦しい文面と単語で、理解するのが難しい。
	文書の理解ができないのでわからない。子ども宛てに電話や文書はない。スマイルチケットは子ども用文書があってもよいのでは。
	役所に勤める各個人の人柄による配慮は感じることはあるが、人それぞれであり、配慮のない方もおり、役所全体で決められた配慮があるような感じはしない。
	重度知的障がいのある『あなた』の気持ちや考えを、保護者が勝手に入力するのは難しいと、このアンケートを答えながら思っています。本人は知ってもいない、気にしてもいないが、保護者としての考えは違う。 市役所からの手紙は普段使わないような言葉があったり、文字数が多いので情報を読み取ることに疲れる。
	今回のアンケートにおいても、診断名を告知していないのに障がいに対するアンケートに答えることになったため。
市役所の窓口に関して、当該窓口にいる時点で障がいのある人もしくはその家族ということはわかるので、少し嫌だなとは思う。	

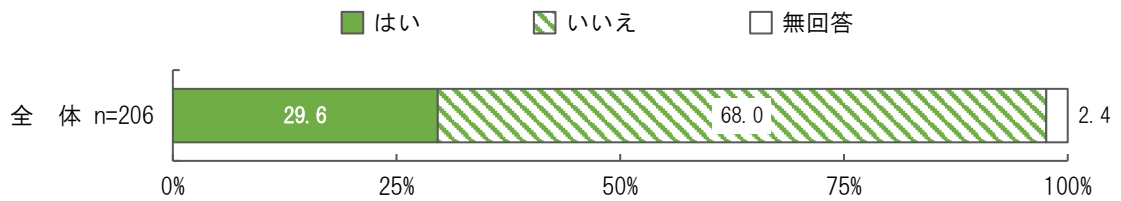
配慮が足りないと感じた具体的な内容（一部抜粋記載）	
精神障がい	文書は、親の私が開封するのでもし子どもが一人になった場合は、なんの文書が届いているのかもわからず、先ず開封しない。 窓口へ一人で行くこともできず、支援制度があっても利用できなく、孤立してしまうことがとても心配。
	書字障がいがある人のためにパソコン入力できるとよい。
	人によって言うことが異なることが多々あるため。
重複所持	提出物を窓口まで持っていくように指示があると、行くまでが大変。郵送で可能であれば助かる。
	何度も手続きの為に足を運ばされる点。
	文字が小さい
	福祉課はよく理解し、配慮してくれていますが、他の課では色々なお願いをしてもなかなか思うようには取り扱ってくれないことがある。
持っていない	結局、幼稚園の入園拒否のことなど相談に行っても、話しは聞いてくれるが、力にはなってもらえない。
	市役所の窓口や電話では、相談しても臨機応変になかなか対応してもらえない。決まりだからと言われて終わる。
	冷たい人もいる。
	先日、療育申請に行った時、子どもに対して「療育受けるのはこの人？」と言われた。『この人』という言い方に違和感。「この方かな？」「この子かな？」って言う言い方じゃないのか。
	封筒の差出人に「福祉課」と書いてあると、何か福祉サービスを受けていることがわかってしまう、もしくは「何かあるのかな」と思われてしまいそうで少々気になります。中身を見ればどこから来たのかわかりますので、「尾張旭市役所」だけでよいのにと思います。

（3）虐待に関する相談窓口の認知度

問59 障がいのある人などに対する虐待に気づいた人は、市へ通報する義務があります。
あなたは虐待に関する相談窓口が市役所にあることを知っていますか。（○は1つ）

○市役所にある虐待に関する相談窓口の認知度をみると、「はい」（知っている）は29.6%、「いいえ」（知らない）が68.0%となっています。

■ 虐待に関する相談窓口が市役所にあることを知っているか



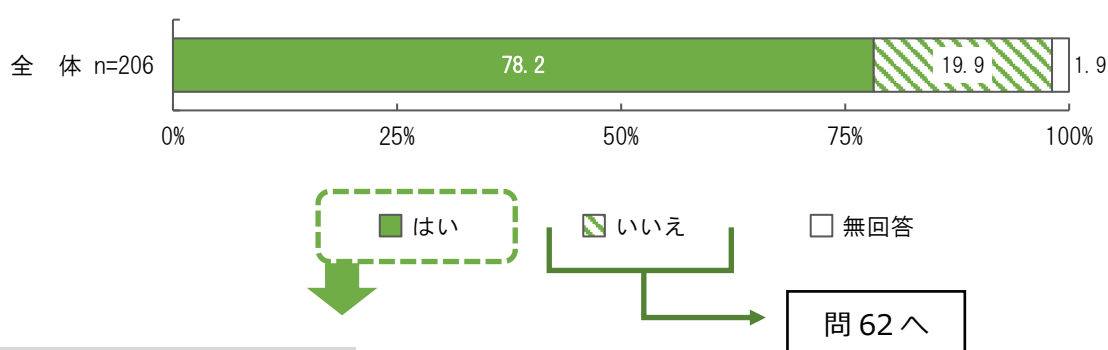
15 障がい児などに対するサービスについて

（1）障がい児などに対するサービスの利用の有無

問60 あなたは、現在、児童発達支援や放課後等デイサービスなど障がい児などに対するサービスを利用していますか。（○は1つ）

○サービスの利用の有無をみると、「はい」（利用している）は78.2%、「いいえ」（利用していない）は19.9%となっています。

■ 障がい児などに対するサービスの利用の有無

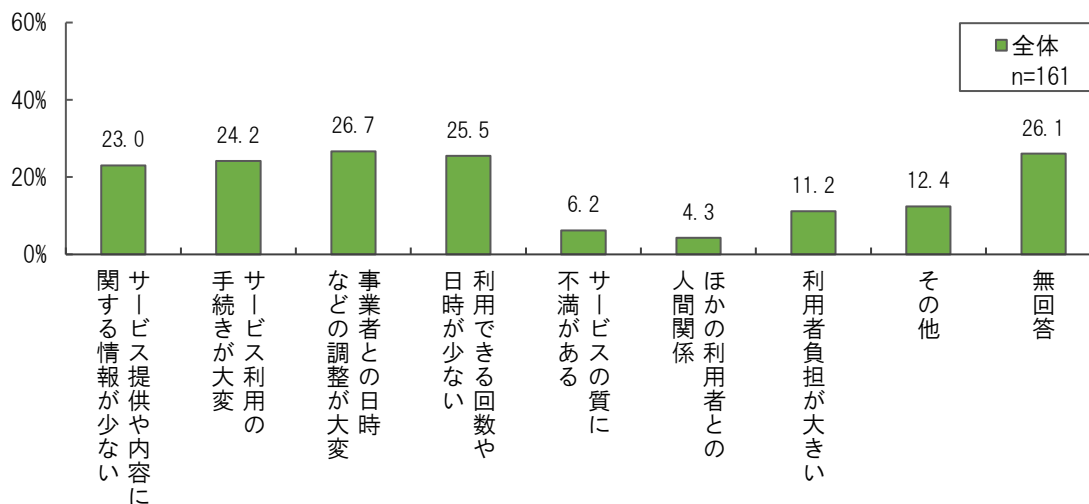


問60で「はい」と答えた方のみ

問61 障がい児などに対するサービスなどを利用する上で困っていることはありますか。（○はいくつでも）

○利用する上で困っていることをみると、「事業者との日時などの調整が大変」が26.7%と最も高く、次いで「利用できる回数や日時が少ない」が25.5%、「サービス利用の手続きが大変」が24.2%となっています。

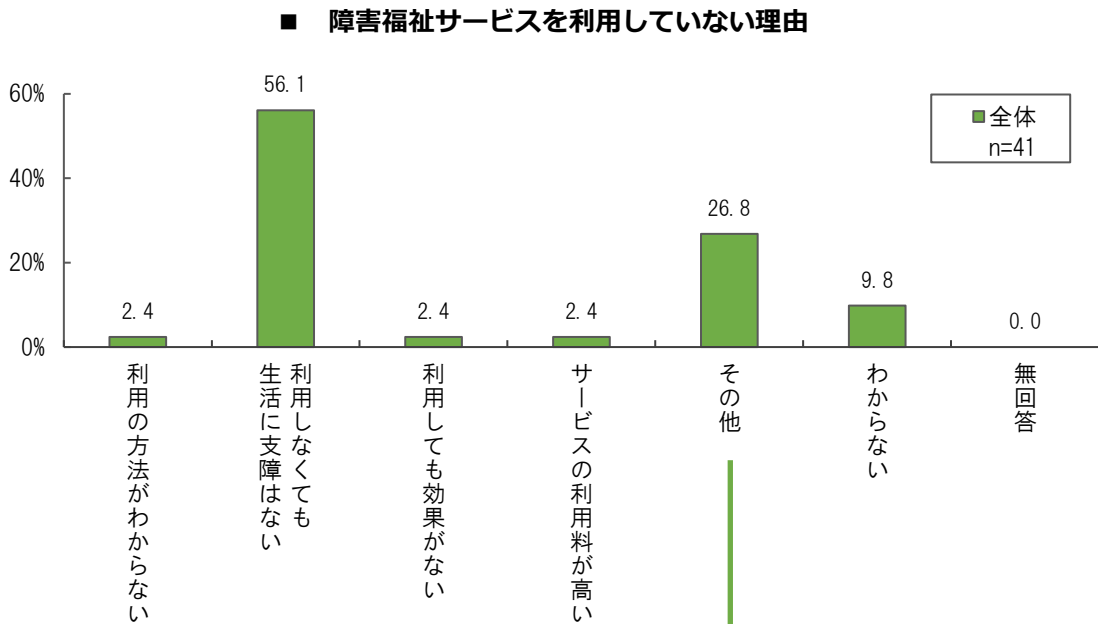
■ 利用する上で困っていること



問60で「いいえ」と答えた方のみ

問62 障がい児などに対するサービスなどを利用していない理由は何ですか。（○は1つ）

○サービスを利用していない理由は、「利用しなくても生活に支障はない」が56.1%と最も高くなっています。



■ その他の内容

その他の内容
希望曜日と時間に空きがない。
高校生になって行く必要がなくなった。
年齢的に使用できなくなったため。
保育園で保育士のサポートを受けているので、改めては必要ない。
学童を利用している。
就労しているため利用できない。
学校が終わってからだと時間的に無理。
「現時点では」利用しなくても生活に「重大な」支障はない。
以前行っていたが行きたくないと聞いたため。
本人が嫌がる。
サービス自体の存在を知らない。

16 障がい者施策等について

（1）障がい者施策の満足度と今後の優先度

問63 尾張旭市の障がい者施策全般についておたずねします。下の表の①～⑨の項目ごとに、「現在の満足度」と「今後の優先度」のそれぞれに○を1つずつつけてください。

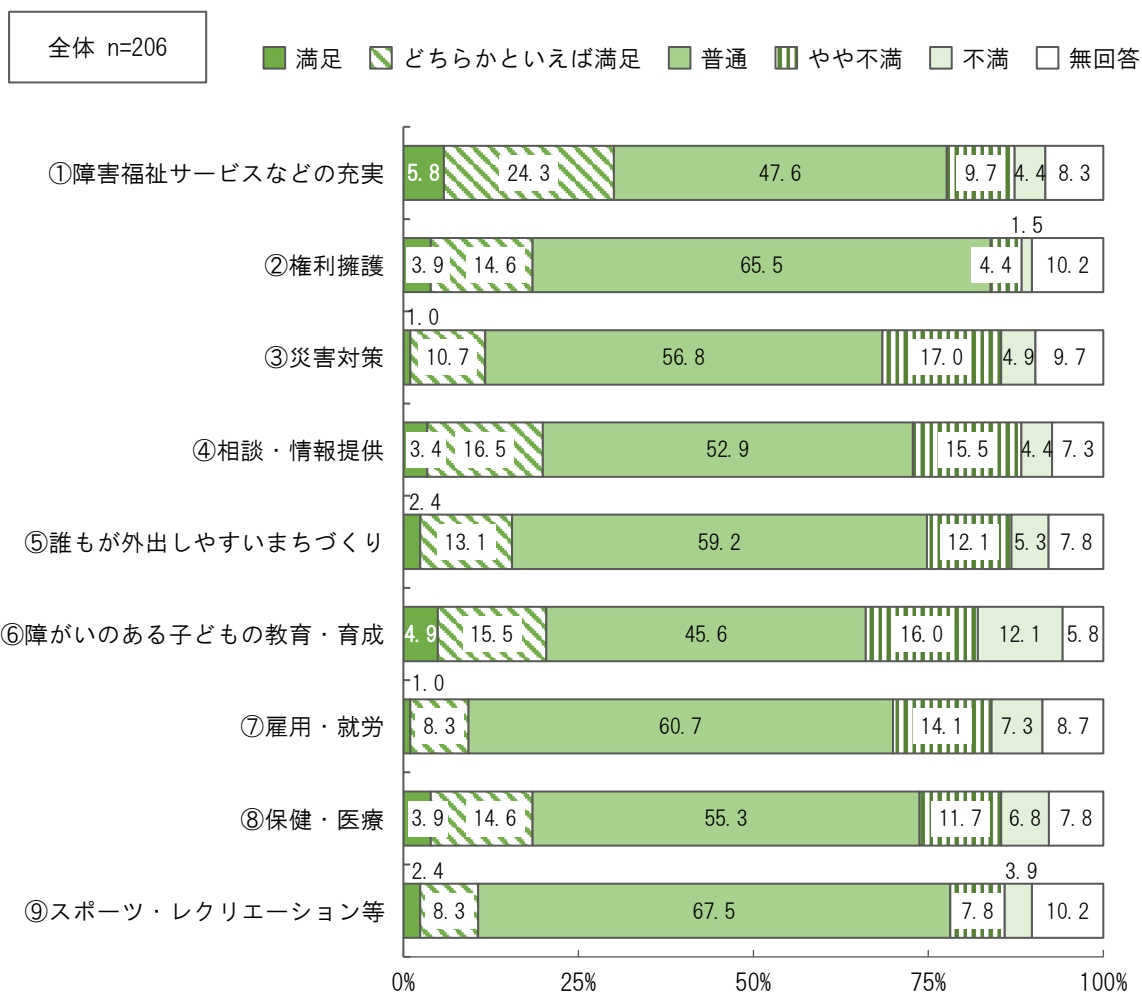
○障がい者施策の現在の満足度をみると、すべての項目で「普通」が最も高くなっています。

また、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は“①障害福祉サービスなどの充実”が30.1%と最も高く、次いで“⑥障がいのある子どもの教育・育成”が20.4%、“④相談・情報提供”が19.9%となっています。

一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は“⑥障がいのある子どもの教育・育成”が28.1%と最も高く、次いで“③災害対策”が21.9%、“⑦雇用・就労”が21.4%となっています。

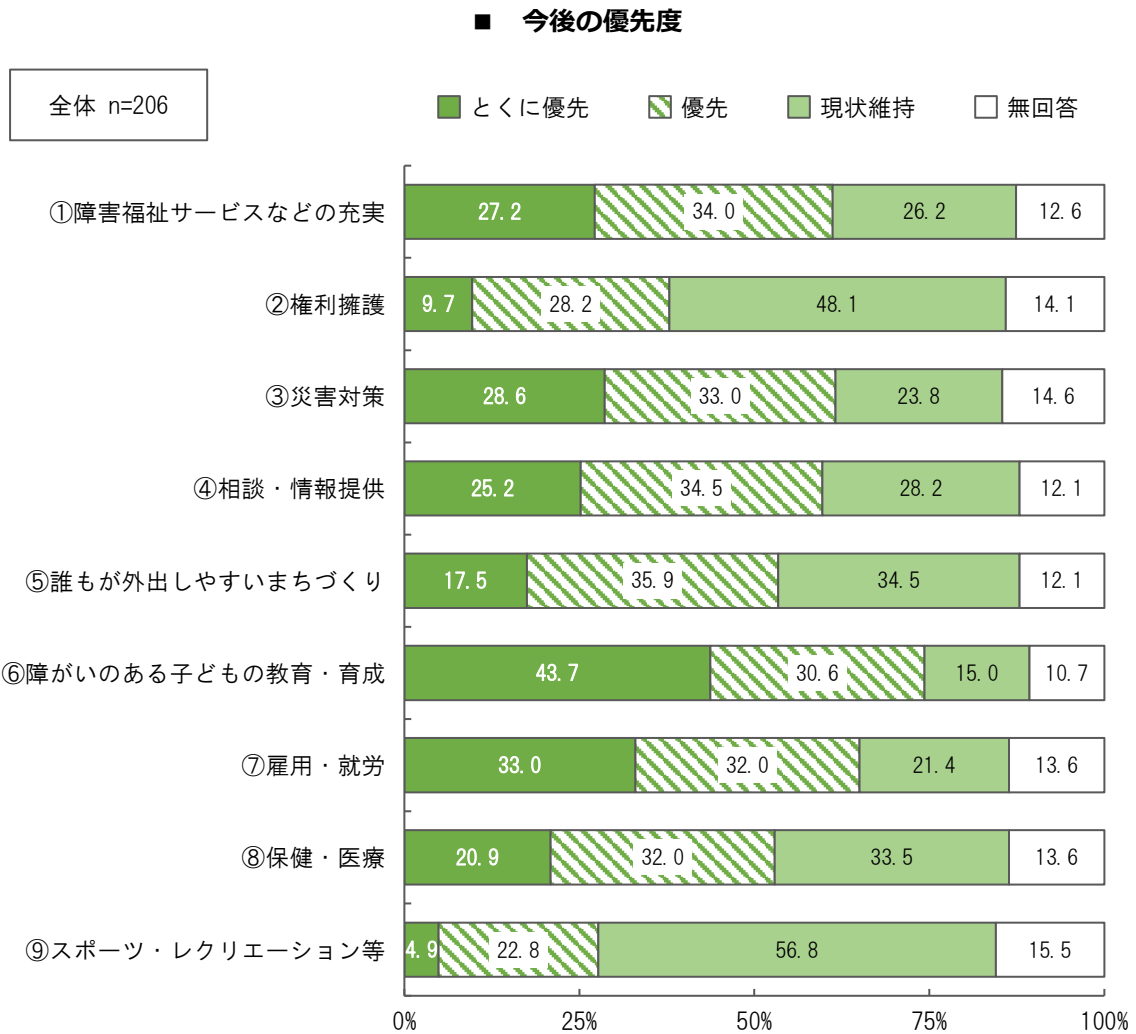
“⑥障がいのある子どもの教育・育成”は『満足』、『不満』ともに上位となっています。

■ 現在の満足度



○障がい者施策の今後の優先度をみると、「とくに優先」と「優先」を合わせた『優先』は“⑥障がいのある子どもの教育・育成”が74.3%と最も高く、次いで“⑦雇用・就労”が65.0%、“③災害対策”が61.6%、“①障害福祉サービスなどの充実”が61.2%となっています。

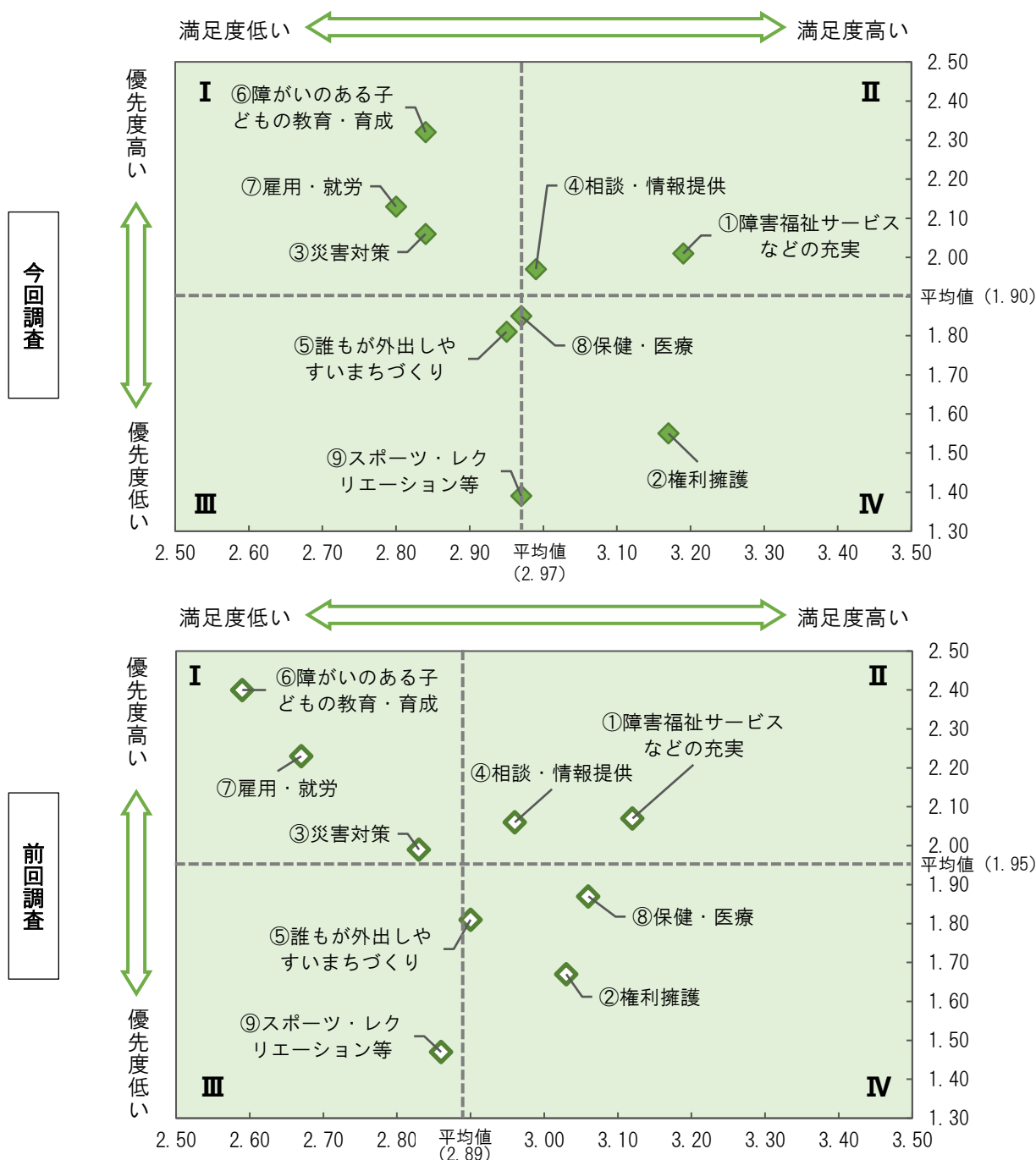
また、「現状維持」は“⑨スポーツ・レクリエーション等”(56.8%)、“②権利擁護”(48.1%)で高くなっています。



◆以下は、障がい者に関する施策9項目について、「満足度」は5段階、「優先度」は3段階の評価で得た回答を点数化し、横軸を「満足度」、縦軸を「優先度」として散布図にしました。

○前回調査との比較をみると、満足度の平均値は上がり優先度の平均値は下がっています。グループⅠ（特に取り組みが必要な施策）には、前回調査と同じ「③災害対策」「⑥障がいのある子どもの教育・育成」「⑦雇用・就労」の3施策が上がっています。3施策とも満足度は高くなっているものの、「③災害対策」の優先度が高くなっています。

■ 施策の現在の満足度と今後の優先度の散布図【障がい児：前回調査比較】



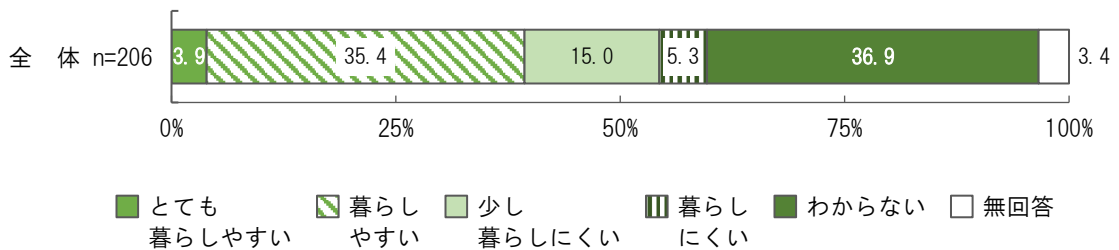
(2) 障がいのある人にとっての尾張旭市の暮らしやすさ

問64 あなたは、障がいのある人にとって尾張旭市は暮らしやすいと思いますか。それとも、暮らしにくいと思いますか。（○は1つ）

○障がいのある人にとって尾張旭市は暮らしやすいと思うかの問いでは、「わからない」が36.9%と最も高く、「とても暮らしやすい」(3.9%)と「暮らしやすい」(35.4%)を合わせた39.3%が『暮らしやすい』と回答しています。

一方、『暮らしにくい』(「少し暮らしにくい」+「暮らしにくい」)は20.3%となっています。

■ 尾張旭市の暮らしやすさ



◆『暮らしやすい』と思う理由と『暮らしにくい』と思う理由は下記のとおりです。

■ 「とても暮らしやすい」理由

「とても暮らしやすい」理由（一部抜粋記載）	所持手帳種類
とても暮らしやすいです。市役所の方々もとても親切に教えてくださいます。	重複所持
市役所の方が発達の話を出してこなかったら、多分少し遅れてるだろうで終わっていたと思う。積極的に話しかけていただいたことは、大きかった。	持っていない
事業所の方たちが親身になって話を聞いてくれる。それに合ったアドバイスや情報を教えてくれる。	知的障がい
あさぴー号やその他バス会社が運用しているものが、時間の頻度も高く、利用するにもあまり困らないから。	精神障がい

■ 「暮らしやすい」理由

「暮らしやすい」理由（一部抜粋記載）		所持手帳種類
サービス等の支援の充実	発達センターにこにこの存在がとても大きいと感じています。困った時に相談するといつも親身になって貰えるのでとても助かっています。	持っていない
	障がい児に対するケアがしっかりしている。	知的障がい
	福祉課の方が親身になって相談にのってくださるので色々と考えやすいです。	身体障がい
	良い療育事業所が充実している。サポート事業所を紹介してくださり、モニタリングも定期的にしてくださる事業所もあり大変助かっています。尾張旭市で良かったと感謝しながら過ごしています。	持っていない
	就園前から通える児発が多いと近隣の市に在住の親御さんから聞きました。	持っていない
	何かあったらすぐに相談できたりするから。	持っていない
	他の市町村の事がわからないし、福祉サービスの事がよくわかりませんが、最低限の事はやっていただいていると思います。	重複所持
	福祉課の対応は良く、相談もしやすく、日常生活用具や手帳の更新など素早く対応してもらい感謝しています。市独自の補助金やチケット、オムツの補助もありがたいです。	重複所持
地域環境の充実	温かい人が多いと感じるから。	無回答
	治安がとても良いため。	持っていない
	学校もデイサービスも楽しいし、お店や病院も近くにあるから。	持っていない
	徒歩で行ける場所にスーパー等の施設があるところは住みやすいが、あさび一号の乗車人数や本数が少ないところが少し不便だと思う。	知的障がい
	近隣の市町村と比べて、良いところもあればもう少し整備して欲しいなと思うところもある。	重複所持

■ 「少し暮らしにくい」理由

「少し暮らしにくい」理由（一部抜粋記載）		所持手帳種類
サービス等の支援が不十分	デイサービスなど、空きがなかったりして困っている保護者が多い。	知的障がい
	引っ越してきたばかりで、どこに相談したらいいからわからない。 放課後等デイサービスなど療育に行かせたくても、どこもキャンセル待ちで通うことができないし、選ぶことができない。 小学校で学童を利用しようとするが、サポートのような加配が付くわけではないので断られてしまう。 学校の通学の送迎も親がするため、なかなか私（親）が仕事をすることができず、困る場面がある。	知的障がい
	受給者証の審査基準が他の自治体と比べて厳しい。そして、利用日数も、なぜか市役所の担当課か担当者の判断か知らないけれど、制限されている。手帳を持っていないと8日が最大という意味がわかりません。 利用が必要なのに、日数制限される意味がわからない。	精神障がい
	自分から情報を探しに行かないと、放デイや手帳の存在を教えずに貰えなかった。	精神障がい
	小学校に行けない、行かない子どもの居場所の選択肢が少ない。教育の機会が提供されにくい。	精神障がい
	体を動かせたり、勉強に特化した放課後等デイがあれば嬉しい。	無回答
	発達障がいの薬をもらうための医療機関が少ないために、予約を取るのが困難。	持っていない
	補装具の申請に時間がかかり職員もあまり詳しくなく、何人も人が代わり疲れる。	身体障がい
	坂道が多い。歩道が狭い所が多い。	持っていない
地域環境の不便さ	車椅子などで外出する際、歩道の段差や整備されていない所で転倒したことがある。歩道の幅や舗装整備してほしい。	身体障がい
	駅が遠い、交通手段が少ない、バスの本数が少ない。	身体障がい

■ 「暮らしにくい」理由

「暮らしにくい」理由（一部抜粋記載）		所持手帳種類
サービス等の支援が不十分	受給者証の支給日数が少ない。支援事業所が少ない。色々なサポートが受けにくい。 市外から引っ越してきたが、手厚いところから尾張旭に来たので、こんなにも落差があるのかとがっかりした。引っ越して来なければよかったと思うほど、支援が足りてないように感じる。	持っていない
	近隣の市に暮らしている方の話を聞くと、同じ状況でも受けられる福祉サービスが少ないと感じる。	知的障がい
	作業療法や言語療法などをする公的施設がない。すべて個人で探すしかなく困る。もう少し、公的にやってくれる療育を充実させてほしい。	知的障がい
	障がい児を育てながら共働きをしている家庭はたくさんありますが、預かり時間が短く泣く泣く退職されたり、短くして働く方がたくさんいらっしゃいます。もう少し支援が必要だと思います。一時的に預かる場所を用意して、デイの送迎車が迎えに来てくれる場所がほしいです。障がい児を育てながら働きたいママは多いと思います。	知的障がい
	市内の学校に通えていないので暮らしにくいと思います。教育面での配慮は薄いと感じる。	知的障がい
の地不域便環さ境	専門の病院が遠い。公共交通機関が整っていないので職場へ行きにくい。	知的障がい
	市役所利用が不便。市職員の対応全般が不快。	知的障がい

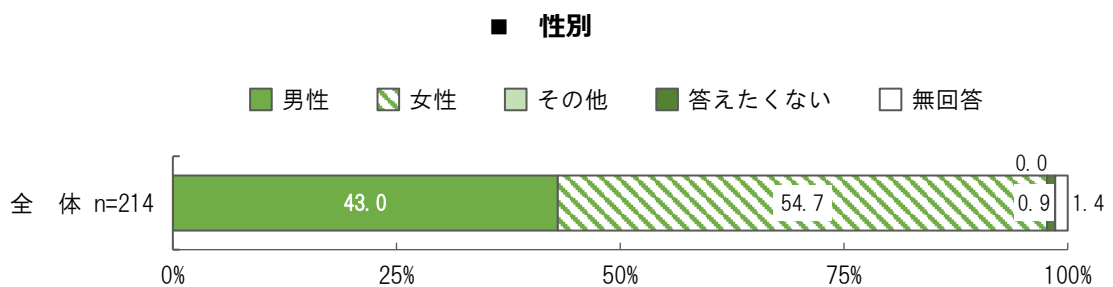
IV 調査の結果（一般）

1 あなたご自身のことについて

(1) 性別

問1 あなたの性別をお答えください。（○は1つ）

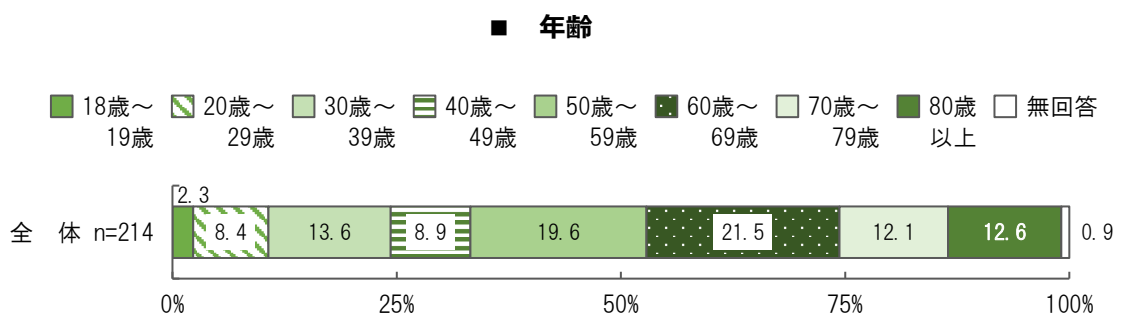
○回答者の性別は、「男性」が43.0%、「女性」が54.7%となっています。



(2) 年齢

問2 令和7年12月1日現在のあなたの年齢をお答えください。（○は1つ）

○回答者の年齢は、「60歳～69歳」が21.5%と最も高く、次いで「50歳～59歳」が19.6%、「30～39歳」が13.6%となっています。



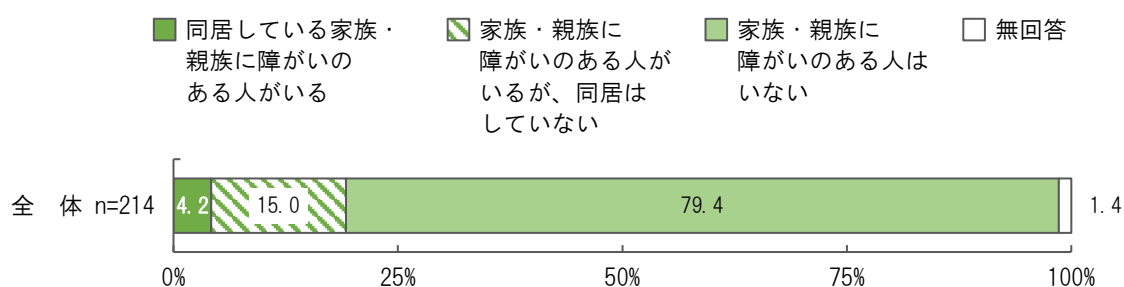
（3）障がいのある家族・親族の状況

問3 あなたの家族・親族に障がいのある人はいますか。（○は1つ）

○障がいのある家族・親族の状況は、「家族・親族に障がいのある人はいない」が79.4%と最も高くなっています。

一方、「同居している家族・親族に障がいのある人がいる」は4.2%、「家族・親族に障がいのある人がいるが、同居はしていない」は15.0%となっています。

■ 障がいのある家族・親族の状況

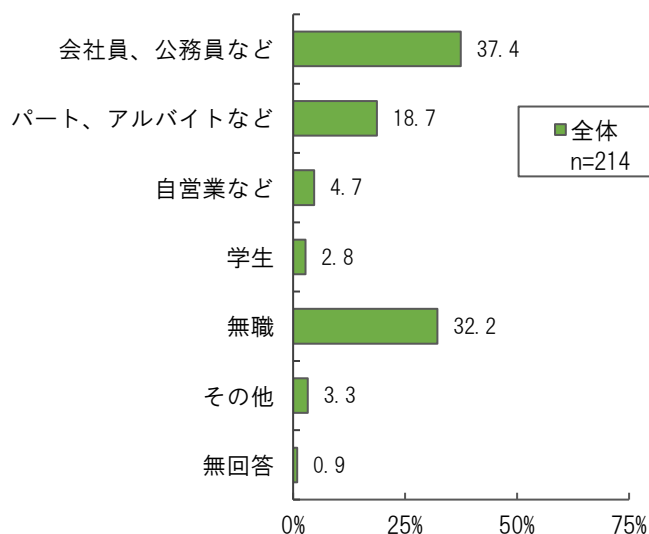


（4）職業

問4 あなたの職業をお答えください。（1つに○）

○回答者の職業は、「会社員、公務員など」が37.4%と最も高く、次いで「無職」が32.2%となっています。

■ 職業



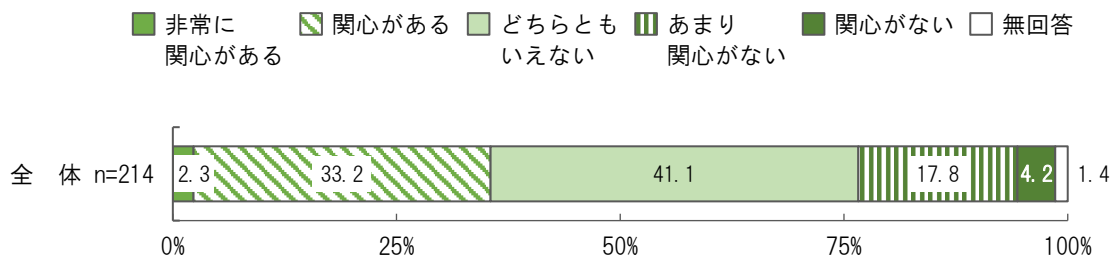
2 障がいのある人への関心などについて

(1) 障がいのある人への関心

問5 あなたは地域で暮らす障がいのある人について関心はありますか。(○は1つ)

○地域で暮らす障がいのある人への関心は、「どちらともいえない」が41.1%と最も高く、『関心がある』（「非常に関心がある」+「関心がある」）は35.5%、『関心がない』（「あまり関心がない」+「関心がない」）は22.0%となっています。

■ 障がいのある人への関心

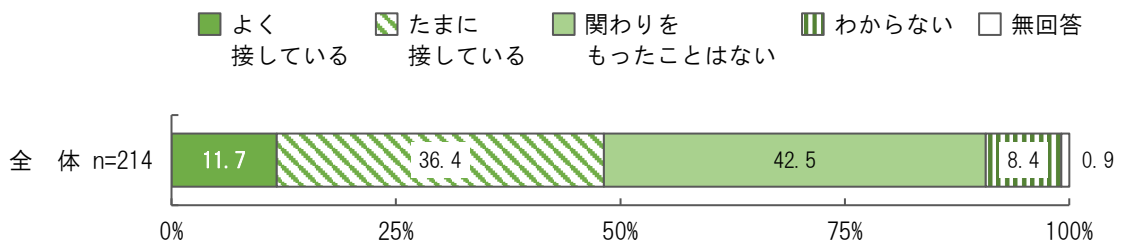


(2) 障がいのある人との関わりの状況

問6 あなたは家族・親族・地域・職場・学校・ボランティアなどで障がいのある人との関わりがありますか。(○は1つ)

○障がいのある人との関わりをみると、「関わりをもったことはない」が42.5%と最も高く、次いで「たまに接している」が36.4%、「よく接している」が11.7%となっています。

■ 障がいのある人との関わりの状況

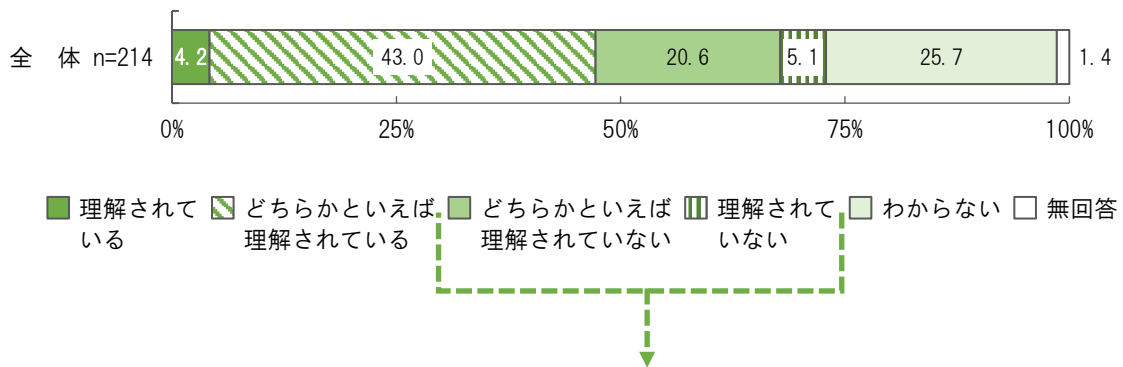


（3）障がいのある人に対する社会の理解

問7 あなたは日常生活の中で、障がいのある人に対する社会の理解についてどう感じますか。（○は1つ）

○障がいのある人に対する社会の理解は、「どちらかといえば理解されている」が43.0%と最も高く、次いで「わからない」が25.7%となっています。
また、『理解されていない』（「どちらかといえば理解されていない」+「理解されていない」）と感じている方は25.7%となっています。

■ 障がいのある人に対する社会の理解



問7で「どちらかといえば理解されていない」「理解されていない」を選択した方のみ

問7-1 あなたは日常生活の中で、障がいのある人が理解されていないと感じることは何ですか。（自由回答）

■ 障がいのある人が理解されていないと感じること

障がいのある人が理解されていないと感じること	属性
腫れ物扱いされている気がする。障がいのある人だから気を使わないと、という意識が先行して親しげな関係を築くのにハードルがあると思う。障がいがあると言っても、配慮が必要なだけで他の人とそこまで違う訳ではないので、気を使いすぎる必要はない、という感覚は広まっていないと思う。	男性・18～19歳
SNSで、障がい者についての投稿のコメントなど。	女性・18～19歳
現状の物価高などにより、他人より身内な感じがする。	男性・30代
精神障がいの特性が周囲の人間に理解されず、衝突が発生する場面を見るなどした。	男性・30代
バリアフリー化されていない。	男性・30代
まだ障がいのある方が使いにくい施設、行きにくい場所などがあるから。	男性・30代
自分自身が障がいのある人のことを理解していないから。	女性・30代

障がいのある人が理解されていないと感じること	属性
見た目は障がいがあるように見えないため、誤解されやすい。	女性・30代
対岸の火事で、自分の身近な問題として私自身が感じていない。また、そのような方への接し方がわからない。余計なお世話になってしまう気がして、一歩踏み出せない自分を見てそう感じます。	男性・40代
身障者用駐車スペースに、健常者が停めている時など。	男性・40代
私自身、よく障がいについて理解していません。	女性・40代
何の障がいかわからないから、対応もできない。	女性・40代
偏見があること。障がいのある方が必要としている支援は社会的サービスが多く、地域や近所で支え合うことが少なくなり（昔で言うご近所づきあいが少なく）、障がいのある方を「障がいのある方」として見る、分けるところがあるように感じるため。	女性・40代
身体的障がいがある人は外見で分かるが、心的障がいのある人（特に軽症）の場合、ぱっと見て判断ができないため、見逃されている。もしくは、気づかない。そのため、軽症に見られがちで補償が薄い。子どもにいたっては、いじめの原因となる。	女性・40代
人口に対して一定数みえるはずの障がい者の方と、社会生活をする上であまり出会わないから。社会的配慮が効いた社会であれば、もっと障がいを持った方々が外出や社会資源を私たちと共有できているはずだと考えるから。	女性・40代
福祉制度について。	女性・40代
目に見えない障がいをお持ちの方に対しては、ぱっと見て障がいがないように見えるため、変な人扱いをされていることが多いように思うからです。	答えたくない・40代
やはり健常者は自分中心で考える人が多いので、障がいを持った方への配慮が足りているとは思わない。	男性・50代
誰が見てもわかる身体的な障がいでないハンディキャップの方々は、見た目でもわかりにくい。	男性・50代
外出している障がいのある人が少ないと思う。外出しにくい社会なのだと感じる。	女性・50代
勝手な思いで、障がいのある人の特性を決めつける発言を聞いた時。また、合理的配慮を受けるまでのやり取りや、時間を非常に要すると感じる。適切な診療等の場に結びつく機会や、受け入れまでも時間がかかると感じるから。	女性・50代
障がいのある方は相当数いらっしゃるはずだが、見かける機会が少ない。理解されていない故では、と感じます。	女性・50代
生活全般、健常者基準に作られたものが溢れていると思うから。	女性・50代
障がいのある家族を悪く言う人がいる。外で他の障がい者も見かけるが、ほとんどの人は見て見ぬふりをしている。困っていても手助けしようとしない。	女性・60代
外見で障がい認識できない人に対しての、電車内などでの健常者の対応の冷たさ。	女性・60代
私自身に障がいがありますが、時として忘れられているのではと思うことがある。	女性・60代
理解する・しないということではなく、日常生活の中でどのように接したらいいのかわからないと思っている人が多いのではないかと思います。	女性・60代

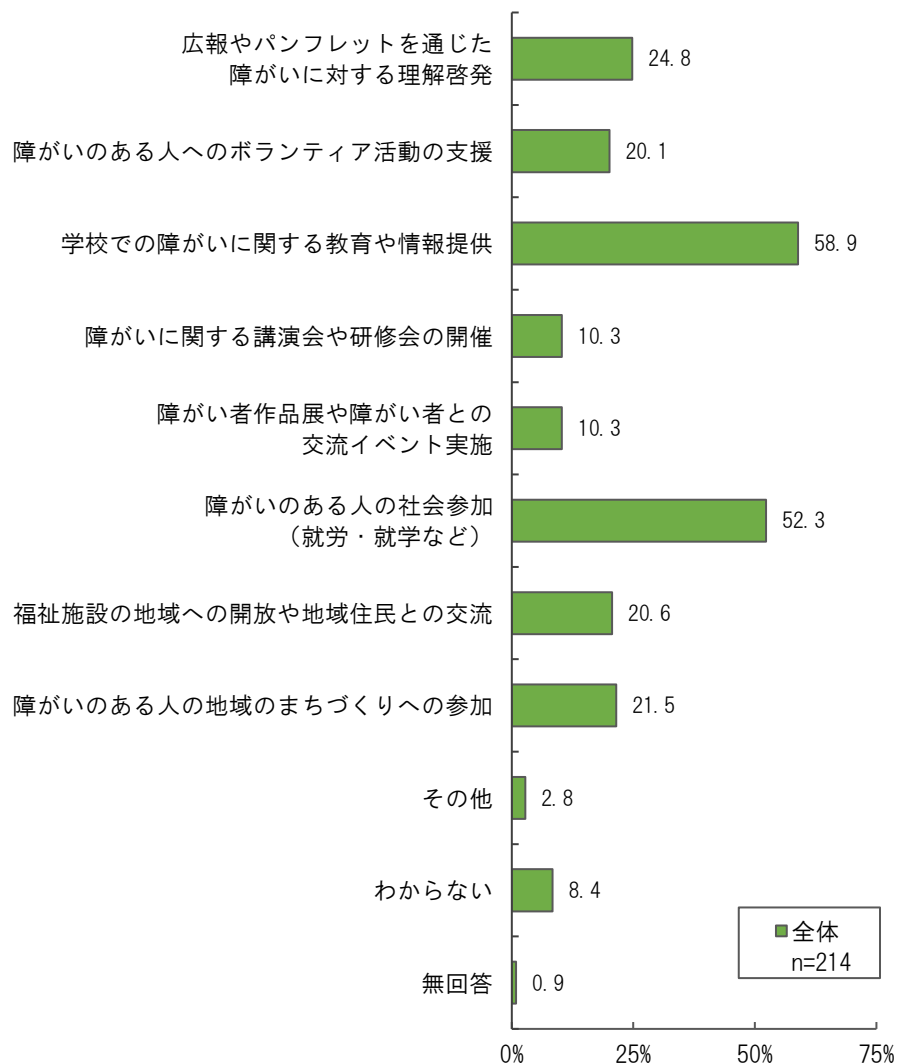
障がいのある人が理解されていないと感じること	属性
困っていそうな時に手を出さない。声ぐらいはかけてもよいと思う。	女性・60代
見た目でわかる障がいの時は、明らかに距離を取られると感じることがあります。	女性・60代
スーパーの清掃で働いています。現状、健常者同士でも男女差別があり、また、人を差別しモラハラ行為があります。普通でも理解力が足りなければ、障がいのある人に対する理解は100%のうち半分あるかないかではないでしょうか。	女性・60代
障がいと言っても色々な障がいがあると思いますが、みんなどのように接していいかわからず関わらないようにしているように見える。	女性・60代
車椅子で入店できない所がある。	女性・60代
ニュースやドキュメンタリーで障がいのある方の状況を見聞きすると、知らない事が多いと感じる。	女性・60代
面倒だから関わらないようにしてそうだ。	女性・60代
就職困難な社会である。	男性・70代
何か、他人事と思われる感じ。	男性・70代
道路は狭い、私本人も自転車乗るのに怖い。ネット通販(生協)もし難いだろう。	女性・70代
近所住人とのコミュニケーションが少ない。	男性・80歳以上
無視されるケースが多々あるように感じる（関わりを持つのを嫌う）。	男性・80歳以上
親族身内に該当者がいない場合やはり他人事と思っている人が多いと感じる。	男性・80歳以上
車椅子が通りにくい。足が悪い人に道を譲らない。	女性・80歳以上

（４）市民理解を深めるために必要なこと

問 8 障がいのある人に対する市民の理解を深めるために、必要だと思うことは何ですか。（○は3つまで）

○障がいのある人に対する市民理解を深めるために必要なことは、「学校での障がいに関する教育や情報提供」が58.9%と最も高く、次いで「障がいのある人の社会参加（就労・就学など）」が52.3%、「広報やパンフレットを通じた障がいに対する理解啓発」が24.8%となっています。

■ 市民理解を深めるために必要なこと



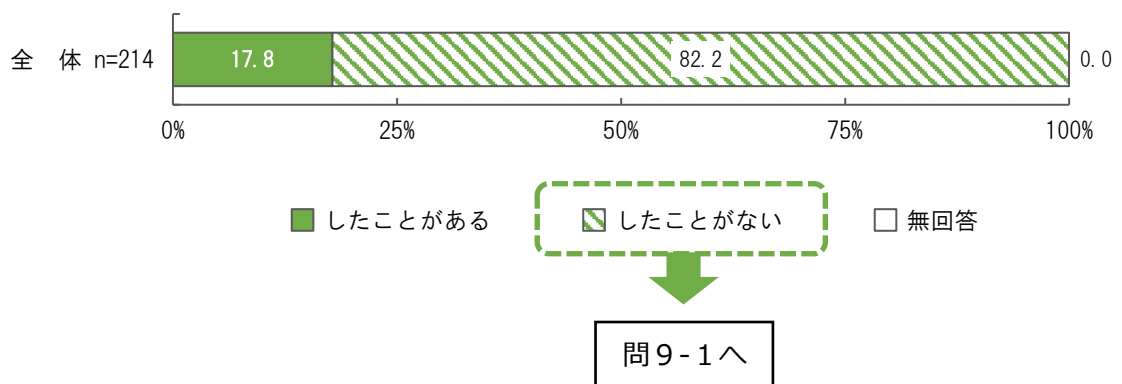
3 障がいのある人への地域でのボランティア等について

(1) 障がいのある人との地域活動への参加

問9 あなたは障がいのある人とともに地域活動に参加をしたことがありますか。
(○は1つ)

○障がいのある人とともに地域活動に参加を「したことがある」は17.8%、一方、「したことがない」は82.2%となっています。

■ 障がいのある人との地域活動への参加

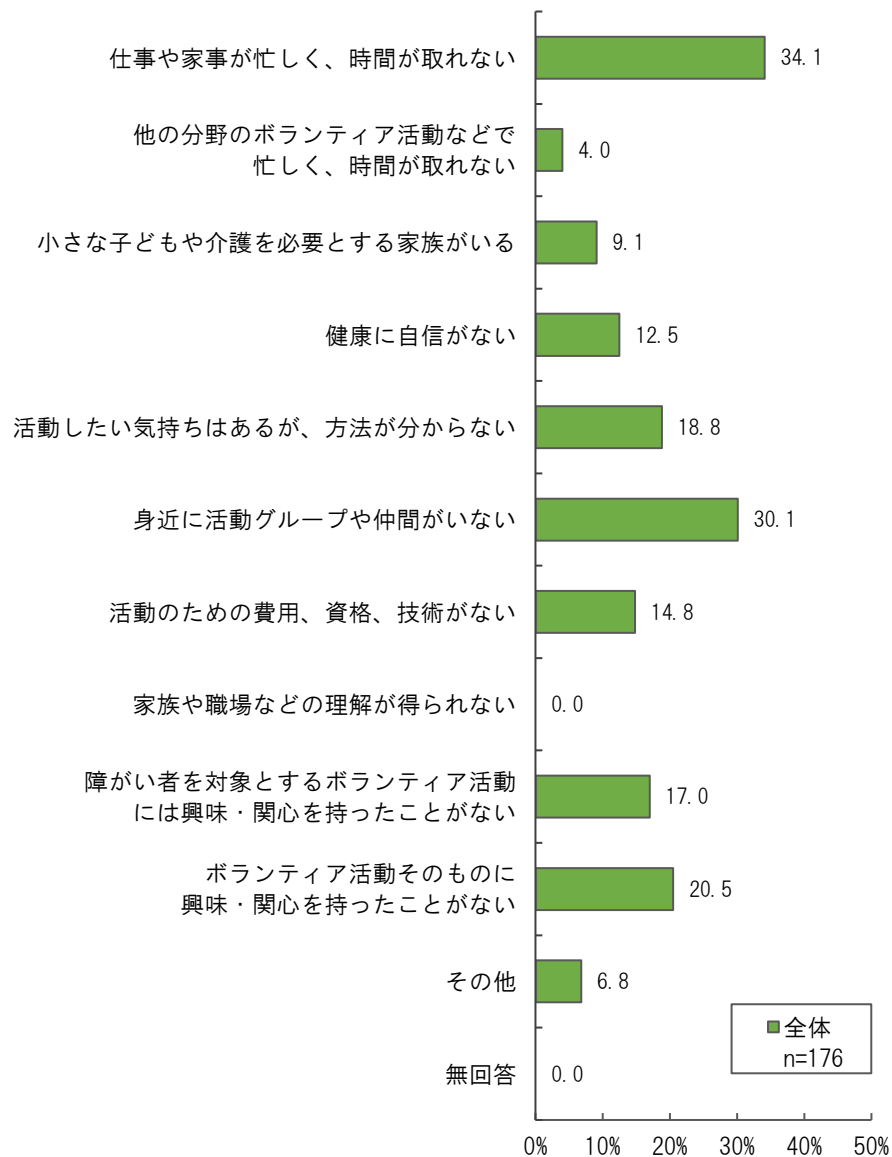


問9で「したことがない」と答えた方のみ

問9-1 その主な理由は何ですか。（〇はいくつでも）

- 障がいのある人とともに地域活動に参加したことがない理由をみると、「仕事や家事が忙しく、時間が取れない」が34.1%と最も高く、次いで「身近に活動グループや仲間がない」が30.1%、「ボランティア活動そのものに興味・関心を持ったことがない」が20.5%となっています。
- 調査結果から活動したいというニーズもうかがわれるため、ボランティアの活動内容や参加方法などの周知に努める必要があります。

■ 主な理由

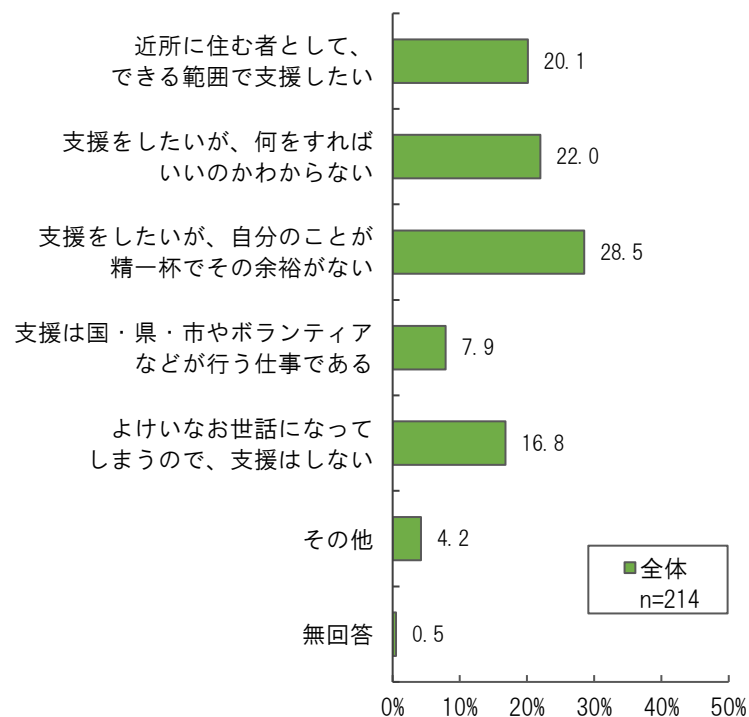


（２）障がいのある人やその家族に対する日常的な支援

問10 近所に住む障がいのある人やその家族に対する日常的な支援について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。（○は1つ）

- 日常的な支援への考えは、「支援をしたいが、自分のことが精一杯でその余裕がない」が28.5%と最も高く、次いで「支援をしたいが、何をすればいいのかわからない」が22.0%、「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」が20.1%となっています。
- 調査結果から多くの方が支援したいという意向を持っており、支援の必要な人と支援したい人をつなぐ仕組みづくりが必要と考えられます。

■ 障がいのある人やその家族に対する日常的な支援

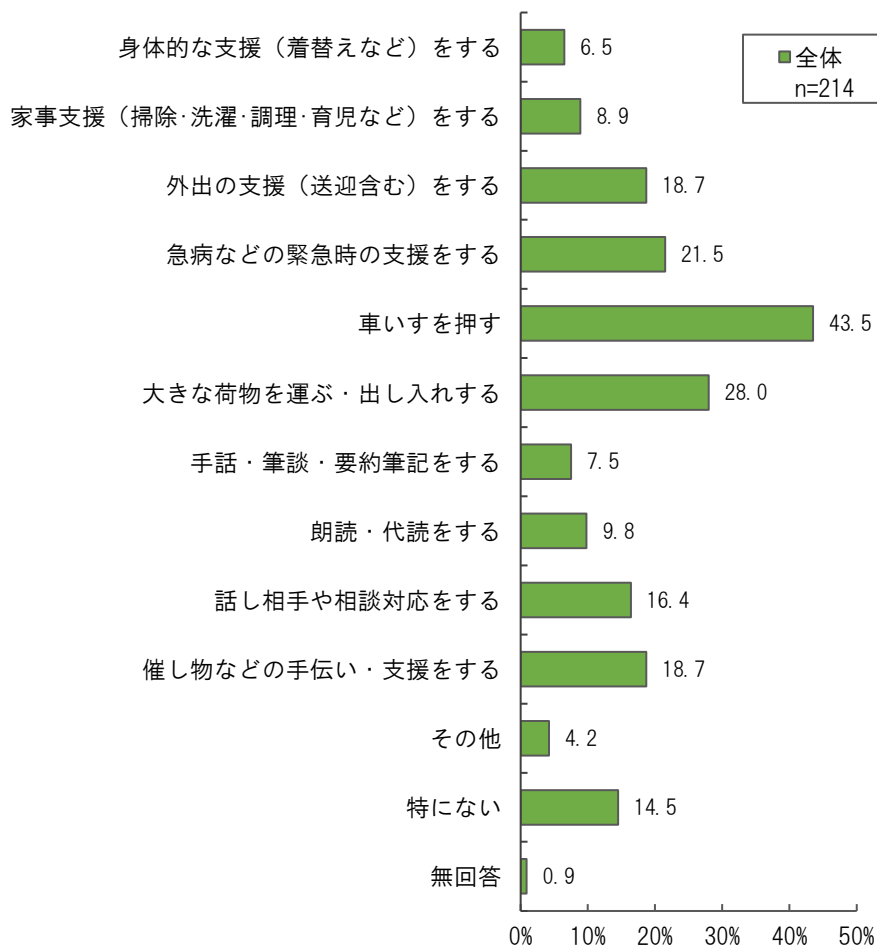


（3）障がいのある人に対してできる支援

問11 あなたが日常生活の中で、障がいのある人から支援の申し出があった場合、できる支援はありますか。（○は3つまで）

○支援できることは、「車いすを押す」が43.5%と最も高く、次いで「大きな荷物を運ぶ・出し入れする」が28.0%、「急病などの緊急時の支援をする」が21.5%となっています。

■ 障がいのある人に対してできる支援



4 尾張旭市の暮らしやすさや地域への参加について

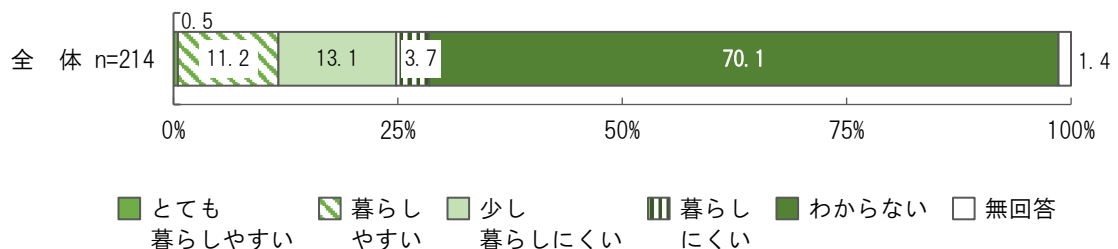
(1) 障がいのある人にとっての尾張旭市の暮らしやすさ

問12 あなたは、障がいのある人にとって尾張旭市は暮らしやすいと思いますか。それとも、暮らしにくいと思いますか。（○は1つ）

○障がいのある人にとって尾張旭市は暮らしやすいと思うかの問いでは、「わからない」が70.1%と最も高く、「とても暮らしやすい」(0.5%)と「暮らしやすい」(11.2%)を合わせた11.7%が『暮らしやすい』と回答しています。

一方、『暮らしにくい』(「少し暮らしにくい」+「暮らしにくい」)は16.8%となっています。

■ 尾張旭市は暮らしやすいと思うか



◆『暮らしやすい』と思う理由と『暮らしにくい』と思う理由は下記のとおりです。

■ 「とても暮らしやすい」理由

「とても暮らしやすい」理由	属性
父親の介護が急に必要になった際、迅速に対応いただきました。とても感謝しております。	男性・50代

■ 「暮らしやすい」理由

「暮らしやすい」理由	属性
身近な障がいを持っている人が、暮らしに特に困っていなさそうなので。電車に乗る時も駅員の方が介助してくれているお陰で、車椅子でも問題なさそうだから。	男性・18～19歳
森林公園があるから。	男性・20代
店や駅のバリアフリーが充実している。平坦な道が市全体で多い。	女性・20代
道路広い所が多いし、主要施設にはエレベーターがあるし、危ない運転をする車も少ないので、外に出やすいと思うため。	女性・20代

「暮らしやすい」理由	属性
障がいのある人の活躍する場があると感じたから。（市役所内でお菓子のバザーをやっていた）	女性・20代
足腰が不自由な人限定となるが、市役所はもちろん飲食店などに入店する際のバリアフリーが多いと感じているため。	男性・30代
特に問題がないため。	男性・30代
障がいのある人とともに生活をし、支えている人にとって住みやすいかと言われると疑問がある。	女性・40代
車椅子の貸し出しの幅（申込者の県外の親族でも利用可）がある。	女性・40代
生活に必要なお店が多い。	男性・50代
小さな市の割に生活に必要なものが全て揃っている。	女性・60代
障がいのある方が外出をされているところを見ることが多い。	女性・60代
街で障がい者の方の方に手を差し伸べてる風景を見たことがあるので。	女性・60代
静かな街だから。	男性・70代
まあまあですね。	男性・80代
作業所など、働く場所が多くある。	女性・80代

■ 「少し暮らしにくい」理由

「少し暮らしにくい」理由	属性
公共交通機関が充実していないから。	男性・18～19歳
坂が多いから。デコボコ道がたくさんあるから。	女性・18～19歳
バリアフリー化されていない。	男性・30代
道が暗かったり、歩道がボコボコしているところも多い。横断者用の信号も音がするタイプのものは少ないと思うし、車イスの人や目が見えない人は大変なのではないかと思う。	男性・30代
交通の便が悪い。	女性・30代
市内全域をあさび一号が走っており、重度身体障がい者を除いて比較的移動はしやすいと思う。一方で、三郷駅や旭前駅にエレベーターがないことは不便だと感じる。 内科、外科、精神科等の医療機関も充実している。	女性・30代
坂道が多い。	女性・40代
坂道が多かったり、歩道の整備が進んでいないところが多い。施設がバリアフリーでないと思うところもある。	答えたくない・40代
住宅地域の歩道の整備。	男性・50代
公共施設などはバリアフリーなどが整いつつあるが、道路や歩道など危険な箇所はまだ多い。	男性・50代
障がいのある人の学校（就労場所）を増やしてほしい。	女性・50代

「少し暮らしにくい」理由	属性
まだまだ理解されていないところが多々ある。	男性・60代
交通の便が悪い。	男性・60代
狭い道や路側帯がほぼないような道が多く、車いすなどの方はとても危険。	女性・60代
障がいの種類によると思いますが、車がないと移動しにくい。坂が多い。	女性・60代
交通の便は、あさび一号の東西回りがありとても便利。電車はホームとの段差あり、アスファルトの段差が結構あります。近頃よく歩くのですが、もう少しベンチがあった方がいいかと。	女性・60代
公共交通機関が、まだあまり整備されていないため外出にはどうしても、車を使う必要があるが、通常の手車では支障がある。	男性・70代
高低道路山間部があるので、車いす利用についてはきつい。	男性・70代
公共交通機関が不便。	女性・70代
イベント等、まだ偏見を持って見てしまう。健常者の人が色々な場面で手っ取り早い。かなり偏見ですね。	女性・70代
ボランティア活動に参加しようと思ひ、会合に加わったことがある。あるご長老が怖い顔で、ボランティアは半端なことでは務まらないなどご説教が長く、意味判らず不愉快になって愛知県のボランティアで活動しました。	女性・70代
わからない。障がいをどうとらえるのか。	女性・70代
道路の整備ができていない所が多い。例えば、城山公園に行きたいですが、歩道は木の根で盛り上がりデコボコで車いすでは怖い所が多いです。最近シニアカーも多く見かけます。どこを走ると安全ですか。	女性・80歳以上

■ 「暮らしにくい」理由

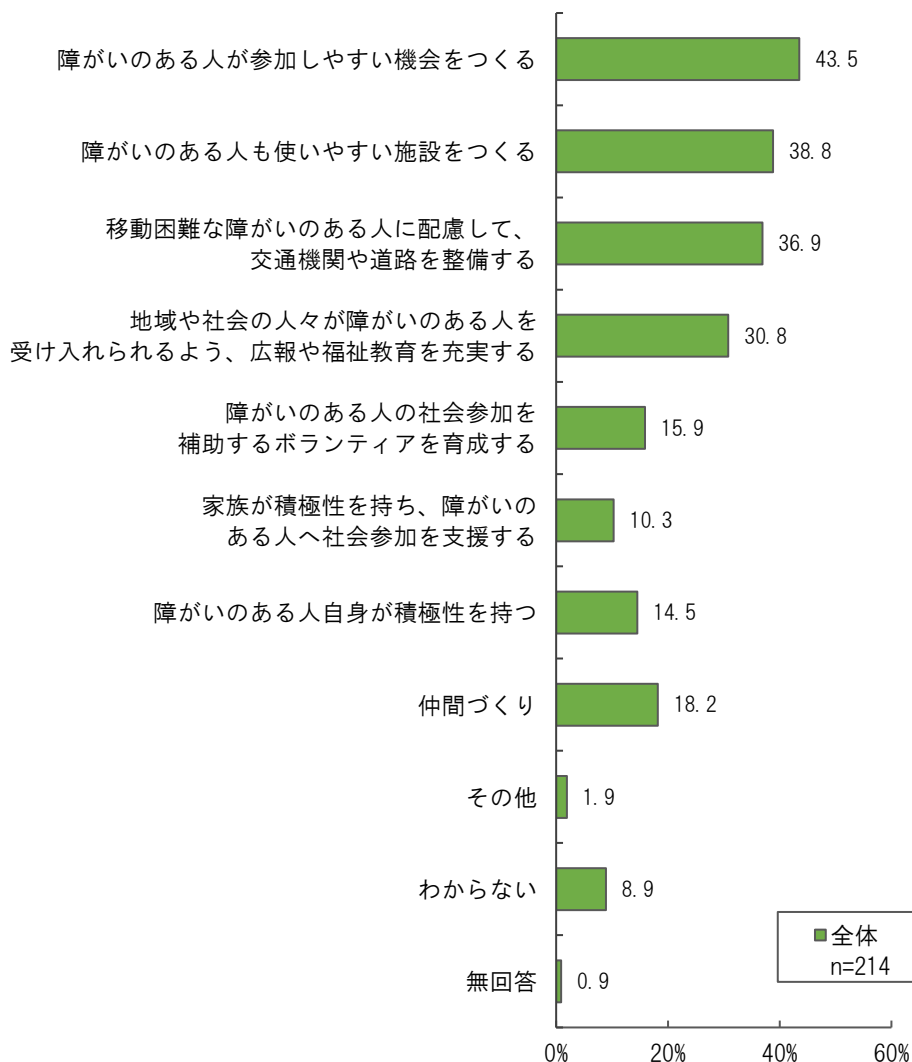
「暮らしにくい」理由	属性
道路に歩道が少ない。	女性・30代
道路の段差が多い。駅に階段が多い。食料品を自分で手に入れようとしても、安全な道が少なく危険箇所が多い。	女性・40代
市民の人たちは意地が悪い。障がい者への理解はほぼない。意識は時代遅れ。自分勝手。	男性・50代
障がい者が地域で活動するために、活動拠点へ出向く必要があると思うが、その移動手段が整っていない。	男性・70代
公共交通機関が弱い。	男性・80歳以上
道路がガタガタ。道が狭い。	女性・80歳以上

（２）積極的な社会参加に大切なこと

問13 あなたは障がいのある人が地域や社会に積極的に参加できるようにするために、大切なことは何だとお考えですか。（○は3つまで）

○障がいのある人の積極的な社会参加に大切なことは、「障がいのある人が参加しやすい機会をつくる」が43.5%と最も高く、次いで「障がいのある人も使いやすい施設をつくる」が38.8%、「移動困難な障がいのある人に配慮して、交通機関や道路を整備する」が36.9%となっています。

■ 積極的な社会参加に大切なこと



5 障がい福祉に関わる言葉や制度、法律等について

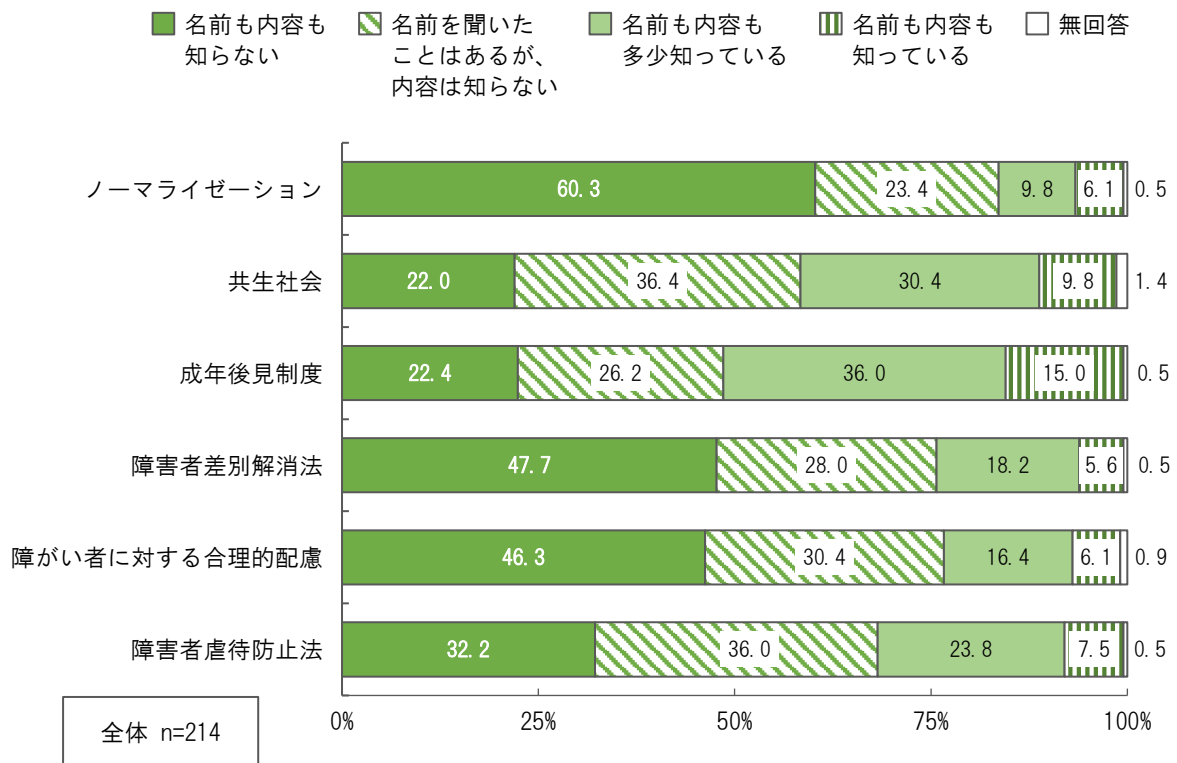
（1）障がい福祉に関わる言葉、制度、法律等の認知度

問14 あなたは、以下の障がい福祉に関わる言葉、制度、法律等について知っていますか。
（それぞれ1つに○）

○障がい福祉に関わる言葉、制度、法律等の認知度をみると、「名前も内容も知らない」は『ノーマライゼーション』が60.3%と最も高く、次いで『障害者差別解消法』（47.7%）、『障がい者に対する合理的配慮』（46.3%）となっています。

一方、「名前も内容も知っている」は『成年後見制度』が15.0%と最も高く、次いで『共生社会』（9.8%）となっています。

■ 障がい福祉に関わる言葉、制度、法律等の認知度



6 就労について

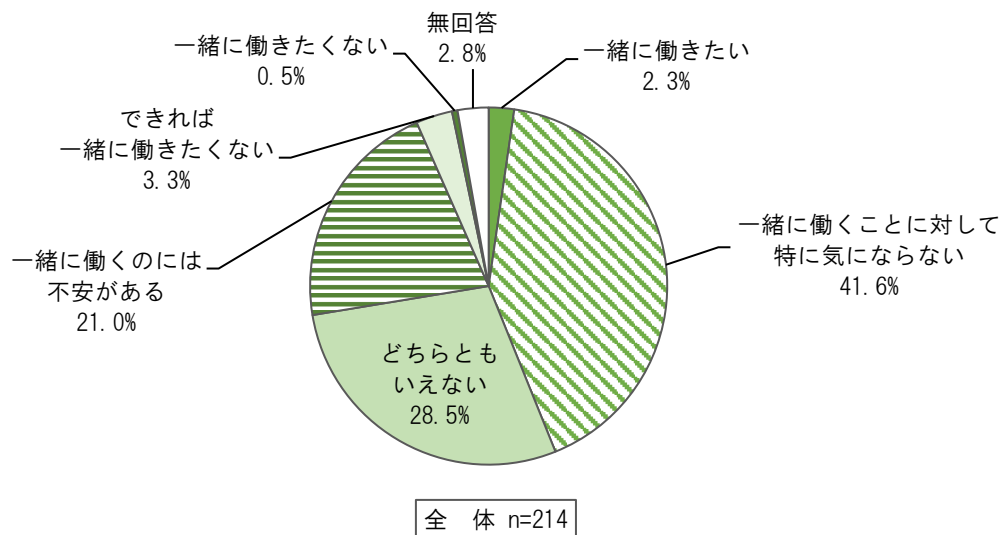
(1) 障がいのある人と一緒に働くことへの考え

問15 あなたは、障がいのある人と一緒に働くことについてどう思われますか。
(○は1つ)

○障がいのある人と一緒に働くことについては、「一緒に働くことに対して特に気にならない」が41.6%と最も高く、「一緒に働きたい」(2.3%)を合わせた『一緒に働くことに肯定的』な方は43.9%となっています。

一方、『一緒に働くことに否定的』(「一緒に働くのには不安がある」+「できれば一緒に働きたくない」+「一緒に働きたくない」)な方は24.8%となっています。

■ 障がいのある人と一緒に働くことへの考え



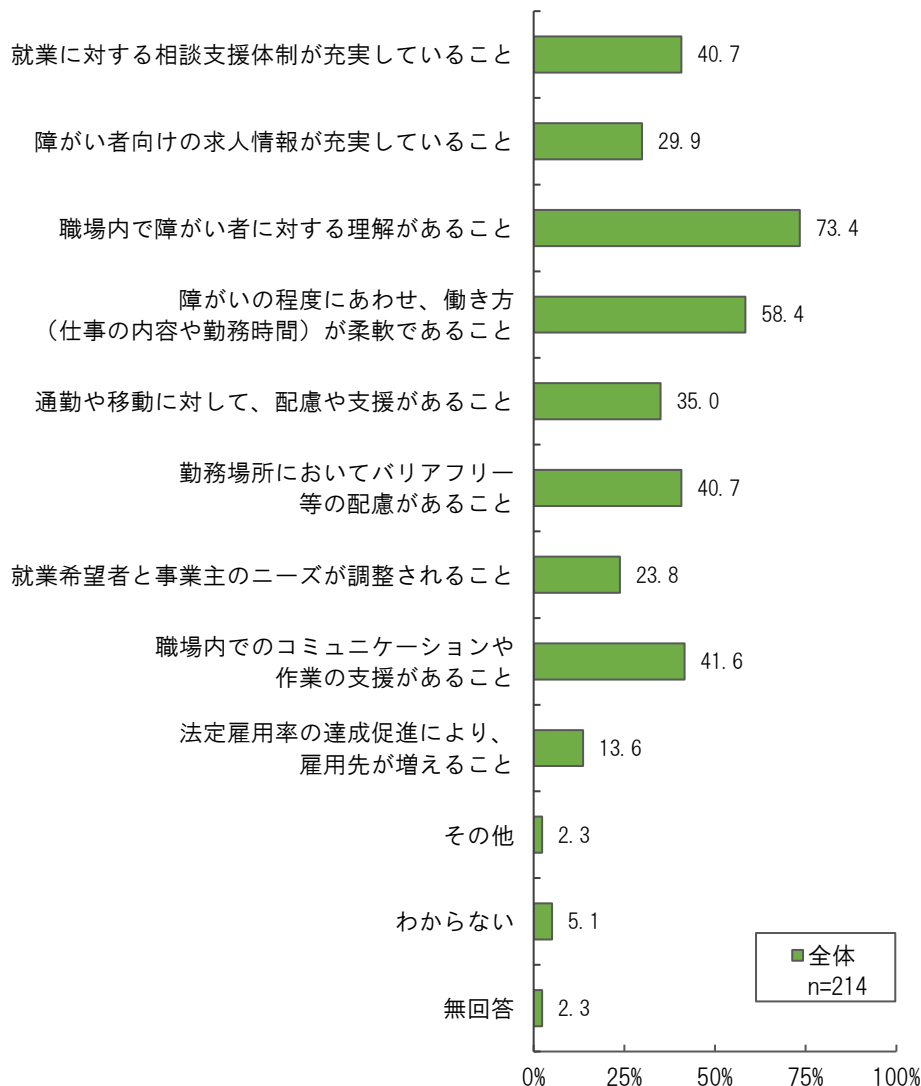
（2）障がいのある人の就労促進に必要な配慮

問16 障がいのある方が企業などで就労を促進するために、どのような配慮が必要であると思いますか。（〇は5つまで）

○就労促進に必要な配慮は、「職場内で障がい者に対する理解があること」が73.4%と最も高く、次いで「障がいの程度にあわせ、働き方（仕事の内容や勤務時間）が柔軟であること」が58.4%、「職場内でのコミュニケーションや作業の支援があること」が41.6%、「就業に対する相談支援体制が充実していること」「勤務場所においてバリアフリー等の配慮があること」が各40.7%となっています。

○事業者調査での、「障がい者雇用における工夫」（問6）から具体的な配慮をみると、「工場内のバリアフリー化」、「単純作業や集中しやすい業務の割り当て」、「1日の所定労働時間は、相対で決定」、「相談員を選任し、相談しやすい環境づくり」など市内の事業所でも様々な取り組みを行っています。

■ 障がいのある人の就労促進に必要な配慮



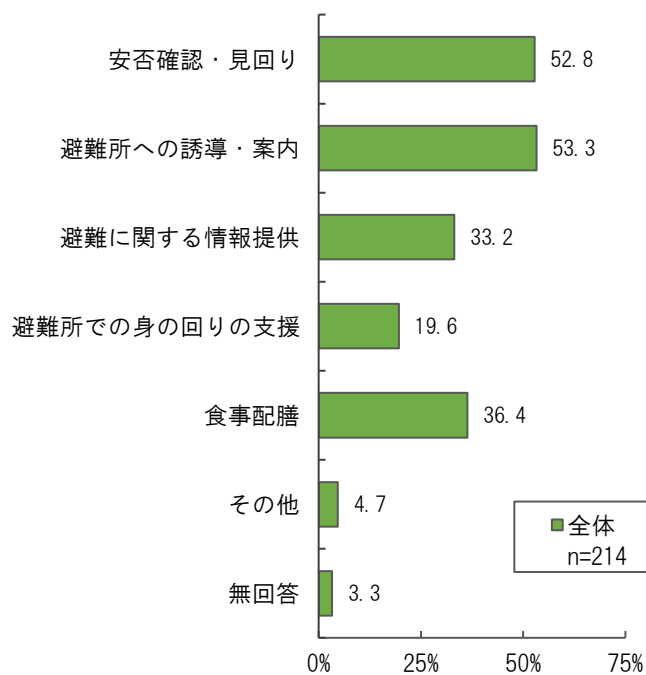
7 災害時の障がいのある人への支援について

(1) 災害時の障がいのある人への支援

問17 あなたは、災害時に自分の安全が確保されたと分かった場合、障がいのある人へのどのような支援ができますか。（〇はいくつでも）

○災害時に障がいのある人へできる支援は、「避難所への誘導・案内」が53.3%と最も高く、次いで「安否確認・見回り」が52.8%、「食事配膳」が36.4%となっています。

■ 災害時の障がいのある人への支援



8 権利擁護について

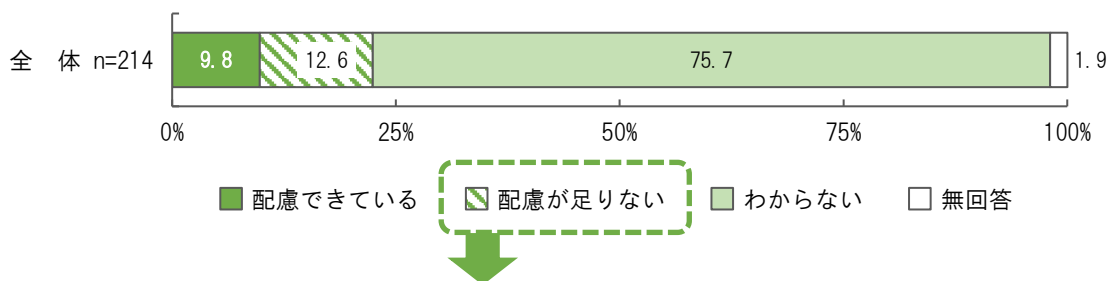
(1) 障がいのある人への配慮

問18 あなたは、普段の生活の中で、あなたが住む地域では障がいのある人への配慮ができていますか。（○は1つ）

○障がいのある人への配慮ができていないかでは、「わからない」が75.7%と最も高くなっています。

また、「配慮ができていない」が12.6%、「配慮が足りない」が12.6%となっています。

■ 障がいのある人への配慮の有無



問18で「配慮が足りない」と答えた方のみ

問18-1 障がいのある人への配慮が足りないと思うことは何ですか。（自由回答）

○障がいのある人への配慮が足りないと思うことに関する自由回答は、以下のとおりです。

■ 配慮が足りないと思うこと

配慮が足りないと思うこと	属性
周りの関心が少ないこと。	女性・18～19歳
横断歩道に音が鳴る機能がない場所がある。	男性・30代
気にした事がないから。	男性・30代
障がい理解が乏しいがゆえ、行動や言動に表れない。	女性・30代
白杖使用中（移動中）の方の横を自転車に乗ったまま追い越していたのを見て、杖にぶつかりそうで危ないと思った。	女性・40代
道路の段差が多い。駅に階段が多い。食料品を自分で手に入れようとしても、安全な道が少なく危険箇所が多い。	女性・40代
変な目で見ている人が多い気がする。健常人ではないと避けている気がする。	答えたくない・40代
できていると胸を張って言えるかどうか分からないが、おそらくできていないのではないと思う。	男性・50代

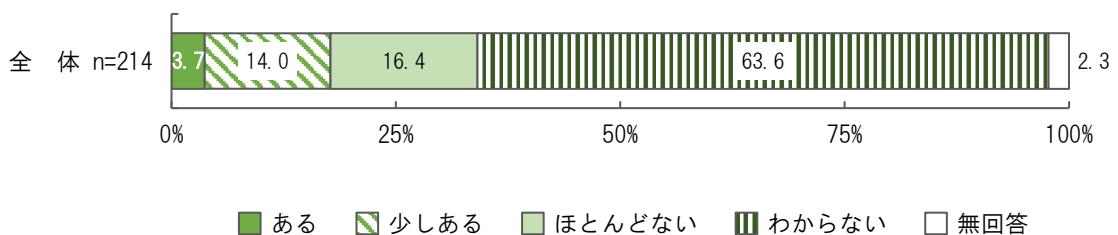
配慮が足りないと思うこと	属性
普段の生活において、障がい者の方と生活している事を思い描けないから。	女性・50代
一人で安全に外出でき、また帰宅することができる社会かとみたときに、そうは思えないから。	女性・50代
バリアフリーなど少ないと思います。	女性・50代
電車の駅にエレベーターがない所がある。歩道がデコボコしている。歩車道の区画がされていない所がある。	男性・60代
気持ちはあるけど、一歩がなかなか出ない。	男性・60代
尾張旭の道路は整備されていない所が多く、車いすでの通行は困難だと思う。	女性・60代
多くの人が集う場所・病院内では足りないと思わないのですが、例えばバスや電車内、理解のない人のみおかしい人が多いです。	女性・60代
障がい者の移動手段及び支援者の不足。	男性・70代
駅。	男性・70代
ある特定の人だけが、状況を把握しているため、付近の人も良くわからない。	男性・70代
まず移動手段が手薄状態。私はあまり見かけないので。	女性・70代
歩道が狭い上にガタガタしている。	女性・80代

（2）障がいのある人への差別や偏見の有無

問19 あなたが住む地域では、障がいがある方に対して差別や偏見があると思いますか。
（○は1つ）

○地域での障がいがある人への差別や偏見の有無をみると、「わからない」が63.6%と最も高くなっています。
また、「ある」（3.7%）と「少しある」（14.0%）を合わせた『ある』は17.7%となっています。

■ 障がいのある人への差別や偏見の有無



問19-1 障がいのある方に対する差別や偏見について感じるがありましたら、内容をお書きください。（自由回答）

○障がいのある方に対する差別や偏見について感じることの自由回答は、以下のとおりです。

■ 差別や偏見について感じること

差別や偏見について感じること	属性
障がい者差別という言葉の多用の所為で、障がい者に対する発言が全て差別と見なされかねない状況になっている。障がい者なので気を使わなければならない、優しくしなければならない、という意識が障がい者に対する偏見になっているんじゃないかと思う。普通の人と接する時にも配慮が必要で、その人が何を言われたら傷つくのかというのはコミュニケーションを通じて理解していくものなのに、障がい者に関する言動には差別だなんだとやたら厳しい気がする。	男性・18～19歳
バス停や駅など、冷たい視線が多い。	女性・18～19歳
電車で隣に座らない。	女性・20代
外には出さないが、内心思っている人がいると思っている。	男性・30代
行動を見て笑っている人がいたり、症状によっては「かわいそうに」と声に出している人を見たことがある。直接何かをする訳ではないが、介添人さんがいたら気づくと思いました。十分偏見です。	女性・40代
子どもが在学中に、心的障がいのある子のお世話係みたいな事を言われた事がある。本人にとってもどうしたらいいかわからない事だし、障がいのある子にとってもお世話係と言うのが失礼な気がした。	女性・40代

差別や偏見について感じる事	属性
職場に障がいを持った方がいます。知的・身体障がい者ですが、普通に話ができ冗談も言い合えます。その方に聞いた話です。以前いた私の同僚は仕事を辞めるまで、挨拶はするけど目を一度も合わせたことがなかったそうです。世の中にはそういう人がいるんだと驚きました。すべての人に受け入れてもらうには難しいと思うので、できる人の範囲でそれぞれができることをやればよいと思います。	女性・40代
幼少期（保育園）のインクルーシブ保育が、子どもたちの壁を無くしているプラスの面が大きい一方で、小学校、中学校になるにつれてその関係性が薄れ、関わり方も環境も区別されていると感じます。整備すべきは環境だけでなく、実は身近な生活や、特に協働する機会が持ちやすい学校の中でやれることはまだまだあると思います。それは、決して難しい用語や法律でなく、「一緒に行こう」「大丈夫？」「ゆっくりでいいよ」など、子どもたちの目の前の大人が、障がいのある子にどう配慮し、どんな声かけをし、どう見守り、どこを支えているのか？を示すこと。子どもたちは、実はちゃんと見て、学んでいるのです。もし、今の社会で障がい者に対する理解が薄いとしたり、それはまだ知らないことだから…というだけでなく、私たち大人の姿勢を学んだ結果の側面も多いのではないのでしょうか。身近にもっともっと…それぞれができる事がありそうです。	女性・40代
本人も家族も大変だと思います。	女性・40代
かわいそうという気持ちで見ている。困っていても遠くで様子を見ているだけの人がいる。	女性・50代
障がいのある方を見かける機会が少ない、あまり見えない存在になっているのは、差別や偏見がある故かと感じます。	女性・50代
難しいけれど、まだまだ健常者・障がい者ともに壁を作ってしまった。	男性・60代
近くに該当する人がいないので、今まで特に考えた事が無かったです。	男性・60代
少数ではあるが、健常者でも差別やモラハラがあり疲れます。特に高齢者の方々の一部ではありますが、差別や言葉の暴力があります。	女性・60代
障がい者の子どもさん送迎していた時に、自分の健康に有り難いと思いました。	女性・60代
差別や偏見の場面に遭遇したことがないので、そういったものはないと感じている。	男性・70代
関わりたくないと思う。	男性・70代
奇異な見方をされている。その人たちと会話を避ける。	女性・70代

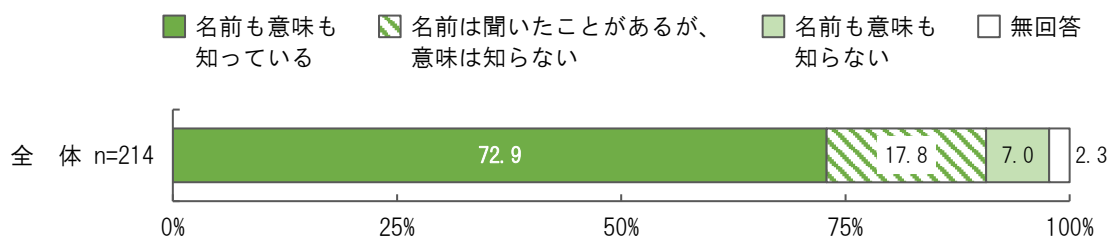
9 広報・啓発について

(1) ヘルプマークの認知度

問20 あなたは、「ヘルプマーク」を知っていますか。（○は1つ）

○「ヘルプマーク」の認知度は、「名前も意味も知っている」が72.9%と最も高く、次いで「名前は聞いたことがあるが、意味は知らない」が17.8%となっています。

■ ヘルプマークの認知度

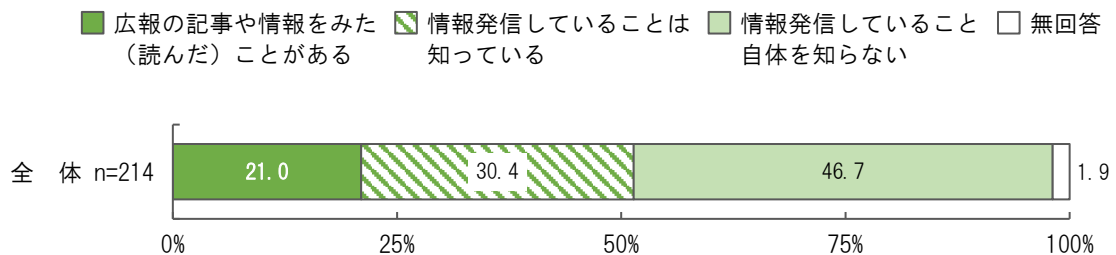


(2) 障がいや障がい者に関する情報発信

問21 尾張旭市が「広報おわりあさひ」や公式ホームページなどで、障がいや障がい者に関する情報を発信していることをご存じですか。（○は1つ）

○障がいに関する情報発信の認知度をみると、「情報を発信していること自体を知らない」が46.7%と最も高く、次いで「情報発信していることは知っている」が30.4%、「広報の記事や情報を見た（読んだ）ことがある」は21.0%となっています。

■ 障がいや障がい者に関する情報発信の認知度



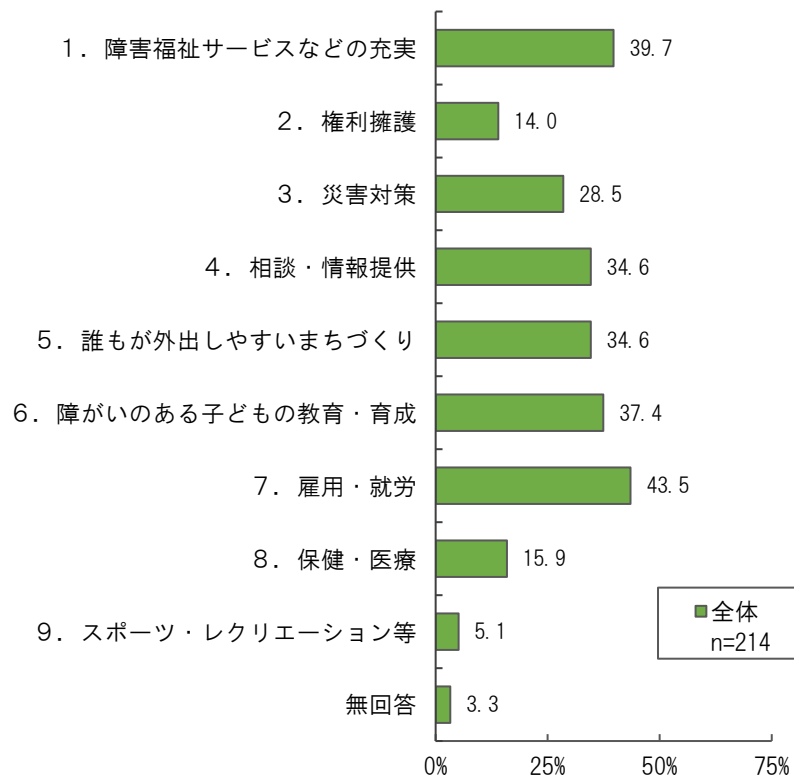
10 障がいのある人への施策について

（1）障がいのある人への充実すべき施策

問22 あなたが今後、特に充実すべきだと考える障がいのある人への施策は何ですか。
1～9の中からお選びください。（○は3つまで）

○充実すべきだと考える障がいのある人への施策は、「7. 雇用・就労」が43.5%と最も高く、次いで「1. 障害福祉サービスなどの充実」が39.7%、「6. 障がいのある子どもの教育・育成」が37.4%となっています。

■ 障がいのある人への充実すべき施策



V 調査の結果（事業所）

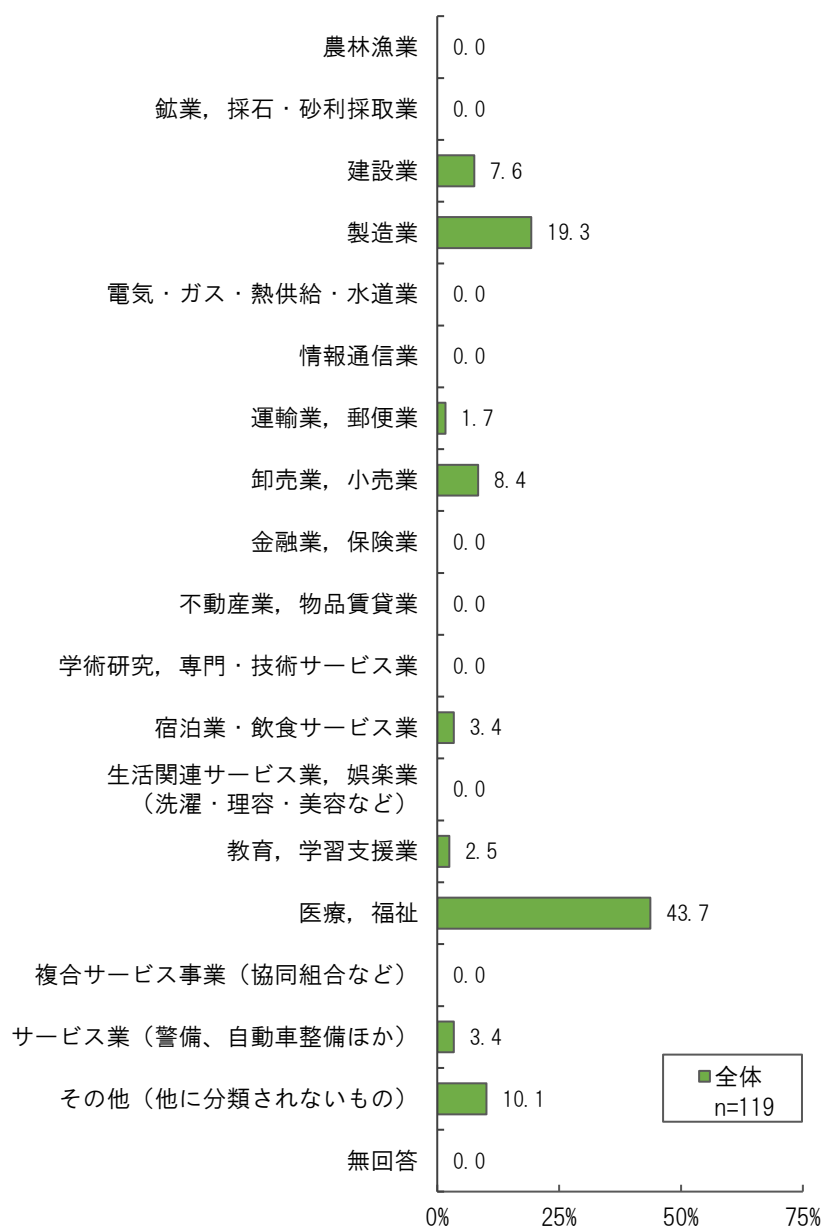
1 事業所の状況について

(1) 主たる事業内容

問1 貴事業所の主たる事業の内容をお答えください。あてはまるものに1つだけ○を付けてください。

○回答事業所の主たる事業内容は、「医療、福祉」が43.7%と最も高く、次いで「製造業」が19.3%となっています。

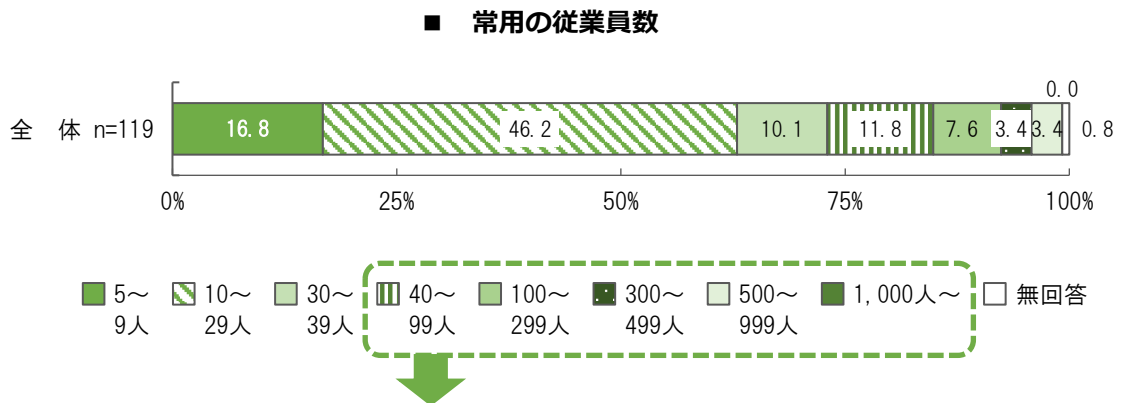
■ 主たる事業内容



（2）常用の従業員数

問2 貴事業所の常用の従業員数は何人ですか。あてはまるものに1つだけ○を付けてください。

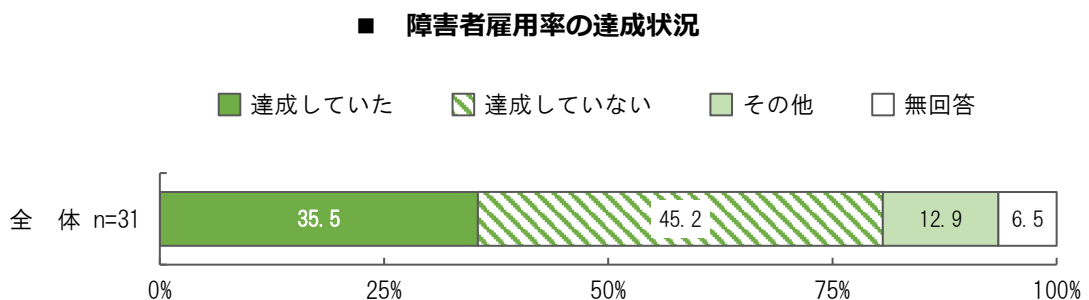
○常用の従業員数は、「10～29人」の事業所が46.2%と最も高く、次いで「5～9人」が16.8%、「40～99人」が11.8%となっています。



問2で常用の従業員数が「40～99人」以上の事業所のみ

問2-1 貴事業所は令和7年6月1日時点の雇用状況報告では障害者雇用率は達成していましたか。あてはまるものに1つだけ○を付けてください。

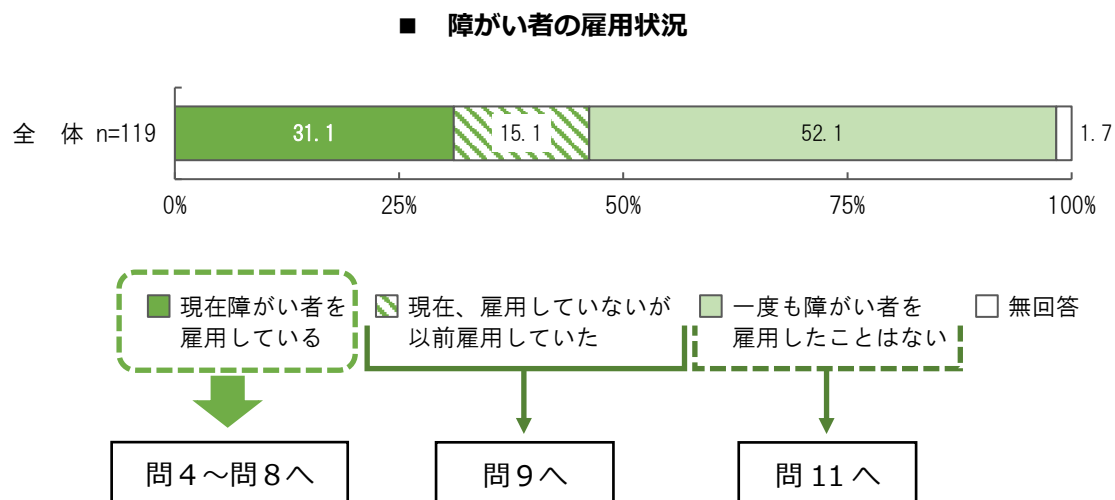
○障害者雇用率を「達成していた」事業所は35.5%、一方、「達成していない」事業所は45.2%となっています。



（3）障がい者の雇用状況

問3 貴事業所における障がい者の雇用状況について、あてはまるものに1つだけ○を付けてください。選択肢ごとに該当の設問からお答えください。

○障がい者の雇用状況は、「現在障がい者を雇用している」事業所が31.1%、一方、「一度も障がい者を雇用したことはない」事業所が52.1%と最も高くなっています。



2 障がい者の雇用について

**問3で「現在障がい者を雇用している」と答えた事業所のみ
問4～問8をお答えください。**

(1) 障がい者の雇用人数等

問4 障がいの種類別の雇用人数をご記入ください。

○現在障がい者を雇用している37事業所における障がい者の雇用人数は、全体で125人となっています。

障がいの種類別にみると、「身体障がい」は38人（30.4%）、「知的障がい」は32人（25.6%）、「精神障がい」は43人（34.4%）となっています。

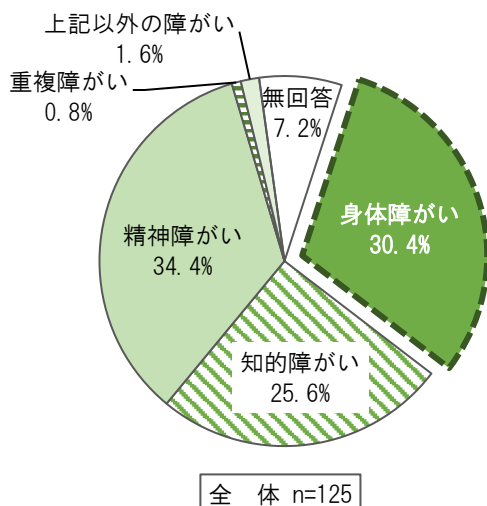
また、身体障がいを障がいの種類別にみると、「内部障がい」が20人（52.6%）と最も多く、次いで「肢体不自由」が13人（34.2%）、「聴覚障がい等」が5人（13.2%）となっています。

■ 障がいの種類別雇用人数

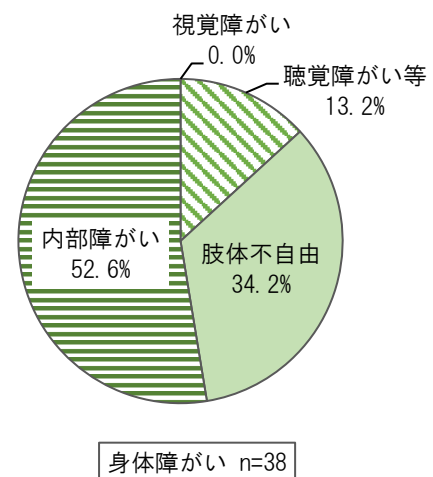
	合計	身体障がい				知的障がい	精神障がい	重複障がい	上記（左記）以外の障がい	無回答
		視覚障がい	聴覚障がい等	肢体不自由	内部障がい					
雇用人数（単位：人）	125	0	5	13	20	32	43	1	2	9
事業所数（単位：事業所）	37	0	3	13	13	14	18	1	2	2

※事業所数は重複があるため、合計と一致しません。

■ 障がい種類別の割合



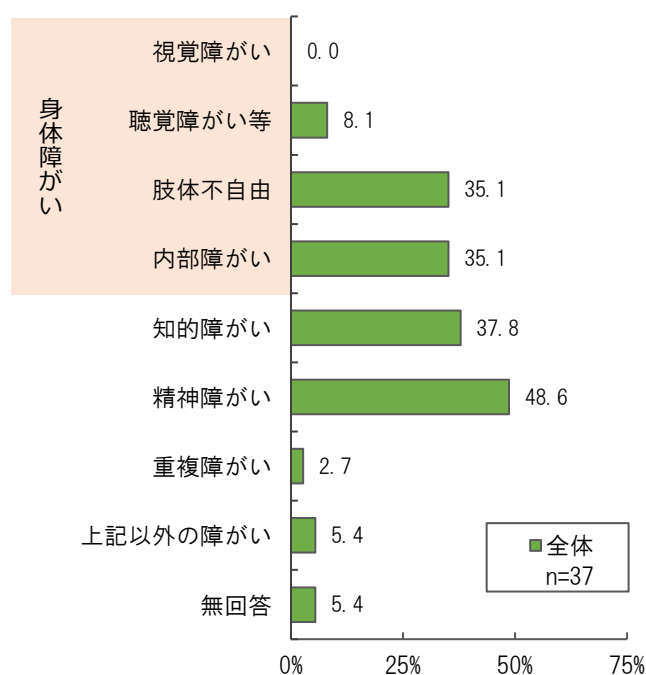
■ 身体障がいの内訳



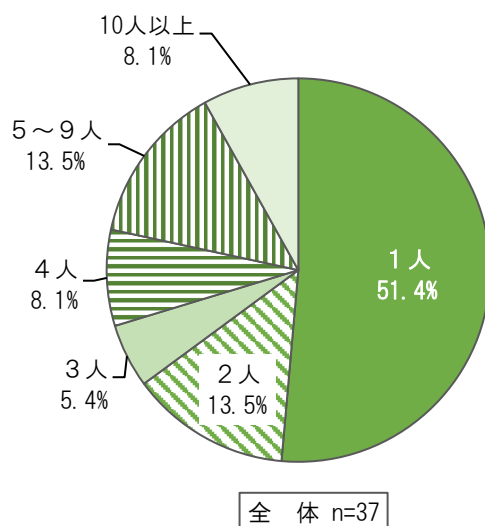
○障がい者を雇用している事業所をみると、「精神障がい」の方を雇用している事業所が48.6%と最も高く、次いで「知的障がい」が37.8%、身体障がいの「肢体不自由」「内部障がい」が各35.1%となっています。

○雇用している障がい者の人数は、「1人」が51.4%と最も高く、次いで「2人」「5～9人」が各13.5%となっています。また、「10人以上」雇用している事業所は8.1%となっています。

■ 障がい種類別の障がい者を雇用している事業所割合



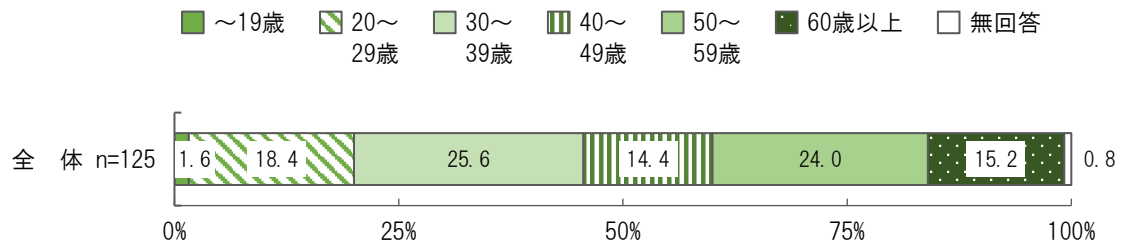
■ 雇用している障がい者の人数



問 4 - 1 上記の年齢の内訳をお答えください。（該当の欄に人数を記入してください。）

○雇用している障がい者の年齢は、「30～39歳」が25.6%と最も高く、次いで「50～59歳」が24.0%、「20～29歳」が18.4%となっています。

■ 雇用している障がい者の年齢

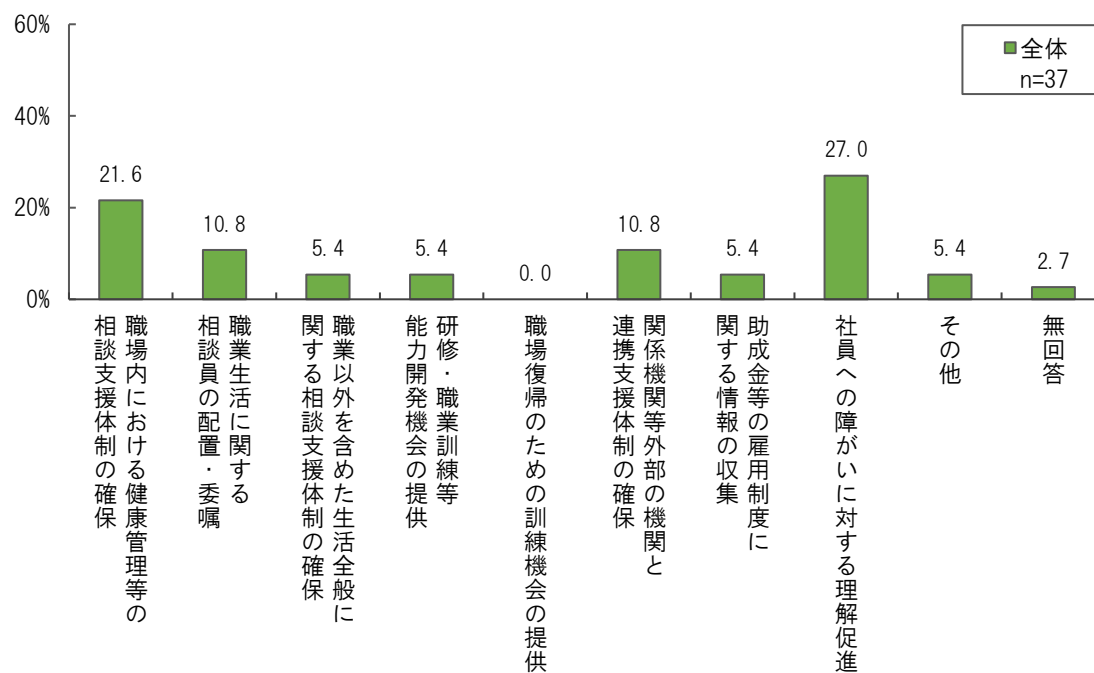
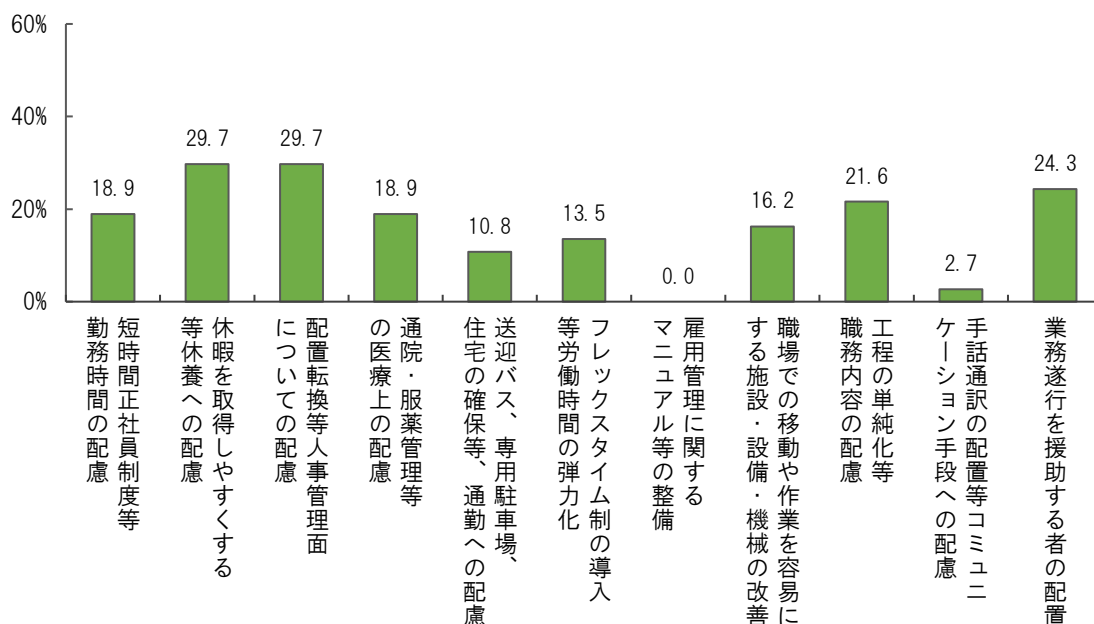


(2) 雇用する上での配慮

問5 障がい者を雇用する上で配慮したことはどのようなことですか。（○はいくつでも）

○障がい者を雇用する上で配慮したことは、「休暇を取得しやすくする等休養への配慮」「配置転換等人事管理面についての配慮」が各29.7%と最も高く、次いで「社員への障がいに対する理解促進」が27.0%、「業務遂行を援助する者の配置」が24.3%となっています。

■ 雇用する上での配慮



(3) 障がい者雇用における工夫

問6 障がい者を雇用する上で、貴事業所で工夫している内容をお書きください。

■ 障がい者雇用において事業所で工夫していること

工夫していること		
①	身体障がい	<ul style="list-style-type: none"> ○短時間勤務。 ○1日の所定労働時間は、相対で決定している。 ○工場内のバリアフリー化（自動ドア、スロープ、エレベーター、多目的トイレへの改修検討） ○体調管理の確認をこまめにする。 ○職場内で力を要する作業を行う場合、身体的負担が大きくなるないように適切な配慮を行っている。 ○無理のない業務への転換。 ○本人が働きやすいように体制・設備を整える。他スタッフの理解。 ○できないことは周囲がフォローしている。 ○障がい特性に合わせた製造ラインの工程集約。柔軟な働き方制度。翻訳、テキスト変換システム導入。 ○作業台、作業スペースの配慮 ○ロッカーを設置するにあたり、スペースが広く、職場からの距離が近くなるよう配慮している。 ○現在管理職の立場のため、定期的に問題点等ないか面談している。
②	知的障がい	<ul style="list-style-type: none"> ○1日の所定労働時間は、相対で決定している。 ○作業のマニュアル化。社内標識の簡素化。 ○作業内容の単純化。 ○単純作業や集中しやすい業務の割り当て。 ○同じ業務を継続してできる仕組み。 ○職場環境の視覚化。 ○判断に迷う事象が発生した際に、相談しやすい人材配置をしている。 ○丁寧に話を聞く。 ○入社19年目。親が送迎。親が来れない場合、近くに住む従業員が送迎。普通の従業員と同様に扱っている。

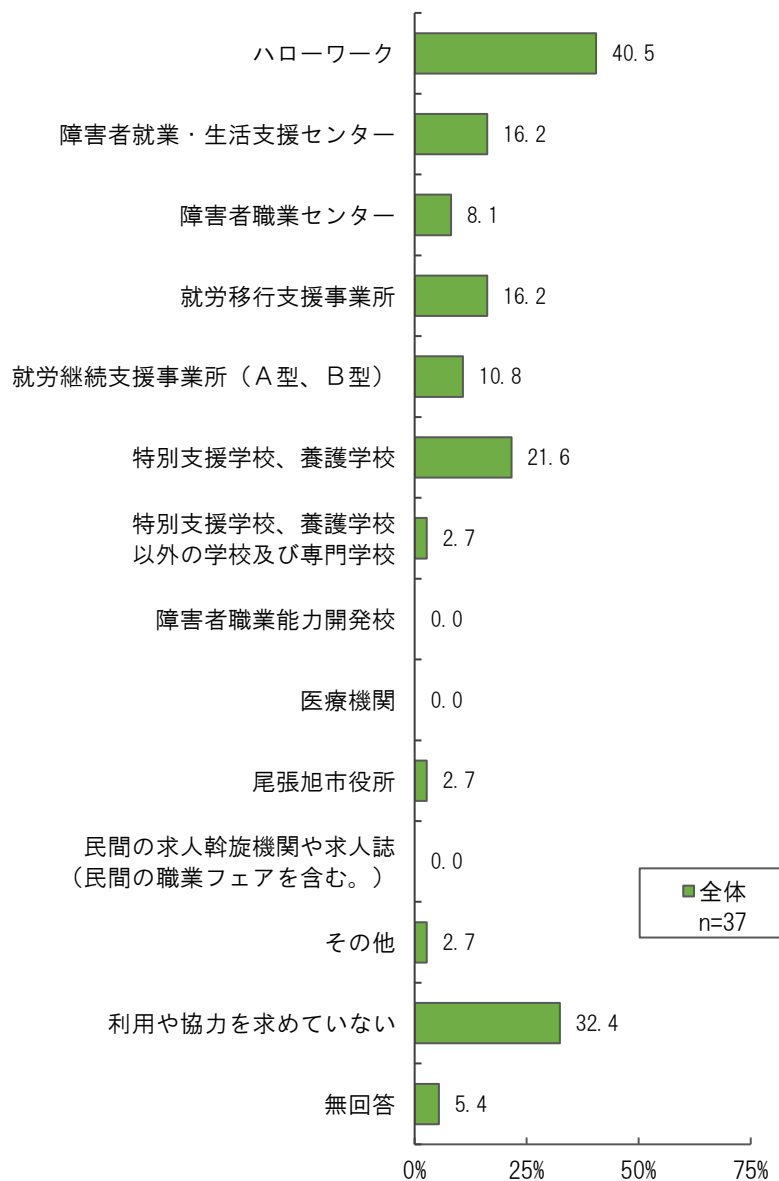
工夫していること		
③	精神障がい	<ul style="list-style-type: none"> ○短時間かつ規則的な勤務形態としている。 ○短時間労働勤務にしている。あまり意識せず接している。 ○1日の所定労働時間は、相対で決定している。 ○障がい者に限らず時差出勤（フレックスタイム制度）や有給休暇制度等の拡充検討。 ○シフトを組む際、本人の希望と体調を考慮するようにしている。 ○勤務時間などの緩和。 ○柔軟な働き方制度。 ○働きやすい職場環境をつくり、精神的負担が大きくならないように適切な配慮を行っている。 ○1時間に1回の休憩を取る。担当職員の配置。定期的にモニタリングや面談を行っている。 ○コミュニケーションをよく取るようにする。 ○他社員のフォロー。 ○相談員を選任し、相談しやすい環境づくり。 ○ひとり作業の準備。 ○他職員との接点を減らした（本人の希望）。
④	①～③以外の障がい	<ul style="list-style-type: none"> ○時差出勤の導入。

（４）協力等を求めた関係機関

問7 障がい者の雇用に関して、利用した又は協力を求めた関係機関がありますか。
 （○はいくつでも）

○障がい者の雇用に関して、利用した又は協力を求めた関係機関をみると、「ハローワーク」が40.5%と最も高く、次いで「特別支援学校、養護学校」が21.6%、「障害者就業・生活支援センター」「就労移行支援事業所」が各16.2%となっています。一方、「利用や協力を求めているない」も32.4%と高くなっています。

■ 協力等を求めた関係機関



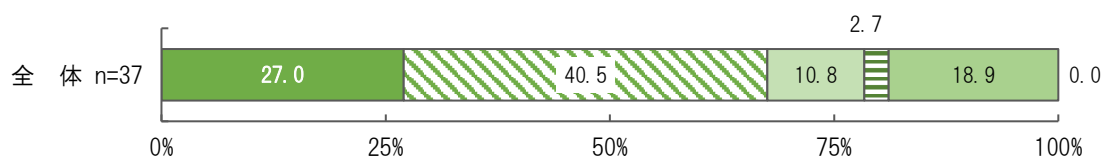
（5）障がい者雇用への考え（現在障がい者を雇用している事業所）

問8 今後の障がい者雇用についてどのようにお考えですか。（○は1つだけ）

○障がい者雇用への考えは、「今後も現在の雇用を維持していく」が40.5%と最も高く、次いで「積極的に雇用したい」が27.0%となっており、「サポートがあれば雇用を検討したい」（10.8%）を合わせた78.3%は障がい者雇用に前向きな状況です。

■ 障がい者雇用への考え

積極的に雇用したい
 今後も現在の雇用を維持していく
 サポートがあれば雇用を検討したい
 今後、雇用を縮小していく
 わからない
 無回答



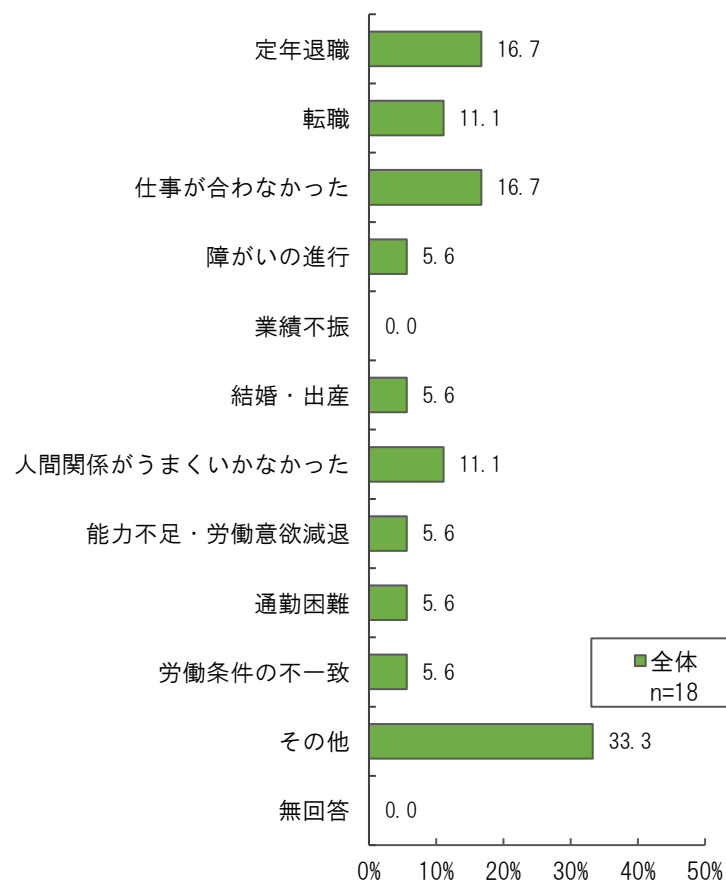
問3で「現在、雇用していないが以前雇用していた」と答えた事業所のみ
問9と問10をお答えください。

（6）雇っていた方が辞めた理由

問9 以前雇っていた方が辞めた理由は何ですか（○はいくつでも）

○以前雇っていた障がい者の方が辞めた理由は、「定年退職」「仕事が合わなかった」が各16.7%と最も高くなっています。

■ 以前雇っていた方が辞めた理由

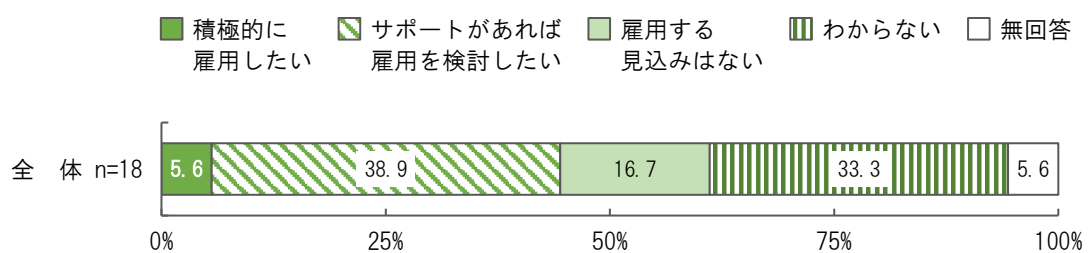


（7）障がい者雇用への考え（以前雇用していた事業所）

問10 今後の障がい者雇用についてどのようにお考えですか。（○は1つだけ）

○障がい者雇用への考えは、「サポートがあれば雇用を検討したい」が38.9%と最も高く、次いで「わからない」が33.3%、「雇用する見込みはない」が16.7%となっています。

■ 障がい者雇用への考え



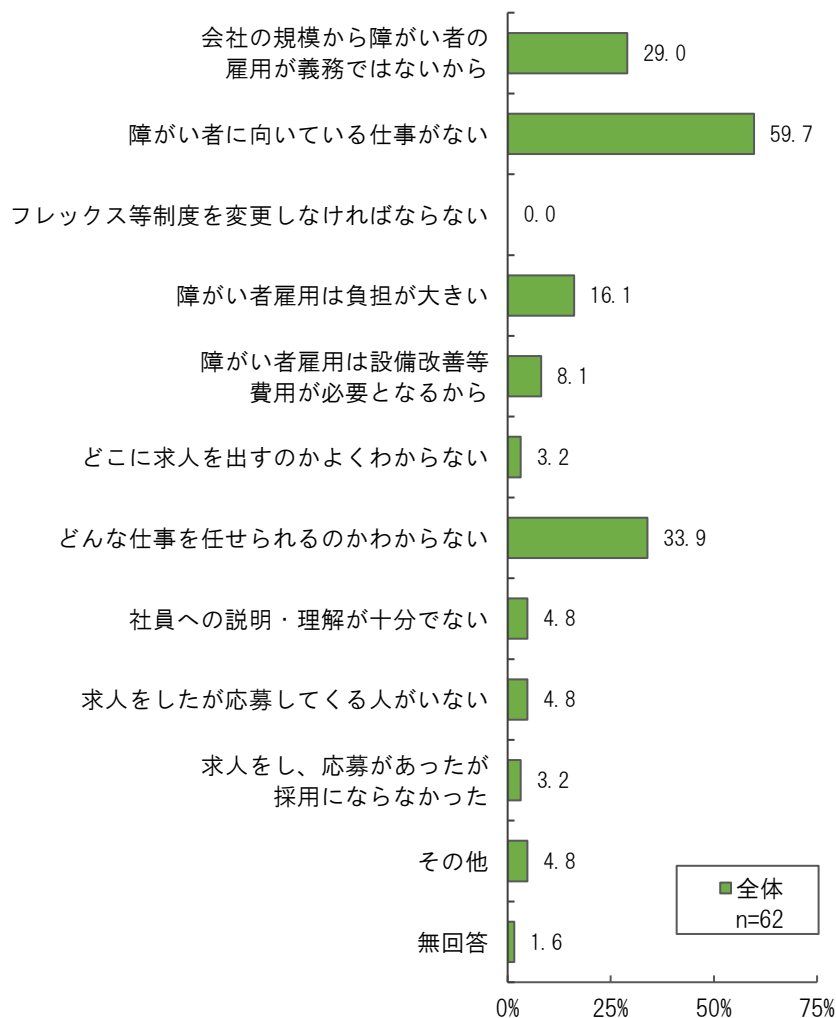
問3で「一度も障がい者を雇用したことはない」と答えた事業所のみ
問11と問12をお答えください。

（8）障がい者を雇用していない理由

問11 障がい者を雇用していない理由は何ですか。（○はいくつでも）

○障がい者を雇用していない理由は、「障がい者に向いている仕事がない」が59.7%と最も高く、次いで「どんな仕事を任せられるのかわからない」が33.9%、「会社の規模から障がい者の雇用が義務ではないから」が29.0%となっています。

■ 障がい者を雇用していない理由

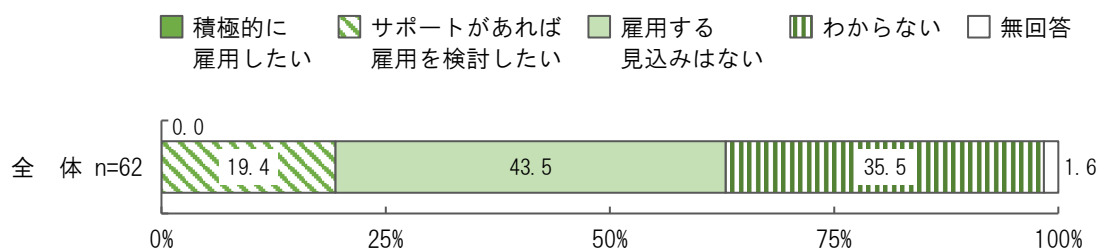


（9）障がい者雇用への考え（雇用していない事業所）

問12 今後の障がい者雇用についてどのようにお考えですか。（○は1つだけ）

○障がい者雇用への考えは、「雇用する見込みはない」が43.5%と最も高く、次いで「わからない」が35.5%、「サポートがあれば雇用を検討したい」が19.4%となっています。

■ 障がい者雇用への考え

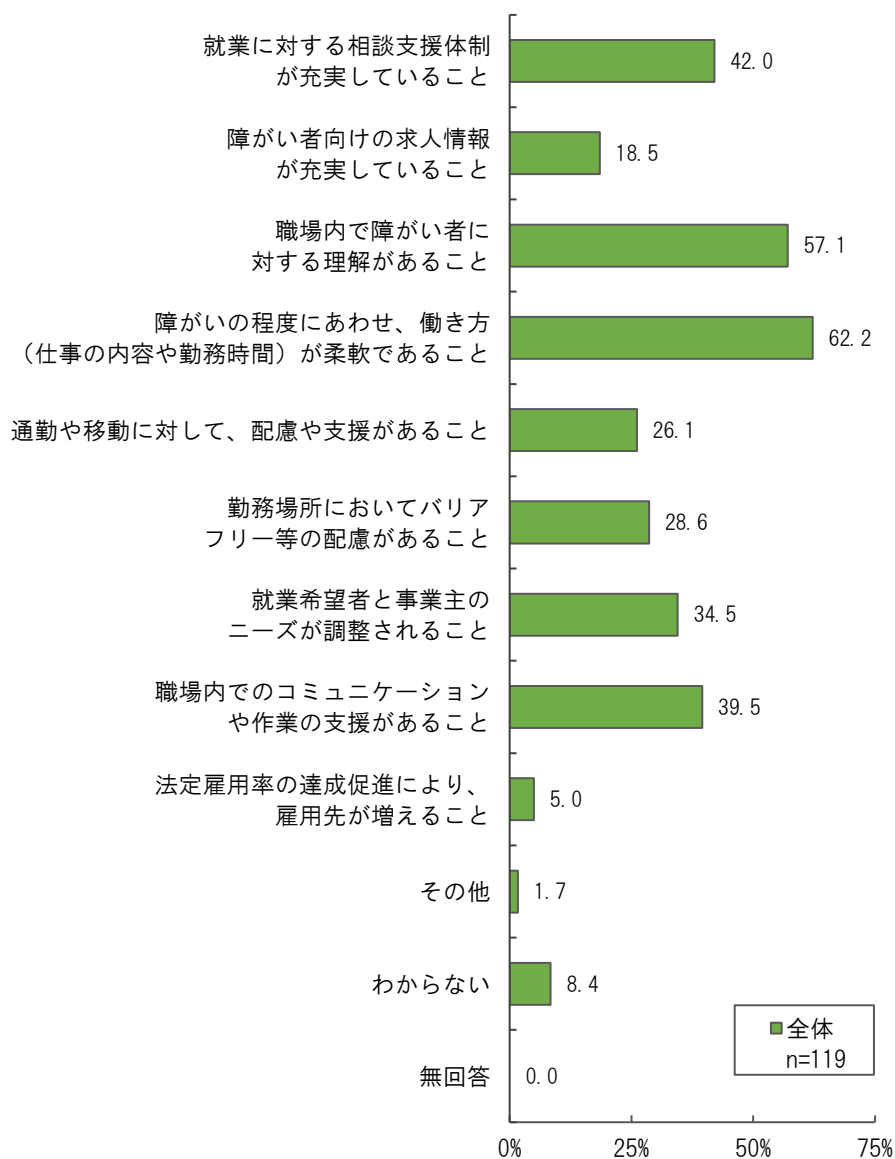


(10) 障がいのある方の企業就労を促進するために必要な配慮

問13 障がいのある方が企業などで就労を促進するために、どのような配慮が必要であると思いますか。（〇は5つまで）

○障がいのある方の企業就労を促進するために必要な配慮は、「障がいの程度にあわせ、働き方（仕事の内容や勤務時間）が柔軟であること」が62.2%と最も高く、次いで「職場内で障がい者に対する理解があること」が57.1%、「就業に対する相談支援体制が充実していること」が42.0%となっています。

■ 障がいのある方の企業就労を促進するために必要な配慮



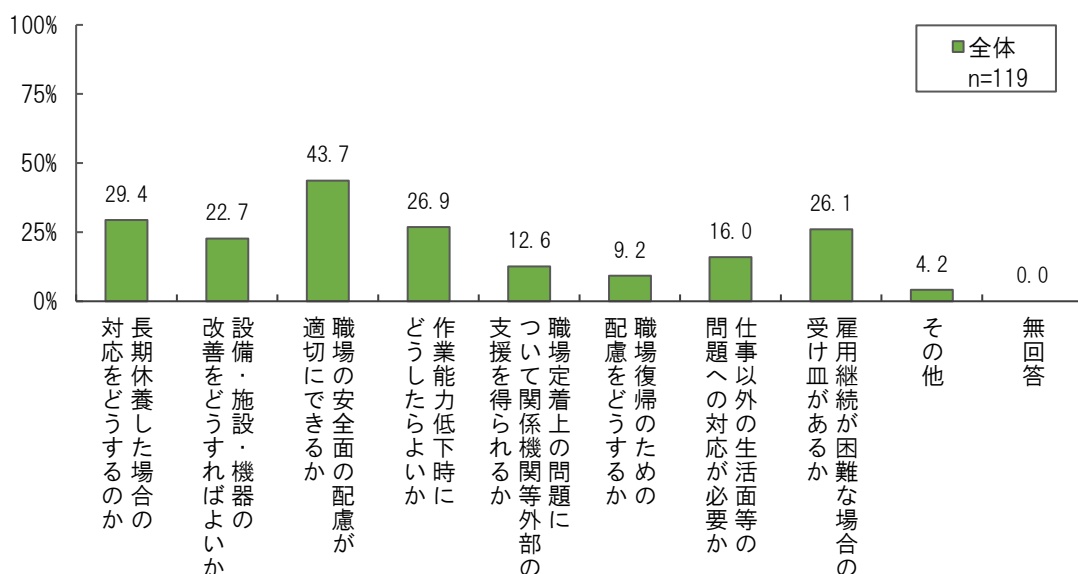
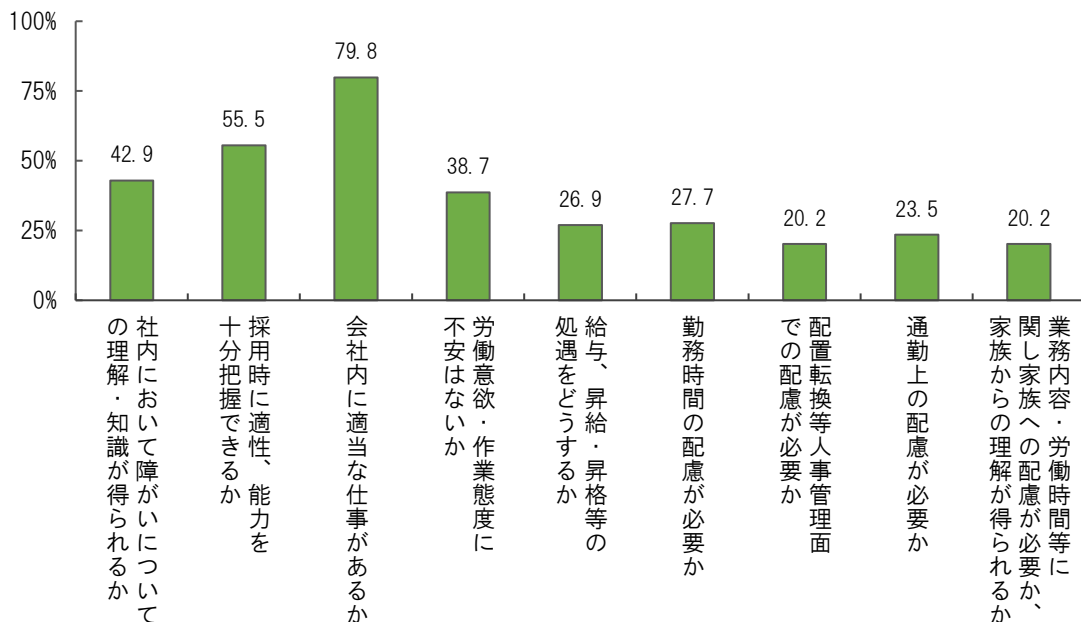
3 雇用上の課題及び配慮について

(1) 障がい者雇用の課題

問14 障がい者を雇用するにあたっての課題はどのようなことですか。（○はいくつでも）

○障がい者を雇用するにあたっての課題は、「会社内に適当な仕事があるか」が79.8%と最も高く、次いで「採用時に適性、能力を十分把握できるか」が55.5%、「職場の安全面の配慮が適切にできるか」が43.7%となっています。

■ 障がい者雇用の課題

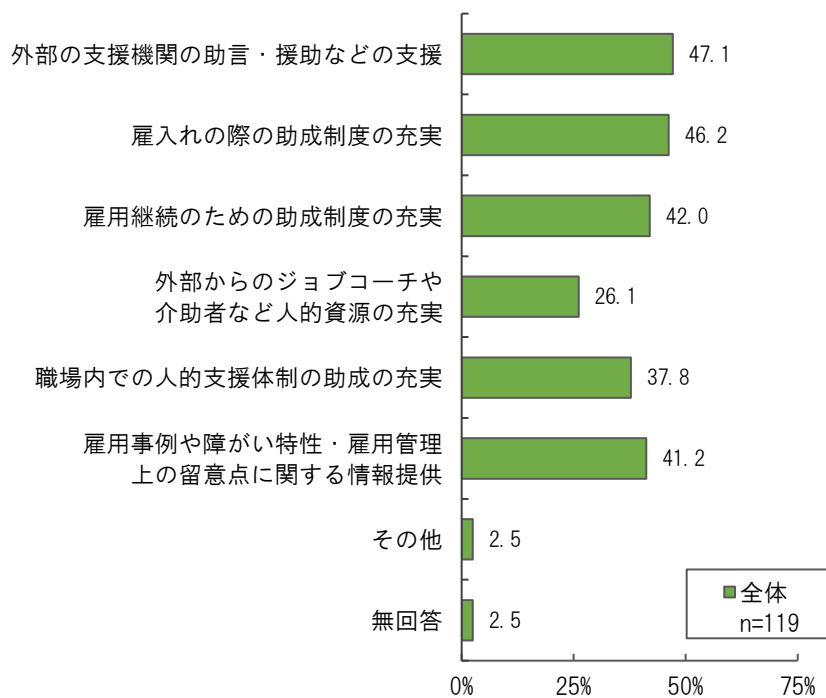


（2）障がい者雇用の促進に必要な施策

問15 障がい者の雇用を促進する為に必要な施策について、あてはまるものすべてに○を付けてください。（○はいくつでも）

○障がい者雇用の促進に必要な施策は、「外部の支援機関の助言・援助などの支援」が47.1%と最も高く、次いで「雇入れの際の助成制度の充実」が46.2%、「雇用継続のための助成制度の充実」が42.0%となっています。

■ 障がい者雇用の促進に必要な施策



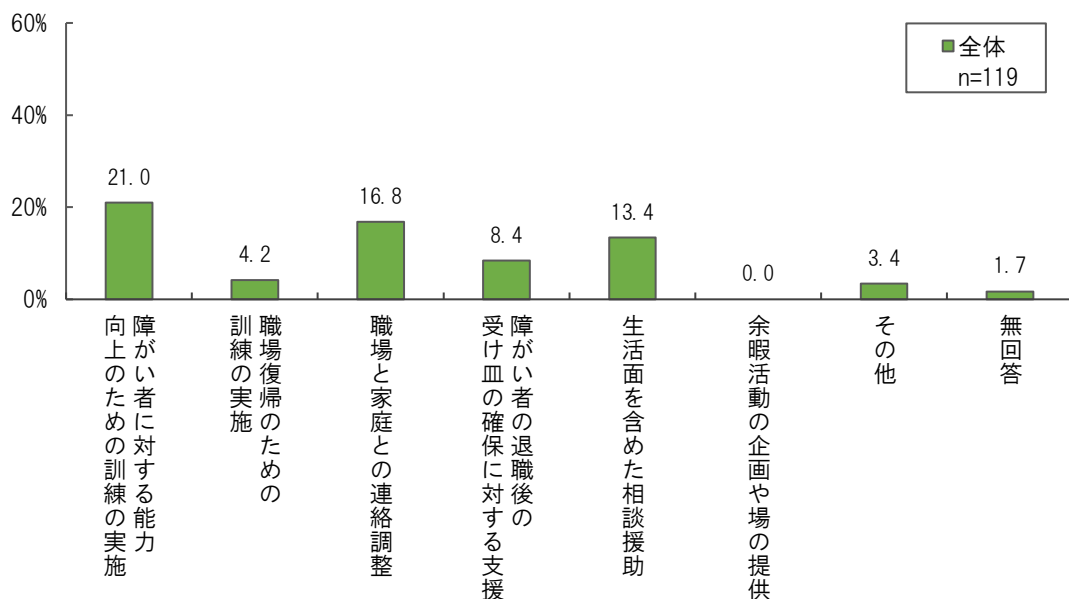
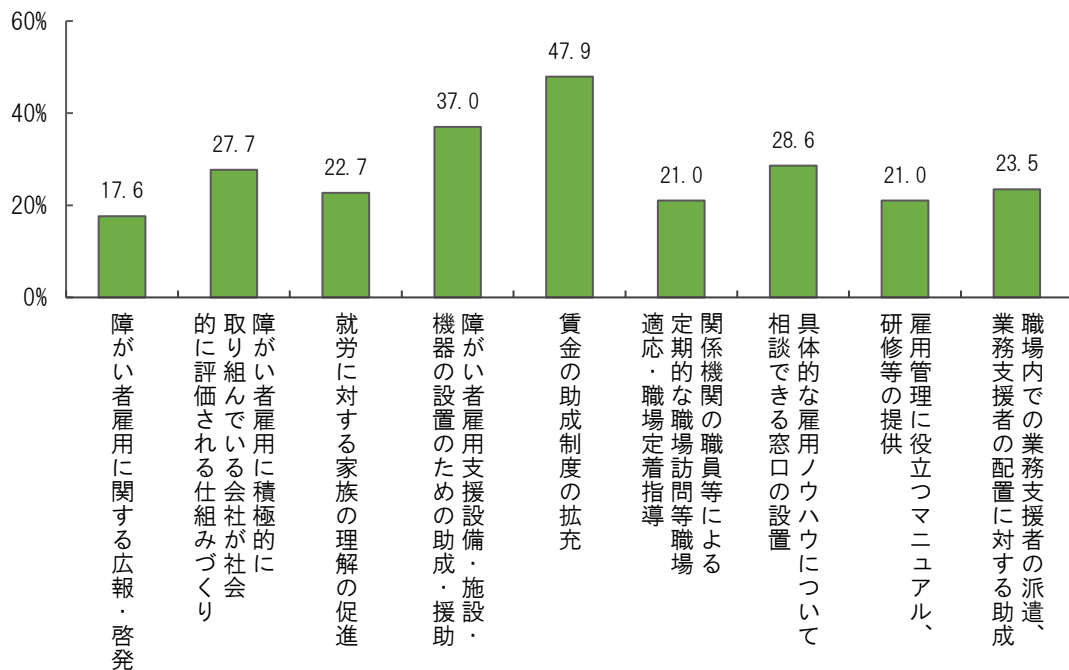
4 関係機関との連携について

(1) 関係機関の取組・施策に期待すること

問16 障がい者の雇用を進める上で関係機関による取組及び支援を期待したいことはどのようなことですか。（○は5つまで）

○障がい者の雇用を進める上で関係機関による取組及び支援に期待することは、「賃金の助成制度の拡充」が47.9%と最も高く、次いで「障がい者雇用支援設備・施設・機器の設置のための助成・援助」が37.0%となっています。

■ 関係機関の取組・施策に期待すること



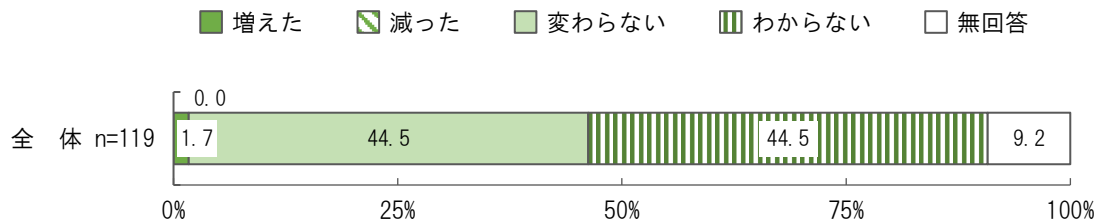
5 法改正を受けた短時間労働の障がい者雇用者数の変化について

（1）短時間労働の障がい者雇用数の変化

問17 障害者雇用促進法改正後、令和6年4月以降とそれ以前で、短時間労働の障がい者雇用数に変化はありましたか。（○は1つだけ）

○障害者雇用促進法改正後の短時間労働の障がい者雇用数は、「変わらない」「わからない」が各44.5%となっています。

■ 関係機関の取組・施策に期待すること



VI 自由回答の整理

1 障がい者調査の自由回答

(1) 充実していくと良いと思う活動や支援・サービス

尾張旭市の障がい福祉について、今後、行政や地域、学校、企業等で充実していくと良いと思う活動や支援、サービスに関する自由回答は603件となり、以下のように分類できました。

最も多い意見は、「経済的支援・助成等の充実」が65件となり全体の10.8%、次いで「バリアフリー、施設等の整備、地域環境の改善」が53件となり全体の8.8%となっています。

充実していくと良いと思う活動や支援・サービスの分類 (n=603)	件数 (件)	割合 (%)
経済的支援・助成等の充実	65	10.8
バリアフリー、施設等の整備、地域環境の改善	53	8.8
福祉サービス等の充実	49	8.1
相談体制、情報提供の充実	48	8.0
市への要望・意見	48	8.0
交通について	43	7.1
雇用・就労について	35	5.8
交流・イベント等ふれあいの充実	35	5.8
障がい者理解の促進に向けた教育・啓発活動の強化	28	4.6
障がい者タクシー料金助成利用券の改善	23	3.8
福祉施設等について	22	3.6
福祉に関する現状への満足・感謝等	17	2.8
障がい特性に応じた支援	14	2.3
災害時等の支援	12	2.0
教育環境の充実	11	1.8
各種申請について	11	1.8
アンケートについて	11	1.8
将来への不安について	10	1.7
医療の充実	6	1.0
差別・偏見等について	5	0.8
その他	40	6.6
わからない、考えたことがない	17	2.8

2 障がい児調査の自由回答

(1) 充実していくと良いと思う活動や支援・サービス

尾張旭市の障がい福祉について、今後、行政や地域、学校、企業等で充実していくと良いと思う活動や支援、サービスに関する自由回答は77件となり、以下のように分類できました。

最も多い意見は、「福祉サービス等の充実」が17件となり全体の22.1%、次いで「教育環境の充実」が15件となり全体の19.5%、「障がい理解教育の推進」が9件となり全体の11.7%となっています。

充実していくと良いと思う活動や支援・サービスの分類 (n=77)	件数 (件)	割合 (%)
福祉サービス等の充実	17	22.1
教育環境の充実	15	19.5
障がい理解教育の推進	9	11.7
相談体制、情報提供の充実	8	10.4
経済的支援・助成等の充実	7	9.1
就労のサポート	5	6.5
バリアフリー、施設等の整備、地域環境の改善	4	5.2
グループホーム等施設の充実	3	3.9
社会参加への支援	3	3.9
遊びの場の充実	3	3.9
医療の充実	1	1.3
その他	2	2.6

3 一般市民調査の自由回答

(1) 障がいのある人への施策に関する意見や要望

障がいのある人への施策に関する意見や要望は以下のとおりです。

障がいのある人への施策に関する意見や要望	属性
障がい者だからといって気にしすぎるのもどうかと思う。例えば、障がい者に気を使う為の施策を考えたとして、そのせいで大多数が割を食うようならばするべきではないと思う。障がい者本人の希望も聞きつつ、施策を考えていくべきだと思う。	男性・18～19歳
たくさん助けます。	男性・20代
障がいのある方への理解がある人だけ携われば良いと思う。理解がない人は何を言っても響かないので、強要や同情を買わせようとする働きかけは逆効果なのかなと感じてしまう。そのためにも、理解がある人を探す方法を考えてみるのもいいのかなと思いました。	男性・30代
以前働いていた際に、同僚に知的に障がいのある方がいらっしゃいました。普段は問題なく丁寧に作業をしているのですが、ときおり突然人が変わったように別の作業がしたいと言い出して聞かなくなったり、暴言や暴力的になることがありました。そういう方ですら自分より力のありそうな男性には従順で、女性の言うことには聞く耳を持たず暴れ、度々恐怖を感じていました。 幼い頃から幼稚園や習い事で知的障がいの子とは関わる機会があり、理解や経験はあるほうだと思っていましたが、大人になって実際に目にする制御の効かない大人はとて怖かった。経験のない方はもっと恐怖を感じると思います。 就労機会や雇用は大切で絶対的に必要ですが、周囲の環境や本人の状態にあった職種、雇用形態、状況にあわせた対応ができる場所でないと感じます。 子どもなら尚更無理に同じ場所でという意見には賛同しかねるため、インクルーシブ教育には反対です。一方で、そういった障がいがあること、障がいに限らずさまざまな助けを必要とする方がいることなど、子どものうちから知ること大切だと思います。	女性・30代
障がいのある人との関わり方はとてもデリケートで、誰もが簡単に関われない壁を感じます。人間の持つ「心」が大きな障害になっていると私は感じます。100人が100人満足する社会は難しい問題です。時間はかかりますが、様々な取り組みを通して一つ一つ段階を踏んで、障がいのある方との向き合い方等に対し歩んでいかなければならないと感じます。高齢社会も含めて、地域で取り組む問題として勉強していきます。	男性・40代
障がいにはたくさんの種類があり、人により程度も違い、家族の反応も色々で、対応するのは大変だと思います。市役所の担当の方には頭が下がります。私にはできませんが、どんどん助けていいと思います。みんなが笑顔になれるといいです。少しずつでも前進しましょう。自分たちの仕事に誇りを持ってください。楽しみにしています。自慢の市役所ですからね。	女性・40代
障がいのある人が、社会に生きる自分を描ける環境を用意すべきだと思う。それは、就労や何らかのかたちで活躍できる機会を社会がちゃんと用意していくこと。	女性・40代
知的障がい、精神障がいの方のグループホームへの支援をお願いいたします。ただし、偽って障がい者のふりをしている方もいます。税金の無駄遣いには注意願います。	男性・50代

障がいのある人への施策に関する意見や要望	属性
外見からは分かりづらい発達障がいと考えられる方への理解が進むように、教育現場や職場での理解や支援の拡充、増幅が広がるといいなと思う。	女性・50代
がんばらなくても自然に手を差し伸べられる社会になれば良いなとは思えど、逆に特別扱いすることも、それは違うのではないかとも思う。	女性・50代
障害手帳を持っているとお得ではなく、本当に援助を必要としている人に適確な援助ができることを期待します。	女性・50代
実際に障がいがある方がどのように感じて、何を望むかが私ではわからないので、アンケートで答えようがない。障がいのある方の要望について、尾張旭市としてどうしていくかを考えて、内容をアンケートなり市民への要望として伝えて、それに対してどう思うかかと思えます。	男性・60代
障がいのある人、また、高齢者の施策に関して→権利擁護は特に充実すべきだと思います。おひとり様の方は必要かと。	女性・60代
60歳の知的障がい者の身内と同居中です。現在、家での生活に（家族との生活に）問題はなく、地域での生活も支障がなく差別を感じたことはありません。他の障がい者の方との接点がないのでアンケートにあまり答えられません。尾張旭市にこの問題に向き合っていただけることが嬉しいです。これからお世話になるかもしれません。私も年配ですが、何かお手伝いできればと思います。ありがとうございました。	女性・60代
ヘルプマークをつけている方が増えすぎてる気がします。不正に悪用している方もいるので残念に思います。 また、手帳をもらうほどではない方の障がい者雇用枠の人たちと働く機会が増え、配慮の仕方が個々に対応しなくてはいけないなど難しく、支える側への配慮やフォローは考えられてない点が気になります。	女性・60代
尾張旭市で車椅子生活ができるか、不明が多い。	女性・60代
Web回答をしようとしたが、Webに入れなかった。もっとわかりやすい案内をしていただきたい。	男性・70代
尾張旭市の取り組みについて、一般人への説明等の配慮が乏しいのでわかりにくい。なので、どう取り組んだらいいのかわかりづらい。	女性・70代
見て見ぬふりをしないで、困っている障がい者の人には「何か手伝うことはありますか」と声かけすることを心がけています。	女性・70代
今までに障がいのある方が家族と散歩等をしているのを見ても何も感じなかったが、今回の調査で改めて関心を持ちましたが体が自由にならない。若い時にこのような機会があったら関心を持ったと思う。	男性・80歳以上
私の周りに障がいのある人はいません。障がい者は助けてほしい時には「助けて」と素直に言ってほしい。態度で示してほしい。困ったことに遭遇した時には助けます。	女性・80歳以上
老人や障がいのある人も安心して暮らせる街になってほしいです。	女性・80歳以上

4 事業所調査の自由回答

(1) 障がい者雇用に関する意見

障がい者雇用に関する意見は以下のとおりです。

障がい者雇用に関する意見
障がい者は同じ等級であっても、一人一人仕事をこなす能力（適性）に大きなバラツキがあると思っています。そのため、仮に採用を検討したとしても、ミスマッチの可能性が大きく、見極めが非常に難しいため、採用には消極的になってしまいます。
障がいの程度によって支援の差があってもいいと思います。障がい者の方も個人個人性格が異なる為、マネジメントは非常に難しい。同じ障がいを持つ方でも、能力は実に様々。程度を見極め、その方に見合うサポート方法を見つけられれば、働ける裾野は広がるのではないかと推察します。
一つの企業ができることは限られる。複数の企業が共同でできる「何か」があれば、その手立てを検討していく方がいいように思う。
DX・機械の自動化が進み、障がい者が行える単純作業が減っている状況です。
ある程度業種を絞って考える必要があるでしょう。
医療関連の仕事は対人の業務内容となり、相手も健常者ではなく病気を有しており、精神的な余裕がないため困難と思われる。
弊社は、高い足場での作業や重機の運転が主な作業内容なので、基本的に雇用は難しい。
保育士という職業である以上、身体的にも精神的にも疾患のある人を「保育士」として雇用するのは難しい。保育以外のことをやってもらうことはできるが、100%子どもと関わらないようにすることは不可能である。 また、現在、健常者を保育を行わない職員として雇用しているが、掃除や雑務といったマルチタスクでこなしている為、この業務を代わりに障がい者を複数雇用してやってもらおうとすると、賃金面も指導面にも雇用側に負担がかかってしまう。また、保育園の為、職員以外にも保護者から障がいのある人を雇用するというを理解してもらうことは困難だと思う。

尾張旭市

障がい福祉に関する計画策定のための市民意識調査結果報告書

発行日 令和8年3月

発行者 尾張旭市 健康福祉部 地域福祉課

住 所 〒488-8666 愛知県尾張旭市東大道町原田2600番地1

T E L 0561-53-2111
